

# 教育委員会定例会事項書

令和元年7月24日（水）

13:30～ 教育委員室

## 1 開会宣言

議事録署名者 黒 田 委 員

## 2 前回定例会審議結果の確認（別紙参照）

## 3 議 題

議案第 27 号 三重県立学校体育施設の使用に関する規則案

議案第 28 号 三重県総合博物館協議会委員の任免について

## 4 報 告 題

報告 1 第66回東海高等学校総合体育大会の結果及び令和元年度全国高等学校総合体育大会三重県選手団について

報告 2 令和2年度三重県公立学校教員採用選考試験第1次選考試験の実施状況について

報告 3 令和元年度第2回三重県教科用図書選定審議会の結果について

## 5 閉会宣言



## 前回定例会の審議結果

### 1 日時

令和元年7月4日(木)

開会 9時30分

閉会 9時55分

### 2 場所

教育委員室

### 3 出席者及び欠席委員の氏名

出席者 廣田教育長、森脇委員、大森委員、黒田委員、原田委員

議事録署名者 大森委員

### 4 採択議案の件名

議案第25号 職員の人事異動(市町立小中学校)について

### 5 請願陳情の付議の結果

該当なし

### 6 諸般の報告

報告1 平成31年度第1回みえスタディ・チェックの結果について

報告2 第69回三重県高等学校総合体育大会総合成績及び表彰式ならびに令和元年度全国高等学校総合体育大会結団壮行式について

報告3 令和元年度三重県中学校総合体育大会及び第41回東海中学校総合体育大会三重大会の開催について

報告4 令和2年度三重県職員(文化財技師)採用選考試験の実施について

### 7 その他会議において必要と認めた事項

該当なし

## 臨時会の審議結果

### 1 日時

令和元年7月11日(木)

開会 9時00分

閉会 9時35分

### 2 場所

教育委員室

### 3 出席者及び欠席委員の氏名

出席者 廣田教育長、森脇委員、大森委員、黒田委員、原田委員

議事録署名者 森脇委員

### 4 採択議案の件名

議案第26号 令和2年度三重県立高等学校入学定員について

### 5 請願陳情の付議の結果

該当なし

### 6 諸般の報告

報告1 令和2年度三重県立高等学校入学者選抜に関する各高等学校別実施要項について

### 7 その他会議において必要と認めた事項

該当なし



議案第27号

三重県立学校体育施設の使用に関する規則案

三重県立学校体育施設の使用に関する規則案について、別紙のとおり提案する。

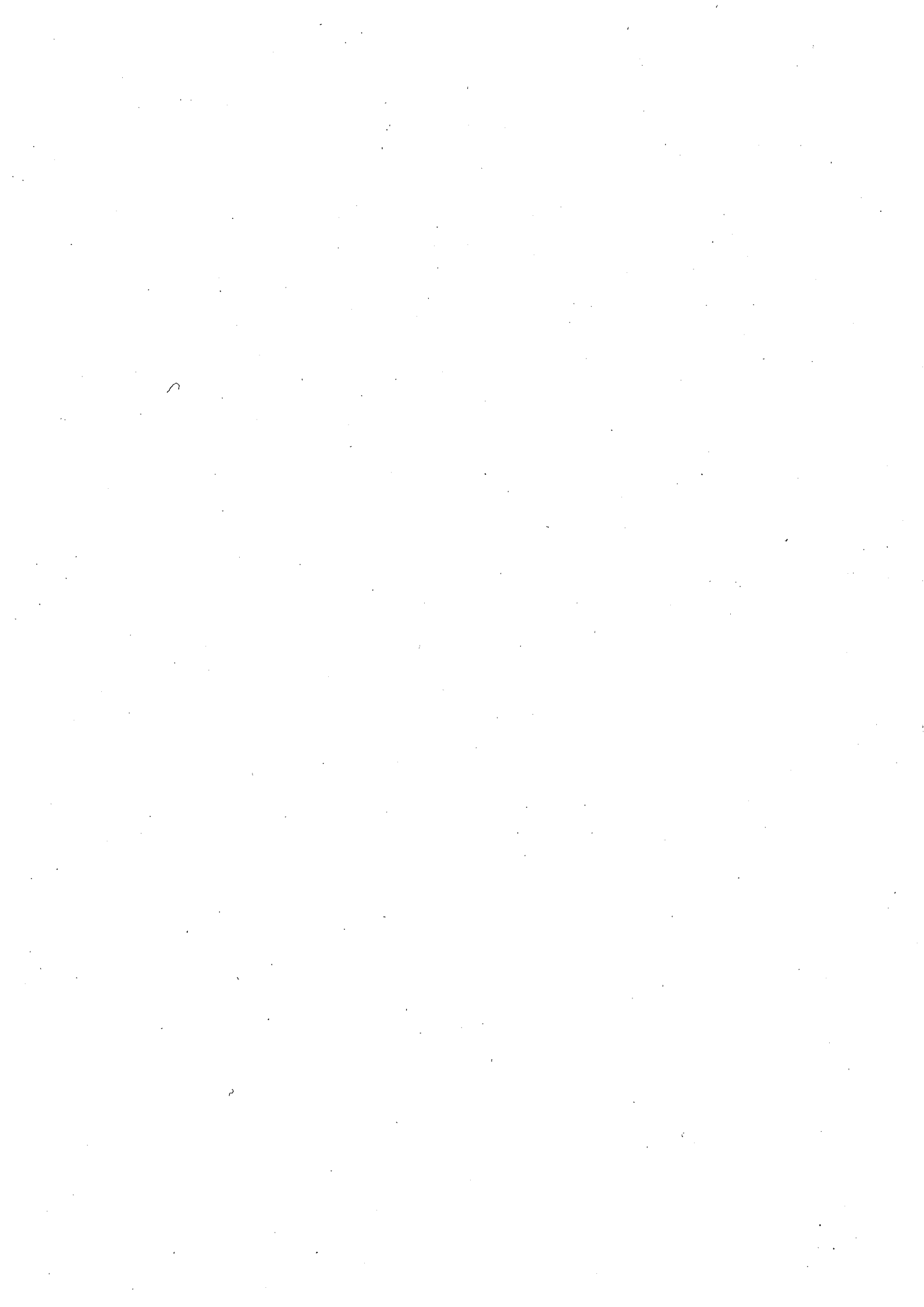
令和元年7月24日提出

三重県教育委員会教育長 廣田 恵子

提案理由

三重県立学校体育施設の使用に関する規則案については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第15条第1項及び三重県教育委員会権限委任規則第1条第10号の規定により教育委員会の議決を要する。

これが、この議案を提出する理由である。



## 三重県立学校体育施設の使用に関する規則（案）

### （趣旨）

第一条 この規則は、三重県立学校体育施設の使用料に関する条例（平成三十一年三重県条例第二号。以下「条例」という。）第六条の規定に基づき、県立学校の体育施設の使用に関し必要な事項を定めるものとする。

### （用語）

第二条 この規則における用語の意義は、条例で使用する用語の例による。

### （使用の許可等）

- 第三条 条例第三条の規定による許可（以下「使用許可」という。）を受け、又は当該許可に係る事項を変更しようとする者は、体育施設使用（変更）許可申請書（第一号様式）（以下「申請書」という。）を体育施設の所属する県立学校の校長（以下「校長」という。）に提出しなければならない。
- 2 使用許可を受けようとする者は、体育施設を使用する日の属する月の二月前の初日から体育施設を使用する日の十四日前までに申請書を校長に提出しなければならない。
- 3 使用許可を申請できる期間は、使用する日の属する月の初日から月末までとする。
- 4 校長は、使用許可をしたときは、申請者に体育施設使用（変更）許可書（第二号様式）（以下「許可書」という。）を交付するものとする。
- 5 使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、使用日時その他許可書に記載された事項を変更しようとするときは、使用する日の五日前までに校長に申請書を提出しなければならない。ただし、校長が特別の理由があると認められた場合は、この限りでない。
- 6 校長は、前項の許可をしたときは、申請者に許可書を交付するものとする。

### （許可の条件等）

- 第四条 校長は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、使用許可を与えないものとする。
- 一 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあるとき。
  - 二 体育施設及び設備並びに備品（以下「体育施設等」という。）を損傷するおそれがあるとき。
  - 三 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成三年法律第七十七号）第二条第一号に規定する暴力団をいう。）の利益になると認められるとき。
  - 四 前各号に掲げるもののほか、学校の管理及び運営上支障があると認められるとき。
- 2 校長は、使用許可に学校の管理及び運営上必要な条件を付けることができる。

### （使用権の譲渡及び転貸の禁止）

第五条 使用者は、体育施設を使用する権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

### （使用者等に対する指示）

第六条 校長は、学校の管理及び運営上必要があるときは、使用者その他の関係者に対し必要な指示をすることができる。

### （使用の制限等）

第七条 校長は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、許可した事項を変更し、又は許可を取り消し、若しくは使用の中止を命じることができる。

- 一 使用者が許可を受けた使用の目的に違反したとき。

- 二 使用者が校長の指示に従わないとき。
- 三 使用者が偽りその他不正の行為により許可を受けたとき。
- 四 天災その他やむを得ない事由により必要があると認められるとき。
- 五 公益上必要があると認められるとき。
- 六 第四条第一項各号のいずれかに該当すると認めるとき及び同条第二項の条件に違反したとき。

(原状回復義務)

第八条 使用者は、使用が終了したとき、又は前条の規定により許可を取り消され、若しくは使用中を命じられたときは、その使用した体育施設等を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、校長の承認を受けたときは、この限りでない。

(使用者の遵守事項)

第九条 使用者は善良なる管理者の注意をもって体育施設等を使用しなければならない。

- 2 使用者は、体育施設等を損傷し、又は滅失したときは、速やかに校長に届け出なければならない。

(損害賠償義務)

第十条 使用者は、故意又は過失により体育施設等を損傷し、又は滅失したときは、それによって生じた損害を賠償しなければならない。

(委任)

第十一条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、令和元年十月一日から施行する。ただし、第三項の規定は、公布の日から施行する。

(三重県立学校体育運動設備使用規則の廃止)

- 2 三重県立学校体育運動設備使用規則(昭和十三年三重県令第四十三号)は廃止する。

(準備行為)

- 3 第三条の規定に基づき使用許可の申請その他の必要な準備行為は、この規則の施行前においても行うことができる。

(第1号様式)

体育施設使用(変更)許可申請書

年 月 日

三重県立

学校長 様

住所  
申請者 氏名 印  
電話番号

〔 団体にあつては、住所、団体名、  
代表者名(記名押印又は代表者の  
署名)、担当者名及び電話番号 〕

下記のとおり、体育施設の使用(変更)許可を受けたいので申請します。

記

使用施設			
使用目的			
使用日時			
照明設備 使用時間			
使用予定人数			
責任者 連絡	住所		
	氏名	電話番号	
備考			

(第2号様式)

体育施設使用(変更)許可書

年 月 日

様

三重県立

学校長

年 月 日付けで申請のあった体育施設の使用(変更)については、下記のとおり許可します。

記

使用施設			
使用目的			
使用日時			
照明設備 使用時間			
使用料	円	体育施設 円	照明設備 円

(条件)

- 教示 1 この決定に不服があるときは、この決定があったことを知った日の翌日から起算して3か月以内に三重県教育委員会に対して審査請求をすることができます。
- 2 この決定については、この決定があったことを知った日の翌日から起算して6か月以内に、三重県を被告として(訴訟において三重県を代表する者は三重県教育委員会となります。)処分の取消しの訴えを提起することができます(なお、この決定があったことを知った日の翌日から起算して6か月以内であっても、この決定の日の翌日から起算して1年を経過すると処分の取消しの訴えを提起することができなくなります。)。ただし、1の審査請求をした場合には、当該審査請求に対する裁決があったことを知った日の翌日から起算して6か月以内に、処分の取消しの訴えを提起することができます。

## 三重県立学校体育施設の使用に関する規則案要綱

### 1 制定理由

三重県立学校体育施設の使用料に関する条例第6条の規定に伴い、教育委員会規則において必要な事項を定めるものである。

### 2 制定内容

三重県立学校体育施設の使用許可及び許可の条件等、体育施設の使用に関し必要な事項を定める。

### 3 施行期日

令和元年10月1日から施行する。

# 参考

## 三重県立学校体育施設の使用料に関する条例

### (趣旨)

第一条 この条例は、スポーツ基本法（平成二十三年法律第七十八号）第十三条の趣旨を踏まえ、県立学校の体育施設を学校教育に支障のない範囲で一般のスポーツ活動に使用する際の使用料に関し、行政財産の目的外使用に係る使用料に関する条例（昭和三十九年三重県条例第十五号）の特例として必要な事項を定めるものとする。

### (定義)

第二条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 体育施設 三重県立高等学校及び三重県立特別支援学校の施設であつて、別表の上欄に掲げるものをいう。
- 二 一般のスポーツ活動 学校教育以外で行われるスポーツ活動であつて、個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動をいう。

### (使用の許可)

第三条 一般のスポーツ活動のために体育施設を使用しようとする者は、三重県教育委員会の許可を受けなければならない。

### (使用料)

第四条 前条の許可を受け体育施設を使用した者は、知事が指定する日までに、次の各号に掲げる金額を納付しなければならない。

- 一 別表の上欄に掲げる体育施設ごとに、同表の下欄に掲げる金額に前条の許可を受けた時間を乗じて得た額
- 二 照明設備を使用した場合における実費を基準として知事が定める額

### (他の条例との関係)

第五条 この条例に定めるもののほか、三重県公債権の徴収に関する条例（昭和三十九年三重県条例第十三号）に定める事項については、その定めるところによる。

### (委任)

第六条 この条例に定めるもののほか、体育施設の使用に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

### 附 則

- 1 この条例は、平成三十一年十月一日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。
- 2 第三条の規定による許可の申請及びそれに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

### 別表（第二条、第四条関係）

体 育 施 設	単 位	金 額
運動場	一〇、〇〇〇平方メートル未満一	三〇〇円



	時間につき	
	一〇、〇〇〇平方メートル以上一時間につき	六〇〇円
テニスコート	一面一時間につき	二〇〇円
体育館	六〇〇平方メートル未満一時間につき	三〇〇円
	六〇〇平方メートル以上一時間につき	六〇〇円
トレーニング場	全面一時間につき	一〇〇円
武道場	半面一時間につき	一〇〇円
	全面一時間につき	二〇〇円
弓道場	全面一時間につき	一〇〇円
レスリング場	全面一時間につき	一〇〇円
卓球場	全面一時間につき	一〇〇円
体操場	全面一時間につき	二〇〇円
ウエイトリフティング場	全面一時間につき	一〇〇円
フェンシング場	全面一時間につき	一〇〇円
ボクシング場	全面一時間につき	一〇〇円

備考

- 一 一時間に満たない時間は、一時間とする。
- 二 体育施設の設備（照明設備を除く。）又は備品の使用に係る使用料については、無料とする。



報告 1

第 66 回東海高等学校総合体育大会の結果及び令和元年度全国高等学校  
総合体育大会三重県選手団について

第 66 回東海高等学校総合体育大会の結果及び令和元年度全国高等学校総合体育大会  
三重県選手団について、別紙のとおり報告する。

令和元年 7 月 24 日提出

三重県教育委員会事務局  
保健体育課長



## 第66回東海高等学校総合体育大会の結果について

- 1 期 日 令和元年6月22日(土)・6月23日(日)  
(一部競技は、大会期日の前後で開催)
- 2 場 所 静岡県内各地
- 3 主催者 東海高等学校体育連盟、岐阜県教育委員会、愛知県教育委員会、  
静岡県教育委員会、三重県教育委員会、東海関係各競技団体
- 4 総合開会式
  - (1) 日時 令和元年6月22日(土) 11時00分
  - (2) 会場 エコパアリーナ
  - (3) 参加者 バスケットボール競技の選手、監督、役員
- 5 参加者 (1) 岐阜・愛知・静岡・三重の東海4県の各県予選を勝ち抜いた団体・個人  
(2) 参加競技 31競技
- 6 主な成績 (1) 団体(男女別上位3位まで) 2ページ参照  
(2) 個人(男女別上位3位まで) 3～7ページ参照  
※水泳の結果を除く。

令和元年度 第66回東海高等学校総合体育大会 成績一覧

《静岡県開催》

種 目	男 子			女 子		
	1 位	2 位	3 位	1 位	2 位	3 位
【陸上競技】	中京大中京 (愛)	豊 川 (愛)	宇治山田商 (三)	至 学 館 (愛)	中京大中京 (愛)	安城学園 (愛)
【水泳】	競 泳					
	飛 込					
	水 球					
バレーボール	聖 隷 (静)	愛工大名電 (愛)	松 阪 工 (三) 清水桜が丘 (静)	誠 信 (愛)	岡崎学園 (愛)	島田商 (静) 富士見 (静)
バスケットボール	桜 丘 (愛)	中部大第一 (愛)	藤枝明誠 (静)	桜花学園 (愛)	岐阜女子 (岐)	名古屋女子大 (愛)
ソフトテニス	三 重 (三)	岡崎城西 (愛)	大同大同 (愛) 近大高専 (三)	岡崎城西 (愛)	豊橋中央 (愛)	豊田大谷 (愛) 三 重 (三)
サッカー (女子はIH予選)	清水桜が丘 (静)	静岡学園 (静)	帝京大可児 (岐) 中京院中京 (岐)	藤枝順心 (静)	帝京大可児 (岐)	神村学園 (三) 伊賀分校 (三)
テ ニ ス	四日市工 (三)	静岡市立 (静)	名経大市邨 (愛) 名古屋 (愛)	四日市高 (三)	浜松市立 (静)	愛知啓成 (愛) 県岐阜商 (岐)
体 操	競 技	暁 (三)	名城大附属 (愛)	東海学園 (愛)	暁 (三)	名経大市邨 (愛)
	新体操	武 豊 (愛)	島田工 (静)	阿久比 (愛)	常葉大常葉 (静)	椋山学園 (愛) 名古屋女子大 (愛)
卓 球	愛工大名電 (愛)	富 田 (岐)	静岡学園 (静) 白 子 (三)	愛み大瑞穂 (愛)	浜松修学舎 (静)	桜 丘 (愛) 富 田 (岐)
ラグビー	A	中部大春日丘 (愛)	朝 明 (三)	関 商 工 (岐)		
	B	岐阜工 (岐)	四日市工 (三)	名古屋 (愛)		
ハンドボール	愛 知 (愛)	中部大春日丘 (愛)	市岐阜商 (岐) 高山西 (岐)	名経大市邨 (愛)	桜花学園 (愛)	四日市商 (三) 富 士 (静)
軟式野球	A	中京院中京 (岐)	静岡商 (静)	桜 丘 (愛) 桑 名 (三)		
	B	享 栄 (愛)	県岐阜商 (岐)	伊 勢 (三) 浜松商 (静)		
ソフトボール	飛 龍 (静)	美濃加茂 (岐)	四日市工 (三) 刈谷工 (愛)	浜松市立 (静)	伊勢学園 (三)	岐阜女子 (岐) 東海学園 (愛)
バドミントン	富士見 (静)	星 陵 (静)	名経大市邨 (愛) 県岐阜商 (岐)	岡崎城西 (愛)	名経大市邨 (愛)	大垣西 (岐) 県岐阜商 (岐)
剣 道	中京院中京 (岐)	磐田東 (静)	東海大翔洋 (静) 名古屋大谷 (愛)	高山西 (岐)	磐田西 (静)	済 美 (岐) 中京院中京 (岐)
柔 道	四日市中央工 (三)	加藤学園 (静)	大垣日大 (岐) 中京院中京 (岐)	藤枝順心 (静)	大 成 (愛)	名 張 (三) 東海大翔洋 (静)
弓 道	岐阜総合学園 (岐)	大垣商 (岐)	掛川東 (静) 星 城 (愛)	大垣商 (岐)	豊橋商 (愛)	三 重 (三) 島田商 (静)
登山	葦 山 (静)	藤枝東 (静)	旭 丘 (愛)	富士宮西 (静)	藤枝東 (静)	菰 野 (三)
相 撲	飛 龍 (静)	富士宮北 (静)	岐阜農林 (岐) 宇治山田商 (三)			
ボ ー ト	浜松大平台 (静)	加 茂 (岐)	浜松湖南 (静)	加 茂 (岐)	天 竜 (静) 浜松北 (静) 浜松湖南 (静)	
ウェイトリフティング	四日市工 (三)	名城大附属 (愛)	石 葉 師 (三)			
フェンシング	大垣南 (岐)	岐阜各務野 (岐)	愛工大名電 (愛) 海 星 (三)	大垣南 (岐)	至学館 (愛)	田方農 (静) 津 東 (三)
レスリング	いなべ総合 (三)	岐南工 (岐)	飛 龍 (静) 星 城 (愛)			
【自転車競技】	岐南工 (岐)	岐阜第一 (岐)	静岡北 (静)			
【ヨット】	津 工 (三)	海津明誠 (岐)	津 (三)	碧 南 (愛)	半 田 (愛)	津 工 (三)
【ホッケー】	岐阜総合学園 (岐)	伊豆中央 (静)	愛産大工 (愛)	岐阜各務野 (岐)	向 陽 (愛)	沼津商 (静)
ボクシング	名工院専 (愛)	岐阜工 (岐)	中京院中京 (岐)			
アーチェリー	愛産大三河 (愛)	東 海 (愛)	浜松北 (静)	聖マリア学院 (岐)	四日市四郷 (三)	愛産大三河 (愛)
空 手 道	御殿場西 (静)	東 邦 (愛)	星 城 (愛) 常葉大菊川 (静)	御殿場西 (静)	済 美 (岐)	東 邦 (愛) 静岡北 (静)
なぎなた				高 田 (三)	東海学園 (愛)	大垣商 (岐) 福 生 (三)
カヌー	レシク	杜 若 (愛)	東 郷 (愛)	八 百 津 (岐)	三 好 (愛)	杜 若 (愛)
						桑 名 西 (三)

※【 】付の種目は東海総体が全国総体のブロック予選となるもの。

令和元年度 第66回東海高等学校総合体育大会 個人成績一覧

No.	種目	男子					女子				
		1位	2位	3位	4位	5位	1位	2位	3位	4位	5位
1	陸上競技	100m	中村 彰太	加藤 慎之介	林 誠	大塚 大	井ノ上 拓斗	大城 珠莉	内山 響香	山本 未渡	香取 立
		200m	中村 彰太	濱口 虎次郎	島田 伸	仲野 大	井ノ上 拓斗	大城 珠莉	内山 響香	山本 未渡	香取 立
		400m	富田 大智	平野 友貴	宮川 翔	宮川 翔	仲子 彩乃	浜松 西	中京大 中京	村木 佳理	富田 立
		800m	望月 遥平	馬場 真一	永井 翔	永井 翔	仲子 彩乃	浜松 西	中京大 中京	村木 佳理	富田 立
		1500m	柳本 匡哉	前田 陸	佐伯 知	佐伯 知	宮下 彩乃	加藤 学	岡崎 北	坂所 日和	岡崎 学
		3000m	柳本 匡哉	中瀬 将	山中 秀真	山中 秀真	坂所 日和	岡崎 学	常葉 大 常葉	坂所 日和	空
		5000m	高橋 遼	西 徹	相原 武流	相原 武流	坂所 日和	岡崎 学	常葉 大 常葉	坂所 日和	空
		10000m	高橋 遼	西 徹	相原 武流	相原 武流	坂所 日和	岡崎 学	常葉 大 常葉	坂所 日和	空
		3000m SC	高橋 遼	西 徹	相原 武流	相原 武流	坂所 日和	岡崎 学	常葉 大 常葉	坂所 日和	空
		5000m W	高橋 遼	西 徹	相原 武流	相原 武流	坂所 日和	岡崎 学	常葉 大 常葉	坂所 日和	空
		4x100m R	竹内 裕	山口 野	山口 野	山口 野	山口 野	山口 野	山口 野	山口 野	山口 野
		4x400m R	神谷 小	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕
		走高	宇野 珠太郎	松本 英	松本 英	松本 英	松本 英	松本 英	松本 英	松本 英	松本 英
		棒	神谷 小	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕
		走高	宇野 珠太郎	松本 英	松本 英	松本 英	松本 英	松本 英	松本 英	松本 英	松本 英
三	神谷 小	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕		
九	神谷 小	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕		
円	神谷 小	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕		
ハ	神谷 小	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕		
ヤ	神谷 小	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕		
八	神谷 小	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕		
七	神谷 小	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕	大上 裕		
2	ソフトテニス	根木 比	根木 比	根木 比	根木 比	根木 比	根木 比	根木 比	根木 比	根木 比	
		影山 太	影山 太	影山 太	影山 太	影山 太	影山 太	影山 太	影山 太	影山 太	
		松浦 西	松浦 西	松浦 西	松浦 西	松浦 西	松浦 西	松浦 西	松浦 西	松浦 西	
		長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		3	テニス	根木 比	根木 比	根木 比	根木 比	根木 比	根木 比	根木 比	根木 比
影山 太	影山 太			影山 太	影山 太	影山 太	影山 太	影山 太	影山 太	影山 太	
松浦 西	松浦 西			松浦 西	松浦 西	松浦 西	松浦 西	松浦 西	松浦 西	松浦 西	
長崎 匠	長崎 匠			長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	
馬場 仁	馬場 仁			馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
馬場 仁	馬場 仁			馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
馬場 仁	馬場 仁			馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
馬場 仁	馬場 仁			馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
馬場 仁	馬場 仁			馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
馬場 仁	馬場 仁			馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
馬場 仁	馬場 仁			馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
馬場 仁	馬場 仁			馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
馬場 仁	馬場 仁			馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
馬場 仁	馬場 仁			馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
4	体操			根木 比	根木 比	根木 比	根木 比	根木 比	根木 比	根木 比	根木 比
		影山 太	影山 太	影山 太	影山 太	影山 太	影山 太	影山 太	影山 太	影山 太	
		松浦 西	松浦 西	松浦 西	松浦 西	松浦 西	松浦 西	松浦 西	松浦 西	松浦 西	
		長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	長崎 匠	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	
		馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	馬場 仁	

No.	種目	男子			女子		
		1位	2位	3位	1位	2位	3位
5	卓球	篠塚 大登 (愛工大名電)	曾根 光一 (愛工大名電)	濱田 一輝 (愛工大名電)	浅井 一恵 (桜丘)	門阪 彩愛 (松修学舎)	庄田 美佑里 (高易)
	ダブルス	加曾 山根 (愛工大名電)	中村 光一 (愛工大名電)	堀川 大弘 (愛工大名電)	浅井 一美 (桜丘)	谷渡 亜美 (信田)	白地 志菜 (高易)
6	剣道	内山 一夫 (三)	小倉 浩介 (星城)	加藤 壮太郎 (佐藤)	川合 芳奈 (東海大翔洋)	近藤 前穂 (松田)	近藤 前穂 (松田)
	男子60kg級	辻岡 慶次 (大)	加藤 遼馬 (静岡半園)	畑野 幸輝 (名大附属)	市原 遥 (鶴谷)	宮本 悠 (大)	宮本 悠 (大)
7	柔道	羽田野 啓太 (三)	林 祐成 (中京院中)	水野 晶斗 (疾風)	岸江 凌佳 (大成)	河川 優 (東海大翔洋)	河川 優 (東海大翔洋)
	男子63kg級	白井 諄 (加藤学園)	伊藤 栄都 (大成)	松中 主税 (竜)	岸江 凌佳 (大成)	川口 優 (東海大翔洋)	川口 優 (東海大翔洋)
8	弓道	柴田 進音 (東海大翔洋)	大竹 龍之助 (大成)	中村 俊太 (中京院中)	特田 佳名翔 (藤枝順心)	武田 優香 (大成)	武田 優香 (大成)
	男子70kg級	三浦 啓瑚 (大)	中山 康大 (大)	渡邊 光輝 (加藤学園)	伊藤 くらら (美濃加茂)	横山 美幸 (大)	横山 美幸 (大)
9	相撲	笠井 雄太 (桜)	水田 裕介 (大)	堀内 ジュンジ (大)	山本 杏 (藤枝順心)	藤田 瑞那 (東海大翔洋)	藤田 瑞那 (東海大翔洋)
	男子78kg級	深井 大雅 (加藤学園)	小林 大輝 (大)	山下 虎之 (大)	松本 明 (大成)	林 千 (藤枝順心)	林 千 (藤枝順心)
10	ボート	岡田 晃周 (飛)	山藤 勇治 (岐阜農林)	松永 龍斗 (大)	米川 衣里 (静岡東)	並木 あのん (大)	並木 あのん (大)
	ダブルスカル	梅澤 志秀 (飛)	土屋 和也 (飛)	吉田 晃 (飛)	吉永 衣里 (静岡東)	竹川 美琴 (三)	竹川 美琴 (三)
11	ウエイトリフティング	鈴木 征希 (浜松大平)	松並 大智 (羽津東)	小島 大輝 (八)	中山 彩花 (天)	藤野 海月 (天)	藤野 海月 (天)
	男子55kg級	山本 裕也 (浜松大平)	千原 早希 (神)	田立 青生 (旭)	内山 菜々美 (美濃加茂)	野寄 里歩 (新)	野寄 里歩 (新)



No.	種目	男子					女子						
		1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位			
12	フェンシング	フルーレ	勸修河原 明日架	大垣南	安藤 壮司	愛工大名電	中出 水	鳥北	岡田 冨	大垣南	永井 杏奈	至学館	
		エペ	竹 諒	岐阜各務野	古橋 諒	愛工大名電	井 彩	至学館	千 葉	至学館	山内 梨穂	川西	
		サーブル	加 藤 豊	愛工大名電	山本 弥壽斗	愛工大名電	武中 希	金子 米	岐阜各務野	山田 夢羽	早野 有里加	大垣南	
		男子51kg級	古 瀬 徹	いなほ総合	藤本 蔵	岐阜工	満永 大	米原 美	至学館	江坂 紗那	藤田 ころこ	藤枝北	
		女子47kg級	白 矢 健人	いなほ総合	宮崎 隼	中京院中京	岩 智	中西 美	至学館	伊藤 乃愛	藤巻 美紀	伊豆総合	
		男子53kg級	白 矢 健人	いなほ総合	有賀 丈竜	岐阜工	有馬 鉄太	藤波 朱	いなほ総合	山口 夏月	竹下 葵	至学館	
		男子55kg級	小川 琉生	中京院中京	高原 崇陽	高山西	野寺 優真	高山 源子	至学館	大橋 海寛	岡田 純奈	岐阜南工	
		男子57kg級	三木 翔永	高山西	伊藤 隼	いなほ総合	水田 真	福垣 柚香	至学館	内田 奈佑	惣崎 優音	沼津城北	
		男子71kg級	山崎 然生	いなほ総合	伊藤 隼	いなほ総合	太田 暁	寺本 結	中京院中京	村松 珠希			
		男子80kg級	谷崎 大造	岐阜工	今井 仁聖	中津商	水崎 康太郎	古市 梨	至学館	山野 結那	水野 寧	沼津城北	
		男子92kg級	宮内 勇真	伊豆総合	中山 翔暉	岐阜工	佐野 稔太	古市 梨	至学館	山野 結那	水野 寧	沼津城北	
		男子125kg級	古瀬 徹	いなほ総合	高橋 瑞希	星 城	小林 瑛司	古市 梨	至学館	山野 結那	水野 寧	沼津城北	
13	レスリング	51kg級	古瀬 徹	いなほ総合	藤本 威馬	岐阜南工	小林 瑛司	至学館	山野 結那	水野 寧	沼津城北		
		55kg級	白 矢 健人	いなほ総合	岩 智	高山西	藤本 威馬	至学館	山野 結那	水野 寧	沼津城北		
		60kg級	竹内 玲音	岐阜工	竹力 哲大	いなほ総合	有馬 鉄太	藤本 威馬	至学館	山野 結那	水野 寧	沼津城北	
		65kg級	豊田 峻真	飛 龍	大田 匠海	いなほ総合	橋本 創太	藤本 威馬	至学館	山野 結那	水野 寧	沼津城北	
		71kg級	増合 隆	いなほ総合	伊藤 隼	いなほ総合	山本 晃聖	藤本 威馬	至学館	山野 結那	水野 寧	沼津城北	
		80kg級	谷崎 大造	岐阜工	金森 庄治	大垣工	世古 祥大	藤本 威馬	至学館	山野 結那	水野 寧	沼津城北	
		92kg級	佐野 翔栄	朝 明	山田 康	岐阜工	高橋 大	藤本 威馬	至学館	山野 結那	水野 寧	沼津城北	
		125kg級	富内 勇真	伊豆総合	山田 康	岐阜工	今井 仁聖	藤本 威馬	至学館	山野 結那	水野 寧	沼津城北	



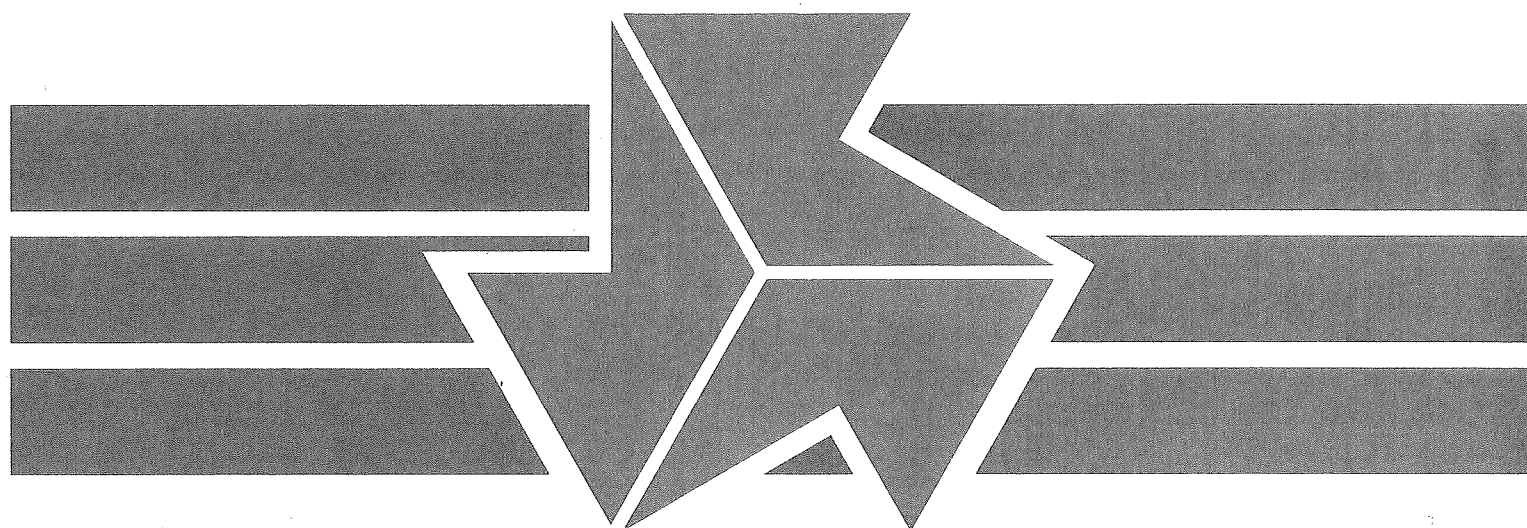
No.	種 目	男 子						女 子						
		1 位		2 位		3 位		1 位		2 位		3 位		
20	K-1	吉見 夏陽 東郷(愛)	鎌田 直斗 東郷(愛)	後田 健太郎 東郷(愛)	柴田 健太郎 東郷(愛)	後田 健太郎 東郷(愛)	坂口 馨三 東郷(愛)	坂口 馨三 東郷(愛)	三好 三好 東郷(愛)	安井 新機部 東郷(愛)	更紗 萌生 東郷(愛)	三好 三好 東郷(愛)	今村 栗加 東郷(愛)	同崎 西(愛)
	K-2	吉見 夏陽 東郷(愛)	柳原 直斗 東郷(愛)	柴田 健太郎 東郷(愛)	柴田 健太郎 東郷(愛)	柴田 健太郎 東郷(愛)	坂口 馨三 東郷(愛)	坂口 馨三 東郷(愛)	三好 三好 東郷(愛)	安井 新機部 東郷(愛)	更紗 萌生 東郷(愛)	三好 三好 東郷(愛)	今村 栗加 東郷(愛)	同崎 西(愛)
	K-4	吉見 夏陽 東郷(愛)	柳原 直斗 東郷(愛)	柴田 健太郎 東郷(愛)	柴田 健太郎 東郷(愛)	柴田 健太郎 東郷(愛)	坂口 馨三 東郷(愛)	坂口 馨三 東郷(愛)	三好 三好 東郷(愛)	安井 新機部 東郷(愛)	更紗 萌生 東郷(愛)	三好 三好 東郷(愛)	今村 栗加 東郷(愛)	同崎 西(愛)
	C-1	森 陽紀 杜若(愛)	前田 拓海 杜若(愛)	長坂 延社 杜若(愛)	長坂 延社 杜若(愛)	長坂 延社 杜若(愛)	坂口 馨三 東郷(愛)	坂口 馨三 東郷(愛)	三好 三好 東郷(愛)	安井 新機部 東郷(愛)	更紗 萌生 東郷(愛)	三好 三好 東郷(愛)	今村 栗加 東郷(愛)	同崎 西(愛)
21	C-2	梅村 昂生 杜若(愛)	山本 健次 杜若(愛)	水谷 小澤 杜若(愛)	水谷 小澤 杜若(愛)	水谷 小澤 杜若(愛)	坂口 馨三 東郷(愛)	坂口 馨三 東郷(愛)	三好 三好 東郷(愛)	安井 新機部 東郷(愛)	更紗 萌生 東郷(愛)	三好 三好 東郷(愛)	今村 栗加 東郷(愛)	同崎 西(愛)
	C-4	井原 梅村 杜若(愛)	水谷 小澤 杜若(愛)	水谷 小澤 杜若(愛)	水谷 小澤 杜若(愛)	水谷 小澤 杜若(愛)	坂口 馨三 東郷(愛)	坂口 馨三 東郷(愛)	三好 三好 東郷(愛)	安井 新機部 東郷(愛)	更紗 萌生 東郷(愛)	三好 三好 東郷(愛)	今村 栗加 東郷(愛)	同崎 西(愛)
	50m自由形													
	100m自由形													
	200m自由形													
	400m自由形													
	800m自由形													
	1500m自由形													
	1000m背泳ぎ													
	2000m背泳ぎ													
	1000m平泳ぎ													
	2000m平泳ぎ													
	1000mバタフライ													
	2000mバタフライ													
	200m個人メドレー													
	400m個人メドレー													
4000mリレー														
8000mリレー														
4000m×4レーリレー														
飛艇(飛込)														
飛艇(飛込)														

## 令和元年度全国高等学校総合体育大会について

- 1 期 日 令和元年7月24日(水)から8月20日(火)まで
  - 2 場 所 鹿児島県、熊本県、宮崎県、沖縄県及び和歌山県  
※競技会場については、別冊「令和元年度全国高等学校総合体育大会三重県選手団名簿」のP4を参照してください。
  - 3 主催者 公益財団法人全国高等学校体育連盟  
鹿児島県、熊本県、宮崎県、沖縄県、和歌山県  
鹿児島県教育委員会、熊本県教育委員会、宮崎県教育委員会、  
沖縄県教育委員会、和歌山県教育委員会、関係中央競技団体
  - 4 大会愛称および大会スローガン  
大会愛称 「感動は無限大 南部九州総体 2019」  
大会スローガン 「響かせる 我らの魂 南の空へ」
  - 5 三重県選手団  
○団 長 阿形 克己(三重県高等学校体育連盟会長)  
○総監督 藤田 隆司(三重県高等学校体育連盟理事長)  
○旗 手 中川 貴晶(四日市工業高等学校 バスケットボール部)  
○参加種目 28種目(男子27種目、女子24種目)  
○参加校 46校(男子36校、女子28校)  
○参加人数 [選手] 男子 308名、女子 208名 計 516名  
[役員・監督等] 計 152名
- ※ 参加校については、別冊「令和元年度全国高等学校総合体育大会三重県選手団名簿」のP3を参照してください。
- 6 総合開会式  
○日 時 令和元年7月27日(土)午前9時21分 開式通告  
○場 所 鹿児島アリーナ  
○参加者 男子バスケットボールの選手及び役員

令和元年度全国高等学校総合体育大会

# 三重県選手団名簿



響かせろ我らの魂 南の空へ

三重県高等学校体育連盟



報告2

令和2年度三重県公立学校教員採用選考試験第1次選考試験の実施状況について

令和2年度三重県公立学校教員採用選考試験第1次選考試験の実施状況について、別紙のとおり報告する。

令和元年7月24日提出

三重県教育委員会事務局  
教職員課長





令和2年度三重県公立学校教員採用選考試験第1次選考試験の実施状況について

第1次選考試験受験状況

		令和2年度採用					平成31年度採用					受験者数の増減 (b)-(e)
		申込者数	受験者数	受験率	採用見込数	実質倍率	申込者数	受験者数	受験率	合格者数	実質倍率	
		(a)	(b)	(b)/(a)	(c)	(b)/(c)	(d)	(e)	(e)/(d)	(f)	(e)/(f)	
校種等別	小学校	997	920	92.3%	約235	3.9	999	919	92.0%	192	4.8	1
	中学校	865	810	93.6%	約113	7.2	933	857	91.9%	84	10.2	△ 47
	高等学校	651	584	89.7%	約63	9.3	645	550	85.3%	52	10.6	34
	特別支援学校	107	98	91.6%	約20	4.9	97	91	93.8%	16	5.7	7
	養護教諭	175	167	95.4%	約22	7.6	211	194	91.9%	20	9.7	△ 27
	栄養教諭	47	43	91.5%	約6	7.2	55	45	81.8%	3	15.0	△ 2
合計		2,842	2,622	92.3%	約459	5.7	2,940	2,656	90.3%	367	7.2	△ 34

※中学校、高等学校の採用見込数にはスポーツ競技者特別選考（中学校3名、高等学校1名）をそれぞれ含みます。

# 令和2年度三重県公立学校教員採用選考試験

## 第1次選考試験 実施状況

三重県教育委員会

校種等・教科・科目		採用見込数	申込者数	第1次選考試験 受験者数	
小学校教諭		約235名	997	920	
中学校 教諭	国語	約15名	127	117	
	社会	約16名	159	145	
	数学	約18名	110	108	
	理科	約16名	71	68	
	音楽	約4名	46	43	
	美術	約5名	32	27	
	保健体育	約12名+スポ3名	197	186	
	技術	約3名	10	10	
	家庭	約4名	11	11	
	英語	約17名	102	95	
	小計	約110名+スポ3名	865	810	
高等 学校 教諭	国語	約6名	70	61	
	地理歴史	世界史	約2名	74	64
		日本史	約2名		
		地理	約1名		
	公民	約2名	18	17	
	数学	約8名	91	87	
	理科	物理	約2名	77	63
		化学	約2名		
		生物	約1名		
	保健体育	約5名+スポ1名	142	134	
	看護	約2名	4	2	
	家庭	約4名	18	16	
	農業	約2名	12	11	
	工業	機械系	約4名	22	20
		土木系	約2名	2	2
	商業	約3名	36	32	
	英語	約11名	70	61	
福祉	約3名	15	14		
小計	約62名+スポ1名	651	584		
特別 支援 学校 教諭	小学部	約16名	70	63	
	中学部・高等部	音楽	約2名	10	9
		保健体育	約2名	27	26
	小計	約20名	107	98	
養護教諭		約22名	175	167	
栄養教諭		約6名	47	43	
合計		約455名+スポ4名	2,842	2,622	

# 公立学校教員採用選考実施状況

年度		23	24	25	26	27	28	29	30	31	R2
小学校教諭	申込者数	958	1,007	1,075	1,083	1,042	1,019	1,026	1,045	999	997
	受験者数	882	927	987	1,009	974	936	964	965	919	920
	1次合格者数	413	446	510	567	476	505	508	518	521	
	2次合格者数	210	200	240	290	238	252	247	252	192	
中学校教諭	申込者数	975	979	1044	1042	1032	1020	1,005	939	933	865
	受験者数	869	859	943	950	936	937	907	868	857	810
	1次合格者数	349	320	357	367	369	359	386	358	254	
	2次合格者数	141	125	138	145	138	133	132	126	84	
高等学校教諭	申込者数	927	938	938	891	848	870	806	760	645	651
	受験者数	776	798	803	790	744	760	694	666	550	584
	1次合格者数	311	298	268	304	205	268	178	169	153	
	2次合格者数	128	106	93	111	72	87	61	57	52	
特別支援学校教諭	申込者数	72	73	72	84	77	76	88	97	97	107
	受験者数	66	68	63	82	74	72	82	91	91	98
	1次合格者数	32	37	33	51	36	40	48	42	49	
	2次合格者数	16	16	13	25	16	18	21	17	16	
養護教諭	申込者数	231	226	227	238	218	196	219	224	211	175
	受験者数	211	204	200	213	202	181	201	209	194	167
	1次合格者数	72	36	53	71	60	56	67	77	60	
	2次合格者数	26	12	17	24	23	19	22	28	20	
栄養教諭	申込者数	88	66	66	57	67	53	57	60	55	47
	受験者数	69	47	54	48	54	41	52	52	45	43
	1次合格者数	25	24	16	13	22	14	18	16	9	
	2次合格者数	8	8	5	5	6	5	5	5	3	
合計	申込者数	3,251	3,289	3,422	3,395	3,284	3,234	3,201	3,125	2,940	2,842
	受験者数	2,873	2,903	3,050	3,092	2,984	2,927	2,900	2,851	2,656	2,622
	1次合格者数	1,202	1,161	1,237	1,373	1,168	1,242	1,205	1,180	1,046	
	2次合格者数	529	467	506	600	493	514	488	485	367	

注1) 平成14年度採用から盲・聾・養護学校教諭の別枠募集を廃止した。

注2) 平成17、18、19年度採用においては、自立活動教諭(肢体不自由教育)の募集を行い、その他の盲・聾・養護学校教諭は相当校種に含めて募集した。

注3) 平成19年度採用から栄養教諭の募集を開始した。

注4) 平成20年度採用からは盲・聾・養護学校は、特別支援学校に名称変更した。

注5) 平成21年度採用から特別支援学校教諭の募集を開始した。



報告 3

令和元年度第 2 回三重県教科用図書選定審議会の結果について

令和元年度第 2 回三重県教科用図書選定審議会の結果について、別紙のとおり報告する。

令和元年 7 月 2 4 日提出

三重県教育委員会事務局  
小中学校教育課長



令和元年度第2回三重県教科用図書選定審議会の概要について

1 日時

令和元年6月25日(火) 13:30~16:00

2 場所

三重県総合教育センター 第2講義室、第3講義室

3 審議

(1) 「令和2年度使用小学校用教科用図書選定に関する参考資料(案)」について

「令和2年度使用小学校用教科用図書選定に関する参考資料(案)」について、国語、書写、社会、地図、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、保健、英語、道徳の順に、教科書の特徴についてポイントを絞って、該当箇所をプロジェクターで提示しながら説明するとともに、各委員が各教科書を閲覧したうえで、審議を行いました。

① 説明の概要

ア 教科書の全体的な特徴

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、各教科等の見方・考え方を働かせた対話的な活動の場面や、先生の問いかけ、児童の発言の例などが示され、児童にとっての学び方の工夫が示されている。指導者にとっても日常の授業づくりという観点で指針としやすい構成の工夫が見られる。
- 主体的に学習に取り組む態度を養うために、児童が興味・関心をもって取り組むことができる資料が充実している。また、授業のめあてを把握し、振り返る活動を重視した構成や、家庭や日常の生活との関連を考えさせる場面が多く見られる。
- 学習上の参考となるサイトや動画、音声などを紹介するため、二次元コードやURLを掲載する教科書が増えた。今回の申請教科書では、9割超の155点に掲載されている。
- 全ての教科・種目でページ数が増加している。発行者ごとの1~6年の合計ページ数の平均値で比べると、現行教科書より約9%増加した。

イ 主な内容の追加や変更点

- 学習指導要領で必修となったプログラミング教育について、5年算数で全6発行者が正多角形の作図について、正多角形を描くプログラム作りを掲載している。6年理科では、電気の利用について、センサー付き照明を題材にした教科書が多くなっている。その他にも、5年生以外の算数や家庭のプログラムで動く家電についても記載されている。
- 学習指導要領で示された「領土の範囲」の理解について、社会や地図において

記述内容の充実が図られている（竹島や北方領土、尖閣諸島）。

○2020年東京オリンピック・パラリンピックは全教科で題材となっている。

○前回の改訂から継続して、多くの教科・種目で、平成23年に発生した東日本大震災に関連する記述や、自然災害への備え、防災に関する内容が充実されている。

○各教科では、前回の改訂から継続して、我が国の伝統や文化を大切にする内容の充実が図られている。例えば、家庭科では日本の伝統的な文化に関して、生活に関わる内容が取り上げられている。

## ② 審議の概要

**【質問】** 二次元コードの記載が各教科書に見られるが、児童が家庭で予習・復習ができるということか。

**（回答）** 今回の改訂では、主体的に学習に取り組む態度を養うために、児童が興味・関心をもって取り組むことができる資料を充実させたり、授業のめあてを把握し、振り返る活動を重視した構成が多く見られたりすることから、二次元コードも含め、家庭で児童が学習をしやすいよう工夫されている。

**【意見】** 各種目別の説明を聞いていると、各教科書の良い点が述べられているが、教科書の弱みという点を知りたい。

**（回答）** 各教科書見本は、30年度の検定に合格したものであり、その点から不備はないと考える。よって、参考資料は、各教科書の特徴をまとめるという視点での編集になっている。

**【質問】** 教科書の厚さ、大きさについて教えてほしい。

**（回答）** 現行教科書で冊数が最多だったB5版は、今回の教科書見本では33.7%に減少し、B5版より幅が約3cm広いA4版が39.7%で最多となった。教科書の大規模化が進む中で、軽量の用紙を使用するなどして、教科書の軽量化を図っている。

**【質問】** 教科書は紙ベースのものしかないのか。デジタル教科書だと効率的に学習できるのではないのか。

**（回答）** 紙の教科書を採択することになっている。デジタル教科書は使ってもよいことになっているが、使用する授業時数の割合が定められている。

**【意見】** いくつかの内容で人や場面を限定した表現があるが適切か。

**（回答）** 表現について、再度精査して、必要に応じて修正する。

## <審議の結果>

「令和2年度使用小学校用教科用図書選定に関する参考資料（案）」は、事務局から一部修正の回答がなされたため、修正箇所についての検討は、会長と事務局で行い、決定については会長に一任と決定された。



(2) 三重県教科用図書選定審議会から三重県教育委員会への答申について（資料1 参照）  
＜審議の結果＞

「令和2年度使用小学校用教科用図書選定に関する参考資料」の決定後、会長から事務局に答申文を提出することについて承認された。

(3) その他（意見）

【意見】「教科用図書選定に関する参考資料」は、市町等における調査員にとって必要なものであり、早く配付してほしい。

（回答）来年度への改善点として考えたい。市町等には、修正箇所について会長の了承が取れた時点で、データでまず発送したい。

4 閉会



令和元年6月25日

三重県教育委員会 御中

三重県教科用図書選定審議会

次の事項について、答申します。

令和2年度から小学校で使用する教科用図書及び中学校で使用する教科用図書（「特別の教科 道徳」を除く）の採択について

平成31年4月25日付けで諮問された下記の事項について、本審議会は慎重に審議した結果、別添のとおり結論を得ましたので答申します。

#### 記

- ・ 教科用図書採択地区協議会規約例
- ・ 小学校で使用する教科用図書の採択基準
- ・ 中学校で使用する教科用図書（「特別の教科 道徳」を除く）の採択基準
- ・ 三重県教科用図書選定審議会調査員の調査実施項目
- ・ 三重県教科用図書選定審議会調査員の選任
- ・ 令和2年度使用教科用図書選定に関する参考資料



令和2年度使用小学校用

教科用図書選定に関する参考資料

令和元年7月

三重県教育委員会



本年度は、令和2年度から小学校で使用する教科用図書の採択を行う年度に当たっています。

教科書は、学校における教科の主たる教材として使用しなければならないこととされており、その役割は極めて大きいものです。したがって、採択に当たっては、公正かつ適正を期さなければなりません。

県教育委員会は、各採択地区における教科書の採択に先立ち、教科書選定に関する参考資料を作成するため、三重県教科用図書選定審議会において調査実施項目を決定しました。これに基づき、平成30年度検定合格図書について、同審議会の調査員が専門的な立場から綿密な調査研究を実施し、その結果を本冊子にまとめました。

関係者におかれましては、この冊子を採択の参考資料として十分活用され、教科書の採択事務が厳正かつ円滑に実施されるようお願いいたします。

なお、限られた期間に教科書の調査研究を行い、その結果をまとめられた同審議会の調査員の方々に心から感謝いたします。

令和元年7月

三重県教育委員会

## 1 調査の基本的態度

この冊子は、令和2年度から使用する小学校用の教科用図書の採択に当たって、各地区教科用図書採択協議会が独自の立場で行う教科用図書の調査研究に資するため作成したものである。

さきに県教育委員会が提示した「教科用図書採択地区における小学校で使用する教科用図書の採択基準」（令和元年5月9日付け教委第05-15号）が採択の一般的な方針、方法及び手続きの準則を示したものに対し、この冊子は、採択の対象となる個々の教科用図書の調査研究に基づいて、それぞれの特色を明らかにし、採択に当たっての具体的な参考資料として役立つようまとめたものである。

なお、この冊子の作成に当たっては、次の点に留意した。

### (1) 公正確保

教科書編集趣意書以外の資料等を排除するとともに、調査員自身の主観的、独善的な見解を避け、事実に基づいて公正かつ客観的な資料となるよう調査研究に努めた。また、所見の記述に当たっては、常にその根拠となる事例を明らかにするようにした。

### (2) 調査研究の充実

「三重県教科用図書選定審議会調査員（小学校調査員）の調査実施項目」（令和元年5月9日付け教委第05-15号）を調査研究の「観点」として設定し、分析をすすめた。また、分析結果については原則2ページとした。

## 2 調査結果のまとめ

(1) 調査結果のまとめに当たっては、調査研究の観点のそれぞれについて着眼点を定め、教科書1点ごとの特色を観点番号順に記述した。

(2) 記載の順序は、発行者番号の順とした。



### 3 令和2年度使用小学校用教科用図書が発行者別一覧

発行者番号	発行者名	略称	国語	書写	社会	地図	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	保健	英語	道徳	種目合計
2	東京書籍	東書	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	11
4	大日本図書	大日本					○	○	○				○			4
9	開隆堂出版	開隆堂									○	○		○		3
11	学校図書	学図	○	○			○	○	○					○	○	7
15	三省堂	三省堂												○		1
17	教育出版	教出	○	○	○		○	○	○	○				○	○	9
26	信州教育出版社	信教						○	○							2
27	教育芸術社	教芸								○						1
38	光村図書出版	光村	○	○					○					○	○	5
46	帝国書院	帝国				○										1
61	新興出版社 啓林館	啓林館					○	○	○					○		4
116	日本文教出版	日文		○	○		○		○		○				○	6
207	文教社	文教社											○			1
208	光文書院	光文											○		○	2
224	学研教育 みらい	学研											○		○	2
232	廣済堂あかつき	廣あかつき													○	1
各種目の発行者数			4	5	3	2	6	6	8	2	2	2	5	7	8	60

=目次=

1 国語	1～9
2 国語（書写）	10～20
3 社会	21～27
4 社会（地図）	28～32
5 算数	33～45
6 理科	46～58
7 生活	59～75
8 音楽	76～80
9 図画工作	81～85
10 家庭	86～90
11 保健	91～101
12 英語	102～116
13 道德	117～133

# 國語



(1) 国語

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	<p>(1) 言葉による見方・考え方を働かせ、国語で正確に理解し適切に表現する学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫</p> <p>(2) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身につけ、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養ったり、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合うなど、言語能力の育成を図るための工夫</p> <p>(3) 児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する学習活動の充実を図るための工夫</p> <p>(4) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高めるための工夫</p> <p>(5) 調べたことを話したり、聞いたり、また行事の案内やお礼の文章を書くなどの体験活動を通じ、家庭や地域社会と連携しつつ体系的・継続的な学習を実施するための工夫</p> <p>(6) 児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫</p> <p>(7) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的、自発的な学習活動や読書活動の充実を図ることや、地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動の充実を図るための工夫</p>
2 使用上の便宜	<p>(1) 内容の配列、分量についての特徴</p> <p>(2) 判型、分冊等、造本上の特徴</p> <p>(3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫</p> <p>(4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮</p>

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
国 語	新しい国語	2 東 書

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 内容・系統については、学習指導要領の目標と内容をもれなく扱うとともに、単元ごとに学習を通じて育成する資質・能力を「言葉の力」として明確化し、重点的な学習によって着実に身につくよう工夫されている。
- 各領域の単元を「つかむ」「取り組む」「ふり返る」の課題解決的な3ステップで組織するとともに、各学年冒頭に「国語の学習の進め方」のページを設けて、課題解決的な学習を通して資質・能力が育成されるよう工夫されている。
- 学習の基盤として習得すべき「知識・技能」を、「おさえる」欄において随所に明示している。〔例〕3年上P45「だん落」、4年下P27「声の表情」等
- 学年段階に応じたさまざまな観点から言葉を集める教材「ことばあつめ」を設け、文中で使う学習を通じて、言葉の特徴や使い方についての理解を深めながら語彙を広げるよう工夫されている。
- 各単元の学習内容に関わる話型や文型、使えるようにしたい言葉を、単元末の「言葉」欄で取り上げ、学習や実生活の中で使える語彙力が育つよう工夫されている。  
〔例〕1年下P111、2年上P47等
- 各単元の学習において、情報を整理したり関連づけたりする思考操作をメモやノート、思考ツールで可視化して、目的や課題に応じて情報を扱う力が身につくよう工夫されている。
- 思考力・判断力・表現力等の各領域の指導事項について、もれなく、かつバランスよく育成できるよう、領域ごとに適切な系統を設け、全学年を通じ系統的に取り扱われている。また、指導事項を重点化するとともに、重点指導事項に即した具体的な言語活動を設定し、活動の目的や意図、条件に沿った課題解決的な学習を通じて、必要な思考力、判断力、表現力等が身につくよう工夫されている。
- インターネット上の投稿を読み比べ、議論の参加の仕方を考えたり、プレゼンテーション資料制作でパソコン等を使って作業したりするなど、情報活用能力の育成に向けた工夫がされている。  
〔例〕6年P74「インターネットの議論を考えよう」、6年P140「町の幸福論」
- 第2学年以上の各巻の巻頭に「国語学習の進め方」「〇年生で学習する言葉の力」を設け、年間を通じて「何を、どのように学ぶか」が見通せるようになっている。また、自らのめあてを明らかにする場面、学習を振り返って、めあてを新たに設定する場面が設けられている。学年末には、年間の学習を振り返る場面を設け、児童が自らの成長を実感し、さらなる学習への意欲を高めるよう工夫されている。
- 主体的に学習を進めることができるように、単元の間いを解決するための言語活動とともに、「学習の見通し」を示し、学習過程がわかりやすくなっている。
- 学習過程の中で特に重点となる部分には、「言葉の力」の間いを新設し、言葉による見方・考え方を働かせて思考・判断・表現することを促し、学びの深まりを生み出す工夫がされている。
- 学習活動の各所で、児童が考えを伝え合う場面を丁寧に描写し、それぞれの考えを広げ深める対話的な学びの大切さが伝えられている。
- 単元の学習を通して、できるようになったことや頑張ったことを振り返ることができるよう、振り返りの観点（「ふり返る」）と「言葉の力」が提示されている。

- 児童の家庭での生活体験や興味・関心をもとに書くことに親しみ、書く楽しさを味わえるよう工夫されている。  
〔例〕 1年下P62「おもい出してかこう」、2年下P106「この人をしょうかいします」
- 生まれ育った土地に目を向け、郷土への誇りや愛する心を育てられるようにそれぞれの土地に関するさまざまな話題・題材を取り上げている。  
〔例〕 4年下P54「『ふるさとの食』を伝えよう」、6年P140「町の幸福論」
- 児童の関心や発達の段階に合わせて適切な教材や題材を取り上げ、多様な表現を楽しむことができるよう工夫されている。  
〔例〕 1年上P22「あいうえおのことばをあつめよう」、  
3年上P148「想ぞうを広げて物語を書こう」
- 他の教科等との関連を図った学習活動を充実するとともに、現代的な教育課題への対応ができる資質・能力を育むよう工夫されている。  
〔例〕 1年下P30「なにに 見えるかな」、6年P52「防災ポスターを作ろう」等

## 2 使用上の便宜

- 児童や地域・学校の実体に応じた指導計画の作成に対応できるよう、内容や構成に配慮がなされている。
- 教材や題材は、児童の関心や発達の段階に合わせたものが取り上げられている。また、各学年の配当時数に応じた単元・教材数、分量であり、領域ごとのバランスも考えられている。
- 知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等が、バランスよく一体的に育成されるよう、内容・系統及び配列が工夫されている。
- 4月を学習の基盤づくりの期間とし、学習の基礎となる「対話」「情報の扱い方」「音読」「ノート作り」「図書館利用」についての単元・小単元を位置づけて、学んだことが年間の学習で活用できるよう工夫されている。
- 的確・簡潔で、学年段階に応じてわかりやすい表現を用いている。また、表記や用語が統一されている。
- 手書きの硬筆文字の筆使い・字形に準拠した字体を使用し、文字の指導がしやすいよう配慮されている。
- 各巻末の付録は、各単元の学習の補助や各巻を通じた学習を振り返り、学んだことの活用及び発展に資する教材や資料をまとめ、多様な便宜に応えられるように編集されている。
- 仮名文字の習得度合いに応じて活用できるよう、第1学年の上下巻の付録に全ての平仮名・片仮名を一覧できる表が収載されている。
- 各巻の巻末に設けた「言葉の広場」では、「ことばあつめ」をきっかけにさらに豊かな語彙を身につけるよう工夫されている。〔例〕 5年P212、6年P268等
- 特別支援教育の観点から、文字の習得においてつまづきやすい特殊音節や助詞について、指導できるページが設けられている。
- 印刷は鮮明で、シンプルなレイアウト・配色であり、大事な情報に着目しやすく、児童が見やすいよう工夫されている。
- 物語・説明文の本文には、5行ごとの行数字に加え、1行ごとに行を示す「・」を付け、行を見つけたり指示したりしやすいよう工夫されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
国 語	みんなと学ぶ 小学校 国語	1 1 学 図

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 国語の特質を理解し適切に使うことができるよう、身の回りと言葉とのつながりを意識した教材によって、言語生活を豊かにしていけるよう配慮されている。
- 育成したい思考力・判断力・表現力等を総合的に考え、対話の中で伝え合う力が着実に身につけられるようにするとともに、系統的・重点的に学習を組み立てることで、思考力や想像力が養われるよう工夫されている。
- 言葉を使うよさを実感し、論理的な側面、感性・情緒の側面、コミュニケーションの側面などから正誤・適否などの言語感覚を養い、国語の大切さを自覚できるよう工夫されている。
- 育成したい資質・能力を総合的に捉え、領域でつきたい力を相互に関連させながら学習を進め、系統的・段階的に言語能力が積み上がっていくよう配慮されている。
- 上巻巻頭の「見つける・見つめる」による語彙集め（第3学年以上）、「読むこと」で辞書を引いて調べる言葉を示した巻末の「言葉の部屋」など、言葉への意識を高め、実生活で使える語彙力を育てることができるよう工夫されている。
- 語句や漢字、言葉の意味については「言葉のいずみ」、語法や文法、日本語の使い方については「言葉のきまり」として取り立てて教材化されている。
- 児童にとって身近な日常生活の場面や、知的好奇心をくすぐる題材を導入とし、発見や気づきを促しながら学びを進め、自身の言語生活をふり返るとともに、学んだことを日常生活で活用できるよう工夫されている。
- 第3学年以上で、論理的思考力を育てるための教材を設定し、情報と情報との関係や情報の整理の仕方について、演習を通して体験的に理解し、他領域や他教科で使える力となるよう工夫されている。また、さまざまな思考ツールによる表し方を示し、情報を視覚的に捉えて整理する力が育つよう配慮されている。  
〔例〕3年上P62「いろいろな見方で分類しよう」等
- 学習の中で、「考えの形成」に該当する活動を組み込むとともに、「考えの形成」が特に重視される教材を設定することで、児童が文章を読んだうえで自分の考えをもち、考えたことを表現する場を確保するよう配慮されている。  
〔例〕5年下P20「どう考える？ この投書」、6年下P9「「本物の森」で未来を守る」等
- 「話すこと・聞くこと」では、児童の興味や発達段階のほか、学習内容にも配慮され、取り組みやすい題材を教材化することで、積極的な活動を促進し、伝え合う喜びを味わえるよう工夫されている。〔例〕2年上P28「はじめたよ、こんなこと」等
- 「書くこと」では、説明的な文章・文学的な文章・実用的な文章にバランスよく触れ、形式を学ぶとともに目的や意図、相手に応じた文章を書く場を設定するよう配慮されている。  
〔例〕1年下P12「のりものしらべをしよう」、6年下P86「日本の魅力、再発見」等
- 「読むこと」では、読むための技能を段階的に積み上げることができるよう、教材の特性やねらいに応じた言語活動を設定し、思考力、判断力、表現力、批評力などの読みの力を養うことができるよう配慮されている。〔例〕3年上P94「あらしの夜に」等
- インターネット上の情報の取り扱い方を考えさせたり、興味をもった新聞記事についてインターネットを使って調べたりするなど、情報活用能力の育成に向けた工夫がみられる。
- 児童自らが見通しや目的意識をもって学習に取り組めるよう、振り返りの観点を示し、次の学びにつなげることができるよう工夫されている。



- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」では、活動の概要を単元の冒頭に一覧で提示し、学びの見通しをもてるよう配慮されている。
- 家庭でも文章を読み、読書の日常化を図るため、幅広い題材の読み物教材を掲載し、興味をもって読み進めることができるよう工夫されている。〔例〕「読書のへや」各学年上下巻
- 児童が、地域の人的・物的資源を活用し、社会とのつながりをもちながら学習活動が行えるよう配慮されている。〔例〕5年上P60「働く人にインタビュー」等
- 児童の興味や発達段階に配慮し、取り組みやすい題材を教材化することで、積極的な活動を促し、伝え合う喜びを味わえるよう工夫されている。  
〔例〕1年上P52「いきもののあし」、4年下P70「ドリームツリーを作ろう」等
- 他教科の学習への活用、関連づけができるよう、題材が選定されている。  
〔例〕4年上P66「手で食べる、はしで食べる」、  
6年下P10「本物の森」で未来を守る」等

## 2 使用上の便宜

- 各教材が特定の時期に偏ることがないように、単元・教材が配分されている。また、それぞれの学習が、他領域の題材・活動と関連し、発展的に繰り返し学習を進めることができるよう、学習順やバランスなどを考慮して配列されている。
- 児童の発達段階や、時数、教材間の連携等を考慮し、適切な分量・数になるよう構成されている。
- 手書きに近く、はっきりとしたデザインの書体・太さを用いており、文字の指導にも有効に使えるよう配慮されている。
- 各学年の発達段階を考慮した文字の大きさ、行間・行数を設定し、紙面が構成されている。
- 印刷はやわらかい色調ながらも、鮮明で読みやすい。また、カラーユニバーサルデザインの観点から、色調・配色にも配慮されている。用紙は落ち着いて学習ができるよう配慮されたややクリームがかかった色合いのもので、薄いながらも裏写りが無い。
- 児童が持ち運ぶときの負担を考慮して上・下巻の2分冊にし、1冊分の重さが軽くなるよう配慮されている。また、1年間に2回、新しい教科書に出会う喜びを感じることができるとともに、ページ数を減らすことなく、ゆとりをもった丁寧なページ構成が実現されている。
- 第3学年以上の各学年上巻の巻頭には折込ページを設けられており、国語で育てたい資質・能力が一覧で示されている。また、第3学年以上の各学年下巻の巻末には、上巻の折込ページとリンクしたページが設けられており、学んだことを振り返り、他の児童と話し合いながら、「何ができるようになったか」「何が足りないか」を自覚することができるよう工夫されている。
- すべての文学・説明文教材の脚注罫には5行ごとの行数字のほか、1行ごとに点（・）で行を示し、特定の行を見つけたり、指示をしやすくしたりする等の工夫がされている。
- カラーユニバーサルデザインの観点から、色の違いだけでなく、形や模様などからも識別できるようにしたり、必要に応じて、文字情報を加えたりして、色だけに頼った活動にならないよう配慮されている。
- 囲み線をつけたり、背景の色を変えたりして、大事なポイントや本文の記述とは異なるものに、すぐに気づけるよう配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
国 語	ひろがる言葉 小学国語	17 教 出

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 理解力と表現力を高めるために、教材ごとに重点的に学ぶ事項が設定されている。また、学習過程に見通しと振り返りの過程を位置づけることで、主体的な学びが促されている。さらに、各教材に学び合いの場を設定し、協働して課題解決を図るようにすることで、深い学びを実現できるよう配慮されている。
- 全単元に、その単元の学習目標・学習のめあてや、学習の手立てを明示し、学習の系統化や重点化を図り、育成したい資質・能力をバランスよく育むよう配慮されている。
- 各教材での学習のポイントやそこで扱う学習用語の解説などを「ここが大事」でまとめて解説し、内容の理解と定着を促すよう工夫されている。〔例〕3年下P53「モチモチの木」等
- 各巻のてびきとしての「言葉を学ぼう」「言葉を増やそう」や巻末の「言葉の木」において、語彙拡充のために語句がまとめて示されている。
- 巻末付録「言葉のまとめ」と連携し、情報を扱う文型・話型を提示したり、説明文の読みにおいて、情報を取り出し、情報と情報との関係を捉える活動を設定したりされている。
- 「話すこと・聞くこと」では、日常生活や学校生活に関連した場を設定し、児童の実生活に結び付いた活動となるよう工夫されている。また、目的意識や必然性・必要感と児童の意欲を重視した教材が設定されている。特に、話し方だけでなく、聴き方を重点化した教材を配置したり、活動後に感想を交流し、自己評価・相互評価する機会を設けたりする等工夫されている。
- 「書くこと」では、目的がはっきりした実用的な文章から、自分の心と向き合う自己を表現する文章までの多様な文章について、表現の全過程を見据え、教材の重点に応じて取り立て指導を位置付けて展開されている。また、児童どうしが感想を述べ合ったり、助言し合ったりして自らの表現内容を見直す視点を示したり、学習後に、感想を交流し、自己評価・相互評価する機会を設けたりする等の工夫がされている。
- 「読むこと」では、文章の特徴を捉え、単元の学習の目的に応じた読みを意識づけ、読みの観点やノートのとめ方などの学習スキルが系統的に提示されている。てびきでは、言葉による見方・考え方が働くよう系統的に読みの観点を配置し、学習過程を明確にした構成になるよう工夫されている。また、学習者が自らの考えを深化・拡充させられるよう学習活動を設定し、想定される児童の発言例を示し、対話的な学習イメージが提示されている。
- 情報を集めて活用するにあたり、メディアの特徴について考える単元が設けられており、情報活用能力の育成に向けた工夫がされている。  
〔例〕4年下P94「調べてわかったことを発表しよう」、  
5年下P102「ひみつを調べて発表しよう」
- 各教材の特性を生かすため、単独の教材で単元にしたり、複数教材を組み合わせる領域融合的な単元としたりする等、多様な単元の構成となるよう工夫されている。
- 各巻の冒頭に「〇年生で学ぶこと」、各巻の終わりには『「ここが大事」のまとめ』『学ぶときに使う言葉』というページが設けられている。これらにより、その巻で学ぶ内容を、いつでも確認し振り返ることができるよう工夫されている。
- 学習過程がはっきりとわかるように、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、「学習の進め方」が教材の冒頭に明示されている。また、「読むこと」の単元では、学習のステップが提示してあることで、学習の見通しを立てることができるよう工夫されている。

- 家庭での生活経験をもとに、興味・関心のある事柄について家族や友人に知らせたいことを相手や目的に応じた様々な形式の文章で書く場面を設定し、書く喜びを味わうことができるよう工夫されている。  
〔例〕1年上P92「えにつき」、2年下P96「むかしのあそび」
- 身近な人々及び地域の行事について調べ、地域の良さに気づき、愛着をもつことができるよう工夫されている。  
〔例〕3年下P72「町の行事について発表しよう」、  
5年上P58「『町じまん』をすいせんしよう」
- 児童の日常生活・経験および興味・関心に対する配慮がなされており、自主的・自発的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。  
〔例〕1年下P20「『のりものカード』でしらせよう」、3年上P102「よく見て、話し合おう」  
6年上P66「地域の防災について話し合おう」
- 多様な観点からの言語活動を通して、学んだことが他教科の学習で活用できるよう配慮されている。  
〔例〕2年下P70「おもちゃのせつめい書を書こう」、4年上P34「ぞうの重さを量る」

## 2 使用上の便宜

- 6年間を通して系統的な単元構成を意図した内容となっている。
- 複数の領域を関連させて効果的に学習を図る「関連単元」と、一つの領域に集中して学習する「基本単元」がバランスよく組み合わせられている。
- 単元数は、系統の発展を踏まえながら、学年の発達段階や時数に応じた構成にしている。
- 各学年の配当時数、発達段階、教材間の連携をふまえ、無理なく教材が配置されている。
- 読みやすさを配慮した字詰め・行数を採用し、学習の支障となるような過度な色づかいを避け、読みやすく落ち着いたデザインに配慮されている。イラストと文字の空きも十分とり、識別しやすいよう配慮されている。
- 単元・教材ごとに学習過程を踏まえ、それぞれの単元が相互に関わるように並べることで、教科書全体の学習の流れや必然性を大切に展開・構成になっている。
- デジタル機器で表示した際にも、視認しやすい字体が用いられている。
- 児童がもったときの重さに配慮すると同時に、学習意欲の面で1年間に2回、新しい教科書と出会う期待と喜びを大切に考え、上・下巻の分冊となっている。
- 発達段階に応じたイラストを用いることで、児童の共感を得られるように工夫されている。多様な色づかいはカラーユニバーサルデザインにも配慮されている。
- 巻末付録教材は、国語学習に関わるさまざまな指導事項や言語活動を幅広く取り上げている。単元教材や小教材の学習を深め、個に応じた学習や家庭学習や他教科で言語活動を行う際の参考や支援となるよう意図したものとなっている。
- 色調のバランスだけでなく形の上でも区別しやすいよう配慮され、色による指示を含んだ設問や色に基づく活動を避け、児童の負担をなくすよう工夫されている。
- 第1学年では、児童が読む際の負担を除くために、単語や文節の途中での改行を避け、意味のまとまりが理解しやすいよう配慮されている。
- 学習の展開、学習の留意点、メモやカード、ノートなどの制作物の例示は、領域を超えて統一デザインとし、学び方が定着できるよう配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
国 語	国語	38 光村

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 日常生活に必要な国語の特質について理解し、国語科で身につけた言葉の力を、さまざまな場面で主体的に活用でき、生きて働く知識及び技能として習得できるよう工夫されている。また、日常生活の人との関わりの中で思いや考えを伝え合う力を高め、未知の状況にも対応できる思考力や想像力、判断力を高めていくことができるよう配慮されている。
- 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、その能力の向上を図る態度が育成できるよう工夫されている。
- 学習のまとまりごとに身につけたい力と言語活動を、単元名・リード文で明示するとともに、活動の過程に必要な知識や必要な用語に、マークを付けたり、コラムを設けたりなどして明確に示されている。また、その学習を通して身につける力や手順、文章の内容を理解するためのポイントを第1学年から各領域にわたり「たいせつ」というコーナーを設定し、付録にまとめられている。〔例〕1年上P111、2年上P56、5年P242等
- 学習に関連した内容や、有効な資料をわかりやすいマークで示し、学習の積み重ねに資するよう配慮されている。〔例〕2年上P81、4年上P29等
- 各学年に言葉そのものを対象化して知識を得たり考えたりする教材を位置づけ、児童が言葉の世界の豊かさを体験するとともに、言葉の自覚的な使い手として育つよう配慮されている。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」活動に関する語彙を示して、思考を支える言葉と活動が結びつくよう教材を工夫されている。〔例〕2年上P56、5年P131
- 「情報の扱い方」に特化した教材を設定し、理解や表現をともなった場面で習得・活用できる構成が、第2学年以上に設定されている。  
〔例〕3年上P9「考えるときに使おう」等
- 「話すこと・聞くこと」では、対面による口頭表現に特化した「コミュニケーションコラム」を系列化し、各学年に位置づけられている。また、発言例の意味を吹き出し内に示したり、聞き取りメモ例を具体的に示したりするなど、題材の意味が明確に伝わるよう工夫されている。
- 「書くこと」では、児童作例だけでなく、取材メモ、構成メモが掲載されており、児童作例が完成するまでの手順が明確に伝わるように工夫されている。
- 「読むこと」では、つけたい力と言語活動を単元名に掲げて、児童が目的をもって読む学習に臨めるようにし、習得と活用を円滑に行えるよう課題を設定するとともに、身につけた力や考えたことが他教科や日常生活で生かせるよう配慮されている。
- インターネットの検索方法を確かめたり、デジタル機器を使ってプレゼンテーションしたりするなど、情報活用能力の育成に向けた活動が多く取り入れられている。  
〔例〕6年P264「デジタル機器を使って、プレゼンテーションをしよう」等
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元の初めに〈学習の進め方〉を示し、見通しをもって主体的に学習の取り組めるよう工夫されている。
- 「読むこと」の「学習」においては、学習活動が見開き構成で示されている。〈見通しをもとう・とらえよう・ふかめよう・まとめよう・ひろげよう・ふりかえろう〉
- 各巻の冒頭に、その学年でつけたい力と教材が領域ごとに一覧できるよう、折り込みで構成された「学習の進め方」と「○学年で学習すること」が設定されている。

- 「ふりかえろう」を設け、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点で振り返ることができるよう工夫されている。
- 家庭での経験をもとにした生活文や手紙文など児童の日常生活に関連の深い題材が、学年に応じて取り上げられている。  
[例] 1年上P96「こんなことがあったよ」 3年上P92「仕事のくふう、見つけたよ」等
- 地域や地域の文化に対する関心を高め、理解を深め、愛着や誇りをもつことができるよう単元や教材が工夫されている。  
[例] 4年下P43「世界にはほこる和紙」 5年P72「みんなが過ごしやすい町へ」等
- 児童が自分のこととして考えられる話題・題材が取り上げられ、自主的・自発的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。  
[例] 2年下P55「わたしはおねえさん」 6年P132「みんなで楽しく過ごすために」等
- 他教科などと有機的な関連が図れるよう話題・題材の選定が配慮、工夫されている。  
[例] 3年下P51「食べ物のひみつを教えます」、5年P148「統計資料の読み方」

## 2 使用上の便宜

- 特定の学習内容が、特定の時期に集中して偏ることがないように、教材が単元と小単元に配分され、配置されている。
- 「読むこと」と「書くこと」など、領域を有機的に関連させて構成した学習が効果的に行えるよう、配列が工夫されている。
- 読みやすいだけでなく、書き文字に近いため正しい字形を意識させることができ、文字指導に効果的な字体が使用されている。
- 各ページの字詰め、行詰めは児童が読みやすいようにデザインされている。また、書き文字は書写の指導上、美しく正しい字形を用いており、特に低学年の文字指導に配慮されている。
- 国語の特質に関する小単元を上下巻に偏りなく配し、言葉についての知識の整理と練習によって言葉の力が確実に定着するよう配慮されている。
- 印刷は、鮮明で読みやすいように配慮されている。特に、色覚特性に対応するため、配色・色調にも配慮されている（カラーユニバーサルデザイン）。また、環境への負荷に配慮し、重量が軽く、色の裏写りが少ない用紙が使用されている。
- 高学年は、自ら1年間の学びの見通しをもち、既に学んだことを振り返ることができるよう学年1冊構成になっている。
- 各学年巻末には、本単元の学習に資するよう、資料となる教材が掲載されている。資料には選択的な課題を設けたり、並行読書の扱いができたりと、学級・学校の実情や個に応じて補充的にも発展的にも扱える配慮がされている。また、巻末折込教材「言葉の宝箱」として、「考える気持ちを伝える言葉」と「学習に用いる言葉」の一覧が設定されている。
- 読みの能力が十分発達していない児童に配慮し、単語や文節が行をまたぐことを最小限にしている。
- 情報のまとまりを認識しやすいように、用語解説や覚えておきたい知識などは、マークを付けて示されている。また、絵柄の区切りを明確にしたり、写真と写真の間を空けて配慮したり、境界がはっきりと区別できるように線で囲んだり影を付けたりするとともに、色彩特性にも配慮し、図版等については、色による識別に頼ることなく形で識別できるように作成されている。



国語  
(書写)





## (2) 国語 (書写)

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 言葉による見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 姿勢や点画の書き方、穂先の動き等の書写の指導事項を適切に身に付けさせるための工夫 (3) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (4) 国語科（書写）の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫 (5) 児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫 (6) 書写で学んだ知識・技能が国語科や他の教科、日常生活でも生きて働くような工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容の配列、分量についての特徴 (2) 判型、分冊等、造本上の特徴 (3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫 (4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
国語（書写）	新しい書写	2 東書

## 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 「正しく整った字を書く」ために必要な知識・技能を「書写のかぎ」と名づけ、「書写のかぎ」を単元の核として、知識・技能の習得、活用を組み合わせた課題解決型の単元展開になるよう工夫されている。（3年P13等）
- 第3～6学年の左側ページの左側にインデックスとして「書写のかぎ」が掲載され、何を学ぶのかを意識して取り組めるよう工夫されている。（3年P13等）
- 書いてみて分かったことを話し合ったり（1年P11）、目的に合わせて筆記用具や書く速さをどのようにしたらよいかについての理由を説明したりする（5年P16、6年P14）等、他の児童と伝え合ったり話し合ったりする活動が取り入れられている。
- まとめや書き初めを除く全ての毛筆教材で、手本は一部だけでなく練習する字（言葉）全体に朱を入れた淡墨書きと書き順が示され、穂先の通り道がわかりやすくなっており、正しい筆使いが視覚的に理解できるよう工夫されている。（6年P12等）
- 書き方の言葉（「とん」：始筆、「すう」：送筆、「びたっ」：終筆の止め、「すっ」：はね）を全学年に掲載している。右側のページにお手本、左側のページに書き方のポイントが掲載されている。（3年P14、15等）
- 全学年において、書きやすい姿勢と、筆記用具の持ち方を写真等で視覚的に示している。特に、姿勢では「ぺた・ぴん・とん」の言葉が全学年で使用されている。（5年P6、7等）
- 第1・2学年用教科用図書の巻末に水書用紙が添付されており、水筆や絵筆を使った「はね」や「払い」等の筆圧の変化を伴う運筆で、手指の動きが体感しやすくなっている。
- 「ふり返って話そう」で、本時の学習のねらいに関して振り返る観点が示され、他の児童や先生との対話をとおして評価ができるよう工夫されている。（4年P10等）
- 巻頭に1年間の学習を見通す「書写のかぎ」のイラストマップが掲載されている。前学年で学習した「書写のかぎ」も併せて掲載されており、これまでの学びを踏まえたうえで、児童が新しく始まる1年間の見通しをもち、主体的に学べるよう工夫されている。
- 第2～4学年で、これまで学んだことを生かして、家族や地域の人へ手紙やはがきを書く単元が設定され、家庭や地域社会と連携した学びが行えるよう工夫されている。（2年P38、3年P40、4年P38）
- 漢字の成り立ちや世界の文字、文字に込めた人々の思い等が書かれたコラム「文字のいずみ」を全学年で掲載し、児童が文字のもつ力を感じるきっかけとなるよう工夫されている。（2年P28等）
- 国語の関連として、関連図書を紹介する「こんな本もいっしょに」で、読書指導の充実を図るよう工夫されている。（6年P39等）
- 活用単元の「生活にひろげよう」では、ノートやメモ、リーフレット、ポスターの書き方等、他教科の学習や特別活動等で行われる「書いて伝える」活動について取り上げている。（3年P26等）
- 各学年で、国語の教科書で扱う代表的な古典等を取り上げ、書写の学びを国語の中でも生かせるよう工夫されている。（5年P26等）

## 2 使用上の便宜

- タブレット等の機器を活用し、WEBページにある一覧から文字を書く姿勢や用具の置き

方、筆記用具の持ち方、点画のつながり等の運筆、文字の組立、手本書き等を選択して動画で見られるよう、裏表紙や目次に二次元コードが付記されている。

- 版型はA B版のワイドな紙面であり、図版が大きく書き込み欄も大きい。また、マス目の大きさやリーダー線の有無、罫線等を各学年に合わせて変化させている。
- 第3学年以上の目次には、毛筆教材の手本の縮小版が示されている。
- 右利きのもち方だけでなく、左利きのもち方の写真も載せている。また、書き込み欄も利き手に関わらず教材文字が見やすいよう工夫されている。(1年P5、24等)
- カラーユニバーサルデザインの観点から色覚多様性へ配慮したり、ユニバーサルデザインの字体を使用したりしている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
国語（書写）	みんなと学ぶ 小学校書写	11 学図

## 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 学習することを確かめ、自分の考えや他者との話し合い・意見交換等を通して書き方を習得する展開になっており、児童が見通しをもって学習できるよう「学習の進め方」で「確かめて書く」「考えて書く」「いかして書く」「振り返る」という学習方法を詳細に解説している。（2年P6～9等）
- 新しい学年の学習に入る前に、前学年で学習した内容を書き込みながら復習できるよう工夫されている。（4年P6～9等）
- 書けるようになるための見方・考え方として、書字のポイントを「書き方のカギ」で示している。（3年P13等）
- 着目させたい運筆について、朱を入れた淡墨書きや連続写真で示し、視覚的に理解しやすいよう工夫されている。斜めに穂先を入れることを意識して筆の穂先の通り道がわかるよう、始筆の部分に三角定規が掲載されている。（4年P16、17等）
- 気をつけたい部分に「書き方の鍵」マークがあり、説明を読んで考えながら書けるようになっている。右側のページにお手本、左側のページに書き方のポイントが掲載されている。（6年P26、27等）
- 第3学年以上の巻頭には筆の持ち方や下ろし方等が大きな写真とともに一目で見てわかるように配置されており、特に毛筆入門の第3学年においては小筆に特化したページが初めに設けられ、持ち方や使い方、片づけ方が写真と共にわかるよう工夫されている。
- 第1・2学年には、大事なところや気をつけたいところに貼るシールや、名前を書くシールが添付されている。
- 学んだことの振り返りとして、国語の教科書に載っている好きな俳句や四字熟語、自分が好きな学校行事等を書かせることにより、学校生活や日常生活に即して、学習したことを生かせるような振り返りを設定している。（5年P29等）
- 全学年の裏表紙に「保護者の方へ」の欄を設け、各単元で何が身につくかについて共有できるようにしている。
- 書き込み欄を豊富に設けることで、児童が書き込んだ教科書を持ち帰り、学校での学習を家庭で共有できるよう工夫している。
- 書写の学習に興味・関心をもって取り組めるように、第2～5学年に「なぜ？なに？書写の不思議」というコラムを設け、鉛筆・消しゴムの製造法、筆・墨の製造法等、書写に関する様々な話題を掲載している。（2年P29、36、37等）
- 全ての復習・まとめの単元を、書いて確かめられる構成に統一している。低学年には、楽しく学習意欲が高まるよう課題の発見を助けるシールがある。（1年P36～39等）
- さし絵のキャラクターに吹き出しがついており、基本的な技能や用語の解説、大切なポイントを示すことで、児童が着眼点や注意点に注目しやすいようしている。（3年P9等）
- 「書写の資料館」では、第1学年の「かんさつカードをかこう」（P44）、第2学年の「水ふでをつかってみよう」（P42）、第3学年の「ローマ字」（P47）、第4学年の「都道府県名を書こう」（P49～53）等、文字に関わる様々な資料が豊富に掲載されている。

## 2 使用上の便宜

- 姿勢や筆記用具の持ち方、ポイントとなる運筆等のページに二次元コードが付記されてお

り、WEBページの動画が見られるようになっている。また、いろいろな筆記具で書かれたものの写真や、書いた文字を重ねて形を確かめられる機能を二次元コードで読み込むことができる。(1年P2等)

- 学年やねらいに応じて、リーダー線に変化をつけている。
- 半紙原寸大の教材が充実しており、「骨書き」や「かご書き」等の練習がしやすくなっている。また、書初め教材も、開いてそのまま使える原寸大で掲載されている。(6年①折りこみ等)
- カラーユニバーサルデザインの観点から配色とデザインが配慮されている。
- 硬筆の教材文字と書き込み欄は、利き手を問わず練習できるよう配慮されている。(5年P16等)

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
国語（書写）	小学 書写	17 教出

## 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童自らの課題解決に向けて、主体的に取り組めるよう、高学年に学習方法や課題を選択する教材を設けている。（4年P36、5年P8、6年P30等）
- 第1学年から教科特有の用語「書写の言葉」を学習し、話し合いや振り返りで活用できるようにしている。（1年P12、13等）
- 第3・4学年の全ての毛筆教材で、第5・6学年ではまとめや書き初めを除く毛筆教材で、手本の一部だけでなく練習する字（言葉）全体に朱を入れた淡墨書きが示され、穂先の通り道がわかり、正しい筆使いに着目しやすいう工夫されている。（6年P20等）
- 始筆や送筆、終筆の穂先の傾きや筆圧が確かめられるように、筆跡の図が示されている。ポイントとなる筆使いは、写真を拡大して掲載している。（5年P13等）
- 全学年を通して書くためのよい姿勢を「こし ぴん」「ぐう 一つ」「足 ペた」の言葉で統一し、鉛筆や筆の持ち方、用具の置き方等を写真や言葉で示している。（3年P4～7等）
- 第1学年の巻末に水書用紙が添付されている。水書用筆（または絵筆）で書くことで、「はね」や「払い」等の筆圧の変化を伴う運筆で、手指の動きが体感しやすくなっている。また、筆圧をかけなくても線が書けるため、指に力が入って鉛筆の軸を握りこむといった持ち方を改善し、鉛筆で書くことにも生かすことができるよう工夫されている。  
〔例〕「く」「つ」のなぞり練習ができるようになっていたため、第1学年の教材「くつ」と同じ運筆が練習できる。
- 「学習の進め方」で、課題や学習プロセス、課題解決の方法等が示され、見通しをもって学習できるようにしている。（2年P6、7等）
- 第3学年以上では、基本的に「めあて」、「ためし書き」、「考えよう」、「ここが大切」、「まとめ書き」、「生かそう」、「振り返ろう」という流れが提示され、めあてから振り返りまでの流れが意識できるよう工夫されている。（3年P15等）
- 第2年学ではお世話になった地域の方への招待状（P32）、第4学年では学習発表会への案内状（P46）、第6学年では卒業文集への執筆依頼（P38）等、学年の発達段階に合わせて、はがきや手紙の文例を全ての学年で掲載している。
- 全学年に「知りたい文字の世界」のページを設け、「文字の歴史」等のテーマを設定して、文字への興味・関心がもてるよう工夫されている。（6年P18等）
- 第1・2・6学年に「はってん」を設け、先の学年や中学校で学習することに関心がもてるよう工夫されている。（1年P37等）
- 日常生活との関連の深い「横書きの書き方」は、児童の発達段階に応じて各学年で扱い、理科や社会科等で生かせるようなノートのみまとめ方や算数のマス目ノートの書き方等、他教科で活用できるノート例を掲載し、書き方の参考にできるよう工夫されている。（3年P60等）
- 「レッツ・トライ」「書いて伝え合おう」のページで、教科横断的な学習活動や日常生活に学んだことを活用できるように工夫されている。（4年P26、27等）
- ノートや新聞等を書く際の、見やすさや目の引きやすさ等を考慮した筆記用具の選択や、鉛筆の濃さ、筆圧等による表現の違いについて示している。（1年P42等）

## 2 使用上の便宜

- 第1・2学年では書く姿勢や鉛筆の持ち方、水書用紙の使い方等を、第2学年以上では折

れや払い、点画等のポイントとなる筆使いや手本書き等をWEBページの動画で見られるよう、裏表紙に二次元コードが付記されている。

- 毛筆の基本紙面は、右側の紙面で文字をよく確認し、左側の紙面で学習ステップを追いながらポイントを確かめることができる構成になっている。(5年P16、17等)
- 裏表紙には、全学年で「鉛筆の持ち方」の写真を掲載し、児童自ら確認できるよう工夫されている。
- 第3学年以上の目次に、毛筆教材には手本の縮小版が、硬筆教材にはレイアウト等のアイコンが示されている。
- 判読しやすいよう色覚等の特性をふまえた配色等が配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
国語（書写）	書写	38 光村

## 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 第3学年以上の巻頭見開きに学習の流れを写真入りで掲載し、「何を、どう学ぶか」をイメージしやすいよう工夫されている。(P2、3)
- 第2学年以上では、「たいせつ」で児童が学習のポイントをひと目でわかるように示されている。(2年P6等)
- 点画の書き方を繰り返し練習できるように「空に大きく書こう」(第1・3・5学年)(1年P44等)や「水ふでで書いてみよう」(第1・2学年)(1年P45等)を設けている。第1学年の巻末には、「水筆シート」がついており、水書用筆(または絵筆)で書くことで、「はね」や「払い」等の筆圧の変化を伴う運筆で、手指の動きが体感しやすいよう工夫されている。
- 水書では筆圧をかけなくても線が書けるため、指に力が入って鉛筆の軸を握りこむといった持ち方を改善し、鉛筆で書くことにも生かすことができるよう「小」の書き順をなぞることで「はね」や「払い」、「とめ」を確かめられるよう工夫されている。
- 着目させたい点画等を、朱を入れた淡墨書きで示し、正しい筆使いが視覚的に理解できるよう工夫されている。(4年P15等)
- 第3学年以上には学習の進め方も記載され、見通しをもって主体的に学習が進められるよう工夫されている。(P2、3)
- 全学年で、振り返りがしやすいよう振り返りのポイントが示されるとともに、第3学年には自己評価や相互評価に活用できるシールが付属している。(3年P12等)
- 家の人に向けて招待状を書く(2年P32)、アイヌの文化について調べたことを新聞にまとめる(5年P22～25)等の活動を通して、家庭や地域社会との連携が図れるよう工夫されている。
- 筆遣いや運筆のリズムを体の動きと擬態語で表現するキャラクターが随所に配置され、児童が直感的に理解できるよう工夫されている。(3年P12等)
- 漢字の成り立ちを楽しいイラストで解説する「漢字図鑑」を全学年に掲載(4年P31等)したり、伝統的な言語文化への理解を深めるために、書き初めや文房四宝(筆、硯、墨、紙)(4年P43等)、文字の歴史(6年P27～29)等をコラムで提示したりする等、児童の興味・関心が高まるよう工夫されている。
- 国枝慎吾さん(5年「インタビューメモの書き方」P12)や池江璃花子さん(6年「自分だけの一文字」P40)等、スポーツ選手等を取り上げ、児童に親しみのもてる教材が設定されている。
- 手紙の書き方(3年P18、19等)や横書きの書き方(1年P23等)、ノートを読みやすくする書くためのポイント(4年P20～23)等、他教科等や日常生活でも生かせるよう構成されている。
- 第1・2学年では生活科(1年P23、2年P32)、第3学年では社会科(P33)、第5学年では外国語科(P38)等、他教科との関連教材を豊富に扱い、教科横断的な学習ができるようにしている。
- 第6学年では、小学校の書写の要素をまとめた「書写ブック」(P19～26)があり、国語や各教科の学習場面や日常生活で生かせるよう工夫されている。

## 2 使用上の便宜



- 姿勢、筆記用具の持ち方のページ（1年P4、6、9等）に二次元コードが付記され、WEBページの動画が見られるようになっている。また、第3学年以上にはまとめと書き初めを除く全教材のページ（6年P7等）に二次元コードが付記されており、それぞれの文字の手本書きを動画で見ることができる。
- 1教材1目標と学習する内容を焦点化することで、学習のねらいが明確になるよう工夫されている。
- 学年や学習内容に応じて、リーダー線の使い方を変えている。
- 目次に他教科との関連がアイコンで示されるとともに、第3学年以上には毛筆教材の手本の縮小版が示されている。
- 児童が明確に識別できる色の組み合わせや書体等、ユニバーサルデザインの配慮がされている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
国語（書写）	小学書写	116 日文

## 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 第1・2学年では「この教科書の使い方」（1年P8、9、2年表紙裏）、第3～6学年では「書写学習の進め方」（P1、2）が示され、主体的な学びを促すよう工夫されている。
- キャラクターの発言等を記載することで、児童が興味・関心を高めたり、他者との交流が促されたりするよう工夫されている。（4年P18等）
- 「はね」や「払い」等の筆圧の変化を伴う運筆で、手指の動きが体感しやすいよう、第1・2学年には教科書から取り外して使用できる「水書きシート」が添付されている。また、児童が一目でわかるよう「水書きシート」の活用を推奨するアイコンが表示されている。（1年P12等）
- 水書きでは筆圧をかけなくても線が書けるため、指に力が入って鉛筆の軸を握りこむといった持ち方を改善し、鉛筆で書くことにも生かすことができるよう工夫されている。
- 正しい筆使いが視覚的に理解できるよう、書き初め等の一部を除く多くの毛筆教材で、手本全体に朱を入れた淡墨書きが示されている。また、正しい書き順を意識できるよう書き順が示されている。（5年P14等）
- 毛筆で書いた文字を硬筆で練習できるように、同じ部首のついた文字を掲載している。（6年P10等）
- 巻頭に前学年で学んだことと学年の目標が明示されており、当該学年で学ぶことの見通しをもつことができるよう工夫されている。
- 各教材の「めあて」と「できたかな（自己評価）」が示され、自ら学習の成果を振り返ることができるようになっている。（1年P10、11等）
- 児童にとって身近な日常（学校生活、学校行事、日常生活等）が多く題材に取り上げられている。（4年P33等）
- 伝統的な言語文化への理解を深め、文字に対する興味・関心を高めるため、文房四宝（筆、硯、墨、紙）や文字の成り立ちの資料を提示したり（5年P23等）、古典や文学作品が教材として取り上げられたりしている。（3年P31等）
- 「生活と書写」では、手紙や掲示物の書き方や原稿用紙の使い方等の書式が、具体的なポイントとともに掲載されている。必要な時に参照しやすいよう、第3学年以上では巻末に集約されている。（3年P44～46等）
- 「あったことをスピーチしよう」（1年P39、40）「お気に入りの本をしょうかいしよう」（4年P40、41）「提案文を書こう」（5年P36、37）等、国語科との関連を図った「国語の広場」が全学年に設定されている。
- 「国語の広場」で取り上げられている題材には、植物の観察（2年P36、37）、身の回りの生き物（3年P42、43）、防災・安全（5年P36、37）等の教科横断的なテーマが選ばれている。
- 豊かな言語感覚と語彙力の向上をめざし、「語彙」を扱った「言葉の窓」が全学年に掲載されている。（1年P22等）

## 2 使用上の便宜

- 各学年の、書く姿勢や筆の持ち方、毛筆用具の置き方や準備、片付け方、墨のすり方等の学習のページに動画再生アイコンが掲載され、WEBページで動画でも確認できるよう工夫

されている。(1年P2等)

- 毛筆基本紙面は、右側の紙面で文字の大きさや組立、点画のつながり、筆遣い等を学習してから、左側の紙面の手本をよく見て学習内容を生かしながら実際に書くことができる構成になっている。(3年P12、13等)
- 右利きでも左利きでも手本が見やすいように、書き込み欄が手本の下になるよう配慮されている。(2年P6等)
- 隣り合う色が識別しやすいよう、色の明度に変化をつけたり、白い線を間に挟んだりする等配慮されている。
- 活字を大きく太くするなど、児童が学習しやすいよう配慮されている。



# 社 会



(3) 社会

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 社会的な見方・考え方を働かせながら、学習の問題を追究・解決する学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 社会的事象の特色や意味、社会に見られる課題などについて、多角的に考えたことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなど、言語活動に関わる学習のための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、学校図書館や公共図書館、コンピュータなどを活用して、情報の収集やまとめなどを行うための工夫・地図帳を活用することにより、位置や空間的な広がりに着目して社会的事象を捉える見方・考え方を養う工夫 (4) 学習したことを振り返り、学習成果を吟味したり新たな問いを見出したりすることや、さらに学んだことを基に自らの生活を見つめたり社会生活に向けて生かしたりすることができるような工夫 (5) 博物館や資料館などの施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などについての調査活動を取り入れるための工夫 (6) 単元などを通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童の表現を促すための工夫 (7) 他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容の配列、分量についての特徴 (2) 判型、分冊等、造本上の特徴 (3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫 (4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮
3 その他	・具体的な社会的事象の取り上げ方について

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
社 会	新しい社会	2 東書

## 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- どの単元の学習においても、問題解決的な学習の過程（「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」）を大切にし、3年P18～19や5年上 P24～25にある「学習の進め方」では、見開きを使い、児童の思考に沿った学習の過程を例示し、見通しをもって学習を進めることができるよう工夫されている。

児童が自ら学習問題をつくり、見通しをもちながら、実社会で働く人々の姿に学ぶとともに、グループなどで話し合う活動が提示されている。また、適所に学習意欲を喚起させる意味で、キャラクター「ドラえもん」を目印に、「空間」「時間」「相互関連」「方法（考え方）」といった4種類の見方・考え方が提示されており、児童がより深く学ぶ際の視点や方法が示されている。まとめる場面では学習したことを振り返り、学習問題を解決する過程を視覚的に示す工夫がされている。〔例〕5年「米作りのさかんな地域」上P92～93 6年政治・国際編「子育て支援の願いを実現する政治」P44

- 多様な考えを出し合い、話し合う場面が重視され、適所に学習意欲を喚起する写真やイラストが示されている。

調べたことをもとに、特色やよさについて話し合う場面や、司会とパネラーを設定してミニパネルディスカッションをする場面など、既習の事実を生かし、多様な考えが出せるような活動が取り入れられている。〔例〕3年「地図を使って考えを伝え合う」P30 6年歴史編「天下統一を進めた二人の武将の働きについて、学習したことをもとに話し合う」P74～75

- 各巻の目次には、「Dマーク」が示され、社会科学学習への興味・関心を高めることができるコンテンツが用意されている。インターネットを活用した学習を取り入れることで、必要な情報を収集したり、収集した情報を読み取る工夫がされている。また、ICT機器を活用した学習場面が設定されていて、インターネットを使った情報の収集や、メディアリテラシーを身につけることの必要性が示されている。〔例〕5年「情報を学習に生かすにはどうすればよいか」下 P94～95 5年「水産業がさかんな地域の人たちの工夫や努力について調べたことをまとめる」上 P108～109

- 学習成果を「まとめる」場面を小単元の終末に設け、多様な表現活動を取り入れたまとめ方が示されている。学習問題を確認し、自ら調べたり他の児童と考えたりしてきたことを新聞や4コマCMなどにまとめる活動が取り入れられている。〔例〕4年「特色ある地いきと人々の暮らし」P149 5年「暮らしを支える工業生産」下 P23

また、今日的な課題に関わる箇所を中心に、学習したことを生かして社会的な事柄に参画したり、提案・発信したりする「いかす」学習場面を例示し、社会と主体的に関わろうとする児童の育成をめざす工夫がされている。〔例〕4年「避難所シュミレーション」P94～95

- 「見る・聞く・ふれる」といった体験的な調査活動の大切さが随所に示されている。特に第3・4学年の学習では、地域を歩いて見学したり人と出会ったりする活動がイラストで示されるなど、実際の調査活動の場面を捉え、社会事象の意味について考えていくことの大切さが伝わるよう提示されている。第5・6学年の学習では、より広範囲かつ実生活とは離れた地域や社会的事象を扱うため、写真や表、グラフなどの資料を掲載し、多様な学習に対応できるように工夫されている。〔例〕3年「おかし工場の見学」P55 6年歴史



### 編「歴史学習の基本をおさえよう①」P3

- 自分の生活と比較し、より具体的に社会的事象について表現できるよう、単元の導入では、児童にとって生活に身近な様子等を取り上げ、自分の生活と重ねて捉えることができるよう工夫されている。〔例〕4年「わたしたちの生活と水」P34 5年「わたしたちの生活をとりまく工業製品」下P2

第3～5学年の巻末に、学年の学習内容をさまざまな方法（考え方）で振り返る場面が設けられている。また、「こんな学びの進め方もあるよ」という場面も設けられ、主体的・対話的で深い学びを実現するための学習方法が提案されている。

- 社会科の特質に応じて道徳教育が適切に指導できるよう、自他の人格を尊重したり、公共の精神を育んだりする資料が示されている。また、人権教育との関連を意識し、地域で活躍する人に焦点を当て、その人の功績や生き方に学ぶことができる資料が提示されている。〔例〕3年「地いきの消防団の取り組み」P104～105 4年「地いきの医りょうにつくす」P134～135 6年「本当の平等を求めて」歴史編 P108

## 2 使用上の便宜

- 児童が主体的に学習できるよう内容が焦点化され、単元ごとに十分な学習活動を保障できる時数配当となっている。
- ワイド版（A B判）の判型を生かし、見開きを使ったイラストや写真が多数掲載されている。

第5学年は上と下、第6学年については歴史編と政治・国際編に分冊されていることで、持ち運びをする際の児童への身体的な負担に配慮している。

- 各学年の冒頭には、前学年で学んだことと当該学年で学ぶことの概要を把握できるページがあり、児童が見通しをもって学習できるよう工夫されている。

索引に工夫があり、例えば第6学年の歴史編の索引では、ことがらと人物が分けられていて児童が探しやすいようになっている。

- 目次に掲載された二次元コードを読み取ったり、URLを入力したりすることで学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができるようになっている。

本文と資料をはっきりと区別できるようレイアウトされている。また、児童の発達段階に配慮した大きさの文字が使用されている。

写真や図表などの資料には、見開き単位で番号がつけられ、どこに注目すればよいのかを簡潔に指示できるよう工夫されている。

カラーバリアフリーに配慮した配色がされており、図表などは、色調の違いだけでなく、模様や形などでも判別できるよう工夫されている。

## 3 その他

- 公共施設の整備と租税の役割、市役所の働きや防災に対する取組、政治のしくみと選挙の意義等、政治・行政に関連した教材が多く取り上げられている。
- 火事、地震、その他の自然災害と、国や地域の防災の取組を具体的に学習できるよう防災教育に関連した教材が各学年に掲載されている。
- 「領土」に関わる内容では「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」は日本固有の領土であると明記されている。また、「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」についての現在の状況についてもそれぞれに説明されている。また、「拉致問題」については北朝鮮より帰国した拉致被害者の写真とともに簡略な説明がされている。5年「世界の中の国土」上P14 6年「まわりの国と日本」歴史編 P153

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
社 会	小学社会	17 教出

## 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- どの学年の教科書にも巻頭で「前の学年をふり返ろう」のページが設けられており、前学年で学習した社会科（第3学年では生活科）の単元が取り上げられ、どのように学習し、何ができるようになったかが示されている。そのことによって、前学年の学習でめざしてきたことや身についた力を実感するだけでなく、それを土台に、児童が学習の目標や指針をもつことができるよう工夫されている。

「○○さんのお話」というインタビュー記事が多く掲載されており、行政や地域など多様な観点から取り上げることで、話し合い活動等を通して多角的・多面的な視点が育つよう工夫されている。〔例〕3年「工場ではたらく人と仕事」P64～77 4年「地震にそなえるまちづくり」P84～99

2つの資料やグラフを並立表示して対比させながら特徴を見つけ出せるよう工夫されている。また、資料の読み取りに関わって、児童の思考の深まりが促されるなど工夫されている。〔例〕5年「日本の工業生産と貿易・運輸」P144～145

- 各学年の巻頭ページで、「社会科の見方や考え方」のページがあり、社会科の学習で課題解決に向けて構想する際の視点や方法（「時期や変化」「場所や広がり」「比べる」「くふうや関わり」「関連づける」「総合する」）について学年の発達段階に応じた記述で示されている。また、次のページには「社会科の学習の進め方」として「つかむ」「調べる」「まとめる」という3つの場面をくり返しながら学習を進めていくことを示し、問題解決的な学習について、見通しをもって進められるよう工夫されている。その後、児童自身が、その後の学習やくらしにつなげていくことを促す構成となっている。〔例〕各学年巻頭ページ
- 産業学習において、異なる観点で描かれた地図を対比させながら、農業、工業、土地利用等の特色が視覚的にも理解しやすいよう工夫されている。〔例〕4年「県の地図を広げて」P14～23

関連図書、国語辞典、百科事典、地図帳、インターネット、聞き取りインタビュー等、様々なツールによる情報収集の方法や、効果的なまとめ方等が掲載されており、児童が主体的に調べ学習を進めていく際の手引きとなるよう工夫されている。また、ネットモラルについてもふれられている。〔例〕3年「社会科ガイド」P160～163

- 単元ごとに「まとめる」と題して児童が書き込む等の形式で学習成果を振り返るページがあり、単元でポイントとなる事項や視点を再確認できるよう工夫されている。〔例〕3年「じよほうをまとめる」P170～171

各学年「解説」や「キーワード」の記載があり、学習用語の確実な理解を図るよう配慮されている。

各単元の終末に「ひろげる」と題して、別学年で学習した内容に関連するものや時事問題など発展的なトピックを取り扱ったページが設けられており、今の自分のくらしや社会の様子とのつながりを考えることができるよう工夫されている。〔例〕6年P163

- 歴史学習に必要な具体的資料を得るために効果的な遺跡や考古学博物館の見学に関わるページが設けられ、「事前学習の内容」「現地での見学の視点」「調べ方」といった学びの手引きが示されている。〔例〕6年「歴史の学び方をナビゲーション！」P68～69
- 単元の学習を振り返り、自分が最も大切だと考えるキーワードをもとに標語を作って発表し合うといった、児童の学習意欲の向上や表現力の向上につながる活動例が示されている。

る。〔例〕 3年「火事からまちを守るはたらき」P109

学習内容に応じた写真が多く用いられている。特に児童の調査活動の場面が取り上げられ、どのような視点で、何に留意して事象を見ればよいのか、学習を進める上での工夫がされている。〔例〕 3年「火事からまちを守る」P104～107

- 5年「自然条件と人々の暮らし」の単元で「自然とともに生きる人々の暮らし～アイヌの人たち」(P56～57)が取り上げられ、住居や文化について体験的に学ぶ活動例が示されている。

単元の内容に深い関わりがある人物から聞き取った「〇〇さんの話」等では、その内容に、勤労の尊さや社会的責任の自覚にふれるものが多く、道徳科との関連が図られている。〔例〕 5年「米づくりのさかんな地域」P78

## 2 使用上の便宜

- 学習指導要領の内容に示されている各学年の目標を達成できるよう、適切な事例や事象が取り上げられている。また、調査や表現のための活動も確保しながら、単元を通して充実した学習を進めることができるよう、記述内容が適切に配分されている。
- 各学年1冊構成とすることで、児童や学校、地域の実態に応じた1年間を見通したカリキュラム・マネジメントによる柔軟な対応を可能としている。  
年間の使用に耐えうる製本で、装丁にも汚れにくい加工が施されている。また、環境への配慮から再生紙・植物油インクが使用されている。
- 索引の語句には、学習での主な事柄が選ばれている。また教科書に出てきたキーワードについては太字で表すなど索引の語句が2段階で示され、調べやすい工夫がされている。  
目次に掲載された二次元コードを読み取ったり、URLを入力したりすることで学習に役立つ情報をWEBサイトで見ることができるようになっている。
- 本文では、児童の読みやすさに配慮したユニバーサルデザインの字体が使用されている。色覚の個人差を問わない配色がされており、資料によっては色だけでなく形からも区別ができるよう配慮されている。  
資料の題名にカタカナの記号をつけることで、どの資料に注目すればよいのかを簡潔に指示できるよう工夫されている。  
第3～4学年では毎時の学習活動が3段階で簡潔に提示されており、見通しをもって学習に臨めるよう工夫されている。

## 3 その他

- 戦時下のくらしや戦争のもたらした惨禍について具体的に捉える学習活動が重視され、平和の尊さや平和で平等な社会を希求する人々の願いについて実感できる教材が取り上げられている。
- 防災教育に関連して、第3学年では火事、第5学年では地震を取り上げている。また第4学年では地震、水害、火山、雪の災害から、6学年では地震、雪の災害から選択で取り上げるように示されており、国や地域の防災の取組を具体的に学習できるような教材を各学年で掲載している。
- 「領土」に関わる内容では「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」は日本の領土であると明記されている。また、「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」についての現在の状況についてもそれぞれに説明されている。「拉致問題」については日本と北朝鮮との関係の説明の中で一文説明がされている。5年「日本の国土とわたしたちのくらし」P14～16 6年「これからの日本とわたしたち」P226～227

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
社 会	小学社会	116 日文

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 社会的な見方・考え方の三つの視点（空間、時間、相互関係）と方法を具体的に示す「見方・考え方コーナー」を設けるとともに、児童の素朴な問いや問題を話し合うところから学習をスタートさせ、学習問題を考え、調べ、追究し、学習問題について話し合い、表現する問題解決的な学習過程を基本に構成されている。〔例〕 3年P124～125、5年P70～71

また、主体的な学びへ向かう手だてとして、疑問や予想を話し合い、学習問題をつくり、解決への見通しをもつことができる問題解決的な学習が推進されている。さらに対話的な学びでの話し合い・交流活動の充実や、深い学びでの多角的な思考と選択・判断する力の育成を図るため、児童の考えが深まっていく様子がイラストなどで示され、児童一人一人の振り返りのページが充実している。〔例〕 5年P84～85

- 見学や観察、調べたことを書くこと、話し合うことなど、国語科の内容に示された「話すこと・聞くこと」「書くこと」に示された段階をふまえた活動をふまえて、表現活動が例示されている。また、随所に「学び方・調べ方コーナー」、「やってみようコーナー」、「キーワード」、「むずかしい言葉」が設けられ、言語活動を充実させる手だてが工夫されている。

また、単元の終末などでは、対話的な学びを示唆する児童の話し合いや振り返りの学習が充実している。〔例〕 3年P116～121、5年P126～129

- 全学年、「学び方・調べ方コーナー」で地図、カード、年表などのつくり方や聞き取りの仕方、資料の集め方やインターネットの使い方、調べたことや考えたことの発信の仕方などが取り上げられ、情報活用能力の育成が図られている。また、プログラミング的思考を育成できるよう、学習問題をつくるまでの過程が示され、見通しをもって計画的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。〔例〕 4年P82、5年P188～189、6年P72～73

ICT機器の活用については、デジタルマークを設け、電子黒板やタブレット端末を活用しながら学習が進められるようWEBページにコンテンツが用意されている。

- 「学び方・調べ方コーナー」や「やってみようコーナー」により、課題や場面に応じて学習の見通しを立てられるよう工夫されている。話し合い、意見を出し合うことで考えが深まっていく様子が具体的な発言例を挙げて示されている。〔例〕 5年P89、P157、6年P227

また、児童のノート为例示し、「自分の考え」、「友だちの意見とつなげて考えたこと」、「新たな疑問」などの内容が可視化されており、考え方やノートの書き方の見本や、評価の基準としても活用できるようになっている。〔例〕 5年P103

- 地図帳や地球儀の具体的な活用方法を示し、興味・関心をもって調べられるよう配慮されている。〔例〕 3年「地図帳の使い方」P156～157、4年「地図となかよしになろう」P194～195、5年「世界から見た日本」P8～17

また、役場等身近な地域の施設や、各地に残されているさまざまな遺跡や文化財、博物館などを直接訪ねて観察・見学したり、調査したりする活動が紹介されている。〔例〕 3年「わたしたちの住んでいるところ」P8～39、4年「くらしのなかに伝わる願い」P104～125

- 児童の立場からの発言や話し合い、児童のもっている力を発揮した調べ学習や表現活動、

学習内容の整理の仕方、多角的な思考や選択・判断の内容などが示されている。その際、人々との出会いやメディアの活用など、作業的・体験的な活動が、児童の発達段階を踏まえて位置づけられている。例えば、第6学年では児童の興味・関心を重視し、取り上げる人物や文化遺産、社会的事象が精選して示されている。〔例〕3年P86～87、4年P116～123、5年P258～259、6年P54～56、P72～73、P120～121、P128

- 道徳科との関連では、あいさつや電話の仕方、交通ルールを守ることなどが礼儀や規則の尊重などと関連して示されている。また、国際理解や多文化共生の基礎を養う事例が示され、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する心情を涵養できるよう工夫されている。〔例〕3年「学び方・調べ方コーナー」、4年「世界とつながる地いき」、5年「日本の国土と人々の暮らし」、6年「世界のなかの日本とわたしたち」、6年「日本のあゆみ」

第3学年の社会科では、生活科で培われた体験活動を通じた気づきをもとに社会的認識を広げ、深めていく工夫が示されている。また、人権・福祉に関する内容を扱い、共生社会の実現に向けて考えられるように配慮されている。〔例〕4年P184～185、6年P17、P28、P250

## 2 使用上の便宜

- 小単位ごとの十分な調べ活動や話し合い活動などによって、児童の主体的・対話的な学習が展開できるよう内容の焦点化が図られている。
- 各学年とも1冊構成とすることで、1年間の見通しをもったカリキュラム・マネジメントによる柔軟な対応を可能としている。

本文用紙は軽い再生紙が採用され、児童への重量的負担の軽減に配慮されている。製本は丈夫で、本が大きく開きやすい。

- 第6学年の索引では、事柄と人名、おもな地名、国名に分けられていたり、第3～5学年の索引では国内の地名は地図上に示されたりするなど、探しやすい工夫がなされている。

その単元を学ぶ上で必要な学習用語を「キーワード」として、また、難しい言葉に辞書マークを使い、本文の横にわかりやすく説明されている。

- 本文を学習活動、友だちの発言、学習内容の3つに分けることにより、文章を正確に読み取れるよう工夫されている。

カラーユニバーサルデザインに対応した図表を用いて配色がされており、資料によっては色だけでなく斜線やドットを使用するなど、配慮されている。

資料の題名に見開き単位で番号をつけることで、どの資料に注目すればよいのかを簡潔に指示できるよう工夫されている。

## 3 その他

- 自然環境や生活環境の保全や、限られた資源の管理など、社会の持続可能な発展について考える教材が多く取り上げられている。
- 日本の国土の特徴と関連させながら、台風、水害、地震などの自然災害と、国や地域の防災の取組を具体的に学習できるよう、防災教育に関連した教材が各学年に掲載されている。
- 「領土」に関わる内容では「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」は日本固有の領土であると明記されている。また、「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」についての現在の状況についてもそれぞれに説明されている。5年「日本の国土と人々の暮らし」P16～17 6年「国際社会のなかの日本」P225



社 会  
(地 図)





### (3) 社会(地図)

観 点	着 眼 点
<p>1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫</p>	<p>(1) 社会的な見方・考え方を働かせながら、学習の問題を追究・解決する学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、必要な情報を調べ、まとめる技能を身につけるための資料としての工夫 ・47都道府県の名称と位置及びその概要、世界の主な大陸と海洋の名称と位置を身に付けることができる工夫</p> <p>(2) 社会的事象の特色や意味、社会に見られる課題などについて、多角的に考えたことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動をより活性化させるための資料としての工夫</p> <p>(3) コンピュータなどを活用して、情報の収集やまとめなどを行う工夫・地図を活用することにより、位置や空間的な広がりに着目して社会的事象を捉える見方・考え方を養う工夫</p> <p>(4) 学習したことを振り返り、学習成果を吟味したり新たな問いを見出したりすることや、さらに学んだことを基に自らの生活を見つめたり社会生活に向けて生かしたりすることができるような工夫・児童の発達段階を考慮し、児童の考えが深まるよう様々な見解を提示するような工夫</p> <p>(5) 身近な地域及び国土の遺跡や文化財、生産物などについての調査活動を取り入れるための工夫</p> <p>(6) 地図への親しみをもち、問題解決のための資料として効果的に活用する技能や意欲を育成する工夫</p> <p>(7) 他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫</p>
<p>2 使用上の便宜</p>	<p>(1) 内容の配列、分量についての特徴</p> <p>(2) 判型、分冊等、造本上の特徴</p> <p>(3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫</p> <p>(4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮</p>

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
地 図	新しい地図帳	2 東書

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 47 都道府県の名称と位置を理解する学習を行う際、学習課題解決のための資料として工夫されている。

都道府県の様子を捉える学習については、都道府県の区分を載せるとともに、特徴の捉え方を例示している。また、各都道府県について適宜拡大図を設け、より様子が捉えやすくなるよう工夫されている。(P5～6、P17～54)

各都道府県の統計には、国宝・重要文化財の数や伝統工芸品についても取り上げており、理解を深めることができるよう工夫されている。(P83～84)

世界における我が国の国土の位置、構成、領土の範囲を理解するために、日本の領土・領海の全体を示した地図を載せ、日本の端の経度や緯度などを示すとともに、尖閣諸島や竹島を「日本固有の領土」として写真をつけて説明している。また、日本の国土の統計を載せることで、全体像を数字の面からも把握できるよう工夫されている。(P15～16)

日本の水産業、農業、工業について、水揚げされる魚や農産物、工業生産物等を、イラストを多用して読み取りやすくなるよう工夫されている。(P71～72)

我が国の歴史上の主な事象について学習を行う際、学習課題解決のための資料として活用できるよう、出来事の経緯を示した年表とともに参照するページが示されており、歴史上の事象とその位置について関連付けて調べられるよう工夫されている。また、主な時代における日本と世界のかかわりを船の航路等を示すことで視覚的に捉えることができるよう工夫されている。(P75～78)

- 日本の自然災害について、台風や豪雨、地震や大雪といった日本列島全体の災害地図を載せ、地形や気候などとの関係から災害の起きる要因や防災対策について考えられるよう工夫されている。(P97-99)

ハザードマップの例とその読み取り方を載せ、自分の地域における学習の手がかりとなるよう工夫されている。(P 99)

- Dマークのあるページでは、アドレスや二次元コードからWEBページにアクセスすることで、デジタルコンテンツを利用して地図の基礎知識や地図帳の使い方を学び、社会的事象を捉える見方・考え方を養う工夫がされている。(P5、P11、P13、P16、P56、P69、P71、P73、P83、P85、P96、P100)

日本は8地方区分、世界は州ごとに、地図の縮尺を統一し、各地域の地理的理解を深めるとともに、位置関係や地域相互の結びつきを調べたり比較をしたりするなど、多面的な学習ができるよう工夫されている。

- 京都及び奈良、東京の市街地地図を載せ、修学旅行や校外学習、家族旅行でも使えるよう工夫されている。また、地図上にイラストや写真を効果的に配置することで、さらに調べてみたいという意欲がもてるよう工夫されている。(P35～36、P47～49)

- 国内の世界遺産(自然・文化)の写真を載せたり、昔の国名がついている食べ物や、行事などがイラストで紹介されたりするなどして、地域の伝統や文化に根ざした資源に目を向け、保護・活用につながるよう工夫されている。(P79-80)

- 「まちを上からながめてみよう」「真上から見ると地図になるよ」「市をみわたしてみよう」など、地図ができあがるまでの様子が書かれている。また、地図帳の使い方について、キャラクターや吹き出しを活用し、説明されている。(P7～P14)

冒頭の世界地図と日本地図を「地図のぼうげんに出発！」という形で載せ、国や地域の特徴を表したイラストが描かれており、児童の興味を引き、地図を見ることへの動機付けになっている。(P1~4)

- 外国語活動、外国語科との関連を図ることができるよう、世界地図にはすべての国名に英語表記が付記されている。また、アフリカの動物やヨーロッパの料理の写真や説明を載せ、地図とともに学べるよう工夫されている。(P61~64)

算数科との関連を図ることができるよう、地図のページには縮尺を示すスケールバーが配され、実際の距離を求める計算をすることができるようになっている。

家庭科との関連を図ることができるよう、統計に加え、各都道府県のおもな郷土料理や農水産物を取り上げている。(P83~84)

国語科や音楽科、道徳科などに関連する人物のイラストや記念館の場所などを載せている。

## 2 使用上の便宜

- 世界と日本のイラストマップに始まり、日本列島を見渡す地図、日本の地方と都市地図、世界地図、世界の州ごとの地図、資料図、統計資料、索引と統計的に配列され、扱いやすいように工夫されている。
  - A4判、4年間の使用に耐えるよう製本されている。中央部は十分に開き誌面が見やすくなるように工夫されている。折り込みページの折り目部分にニスひき加工がされ、破れにくくなるよう強化されている。
  - 統計資料、索引に十分なページをとり、行間を空けて見やすくされている。(P83~96)
  - 色のみによる文字や図形の判別を避け、形を変えて区別されている。また、海底部の青色、都市部の黄色、平地の緑色から高地の茶色までメリハリのある色調になっており、反射がきつすぎない用紙が用いられ、目が疲れないよう配慮されている。(P75~78、P83~85)
- 地図中の文字や記号は大きく、丸ゴシック系である。特に都道府県名は赤の太字に白い縁取りをして、児童が学習しやすいよう配慮されている。

## 3 その他

- 巻末には、日本と世界の統計・グラフを設け、様々な学習場面と関連づけられるようにしている。
- 索引の都道府県名・都道府県庁所在地名・国名を赤色文字にして、見つけやすくしている。
- 地名は全てに、その他の文章には、第3学年以上の漢字にルビがつけられている。また、図や写真の説明文などは文節改行にして、読みやすいように配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
地 図	楽しく学ぶ 小学生の地図帳	46 帝国

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 47 都道府県の名称と位置を理解する学習を行う際、学習課題解決のための資料として、日本の様子について、広く見わたす地図で概略を示している。また、鉄道や高速道路にしぼって交通網を示すことにより、わかりやすく他地域とのつながりを表している。(P19～28)

各都道府県の名称と位置について、形や文字に注目するトピックスを設けることで多様な方法で理解を助ける手立てがとられている。(P115)

世界における我が国の国土の位置、構成、領土の範囲を理解するために、日本全体の領土・領海の全体を示した地図を載せ、日本の端の経度や緯度などが示されている。また、日本の東西南北端の離島などが紹介され、北方領土のほか、尖閣諸島、竹島が「日本固有の領土」として記述されている。(P29～30)

我が国の国土の自然環境の特色を気候の側面から考えるため、冬と夏の気温と降水量の様子を色の違いで簡単に比較できるよう、見開きのページで表されている。(P89～90)

我が国の歴史上の主な事象について、学習を行う際の学習課題解決のための資料として活用できるよう提示されている。特に京都市や奈良市の遺跡や文化財について、位置やつながりがわかるよう、5万分の1地形図を用い、調べ学習がしやすいよう工夫されている。(P49～50)

出来事の経緯を示した年表とともに参照するページが設けられており、歴史上の事象をその場所に関連付けて調べやすいよう工夫されている。(P101～102)

- 日本で起きた自然災害について、写真や図を使って視覚的に捉えやすくするとともに、防災・減災に取り組む人々の努力を知り、防災の意識を高められるよう工夫されている。(P91～94)

防災マップの具体的な作り方を載せ、広域防災拠点や避難場所を示すことで防災意識を高め、自分たちの住む地域の防災について考え、話し合えるよう、工夫されている。(P47～48、P61～65)

- タイトルの横にある二次元コードを、タブレット・パソコンなどを使って読み取ると、学習内容を深められるデジタルコンテンツが使えるよう工夫されている。また、「地図マスターへの道」というコラムを設け、デジタル機器を使わなくても「プログラミング的思考」を養い、位置や空間的広がりなどの社会的な見方・考え方の育成につながるよう工夫されている。

- 「地図マスターへの道」と教師役のキャラクターの吹き出しを結びつけて学習することで、深い学びにつなげ、新たな問いを見つけ出したり、自らの生活を見つめなおしたりできるよう工夫されている。

- 国内の世界文化遺産の写真を載せたり、昔の国名がついている食べ物のイラスト及び日本の略年表を載せたりするなど、地域の伝統や歴史・文化に根ざした資源に目を向け、保護・活用につながるよう工夫されている。(P101～102)

- 第3学年において初めて地図にふれ、身近な地域や市区町村の地理的環境について学習を行う際、自ら必要な情報を得られるよう工夫されている。

地図の成り立ちから始まり、方位や地図記号、距離の求め方などについてそれぞれ見開きのページを用い、8ページにわたって説明している。また、児童が親しみをもって学習できるよう、マンガを使った導入が行われている。(P7～14)

- 外国語活動、外国語科との関連を図ることができるよう、世界全図とともに14か国の挨拶と文字、民族衣装を身に付けたイラストが配されている。(P1~3) また、主な国名や都市名に英語表記が付記されており、その国を代表するものがイラストで描かれている。(P75~86)

算数科との関連を図ることができるよう、地図のページには縮尺を示すスケールバーが配され、実際の距離を求める計算をすることができるようになっている。

音楽科との関連を図ることができるよう、音楽と関連のある場所には音符の記号と曲名が表記されている。

## 2 使用上の便宜

- 「広く見わたす地図」→「都道府県を見る地図」→「世界を見る地図」と配列し、活用度の高い使用学年ごとに配慮されている。都市周辺の詳しい地方拡大図は、「都道府県を見る地図」の該当箇所に挿入されている。
- A4判、製本は、ページの落丁を防ぐための方法が用いられるとともに、背表紙も布で補強されるなど、4年間の使用に耐える丈夫な製本仕様となっている。折り込みページには、折り目部分の表面をコーティングして切れ落ちることがないように工夫されている。児童の身体的負担を軽減するために軽い用紙が使用されている。
- 見開き右ページの端には、地図の種類別(日本の地方別地図、世界の州別地図など)ごとに色分けしたインデックスを設けて、探しやすくなるよう工夫されている。
- 色覚特性のある児童にも判別しやすいよう、「公園や緑地」「建物が密集しているところ」などには、色の下に紋様を入れている。(P31~72) 地図のタイトルは、定位置(左上)に固定され、レイアウトの統一がなされている。「手話で表す都道府県」のコーナーが設けられている。

重要な地名は太く大きくし、文字のまわりには縁取りをつけてある。また、とめ、はね、はらいが正確なフォントを使っている。

## 3 その他

- 巻末には、日本と世界の統計・グラフを設け、様々な学習場面と関連づけられるようにしてある。
- 索引の都道府県名・都道府県庁所在地名・国名を赤色文字、日本の歴史地名と世界の首都名を青色文字にして、見つけやすくしている。
- 児童の発達段階に配慮して、日本・世界ともに、3年生でも読み取りやすい世界地図、日本の都市圏図・地方図が設けられている。(P1~3、P20~28)



# 算 数





## (4) 算 数

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	<p>(1) 数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象を数理的に捉え算数の問題を見いだす学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫</p> <p>(2) 具体物、図、言葉、数、式、表、グラフを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの学習活動を通して合理的、論理的に考えを進めるなど、互いの知的なコミュニケーションを図るための工夫</p> <p>(3) 数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表やグラフを用いて表現する力を高めたりするなどのため、必要な場面においてコンピュータなどを適切に活用するための工夫 ・児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動を実施する工夫</p> <p>(4) 問題を解決するために既習の何を用いてどのように表したり処理したりする必要があるのかについて構想を立てられるようにしたり、どのような数学的な見方・考え方を働かせるとよりよく問題解決できたのかを振り返ったりするための工夫</p> <p>(5) 具体物を操作したり、日常の事象を観察したり、児童にとって身近な算数の問題を解決したりするなどの具体的な体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をしたり、算数を学ぶ意義を実感したりするための工夫</p> <p>(6) 動機付けや方向付け、学習内容・活動に応じた振り返りなど、児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫</p> <p>(7) 他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫</p>
2 使用上の便宜	<p>(1) 内容の配列、分量についての特徴</p> <p>(2) 判型、分冊等、造本上の特徴</p> <p>(3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫</p> <p>(4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮</p>

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
算 数	新しい算数	2 東書

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 関心・意欲を高めるよう工夫されている。
 

[例] 児童の日常生活を中心に素材を集めた『単元プロローグ』が設定されている。また2年上P8では、昼休みの過ごし方をデータとして、児童の興味が喚起するよう工夫されている。

[例] 第2学年以上に『いかしてみよう』が取り上げられている。5年下P80では、割合の学習の仕上げとしてパンの特売日の話題を取り上げ、日常の事象を数理的に捉える良さがわかるよう工夫されている。
- 数学的な見方・考え方を働かせた学びを実現する手だてがとられている。
 

[例] 第2学年以上では、虫眼鏡マークを付けることで、数学的な見方・考え方を可視化する手だてがとられている。
- 図や数直線などを活用して考えたり説明したりする力が育つよう工夫されている。
 

[例] 2年下P74～81「たし算とひき算」、3年上P58～59「重なりに注目して」、4年下P120～121「共通部分に注目して」、5年上P148～149「数直線の図を使って」、6年P270～271「数直線の図を使って考えよう」等、問題を図や数直線に表す手順を具体的に示して、児童が段階的に習熟し、自ら表現できる力が身に付くよう配慮されている。
- 図や式をもとに互いの考えを伝え合うことにより論理的思考が育まれるよう工夫されている。
 

[例] 1年②P118～119「たし算とひき算」で、ヒントをもとにして式を見て考えを話したり、気づいたことを言ったりできるよう工夫されている。4年上P115「倍の見方」、5年下P79「割合」では、提示された2つの式から考え方を説明する場面を設けて必要な言語表現を「まとめ」として示して、考えを話すときの表現方法が身につくよう工夫されている。
- プログラミングを体験できるデジタルコンテンツが用意されている。
 

[例] 5年下P134「正多角形をかく手順を考えよう」、6年P242～243「数の並べかえ方を考えよう」等、5・6年生に単元の学習と関連させた特設ページ「プログラミングを体験しよう!」を設定して、コンピュータを活用したプログラミングに取り組めるよう配慮されている。
- コンピュータを活用して効果的・効率的に学習指導ができるよう工夫されている。
 

[例] 2年上P9、4年上P85、6年P180等、数学的活動の支援、学習効果の向上、基礎・基本の習熟定着とつまずきへの対応、統計学習の支援をテーマとして教科書の内容と密接に関連したデジタルコンテンツが用意されていて、表紙裏ページに記載されているURLや二次元コードからコンテンツにアクセスして活用できるよう配慮されている。
- 既習内容を振り返り学習できる見通しが立てられるよう工夫されている。
 

[例] 1年②P13、2年上P78、3年上P47、4年上P55、5年上P39、6年P89等単元と単元の間に復習問題のページ「おぼえているかな?」を設けて単元や前学年までの既習内容を振り返り、概念や性質の理解、技能の維持・強化が図られるよう工夫されている。
- 数学的な見方・考え方を働かせる良さに気づき、振り返りができるよう工夫されている。
 

[例] 2年下P43～47、4年上P63～67、5年下P95～99等、「今日の深い学び」として学習を振り返って分かったことや役立った考え方を振り返るよう工夫されている。

[例] 単元末に「つないでいこう算数の目」を新設し、単元で働かせてきた数学的な見方・考え方を示して統一的・発展的に考察できるよう工夫されている。

- 数学的活動を豊富に取り入れて、数学の良さに気づくことができるよう工夫されている。  
〔例〕4年上P134～135「食べ残しをへらそう」、5年下P126～127「国土をくわしく調べよう」、6年P90～91「陸上競技の記録について考えよう」等、第4学年以上に「算数で読みとこう」を設けて、実際のデータを数学的に読解・解釈したり考察し判断したりするなどの活動が取り上げられている。また、これらの学習を通して日常の事象を数理的に捉えることの面白さや有用性、重要性がわかるよう工夫されている。
- 学習したことを生活や学習に活用する態度が育つよう配慮されている。  
〔例〕1年②P26「なにをくらべているのかな?」、3年上P84「どんな数を学習したかな?」、5年下P28「比べられるかな?」等、単元の導入「単元プロローグ」のページで、身の回りの事象を数理的に捉えて議論する活動を豊富に取り入れるなど、学習内容と生活の関連を強調し、日常生活に学習を生かそうとする態度が身につくよう配慮されている。  
〔例〕2年上P114、4年上P32、6年P116等、第2学年以上の単元末に学習したことを日常生活に活用する「いかしてみよう」を設定して、学ぶことの楽しさや意義を実感して進んで生活に生かそうとする態度が身につくよう配慮されている。
- 児童の興味・関心を生かして、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。  
〔例〕2年下P28、4年下P88、5年下P109等「ますりん通信」を設けて、算数の学習に関連する話題や児童が気づいたり発見したりした見方・考え方を取り上げて、児童の意識が高まるよう工夫されている。
- 既習内容を適宜振り返る機会を設定している。  
〔例〕第2学年以上で、目次の単元の左右にそれぞれ「前の学習」「後の学習」を設けて学習の継続性を持たせ、どの既習内容が今の学習の元になっているのかを考えさせることで児童の自発的な学習を促す工夫がされている。
- 道徳教育に関連した指導ができるよう配慮されている。  
〔例〕3年上P66、P130、下P105～107、4年上P8～9、P13、P20～26、5年上P122～123、下P77、6年P90～91、P131～132、P232～237等、伝統文化に触れたり、郷土愛を育んだり、国際社会について考えたりすることができるよう工夫されている。  
〔例〕第2学年以上の上巻巻頭「学びのとびら」で他の児童との学び方を例示して、公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画する態度を養うことができるよう配慮されている。
- 他教科等との関連を図った学習活動が行えるよう配慮されている。  
〔例〕1年①P3～15、P36～37、2年上P95、3年下P90～102、4年上P20～33、5年P34～35、6年P234等では生活科、体育（保健）、理科、外国語などの他教科との関連を考慮した教科横断的な教材が取り上げられている。  
〔例〕5年下P84～85、P92、6年P164～165、P193、P196～197等ではキャリア教育と関連づけた教材が取り上げられている。

## 2 使用上の便宜

- 環境に配慮した再生紙や化学物質を押さえた植物油インキを使用するなど、環境やシックスクールなどに配慮されている。
- 第1学年～第5学年については、重量による児童の身体的な負担を考慮して分冊構成とし、第6学年については中学校に向けて合冊構成されている。
- 児童が視認しやすいよう、ユニバーサルデザインの字体が使用されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
算 数	たのしい算数	4 大日本

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 日常の事象を数理的に捉え、算数科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて工夫されている。
  - 〔例〕 2年～6年巻頭の「算数まなびナビ」で算数の学び方を説明し、単元ごとに「問題をつかもう」「自分で考えよう」「学び合おう」「ふりかえろう」「まとめよう 使ってみよう」と活動の目的を示すことで、児童が主体的・対話的で深い学びへ向かえるよう工夫されている。
- 文章量の多い問題を取り入れ、読解力の育成に配慮されている。
  - 〔例〕 2年P127、4年P83、6年P23等、単元末の「たしかめ問題」で思考力、判断力、表現力を問う問題が適宜取り入れられている。
- 図、表、グラフ等具体物を用いて説明を行えるよう配慮されている。
  - 〔例〕 2年P166～167、4年P71、6年P80等、「読み取る力をのばそう」を設け、文章、図、グラフを読み取る力や考えを表現する力を育成するとともに、課題とされている、読解力、活用力、表現力が育成できるよう工夫されている。
  - 〔例〕 第4学年以上の巻末に数直線図の書き方を連載することで、目盛りの読み取りや図の活用など、児童が段階的に図、表、グラフ等を活用できる力を身に付けるよう工夫されている。
- 日常の事象を算数の問題として捉え、解決方法を話し合えるよう工夫されている。
  - 〔例〕 2年P195～197、3年P131～133、4年P123～124、5年P19～23等では「じっくり深く学び合おう」を示し、右ページに問題を配置し、次ページに図や表等を使った多様な考え方の場面に配置することで、解決方法を比較しながら話し合い活動に取り組みやすいよう配慮されている。
- プログラミングを体験しながら、論理的思考力を身に付けられるよう工夫されている。
  - 〔例〕 6年P194～195「グラフをかこう」、5年P250～251「正多角形をかこう」、4年P256～257「アルゴリズム」、3年P236～237「数あてゲームをしよう」2年P212「すごろくゲーム」、1年P168「ゴールをめざそう」等、「プログラミングにちょうせん」の特設ページを全学年に設けて、プログラミング的思考を伸ばすとともに、算数の理解が深まるよう配慮されている。
- プログラミングの活動が円滑に行えるよう工夫されている。
  - 〔例〕 6年P194、5年P250、学習専用のウェブサイトや使い方の動画、サンプルファイル等のデジタルコンテンツを設け、活動が円滑に進められるよう配慮されている。
- 既習内容を生かし、見通しが立てられるよう工夫されている。
  - 〔例〕 第2学年以上で、すべての時間に学習のめあてを「☆めあて」というマークで示し、本時の内容を明確にすることで学習の見通しをもたせる工夫がされている。
- 数学的な見方・考え方を働かせて、問題解決ができたかを振り返ることができるよう工夫されている。
  - 〔例〕 3年P82、4年P50、5年P18等、「☆発見！考え方」や「ひらめきアイテム」で数学的な見方・考え方に焦点をあて、児童の思考力が育成できるよう工夫されている。
  - 〔例〕 3年P19、4年P99、6年P62等、ノートのとめ方を「ふりかえろう」として示し、学んだことや考えたことを書き留めて自発的な学習につながるよう工夫されている。

- 数量や図形について実感を伴った理解をしたり、算数を学ぶ意義を実感したりできるよう工夫されている。
  - 〔例〕 1年P96、3年P161、5年P128等、「算数たまたばこ」を設け、日常の事象を算数の問題に設定し、具体的な操作や活動を伴いながら、算数で培った知識や技能を活用して問題解決できるよう工夫されている。
- 量感、質感を体感しながら考えが表現できるよう工夫されている。
  - 〔例〕 3年P116「大きな数」では、不等号の感覚を体感的に捉えさせるよう視覚化したり、2年P56、4年P240、5年P26等、実際の測定の活動や作業と、グラフや表とを関連させたりして話し合い活動が活発になるよう工夫されている。
- 自主的・自発的な学習を促すよう工夫されている。
  - 〔例〕 1年P39、P145、P154、2年P94、P157、3年P68、P198等、「おうちで算数」を設け、家庭生活の中でできる活動を示し、算数で学習したことを実生活の場で生かすよう配慮されている。
  - 〔例〕 4年P251、5年P95、6年P220等、「ふくろう先生のなるほど算数教室」の特設ページで、算数・数学を生かして仕事をしている方のインタビューを取り上げ、算数が実社会で生かされている事例から数理的な処理のよさに気づけるよう工夫されている。
  - 〔例〕 第2学年以上で、全単元にわたり「プラス・ワン (ページ)」とリンクマークを付けて、巻末に設定した補充問題へ導くよう工夫されている。
  - 〔例〕 単元末の「たしかめ問題」にも、個に応じて取り組む問題を選択できるようにするとともに、「しっかりチェック」「チャレンジ」を設けて習熟度に合わせて取り扱うよう工夫されている。
- ノートの書き方事例を示し、考えがまとめやすいよう工夫されている。
  - 〔例〕 1年P112「ノートにまとめよう」5年P126「ふりかえろう」等、各学年に沿ったノートの活用例を示し、表現しやすいよう配慮されている。
- 児童が、各教科の活動、題材や統計資料に算数の知識が生きていることを実感し、各教科の活動に算数で学んだことが生かせるよう配慮されている。
  - 〔例〕 1年P30「たいいく」、2年P88「生活科」、3年P45「ほけん」、4年P72「外国語活動」、5年P122「音楽」、6年P186「理科」等、各教科との関連の中で算数の知識や技能を活用していることを実感できるよう工夫されている。
  - 〔例〕 理科、社会などとの関連において、第3学年以降では棒グラフや折れ線グラフなどの指導時期を早めにして、算数で学んだことを生かせるよう配慮されている。
  - 〔例〕 5年P178、6年P186等で他の教科とのリンクマークが書かれている。
- 現代的な課題との関連に配慮されている。
  - 〔例〕 3年P123「なるほど算数教室」では外国のおつりのわたし方を例示して国際理解に、また6年P218では「飲み水の備えについて考えよう」では、1日で使う水の量を扱い防災教育につながるよう配慮されている。

## 2 使用上の便宜

- 各学年1冊の合本にすることで、学年のはじめに学年全体の学習内容を見通すことができるとともに、既習内容の振り返りがしやすくなるよう配慮されている。
- 全面的なユニバーサルデザインの字体の使用、カラーユニバーサルデザインを踏まえた配色などに配慮されている。
- 製本は各ページごとを接着剤で固める「アジロ綴じ」とし、針などの使用がないため児童にとって安全で、奥までよく開くことができるよう工夫されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
算 数	みんなと学ぶ 小学校算数	11 学図

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童が問題を見だし、主体的に学習を進めることができるよう工夫されている。  
〔例〕3年上P20「かけ算のきまり」、5年上P68「計算の仕方やきまり」等、紙面の左側に「知りたいな」「調べたいな」「考えたいな」などのガイドを示し、児童の主体性を促すことができるよう工夫されている。
- 学習した内容を整理し、深い学びへと進めることができるよう工夫されている。  
〔例〕2年下P88～89「長さ」、4年上P146～147「表のまとめ方」、6年P78～79「小数や分数を使った計算」等、これまでに学習した内容を「ふりかえろう つなげよう」として領域ごとにまとめて統合的に捉えるとともに、そこから生まれる新たな疑問を次への学習のきっかけとして位置づけられるよう配慮されている。
- 絵や図、式を用いて考えたり、文章や話し合いによって説明したりする場など、さまざまな表現力が育つよう配慮されている。  
〔例〕1年上P37「あわせていくつ ふえるといくつ」、3年上P69「3けたの筆算の仕方」、4年上P122～123「折れ線グラフ」、5年下P66～67「面積の求め方」等、課題を絵や図、式で表して考えることを重視し、表現力が継続的に育成されるよう配慮されている。また、解答に記述を求める場を設けて、表現力が鍛えられるよう配慮されている。
- 話し合い活動をもとに、他者への伝達に必要なことがらを実感できるよう工夫されている。  
〔例〕3年上P17「ノート名人になろう」、4年上P90「四角形の性質」、5年上P43「同じ大きさにならして」、6年P17「整理の仕方」、6年P64「分数どうしのわり算の意味や仕方」等、他者の考えを読み取ったり、それを適用して自分の言葉でまとめたりすることなどが意識できるよう、また他者に伝えるための言葉の使い方を論理的な説明とともに提示することで、自然に身に付くよう配慮されている。
- コンピュータを使用することの利便性および使用方法について扱われている。  
〔例〕6年P144「写真の拡大・縮小」では、タブレット端末を使用して撮影した写真を拡大したり縮小したりする活動を通して、コンピュータを使用する利便性が伝えられている。また、プログラミング学習のページ等に掲載された二次元コードから動画やソフトが参照でき、学習活動の手助けになるよう配慮されている。
- プログラミング的思考を養う課題を設け、論理的思考を育むよう工夫されている。  
〔例〕全学年の学年末配当として、「ロボくんに〇〇をさせよう」という形式で統一した問題解決学習を展開し、発達の段階に応じて直感的な動作で徐々に論理的思考が身に付き、筋道を立てて考えることの大切さに気づくことができるよう工夫されている。
- 既習事項を活用する場面を通して、数学的な考え方が育成されるよう配慮されている。  
〔例〕第2学年以上の各学年上巻巻頭に「算数で見つきたい考え方モンスター」、「前学年で見つけた考え方」のページを示して、見方・考え方を意識して使えるようにしたり、前学年での考え方を振り返ったりできるよう配慮されている。
- 問題を解決するための見方・考え方を示唆し、それらを振り返りながら学習を進められるよう配慮されている。  
〔例〕3年上P63「3けたの筆算の仕方」、3年下P79「筆算の仕方」、4年上P11「数の表し方やしくみ」、5年上P75「計算の仕方やきまり」6年P149「同じに見える形の性質やかき方」など、脚注に「モンスター」を付けて見方・考え方を明確にし、既習事項を活用したり方法の見通しをもったりする態度、問題解決までを振り返る態度が育成されるよう配慮されている。

- 実際に体験したり活動したりすることを重視し、それらを通して考察できるよう工夫されている。

〔例〕 1年下P35「20より大きい数」、2年上P60「数の表し方やしくみ」など、ブロック等を用いて量感覚が具体的にイメージできるよう、また3年下P55「三角形の性質やかき方」、4年上P85「四角形の性質」等、実際に図形を作り、観察する活動を通して、その性質を認識できるよう工夫されている。

- 生活場面から課題を提示し、数理的処理のよさや意義が実感できるよう工夫されている。

〔例〕 1年下P32～33「かつどう!!」では、教室の4時間目と昼休みの様子を対比する中で数理的に処理する事柄を見つけ、それらを協働的に解決していくことで、数学のよさに気づいたり、数学を活用することへの意義を感じたりできるよう工夫されている。また、2年上P14～15「整理の仕方や表し方」では、抜けた乳歯の本数という、この学年の児童にとって身近な生活場面からの素材を取り上げ、数理的な処理のよさを感じられるよう工夫されている。

- 算数に対する意欲・関心が喚起されるよう工夫されている。

〔例〕 2年上P46「のこりは何こ?」、3年下P54「同じなかまはどれ?」等、単元のはじめを「?を発見」と題した問題発見のページから始め、算数の問題として考察していくことで、数学的活動を自然に行うことができるよう工夫されている。また、3～5年上表紙裏～P1には「みんなの町の算数」を配し、具体物が数学的活動につながっている例を示して、興味・関心をもって学習が進められるよう配慮されている。

- 自ら課題に働きかけ、自発的に学習する姿勢が育まれるよう工夫されている。

〔例〕 第2学年以上のページの左側に「～したいな」という、児童の視点に立ったことばを入れることで、自ら学びたくなるよう配慮されている。また、単元末に設けられた「できるようになったこと」で学んだことを振り返り、それをもとに、続けて設けられた「まなびをいかそう」へと学習を深化・発展させていけるよう工夫されている。

- 合科的な扱いができる場面を取り入れるなど、他の教科との関連が図られている。

〔例〕 2年下P90「たし算とひき算」等、生活の振り返りや見直しを通して、道徳科との関連が配慮されている。また、2年上P12～15、3年上P84～93、4年上P24～32及びP140～142等、表やグラフに関する内容では、扱う題材や資料で生活科や社会科、体育科との関連を図り、算数の有用性が理解されるよう配慮されている。単位量あたりの大きさの内容では、5年上P54で人口密度を扱い、社会科との関連が図られている。さらに、6年P162「比例と反比例」では、重さに注目して紙の束の枚数を調べる課題を設定し、実験レポートを提示して、教材の考察についても関連を図れるよう工夫されている。

- 現代的な諸課題との関連に配慮されている。

〔例〕 3年上P107「道のりときより」、6年P103「対称な図形」、4年上P117「いろいろな国のわり算」、5年上P61「単位量あたりの大きさと環境」、5年下P117「将来なりたい職業」等、素材を安全・安心や防災、国際理解、環境、キャリアといった様々な事象について数学的な知識や技能を駆使して考察できるよう工夫されている。

## 2 使用上の便宜

- 判型をA B版（横幅 21 cm）とし、十分に開きやすく、教科書上で作業する部分が広くなるなど書き込みがしやすいよう製本されている。また、第2学年以上の巻頭に折り込まれた「算数で見つきたい考え方モンスター」9種を、見開きでいつでも見ながら学習できるよう工夫されている。

- 色ではなく記号や模様の違いで判断できるようにするなど色覚特性に配慮されている。

- 漢字の使用は国語科との関連を重視し、既習した漢字を扱うよう配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
算 数	小学算数	17 教 出

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 目的意識をもって数学的活動に取り組めるよう工夫されている。
 

〔例〕 2年上P22～23「たし算」、P38～39「ひき算」、3年上P118～119「玉入れ」、5年P184「山梨県の特産品のグラフ」等、身近な題材から算数の問題を見だし、事象を数理的に捉えようとする場面が設定され、興味・関心をもって新しい学習に取り組めるよう配慮されている。
- 児童の問いから、主体的・対話的な学びが展開できるよう工夫されている。
 

〔例〕 各学年のP2～5「算数をはじめよう！」で、児童の問い「はてな？」、話し合いを焦点化する「学びを深める問い??」、振り返りの「なるほど!」、「新たな問いだったら!？」へ繋げる進め方を巻頭に示し、それをアイコンとしてページに示すことで、主体的・対話的な学びを行い深い学びにつながるよう工夫されている。
- 具体物等を用いて、数学的に考えたり、表現したりする力が育成できるよう配慮されている。
 

〔例〕 2年上P24「たし算」、4年上P66「角」等考えの元や、計算式の表現を図などで関連づけ、結果を吟味することを児童の言葉で伝えあう活動を通して、多様な考え方へのつなげ方、広げ方、深め方を身に付けられるような工夫がされている。
- 発表・話し合いの場面では、図や式を用いて考えることで筋道を立てて考察することができるように、また話し合いの活動では、その筋道を論理的に説明することができるようにすることで、互いにコミュニケーションが図られるよう工夫されている。
 

〔例〕 2年上P24～25「たし算」、4年上P66「角」、5年P200「四角形や三角形の面積」等で児童の考え方を図や操作を使って説明する活動を示し、お互いの考えを話し合う活動で論理的に考えるような工夫がされている。
- プログラミング教育に即した教材が配置されている。
 

〔例〕 5年P228～229「正多角形の作図」でコンピュータに繰り返し作業を行わせたり、別の正多角形を作図させたりする体験ができ、プログラミング的思考を育成できるよう構成されている。
- ICTの特性を生かした学習ができるように工夫されている。
 

〔例〕 「まなびリンク」にアクセスすると3年上P124では、コンパスの使い方を動画で見ることができ、5年P199では、図形を分割したり、移動したりして図形の面積の求め方を考えることができ、4年上P49では、グラフを作成したり作り方を変えたりする操作をすることができる。
- 問題解決時の個人の見方・考え方を振り返る活動ができるよう配慮されている。
 

〔例〕 5年P200「四角形や三角形の面積」、6年P127「比例と反比例」等で問題解決の過程を吹き出しの言葉で振り返ることができるよう配慮されている。

〔例〕 3年P94～95「あまりのあるわり算」、2年P25「たし算」等で授業の終わりで吹き出しの言葉で発展的に考えさせて深い学びにつながるよう工夫されている。
- 既習事項との関連を図りながら学習内容を広げ、問題解決につなげる活動ができるよう工夫されている。
 

〔例〕 5年P294～295等のページに「算数のミカタ」のコラムを載せて、既習内容をほかの場面に活用したり、既習内容を発展させて新たな考え方を紹介する活動を通して発展的



に思考する力が育成されるよう工夫されている。

〔例〕 3年下P82、5年P167等、単元の最後のページの「ふくしゅう」では、その単元で学習したことを振り返ることができるよう配慮されており、次の単元と関連する既習事項も確認できるよう工夫されている。

- 身近な題材を取り上げて、算数の問題を発見し、身の回りの課題を解決できるよう工夫されている。

〔例〕 2年上P22～23では導入で、遠足のお菓子の買い物を取り上げることで、身の回りの課題を考えさせて、算数を学ぶことの意味を感じられるよう工夫されている。

- 既習事項を活用して日常の問題を解決していく力が養えるよう工夫されている。

〔例〕 3年下P93では、乗法の学習の活用問題として、階段1段分の高さや段数から校舎の高さを求める問題を扱い、算数を実生活に活用するよさが感じられるよう工夫され、また、他学年の2年P48、4年上P55、5年P181、6年P157等でも算数を実生活に活用させるよう工夫されている。

〔例〕 2年上P48では、減法の学習の活用問題として、値段の違う品物を購入する場合、どちらのお店で購入したら安く購入できるかという問題を扱い、算数を実生活で活用するよさが感じられるよう工夫されている。

〔例〕 2年下P98～99、3年下P110～113、4年P126～129、5年P250～253、6年P192～195等、学年末に活用問題として「算数を使って考えよう」が配置されている。その中で「情報の読み取り・関連づけ」「根拠の説明」「批判的考察」「表現の評価・改善」といった一連のストーリーを扱い、目的意識をもって解決していくことを通して、算数を活用する力が育つよう工夫されている。

- 自主的・自発的な学習習慣が身につくように配慮されている。

〔例〕 巻末に「自分で取り組むページ」が設けられ、家庭学習のヒントとして、答え合わせをしたり、授業を振り返ったりすることを促し、児童各自のペースに合わせて取り組むことができるよう配慮されている。

- 児童の興味・関心を高め、自ら考え、学ぶ態度を養えるよう配慮されている。

〔例〕 3年上P123、4年上P20で知識を広げる「脚注コラム」、2年上P51、2年下P54～55、3年上P104、6年P178～179で発展的な問題「算数ワールド」、4年下P152～153、5年P282、6年P247で「広がる算数」等、さまざまな視点から興味・関心を高め、問題解決の楽しさを味わい、さらに発展的な問題に挑戦できるよう工夫されている。

- 道徳科の指導との関連が考慮されている。

〔例〕 2年下P98～99(おてっだい)、6年P192～195(学級目標、なかよし集会)など、既習した内容を扱い、「家族愛、家庭の生活の充実」「よりよい学校生活、集団生活の充実」等の内容項目と関連するよう配慮されている。

- 他教科等との関連を図った学習活動が行えるよう配慮されている。

〔例〕 1年P22～23、P142～143、P176、P177～178、2年下P100～101では生活科や国語科、3年上P22～30「時こくと時間」では社会科の町探検の活動、4年上P44～51「折れ線グラフ」では理科の気温調べの活動等、児童が教科横断的に取り組めるよう工夫されている。

## 2 使用上の便宜

- 文字の大きさ、字間・行間及び字体は児童の発達の段階が考慮されている。
- 巻末には学習時に切り取って使える学習教材が用意されている。
- 識別しやすい配色が用いられ、カラーユニバーサルデザインの図版になっている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
算 数	わくわく 算数	6 1 啓林館

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- よりよく問題を解決し、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されている。
  - 〔例〕 めあてを全ての時間に例示し、児童の主体的な学びとなるよう、課題発見につながる児童の考えや気づきが「学びのめばえ」で取り上げられている。
  - 〔例〕 多様な考え方を充実させ、話し合いの場面を適宜設定することで、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、学習活動のモデルが巻頭の「わくわく算数学習」のページで示されている。
- 算数で学んだことを主体的に学習に活用しようとする態度が育つよう配慮されている。
  - 〔例〕 3年上P47「たし算とひき算の筆算」、6年P22～23「対称な図形」等、既に学習した方法と同じように考えを進めていける場面で、児童が主体的に学習を進めていけるよう配慮されている。
- 数学的な思考力、判断力、表現力等を高め、数学的に考える資質・能力を育成できるよう配慮されている。
  - 〔例〕 3年上P2～9、5年P2～9等、巻頭の「教科書の使い方」「学習の進め方」「わくわく算数学習」「わくわく算数ノート」のページで、問題解決型の学習を通して、自分の考えを書いたり話したりして理解が深まっていくことを体得しながら、よりよく考える資質・能力を伸ばしていくことができるよう配慮されている。
  - 〔例〕 2年上P136～139、3年上P148～151、4年上P158～161、5年P280～285など、巻末の「算数資料集」のページで、わかりやすい説明の仕方や図の書き方、算数でよく使う考え方などが整理して掲載されており、児童が自分の考えをわかりやすく説明することができるよう配慮されている。
- 説明する活動を通して、数学的な思考力や表現力が育成できるよう工夫されている。
  - 〔例〕 2年下P58～59「図をつかって考えよう（3）」、4年下P32～33「図を使って考えよう」、6年P124～125「表をつかって考えよう（1）」等で、思考の助けとなる図、表、式等を多く例示し、話し合いの場面では、根拠や手順などを説明する活動を通して数学的な思考力や表現力の育成が図られるよう配慮されている。
- プログラミングを体験しながら、論理的思考力が身に付くよう配慮されている。
  - 〔例〕 5年P236～237「わくわく算数ひろば」で、正多角形の辺にそって動かすプログラムをつくる例が示されており、プログラミング的思考が育めるような内容について、児童も教師も意識できるよう配慮されている。
  - 〔例〕 4年上P40～41「1けたでわるわり算の筆算」で、プログラミング的思考として、わり算の筆算の手順が強調され、最後に「おろすものがなくなると、おわり」という吹き出しが示されているなど、数学的な見方・考え方を働かせながら、プログラミング的思考の素地を培えるよう配慮されている。
- 学習を豊かにするためのICTの利活用に配慮されている。
  - 〔例〕 1年P10「かずとすうじ」、3年上P10「九九の表とかけ算」、6年P45「分数×分数」等、ICTの利活用が有効な場面では、紙面に二次元コードが掲載されており、ICT機器を使った学習になるよう配慮されている。
- 各時間の学習に「めあて」や「まとめ」が設定されており、児童が見通しをもったり、振り返ったりしながら主体的に学習が進められるよう工夫されている。

- 〔例〕 2年上P47「長さ」、4年下P17「面積」、6年P35「文字と式」等
- 学習を振り返って、よりよく問題解決しようとする態度が育つよう配慮されている。
 

〔例〕 3年上P26「わり算」、5年P38～39「小数のかけ算」等、単元末の「ふりかえろう」のページで、単元全体を通しての感想を書く場が設定されており、算数のよさを感じ、進んで活用しようとする意欲や態度が育成できるよう配慮されている。
  - 単元導入は、日常の事象や既習事項から問題を見いだすような場面になっており、問題解決を通して理解が深まっていくよう構成されている。
  - 学習したことを生活に生かして、算数の有用性を実感できるよう工夫されている。
 

〔例〕 4年上P37「折れ線グラフ」、6年P111「立体の体積」等の「学びをいかそう やってみよう」のページで、日常の事象や算数の学習場面から見いだした問題を解決する活動が取り上げられている。
  - 身近な題材、既習内容を取り上げて児童の興味を生かした内容とすることで、自発的な学習につながるよう工夫されている。
 

〔例〕 3年上P74～77「表とグラフ」では、すきな遊びのアンケート、5年P100「整数」では、ドッジボールの組み分け等児童の身近な題材を課題にすることで、児童の意欲が高まるよう工夫されている。
  - 児童の主体的な学びを支えるために、児童の関心・問題意識を高める工夫や児童が自ら考え調べる活動が設定されている。
 

〔例〕 2年上では、新しい知識・技能を習得し確実に定着できるようP29「練習」、P32「たしかめよう」、P128「もっと練習」等が設定され、一人一人の学びに応じることができるよう配慮されている。
  - 他教科等との関連に配慮がされている。
 

〔例〕 社会科との関連において、3年上P61「一万をこえる数」、4年上P54～56「一億をこえる数」で、都道府県の人口や世界の国々の人口が題材として取り扱われている。

〔例〕 理科との関連において、4年上P26～27「折れ線グラフ」で、一日の気温の変わり方が取り上げられており、理科での実験・観察に生かせるよう工夫されている。

〔例〕 「みらいへのつばさ」のページなどで、健康、環境保全、食育、国際協力、防災などの題材が取り上げられている。
  - 道徳科等との関連について、算数科の特質に応じた工夫がされている。
 

〔例〕 2年上P48「たし算とひき算のひっ算（1）」で空き缶拾いのボランティア活動を取り上げ、公共に寄与する態度が養えるよう配慮されている。

## 2 使用上の便宜

- 目次では、単元内容と、それに関連する前学年までの既習事項が示され、系統をふまえて学習内容が概観できるよう工夫されている。
- 巻末の切り取り教具には、場面に応じて、丈夫な厚紙や透ける薄紙、プラスチック素材などが使用されており、児童が活動しやすいよう工夫されている。
 

〔例〕 3年上「てんびん」、4年上「分度器」、6年「対称な図形」など
- 判別しにくい配色を避けたり、シンプルなイラストを扱ったりするなどのカラーユニバーサルデザインが採用されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
算 数	小学算数	1 1 6 日文

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童の関心・意欲が高められるよう、導入が工夫されている。
  - 〔例〕 2年上P64～65では、ビー玉を数える場面を設定し、活動の中で児童たちの気づきや疑問、興味や好奇心が生まれるよう工夫されている。
  - 〔例〕 6年P18では、身の回りにある隠れた算数を「整った形」という視点で見ることで、形の美しさや算数の面白さに気づけるよう工夫されている。
- 幅広い分野の事例がバランスよく取り上げられている。
  - 〔例〕 2年上P82では、足し算の筆算の練習問題で空き缶を拾うという場面の問題を掲載し、生活体験や生活科との関連が図られている。また、6年P135では、縮図と縮尺の学習をするために、明石海峡大橋の実際の長さを求める問題が掲載されている。
- 筋道を立てて考える力や、表現力を高めるための手だてがとられている。
  - 〔例〕 1年下巻、2年以降の上巻には、「算数ノートをつくろう」を設け、結果だけでなく考えた過程を言葉、図、式、数などを用いて説明できるよう工夫されている。
  - 〔例〕 第2学年以上には「よみとろう あらわそう」のページを設け、図や式・言葉の関連、テープ図や数直線の読み方や書き方を系統的に整理できるよう工夫されている。
- 他者と協働して取り組む場面を例示し、考えを表現する活動の充実が図られている。
  - 〔例〕 1年下P77～79には、問題の学習場面における問題把握、自力解決、学び合い、振り返りという学習展開を例示し、考えを表現する活動の充実が図られている。
  - 〔例〕 5年上P43～45には、体積を求める工夫の学習場面を例示して、何に着目し、どのように考えていけばいいのかを例示することで、考えを表現する活動の充実が図られている。
- デジタル教材が活用できる内容に「WEB」マークを示すことで、効果的な学習が実現できるよう配慮されている。
  - 〔例〕 2年下「かけ算」の単元では、九九カードのスライドが用意されており、児童がゲーム感覚で九九を習熟できるよう工夫されている。
  - 〔例〕 4年下「直方体と立方体」の単元では、展開図のアニメーションが用意されている。見て、操作する活動を通して、図形を概念的に理解できるよう工夫されている。
- プログラミングを通して論理的思考を身に付けるための学習活動が取り上げられている。
  - 〔例〕 5年下P61～63では、コンパスなどを用いて作図する場面に続けて、プログラミング学習用ソフトのScratchを用いて正多角形を描くプログラムを考える場面が取り上げられている。また、P160～161では、Scratchの使い方が解説されており、進んで学習に取り組めるよう配慮されている。
- 基礎的・基本的な内容の定着が図れるよう工夫されている。
  - 〔例〕 単元末の「わかっているかな？」では、学力調査の結果をもとに精選した問題を掲載することで、つまずきやすい内容を重点的に振り返る機会が設けられている。
  - 〔例〕 「つなげる算数」のページを設定し、これまでに学習してきた複数の内容に関連づけて捉え直す機会が設けられている。3年下P60では、整数、分数、小数のたし算を通して「いくつ分で計算する」という観点での振り返りが図られている。
- 振り返りの観点が明示されている。
  - 〔例〕 第2学年以上の巻末には、「学び方ガイド」が添付されており、まとめる、振り返る、考えるという振り返りのための視点が示されている。

- 数学的活動の楽しさや、数学のよさに気づくよう配慮されている。  
 [例] 単元のあらゆる場面で、児童たちが教室の内外で取り組むことができる体験的な活動が取り入れられている。3年下「重さ」では、自作の天秤を使って重さの比較をする場面を設定しており、体験を通して量感を身に付けられるよう工夫されている。  
 [例] 1年上の口絵では、保育園や幼稚園のアルバム写真を掲載し、生活場面と算数とのつながりに気づくよう工夫されている。
- 算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度が養えるよう配慮されている。  
 [例] 学習したことを生活の場面に活かし、算数の楽しさや意義を実感できるような活動の参考となるページ「Hello! Math」が全学年に設定されている。  
 [例] 第2学年以上の下巻に「算数アドベンチャー」のページを設けることで、算数への興味・関心を高めたり、数学的なおもしろさを実感できたりするよう工夫されている。
- 学習を確かなものにしたり、広げたり深めたりする内容が扱われている。  
 [例] 第2学年以上の巻末に「算数マイトライ」が用意されている。「しっかりチェック」では、基礎的な知識及び技能の定着を目指した補充問題が用意され、「ぐっとチャレンジ」では、単元に対応した応用的・発展的な問題が用意され、「もっとチャレンジ」では、複数の単元を横断した応用的・発展的な問題が用意されている。  
 [例] 第3学年以上に、「なるほど算数」が用意されており、算数に関わりのある題材が掲載されている。3年上P90では、「昔の長さの単位」が掲載されており、我が国の文化、伝統に親しみ、それを大切にする気持ちがもてるよう配慮されている。
- 学習内容に関わる既習事項を整理することで、問題について考えられるよう工夫されている。  
 [例] 単元前には「次の学習のために」のページがあり、単元との関連や、児童の既習事項の定着度が確認できるよう工夫されている。6年P9では、「分数のかけ算とわり算」の単元が、どの学年のどの学習とつながっているのかが視覚的にわかるよう配慮されている。  
 [例] 解決の見通しや話し合いの着眼点をもつために、「カギマーク」や児童の吹き出しが示されている。1年下P47には、カギマークに「どのようなまとまりをつくるとかぞえやすいかかんがえよう。」と書いて、自主的・自発的に学習を促すよう工夫されている。
- 他教科と関連深い題材を取り上げ、幅広い知識が身につくよう配慮されている。  
 [例] 2年上P10～11では、1年生にプレゼントするメダルの数を整理する課題が取り上げられていて、生活科との関連が図られている。また、4年上P40～42では一日の気温の変わり方をいい表す課題が取り上げられ、社会科、理科との関連が図られている。  
 [例] 第2学年以上の各巻の最終ページには、「さく引」を設け、国語科の辞書を使った学習との関連が図られている。
- 現代の課題を取り上げることで、自分自身との関連性に気づくよう工夫されている。  
 [例] ESD(持続可能な社会づくりの担い手を育成する教育)や、SDGs(2016年から2030年までの国際目標)に関連する題材や話題を取り上げ、総合的な学習の時間への参考となるよう配慮されている。6年P182～183では、人口ピラミッドを取り上げ、グラフの読み取りとともに、日本の人口問題を考える機会が設けられている。

## 2 使用上の便宜

- 紙面情報が児童に正しく伝わるように、デザイン(カラーユニバーサルデザイン)や文章を改行する位置が工夫されている。
- 第5学年までは、児童の重量負担を軽減するために、2分冊構成となっている。第6学年では中学校とのつながりを考えて1冊構成になっている。
- 植物性インクを使用し、環境や人体への影響に配慮されている。



# 理科





(6) 理科

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	<p>(1)理科の見方・考え方を働かせ、問題を科学的に解決しようとする学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫</p> <p>(2)問題を見だし、予想や仮説、観察、実験などの方法について考えたり説明したりする学習活動、観察、実験の結果を整理し考察する学習活動、科学的な言葉や概念を使用して考えたりする学習活動のなど、言語能力の育成を図るための工夫</p> <p>(3)情報活用能力の育成に向け、ICT機器を活用した学習活動の充実を図るための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考を身に付けるための学習活動を実施する工夫</li> </ul> <p>(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫</p> <p>(5)生物、天気、川、土地などの学習に当たって、野外に出掛け地域の自然に親しむ活動や体験的な活動を取り入れるための工夫</p> <p>(6)児童自らが自然の事物・事象に興味・関心をもち、問題を見いだすための自然の事物・現象の提示や、日常生活と関連を図った学習活動など、主体的な学習を進めるための工夫</p> <p>(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度の育成など、道徳教育との関連の工夫</li> <li>・ESD、防災教育、キャリア教育等との関連の工夫</li> </ul>
2 使用上の便宜	<p>(1)内容の配列についての特徴</p> <p>(2)判型、分冊等、造本上の特徴</p> <p>(3)目次、索引、注、巻末資料等の工夫</p> <p>(4)特別な配慮を必要とする児童等への配慮</p>
3 その他	事故防止など安全への配慮を行うための工夫

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
理 科	新しい理科	2 東 書

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、児童が思考する場面では、「理科のミカタ」を利用して、理科の見方・考え方を働かせながら問題を解決していくことができるよう工夫されている。

〔例〕 3年「チョウを育てよう」(P22)、4年「天気と気温」(P35) など

- キャラクターのセリフで、理科の見方・考え方を働かせた思考や表現の例を示すことで、児童が自発的に理科の見方・考え方を働かせて思考し、深い学びを実現することができるよう工夫されている。

〔例〕 5年「植物の発芽と成長」(P32)、6年「植物のからだのはたらき」(P64) など

- 対話の内容を工夫したり、ノートや記録カードの例を積極的に取り上げたりするなど、言語活動が充実するよう工夫されている。

〔例〕 3年「物の重さをくらべよう」(P120)、4年「暑くなると」(P72) など

- 観察、実験の結果を表やグラフなどに整理して考察する活動が重視されており、思考力、判断力、表現力等の資質・能力が育成できるよう配慮されている。

〔例〕 4年「水のすがたと温度」(P164～179)、5年「ふりこのきまり」(P150～160) など

- 「学んだことを使おう」を設定し、既習の内容と関連づけて考えることを促すことにより、系統的に学習が進められるよう工夫されている。

- タブレット型コンピュータやデジタルカメラ、電子黒板や実物投影機、インターネットなどを活用しながら学ぶ場面を設け、ICT機器に親しめるよう工夫されている。

〔例〕 5年「流れる水のはたらき」(P76)、6年「生き物のくらしと環境」(P76) など

- プログラミングを体験する場面では、具体的な方法を明示し、取り組むことができるよう配慮されている。

〔例〕 6年「電気と私たちのくらし」(P160～161)

- 「予想しよう」「計画しよう」を設け、見いだした問題に対して、根拠をもった予想や仮説をもち、見通しをもって観察、実験を行うことができるよう工夫されている。

〔例〕 3年「風やゴムで動かそう」(P51～52)、4年「天気と気温」(P35～36) など

- 単元ごとに「ふり返ろう」を設定し、自らの学習を振り返り見直すことができるよう工夫されている。

〔例〕 3年「じしゃくにつけよう」(P141)、5年「物のとけ方」(P107) など

- 身近な自然に興味をもち、それらを観察するなど、児童自らの体験を通して問題解決を行うことができるよう工夫されている。

〔例〕 3年「太陽とかげを調べよう」(P84～86)、4年「月や星の見え方」(P86～97) など

- 単元導入の「レッツスタート！」で、体験や写真資料のみをとりあげ、児童が日ごろの疑問や思いから主体的に学ぶことができるよう工夫されている。また、単元の終わりには「学びを生かして深めよう」を設定し、児童が学んだことを生かして日常生活の事象について考え、説明することで、習得した知識をもとに深い学びが実現できるよう工夫されている。

〔例〕 4年「動物のからだのつくりと運動」(P18～28)、

5年「ふりこのきまり」(P150～159) など

- 「学んだことを使おう」を配置し、他教科の既習の内容や生活経験との関連を図りながら学習が進められるよう工夫されている。  
〔例〕3年「たねをまこう」(P14)、4年「動物のからだのつくりと運動」(P18) など
- 植物や動物を育てたり観察したりする活動を通して、自然を愛する心情や生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うことができるよう配慮されている。また、生命尊重や環境保全に関わる内容は、「かんきょうマーク」が示されている。  
〔例〕3年「こん虫を調べよう」(P81)、4年「あたたかくなると」(P12) など
- SDGsについて取り上げ、持続可能な社会の構築のためにできることについて考えられるよう工夫されている。  
〔例〕6年「地球に生きる」(P188~200) など
- 「私たちのくらしと災害」という節を設け、防災・減災について、日頃の取組や生命を守るための行動などを考え、自ら考え判断して行動する力を養えるよう工夫されている。また、自然災害を扱う際の留意点を単元の扉に示し、学ぶ児童の心情面や被災された方の感情に対して配慮されている。  
〔例〕5年「台風と天気の変化」(P69~71)、6年「変わり続ける大地」(P120) など
- 働く人へのインタビュー形式のコラム資料を取り上げ、学習内容と職業との関連を示し、社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力を育むことができるよう配慮されている。  
〔例〕6年「物の燃え方と空気」(P27)、6年「動物のからだのはたらき」(P39) など

## 2 使用上の便宜

- 「学びをつなごう」を設置し、学年や単元を横断して、関連する内容を系統立てて取り上げ、学習した知識をまとめたり、活用して概念化を図ったりすることができるよう工夫されている。  
〔例〕5年「流れる水のはたらき」(P94~95)、  
6年「植物のからだのはたらき」(P68~69) など
- 四季を通して、自然体験や日常生活と関連した学習を進められるよう配慮されている。  
〔例〕3年「実ができたよ」(P68~74)、4年「すずしくなると」(P110~117) など
- 児童の興味・関心を高め、問題解決の意欲を喚起できるよう、判型をA4判にし、実物大の写真やイラストが配置されている。  
〔例〕5年「人のたんじょう」(P120~130)、6年「生き物のくらしと環境」(P70) など
- 巻末には、考察の仕方、問題解決の考え方、わかったことについて、一年間で学んだことを振り返ることができるページを設けている。  
〔例〕3年「学んだことをふり返ろう」(P170~173)、  
4年「学んだことをふり返ろう」(P206~209) など
- 単元の導入では児童が学習しやすいよう、すべての漢字にルビを付けるとともに、配色及び字体が工夫されている。

## 3 その他

- 安全に対しての配慮が必要な場面では安全に観察、実験が行えるよう「きけんマーク」と赤い文字で強調し、禁止事項の理由を付記する工夫がされている。  
〔例〕3年「太陽の光を調べよう」(P97)、4年「電流のはたらき」(P45) など

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
理 科	たのしい理科	4 大日本

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 各学年の始めに「理科の学び方」と「教科書の使い方」を掲載し、児童が理科の見方・考え方を意識して、見通しをもって主体的に問題を解決していくことができるよう工夫されている。
  - 〔例〕 3～6年「理科の学び方」(P2～3)、3～6年「教科書の使い方」(P4～5)
- 理科の見方・考え方を働かせた発言例を、話し合いの場面の吹き出しで掲載し、「理科の見方・考え方」を働かせて問題解決の活動ができるよう工夫されている。また、既習事項を想起させる場面を示すことで、すでに獲得している資質・能力に基づいた理科の見方・考え方を働かせて、深い学びにつながるよう工夫されている。
  - 〔例〕 5年「天気の変化」(P8)、6年「生物どうしの関わり」(P72～73) など
- 児童がノートや観察カードをつくるときの参考になるよう、具体的に書く内容や書き方が示され、言語能力が育成できるよう工夫されている。
  - 〔例〕 3年「理科のノートの書き方」(P182)、4年「春」(P24～25) など
- 話し合いの活動場面を積極的に取り上げることによって、児童が自分の考えを伝えたり、他の児童の考えを聞き取ったりして、言語能力が育成できるよう工夫されている。
  - 〔例〕 3～6年「話し合いのしかた」(P3)、5年「もののとけ方」(P120) など
- 観察、実験の結果を整理し、考察する学習活動や学んだ科学的な知識や概念を活用して考えたり、説明したりする学習活動が行えるよう工夫されている。
  - 〔例〕 3年「ゴムや風の力」(P54)、5年「もののとけ方」(P110) など
- 観察、実験などの記録、資料を調べる活動などに、ICT機器の活用場面を設定することで、児童が情報を主体的に選択したり活用したりする能力が身につけられるよう配慮されている。
  - 〔例〕 3～6年「コンピュータで調べよう」(巻末)、5年「天気の変化」(P13) など
- プログラミングを体験することを通して、論理的思考力が育成されるよう工夫されている。
  - 〔例〕 6年「私たちの生活と電気」(P176～179)
- 児童に身近な現象を提示するとともに、キャラクターが話し合って学習を進めていく場面を設定することで、見通しをもって問題解決の活動ができるよう工夫されている。
  - 〔例〕 4年「とじこめた空気や水」(P45)、5年「植物の発芽と成長」(P25) など
- 「確かめよう」を単元末に設定し、学習した知識・技能の定着が図れるよう工夫されている。
  - 〔例〕 3年「地面のようすと太陽」(P116)、6年「ものの燃え方」(P26) など
- 日常生活で活用できるよう、育てやすい植物の栽培や動物の飼育、「作ってみよう」でのものづくり、「深めよう」などの自然体験、科学体験等、多くの体験活動が設定されている。
  - 〔例〕 3年「電気の通り道」(P141)、4年「季節と生物 夏」(P61) など
- 単元の導入の際、「○年で学んだこと」では、児童が既習事項を想起できるよう、また「問題を見つけよう」では、児童自身が、理科の見方・考え方を働かせた疑問を見いだせるよう工夫されている。また、「りかのたまてばこ」では、身近な生活の中で、学習したことと関係のある資料を、また「学んだことを生かそう」では、学んだ知識と身近な生活との関わりを考える問題を取り上げ、日常生活との関連が図られている。
  - 〔例〕 4年「天気と気温」(P15)、6年「ものの燃え方」(P24～25) など
- 児童一人一人が理科の学習内容を深く理解するため、他教科と関連する資料には「算数科

で学ぶこと」、「社会科で学ぶこと」、「生活科で学んだこと」が示されている。

〔例〕 3年「たねまき」(P16)、6年「てこのはたらき」(P156) など

- 生命を尊重する態度を育てる場面や自然環境と人間の共生について考える場面などにおいて「環境」マークを付し、自然を愛する心情や生命を尊重する態度を養うことができるよう配慮されている。

〔例〕 4年「春」(P22)、5年「メダカのたんじょう」(P46) など

- 自然環境に関する資料に「ESD」マークを付し、持続可能な社会の実現に向けて、人と環境について考えられるよう配慮されている。

〔例〕 3年「しぜんのかんさつ」(P13)、4年「天気と気温」(P15) など

- 「防災」マークを付して、各学年の学習内容と関わる防災・減災教育の資料を掲載し、災害を防ぐための人々の取組や工夫、災害に関する危険性について理解できるよう配慮されている。

〔例〕 5年「災害に備えようブック」(巻末)、

6年「土地のつくりと変化」(P144~145) など

- 「理科と仕事」マークを付して、科学史や科学技術に関する話題、職業として科学に携わっている人々の活動を取り上げ、将来に向けて自然科学の世界への興味・関心を高め、また地域や社会における産業の役割を理解し、地域創生に生かす力を育成できるよう工夫されている。

〔例〕 5年「天気の変化」(P19)、6年「土地のつくりと変化」(P147) など

## 2 使用上の便宜

- 各学年に応じて問題解決の力が身に付けられるように、児童の発達の段階や学習の系統性を踏まえて単元が構成されている。

〔例〕 4年「天気と気温」(P9)、6年「私たちの生活と電気」(P182~183) など

- 季節の変化に対応して単元が構成されており、日常生活と関連した学習が進められるよう配慮されている。

〔例〕 4年「春のおとずれ」(P204)、5年「天気の変化」(P6~15) など

- 判型はA B版を採用し、写真、イラストを多く掲載することで、児童の興味・関心や、学習意欲を高めるよう配慮されている。

〔例〕 3年「しぜんのかんさつ」(巻末)、6年「生物と地球環境」(P184~191) など

- 巻末に「〇年のまとめ」「〇年生になったら」を設け、既習事項を振り返りつつ、上位学年につながるよう配慮されている。

〔例〕 3年「3年のまとめ」(P186~189)、5年「6年生になったら」(P190) など

- 文字の大きさ、行間、文節での改行、配色等、児童が学習しやすいよう配慮されている。

## 3 その他

- 安全に対する配慮が必要な場面には「注意」マークを付すとともに、説明文を赤字で強調して示すことによって、安心・安全に観察や実験などを行うことができるよう配慮されている。

〔例〕 4年「ものの温度と体積」(P147)、6年「水よう液の性質」(P109) など

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
理 科	みんなと学ぶ 小学校理科	11 学 図

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、予想や考えを整理し、わかるように伝え合い、多様な考えをもとに学びを深める活動など、対話の場面を多く設けている。  
〔例〕 3年「光を調べよう」(P92～96)、5年「種子の発芽と生長」(P18～24) など
- 既習内容をもとに予想や考察を行ったり、学習と身の回りの出来事をつなげて考えたりすることで、児童が自ら新たな問いを生み出すなどの深い学びを行うことができるよう配慮されている。  
〔例〕 4年「雨水の流れ」(P66)、5年「人のたんじょう」(P169) など
- 言語能力の育成を図るため、相手を意識した話し方や相手の考えを聞くことなどを重視し、意見交流を促し、学び合いができるよう配慮されている。  
〔例〕 4年「空気と水」(P34)、5年「実や種子のでき方」(P70) など
- 学習を進める上で、自分の問いが生まれるよう工夫されている。  
〔例〕 5年「種子の発芽と成長」(P30～31)、6年「水溶液の性質」(P164) など
- 予想の話し合いや結果の発表などで情報交換をする場を設け、一人一人が立てた予想や結果をもとに考えたことを比較・検討する活動を通して、問題解決能力を養えるよう配慮されている。  
〔例〕 3年「風のはたらき」(P110)、4年「空気と水」(P32) など
- ICT機器の活用やインターネットの利用などの場が掲載されており、学習に活用できるよう配慮されている。  
〔例〕 4年「夏の星」(P76～87)、5年「流れる水のはたらき」(P98) など
- プログラミングを体験できる活動が取り上げられ、論理的思考力が育成されるよう配慮されている。  
〔例〕 6年「電気と私たちの生活」(P192～197)
- 単元冒頭で、その単元全体の流れと活動が写真等で示され、児童が学習の見通しをもてるよう工夫されている。  
〔例〕 3年「植物を育てよう」(P16～17)、4年「季節と生き物の様子」(P6～7) など
- 単元末に、学びを振り返ることができるように、「まとめてみよう」「できるようになった」が設定されており、児童一人一人が単元で学んだことを基に考えて説明できるようにし、知識の定着を図るよう工夫されている。  
〔例〕 5年「魚のたんじょう」(P49)、6年「生物のくらしと環境」(P77) など
- 自然の事物・現象に直接触れる場面や機会が積極的に設けられており、見る、触れる、作る、試す、探すなどの感覚に基づいた体験的活動ができるよう配慮されている。  
〔例〕 4年「雨水の流れ」(P66)、5年「人のたんじょう」(P169) など
- 自ら疑問をもち、主体的に学習が進められるよう、導入では自然の事物・減少を示した写真をもとに話し合い、問題を見つけられる場面が設定されている。  
〔例〕 3年「かげと太陽」(P26)、6年「植物の養分と水」(P48) など
- 算数科や社会科等についての学習内容を取り上げることで、教科横断的な学習ができるよう工夫されている。  
〔例〕 3年「ものの重さを調べよう」(P156～164)、4年「1日の気温と天気」(P16～27)

- 自然保護、生物愛護の心情を育むことのできる投げかけや読み物を取り入れて、環境保全について児童が意識できるよう配慮されている。

〔例〕 3年「かんさつする」(P168～169)、6年「生物のくらしと環境」(P70) など

- 生物の取り扱い、生物の保全、外来生物の問題などの話題を多く取り上げることで、自然環境を守り、持続可能な社会を実現するために、自然の多様性や共通性、連続性について知ることができるよう工夫されている。

〔例〕 3年「しぜんのかんさつ」(P12～13)、6年「人と環境」(P208～209) など

- 自然災害について、自分の事として考え、日頃から備えができるよう工夫されている。コラムで初期消火やAEDの内容を取り上げることによって、災害が起こったときには、自分の命を守ることが大切であることが示されている。

〔例〕 4年「雨水の流れ」(P66～67)、6年「ものの燃え方と空気」(P23) など

- 各学年の表紙には3人の科学者の写真、裏表紙にその科学者のメッセージを掲載したり、学習内容に関連した仕事や科学者を紹介したりして、学んだ内容が生活や仕事に生きていることが実感できるよう工夫されている。

〔例〕 4年「夏の星」(P87)、5年「人のたんじょう」(P172～173) など

## 2 使用上の便宜

- 各学年段階に応じた問題解決の力が身に付けられるよう、系統性をふまえて構成されている。

〔例〕 4年「水の3つのすがた」(P120～122)、6年「電気と私たちの生活」(P173)

- 季節の変化や各地域の気候的な事情に合わせて、学習時期を設定できるよう工夫されている。

〔例〕 3年「こん虫をしらべよう」(P70～73)、4年「暑い季節」(P68～69) など

- 判型をA B判にし、実物に忠実な写真や資料画を用いることで、児童の興味・関心を高めよう配慮されている。

〔例〕 3年「ちょうを育てよう」(P51～56)、5年「魚のたんじょう」(P38～51) など

- 各学年巻頭の「科学の芽を育てよう」と巻末の「考えよう調べよう」において、学習の過程や視点、方法などを示すことによって、児童自らが問題を解決することができるよう配慮されている。

〔例〕 3年「科学のめを育てよう」(P4～5)、6年「考えよう調べよう」(P212～225) など

- 児童の学習の支援となるよう色名の明記や、文章表記や色使い、レイアウトなどが配慮されている。

## 3 その他

- 児童が安全に観察・実験できるよう「注意」マークとともに注意文を表記する配慮がされている。

〔例〕 4年「ものの温まり方」(P162～177)、6年「ものの燃え方と空気」(P6～25) など

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
理 科	未来をひらく 小学理科	17 教 出

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、単元ごとに主人公を設定し、その主人公が問題を解決していく姿を追うことによって、児童が主体的に学習を進められるよう配慮されている。
  - 〔例〕 3年「生き物を調べよう」(P12)、4年「電流のはたらき」(P51) など
- 問題解決の過程ごとに、児童が自らの予想を伝え合ったり、得られた結果をもとに考えを発表し合ったりする場面を取り上げ、対話的な学習が進められるよう配慮されている。
  - 〔例〕 5年「流れる水と土地」(P128～132)、  
6年「生き物と食べ物・空気・水」(P96～100) など
- 言語能力の育成を図るため、問題に対する予想や調べ方などについて、児童の考えを伝え合う場面を様々な単元で設定することによって、言語活動の充実が図られるよう配慮されている。
  - 〔例〕 5年「植物の発芽や生長」(P26～31)、6年「ものの燃え方と空気」(P10～26) など
- 表やグラフをもとに考えたり説明したりする場面を取り上げ、考察が深められるよう工夫されている。
  - 〔例〕 3年「風やゴムの力」(P58)、6年「水溶液」(P176) など
- 観察・実験によって得られた結果を基に、自分の予想を検討する児童の姿を表現し、児童が科学的に問題を解決できるよう配慮されている。
  - 〔例〕 3年「風やゴムの力」(P58)、4年「とじこめた空気や水」(P116) など
- ICT機器の活用が想定される場面に「コンピュータマーク」や「デジカメマーク」をつけて、ICT機器の活用例を示し、情報を活用して学習できるよう工夫されている。
  - 〔例〕 3年「葉を出したあと」(P67)、6年「土地のつくり」(P131) など
- プログラミングについて、街灯の光センサーや自動ドアの赤外線センサーなどの具体的な内容を紹介し、児童の実態に応じて扱えるよう工夫されている。
  - 〔例〕 6年「電気の利用」(P212～213)
- 「計画しよう」で、観察、実験の結果を予想する児童の姿を表現し、見通しをもって学習できるよう工夫されている。
  - 〔例〕 3年「風やゴムの力」(P56)、4年「もののあたたまり方」(P162) など
- 各単元末に、「確かめ」を配置し、児童が基礎的・基本的な知識や技能について振り返ることができるよう工夫されている。
  - 〔例〕 5年「メダカのたんじょう」(P65)、6年「てこ」(P119) など
- 児童が主体的に関われるよう、地域の自然についての直接体験を重視し、五感を働かせた観察や調査などの活動が積極的に取り入れられている。
  - 〔例〕 5年「メダカのたんじょう」(P54)、6年「土地のつくり」(P125)
- 全単元の導入の「見つけよう」において、魅力ある事象や2つの異なる事象が提示されており、事象に対する主人公の疑問や気づきをもとに、児童が活動や話し合いを通して、問題発見につなげることができる構成となっており、児童の主体的な学習がスムーズに始められるよう工夫されている。
  - 〔例〕 3年「こん虫の世界」(P79～80)、4年「とじこめた空気や水」(P112) など
- 巻頭に「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」を設け、自分の考えを伝え、相手の考



えを聞くことの大切さを示すことにより、国語科の学習と関連が図れるよう工夫されている。また「算数とのつながり」を明示することで、教科間の関連が図りやすいよう工夫されている。

〔例〕 4年「天気による気温の変化」(P33)、6年「てこ」(P113) など

- 生命を大切にすることを育み、環境保全の重要性に気づかせるようにするため、人間と自然との関わりについて、幅広い視野をもてるように工夫されている。また、「地球となかよし」マークを配置し、生命を大切にすることが養えるよう工夫されている。

〔例〕 3年「チョウを育てよう」(P46)、5年「メダカのたんじょう」(P53) など

- 生物愛護、生命尊重、環境保全、地球にやさしい新技術など、環境教育に関わる内容について、関連する学習の「資料」や科学読み物「科学のまど」で紹介し、児童の意識が高められるよう配慮されている。

〔例〕 4年「電流のはたらき」(P64)、6年「人の生活と自然環境」(P216～223) など

- 天気、川、土地などの学習で、学習内容と関連させて、自然災害とその対策を扱い、児童が問題意識をもって防災や減災の取組を理解できるよう配慮されている。

〔例〕 5年「川と災害」(P140～147)、6年「地震や火山と災害」(P148～155) など

- 巻頭や巻末に専門家からの「メッセージ」を設けたり、科学読み物「科学のまど」で専門家の話を取り上げたりすることにより、学習したことと職業との関わりを意識できるよう配慮されている。

〔例〕 4年「雨水と地面」(P91)、5年「天気の変化」(P24) など

## 2 使用上の便宜

- 各単元の初めに学習の系統を「学習のつながり」で示したり、問題を解決する際に活用したい既習内容を「思い出そう」で示したりして、児童が系統的に学習を進められるよう配慮されている。

〔例〕 3年「風やゴムの力」(P54)、6年「水溶液」(P169) など

- 季節の変化に対応した単元構成がなされており、日常生活と関連した学習が進められるよう配慮されている。

〔例〕 4年「秋と生き物」(P129)、5年「植物の発芽と成長」(P31) など

- 判型をA B判よりも上下に大きいA 4変形版を採用し、実物大や見開きの表示など、イラストや写真で、児童の興味・関心が高まるよう配慮されている。

〔例〕 4年「冬の星」(P174～175)、6年「人や他の動物の体」(P50～53) など

- 各学年の巻頭と巻末に、一年間で学習した知識をまとめたページを掲載し、学習の積み重ねが確認できるよう配慮されている。

〔例〕 4年「3年で学んだこと」(P3)、5年「5年で学んだこと」(P220) など

- 文字の大きさ、文節での改行、色名の表示、色以外による区別など、児童が学習しやすいよう配慮されている。

## 3 その他

- 「注意マーク」と「危険マーク」とともに、注意文や警告文が記されている。また、各学年の裏表紙に「理科の安全の手引き」が記載され、児童の実験や観察への意識が高まるよう工夫されている。

〔例〕 3～6年「安全の手引き」(裏表紙)、6年「水溶液」(P175) など

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
理 科	楽しい理科	26 信 教

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、気づきや疑問、考えのヒントを吹き出しの方法で示し、予想や見通しをもちやすくしている。また、観察、実験のポイント、次の追究につながるポイントなどを示すことによって、問題解決の筋道を捉えやすくなるよう工夫されている。

〔例〕 5年「種子の発芽」(P20～26)、6年「電気の利用」(P154)、など

- 理科の見方・考え方を働かせ、問題を科学的に解決するために、観察、実験、調査の手順や方法などを手順に対応した説明文や写真・イラストなどで示し、児童自らの力で主体的に学習ができるよう工夫されている。

〔例〕 3年「音のせいしつ」(P128～135)、4年「ものの温度と体積」(P44～45) など

- 言語能力の育成のため、「考えてみよう」のマークを示し、互いの予想や考えを出し合う場面を設定し、自分の予想の妥当性や検証の手立てを明らかにして学習が進められるよう工夫されている。

〔例〕 5年「天気の変化」(P17)、6年「月と太陽」(P82) など

- 観察、実験の結果を表やグラフ、文章で記録し、自分の考えをわかりやすく伝える例を示すとともに、単元の学びを振り返り、児童の言葉や表現でまとめることができるよう結果の整理や考察を例示するなどして、言語能力を育成できるよう工夫されている。

〔例〕 3年「風やゴムの力」(P88) 、4年「天気と気温」(P92) など

- 「まとめよう」のページを設定し、問題を見いだすことから問題解決までの、一連の過程を振り返ることで、学習内容の定着を図るとともに、自分の考えを伝えるための表現力を養うことができるよう配慮されている。

〔例〕 3年「風やゴムの力」(P95) 、4年「とじこめた空気と水のせいしつ」(P32) など

- 観察、実験などの記録、資料を調べる活動など情報機器を活用して学習を進めることができるよう単元が構成されており、必要な情報をコンピュータなどを有効に使う集め、学習に活用することができるよう配慮されている。

〔例〕 4年「夏の星」(P64～65)、5年「生命のたん生」(P67) など

- 論理的な思考を身につけるため、プログラミングを扱う単元が設定されている。

〔例〕 6年「電気の利用」(P166～169)

- 自然の事物・現象に興味・関心をもち、学習することへ意欲や期待感を高め、学習活動の見通しがもてるように見開き写真やイラストなどの提示が工夫されている。

〔例〕 4年「生き物のくらし～夏～」(P50～51)、6年「大地のつくりと変化」(P88～89)

- 観察、実験の結果の整理や考察の一例として「まとめよう」のページを設定し、児童が自分の学習を振り返れるよう配慮されている。

〔例〕 3年「光のせいしつ」(P108)、5年「電じ石のはたらき」(P120～121) など

- 学校内外での自然体験活動を多く取り入れ、自然観察や、地域の博物館や科学館の利用などの具体例が掲載されており、児童が地域の自然に親しむことができるよう配慮されている。

〔例〕 3年「太陽とかげを調べよう」(P8)、6年「大地のつくりと変化」(P102) など

- 各単元の最初に、地域の特色ある自然や身近な事物・現象についての写真やイラストなどを配置することで、児童が事物・現象を見直し、問題を見い出すことから単元がスタートできるよう工夫されている。

〔例〕 4年「雨水のゆくえ」(P96)、5年「もののとけ方」(P124) など

- 生活に必要な数量的な関係を正しく理解し、処理する能力を養うことができるよう、単位の意味や表記の仕方、平均の求め方、実験結果をグラフや表にまとめるなどの場面で、算数科との関連を図りやすいよう工夫されている。

〔例〕 4年「天気と気温」(P88～95)、5年「ふりこの運動」(P142～152) など

- 植物や動物を育てたり観察したりするにあたって、自然環境の保護の観点から、注意を喚起する記述をし、自然を愛する心情を育成したり、自然環境の保全に寄与する態度が育成できるよう配慮されている。

〔例〕 3年「チョウを育てよう」(P40～49)、4年「生き物のくらし～春～」(P8～19) など

- 人々が行ってきた環境を守る工夫や、自分ができる工夫について考えさせる場面を設け、これまで学習してきたことや日常生活と関連づけながら、持続可能な社会の実現に向けて、人と環境との関わりについて考えられるよう工夫されている。

〔例〕 6年「生き物と自然」(P62～75)、6年「人と環境」(P172～180) など

- 児童に自然災害はいつでも起こりうるという認識をもたせる場面を設定し、自然災害を防ぐ工夫や努力を理解し、自分ができることは何かを考えることができるよう工夫されている。

〔例〕 5年「天気の変化(2)」(P80～84)、6年「大地のつくりと変化」(P107～114) など

- 学習内容と職業との関連を示し、児童の職業への興味・関心を高める工夫が多く設定されている。

〔例〕 5年「植物の成長」(P39)、6年「大地のつくりと変化」(P91) など

## 2 使用上の便宜

- 学年の発達段階に応じて、理科的な用語を使いながら図やグラフ、表などを用いて、理解の定着を図るとともに、児童が系統的に学習を進められるよう配慮されている。

〔例〕 4年「電流のはたらき」(P76)、6年「水よう液の性質」(P143) など

- 季節の特徴や生物の育成状況、学校行事の時期などを配慮して単元を配列して、適時期に観察、飼育・栽培などの活動が行えるよう工夫されている。

〔例〕 4年「生き物のくらし」(P8、P50、P110、P144) など

- 巻頭に「理科の学習の進め方」を示したページを設定し、問題解決の学習の過程を掲載し、円滑に学習が進められるよう配慮されている。

〔例〕 3～6年「理科の学習の進め方」(P4～5)

- 判型をA B判とし、児童の追究意識や意欲が持続的に高められるよう写真・イラストなどを随所に取り入れた紙面構成となっている。

〔例〕 3年「音のせいしつ」(P128～129)、5年「流れる水のはたらき」(P94～95) など

- 児童に必要な情報が伝わるよう色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインに配慮されている。

## 3 その他

- 学習上の注意については注意マークを伏し、安全面に関わる注意は赤色、正しく学習を進めるための注意は青色と、色を分けて示し、危険防止が図られ、安心して観察・実験に取り組めるよう工夫されている。

〔例〕 4年「生き物のくらし～夏～」(P51)、5年「植物の成長」(P35) など

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
理 科	わくわく理科	61 啓林館

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 理科の見方・考え方を働かせ、主体的に学習するため、「見つける」→「調べる」→「ふり返る」などの学習過程を、教科書全体を通してフラッグとラインで示している。また、「自由研究」のページなどでも同様に、フラッグとラインで示している。

〔例〕4年「夏の生き物」(P45～49)、6年「大地のつくりと変化」(P124～127) など

- 理科の見方・考え方を働かせ、対話的で深い学びにするために、対話的な活動の場面や、先生の問いかけ、児童の発言の例を随所に示している。また、「理科の考え方をはたらかせよう」で、科学者のメッセージや考え方をわかりやすく紹介し、児童の理科の見方・考え方が豊かになるよう工夫されている。

〔例〕3年「風とゴムの力のはたらき」(P42～52)、

5年「理科の考え方をはたらかせよう」(P194～195) など

- 「問題をつかもう」で、児童の話し合いから問題を見つけられるよう工夫されている。また、巻末の「話し合いのしかた」では、話すときと聞くときの要点を例示し、主体的・対話的で深い学びになるよう工夫されている。

〔例〕4年「地面を流れる水のゆくえ」(P28)、5年「雲と天気の変化」(P86) など

- 単元末に「ふり返ろうまとめノート」、巻末に「ノートのまとめ方」「伝えるときのまとめ方」を設置し、学習内容をまとめる習慣づけができるよう工夫されている。

〔例〕3年「かげと太陽」(P97)、6年「植物のつくりとはたらき」(P63) など

- 「結果から考えよう」を設置することで、結果を整理し、考察する過程を扱い、より科学的に考え、話し合う活動が充実するよう工夫されている。

〔例〕3年「風とゴムの力のはたらき」(P50)、4年「とじこめた空気や水」(P80) など

- コンピュータやタブレットなどの活用に適した場面では、「デジタルマーク」を付して、コンピュータなどの利用を紹介し、活用できるよう配慮されている。

〔例〕4年「月や星の動き」(P62)、5年「ヒトのたんじょう」(P45) など

- プログラミングを体験できる活動を取り上げ、巻末資料を用いて、論理的思考力を育成できるように工夫されている。

〔例〕6年「発電と電気の利用」(P180～183)

- 観察・実験の手順を、図や写真を用いて示しており、見通しをもって観察・実験が行われるよう工夫されている。

〔例〕3年「じしゃくのふしぎ」(P133) 5年「植物の発芽と成長」(P19) など

- 単元末の「まとめノート」や「たしかめよう」で、学習内容を振り返ることができるよう配慮されている。

〔例〕4年「水のすがた」(P162～163)、6年「生物どうしのつながり」(P79～80) など

- 単元のはじめに自然に親しみ、興味をもつことを促したうえで、児童が直接体験を行いながら学習を展開できるように工夫している。また、地域の自然環境や施設などを生かした学習ができるよう配慮されている。

〔例〕3年「生き物をさがそう」(P13)、5年「台風と気象情報」(P58) など

- 児童が、関心や意欲を持って学びに向かえるよう写真、イラストが工夫されている。また、「理科の広場」で、日常に関連する話題が扱われている。

〔例〕4年「ヒトの体のつくりと運動」(P86～94)、

6年「ヒトや動物の体」(P24~30)など

- 「これまでの学習をつなげよう」で、複数の単元にまたがる学習内容を整理して関連づけられるようにしている。また、他教科や中学校との関連が密接な場面には、「他教科マーク」や「中学校マーク」が付されている。

〔例〕4年「これまでの学習をつなげよう」(P178~179)、6年「月と太陽」(P115)など

- 多くの動植物や自然環境を紹介し、自然の共通性や多様性、自然の豊かさに意識をもたせることで、自然を愛する心情や、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養えるよう工夫されている。

〔例〕3年「生き物をさがそう」(P6~13)、6年「生物どうしのつながり」(P70~71)など

- 「自然を大切に」マークを付し、E S Dの視点から、身近な生活場面をもとに未来志向で考え、実践できるよう工夫されている。

〔例〕6年「生物どうしのつながり」(P75)、6年「自然とともに生きる」(P188~197)など

- 自然災害と自然からの恵みを関連づけて扱い、防災意識を高めるとともに自然との共存について理解が深まるよう工夫されている。また、自然災害を取り扱うにあたっては、単元のはじめに注意書きを入れるなど、P T S Dにも配慮されている。

〔例〕5年「流れる水のはたらき」(P97)、6年「大地のつくりと変化」(P140~144)など

- 地域の人材や自然環境、施設を生かした学習ができるよう、「つなげよう」では、働く人のメッセージを紹介するなど、理科の学習と職業がつながることを意識できるよう工夫されている。

〔例〕3年「植物の一生」(P80~81)、5年「メダカのたんじょう」(P41)など

## 2 使用上の便宜

- 「思い出してみよう」を単元のはじめに設け、系統性をふまえて、既習の内容や生活経験から理科の学習をスムーズにはじめられるよう工夫されている。

〔例〕3年「かげと太陽」(P83)、6年「植物のつくりとはたらき」(P46)など

- 季節にあわせて、単元が配列され、児童が自然を体験し観察が進められるよう配慮されている。

〔例〕4年「春の生き物」(P6)、5年「花のつくり」(P6)など

- 判型はA B判を採用し、図や写真を多く掲載することで、児童の興味・関心や学習意欲が高まるよう工夫されている。

〔例〕3年「こん虫たんけんカード」(巻末)、5年「雲の観察カード」(巻末)など

- 巻頭に目次、巻末に索引と資料室などがあり、1年間を通して身につけたい知識・技能がまとめられている。

〔例〕4年「目次」(P2~3)、6年「フムロウ博士の資料室」(P199~216)など

- 色使いや字体、レイアウトの工夫によって、児童が見やすいよう配慮されている。

## 3 その他

- 観察・実験では、「注意」マークと注意文や、「保護眼鏡」マーク、「換気」マークなど文字を入れたマークを付することで、安全に観察・実験ができるよう配慮されている。

〔例〕3年「かげと太陽」(P85)、5年「植物の発芽と成長」(P19)など



生 活





(7) 生活

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自分と地域の人々、社会及び自然との関わりが具体的に把握できるような学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 言語能力の育成を図るための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫 (4) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (5) 実際に地域の人と話をしたり、地域の施設を利用したり、地域の自然に触れたりするなどの直接関わる活動や体験を行うための工夫 (6) 児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫 (7) 他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容の配列、分量についての特徴 (2) 判型、分冊等、造本上の特徴 (3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫 (4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
生 活	どきどきわくわく あたらしい せいかつ 上 あしたへジャンプ 新しい 生活 下	2 東 書

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 生活科における主体的・対話的で深い学びの過程を「学びを深める」コーナーに例示して、具体物を使った振り返り活動を通して実現する深い学びの例や、児童が思いや願いを実現していく過程で、他の児童と対話しながら試行錯誤する様子、伝え合いを通して新たな気づきが生まれる様子など、深い学びの具体的な姿が表現されている。〔例〕「ふゆをたのしもう」（上P104）等
- 巻末の「かつどう べんりてちょう」で見つける・比べる・たとえる・試す・見通す・工夫するなどの思考を促す学習活動が豊富に示されており、学び方が身につくよう工夫されている。〔例〕（上P115～122）（下P107～128）等
- 教師の言葉がけや環境構成・板書などの例がさし絵や吹き出しで示され、主体的・対話的で深い学びの視点から、授業改善を図ることができるよう工夫されている。「がっこうだいすき」〔例〕（上P17、P21）等「どきどきわくわくまちたんけん」（下P26）等
- 活動を振り返ったり、気づいたことを交流したりする場面が多く取り入れられ、児童の言語能力が育まれるよう工夫されている。〔例〕「がっこうだいすき」（上P20～21）等「ぐんぐんそだてわたしの野さい」（下P14～15）
- 学びが深まる観察の仕方などが児童の文章に掲載され、多様な方法で表現したり考えたりできるよう工夫されている。〔例〕「きれいにさいてね」（上P34～35）
- 具体的な活動や体験の中で、タブレット端末を使って記録や観察をしたり、撮影した画像を大きく映したりするなど、ICT機器の有効な活用例が随所に掲載されている。〔例〕「いきものとなかよし」（上P60）、「どきどきわくわくまちたんけん」（下P32）等
- 適切にICT機器が活用できるよう、正しい使い方をまとめた「じょうほうききをつかおう」が掲載されている。〔例〕（下P128）
- WEB上に関連するコンテンツがある箇所には「Dマーク」が付けられ、保護者と一緒に閲覧することで、メディアリテラシーを含めたICT機器の使い方が身につくよう工夫されている。〔例〕（上表紙裏、P17、P25）等（下表紙裏、P27、P37）等
- 育成を目指す3つの資質、能力（知識及び技能の基礎、思考力・判断力・表現力等の基礎、学びに向かう人間性等）を吹き出しやイラストで具体的に示し、この学習で何ができるようになるかイメージすることができるよう工夫されている。〔例〕「がっこうだいすき」（上P18～19）等
- 自分で学習や生活を振り返る自己評価や、他の児童とお互いのよさを認め合う相互評価の場面が設けられている。〔例〕「もうすぐ2ねんせい」（上P112～113）「あしたへジャンプ」（下P96～97）等
- 活動を振り返り、気づきを多様な方法で表現する学習活動が、発達の段階や特性に応じて上巻下巻で適切に掲載されている。〔例〕「きれいにさいてね」（上P36～37）「つながる広がるわたしの生活」（下P81～89）等
- 気づいたことを整理し、表現する方法を例示した「まとめよう つたえよう」が下巻末に設けられている。〔例〕（下P126～127）
- 教科書では3つの災害（自然災害・交通災害・人的災害）への対応を掲載したり、保護者と連携した児童の安全指導を例示したりするなど、児童が安全に生活できる力を身につけられるよう配慮されている。〔例〕「がっこうだいすき」（上P24～25）「どきどきわくわくま

ちたんけん」(下P27)等

- 身近な人々や社会及び自然を自分との関わりで捉えられるよう児童が身近な人々、社会及び自然と関わる姿が写真やさし絵で多様に示されている。〔例〕「なつがやってきた」(上P40~52)「もつとなかよしまちたんけん」(下P71~80)等
- 保護者に対して動くおもちゃの材料を集める際の注意を伝えるメッセージを掲載し、家庭との連携を促すことができるよう配慮されている。〔例〕「うごくうごくわたしのおもちゃ」(下P56)
- 見慣れた「たね」が、生命の源であることに気づききっかけとなるように、知的好奇心を刺激する資料が豊富に掲載されている。〔例〕「ぐんぐんそだてわたしの野さい」(下P21)
- 児童の活動を限定しないよう配慮し、栽培方法や飼育方法、制作方法などの資料が豊富に掲載されている。〔例〕「うごくうごくわたしのおもちゃ」(下P56)
- 学習で身につく習慣や技能をまとめた「かつどう べんりてちょう」を掲載し、活動に応じて活用する中で、学習をすすめるうえで必要な習慣や技能が身につくよう工夫されている。〔例〕(上P115~122) (下P107~128)
- 道徳教育の指導が適切に行えるよう紙面右端の「やくそく」などの資料が充実している。〔例〕「がっこうだいすき」(上P17)等
- 紙面右端に他教科の学習成果を生かすことが効果的な活動例を掲載し、各学校のカリキュラムマネジメントの参考となるよう他教科等で身につけた資質・能力が具体的に示されている。〔例〕「どきどきわくわくまちたんけん」(下P31)「もつと よくうごく おもちゃにしよう」(下P53)等

## 2 使用上の便宜

- 正しい文字の形を保ちながら、読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントが使用されている。
- 低学年児童の読みやすさに配慮し、大きな文字を使用するとともに、文節で分かち書きされている。
- 国語科の指導や児童の発達に配慮し、上巻のはじめはひらがなのみ、夏季休業日以降に学習する内容からはカタカナが使用されている。下巻では、第2学年までの配当漢字にすべてふりがなをつけ、すべての児童が読めるように表記・表現されている。
- 楽しくめぐりながら植物の成長順序を捉えることができる変型判ページや、取り外してそのまま屋外での活動に携行できる実物大の動植物図鑑「ぼけつとずかん」などが設けられている。
- 軽量用紙を使用し、ランドセルや机の収納性にも配慮されたA4サイズの紙面が採用されている。
- 学習の流れを示したホワイトボードをさし絵に描き、落ち着いて学習に取り組める工夫を例示する等の、ユニバーサルデザインのヒントが掲載されている。〔例〕(上P52)
- 紙面全体を落ち着いた色合いで統一したり、見せたい部分が浮き立つようなデザインを取り入れたりする等、紙面のユニバーサルデザインにも配慮されている。
- 写真やさし絵で登場する児童や地域の人、家の人の人数や役割などは、性別による偏りがないよう配慮されている。また、多様な人々との触れあいに関心がもてるよう、幼児や高齢者、障害がある児童、外国の人などが、写真やさし絵で随所に掲載されている。〔例〕(上P19、P43~44、P90) (下P43、P47、P89)等
- 学校探検を中心とした生活科の主体的な活動の中にある、他教科などへの「学びの芽」の例をまとめたページが掲載されており、児童が各教科の学習のイメージをもち円滑に幼児期の教育と小学校教育を接続できるよう工夫されている。〔例〕(上P10~11)

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
生 活	たのしいせいかつ 上 なかよし たのしいせいかつ 下 はっけん	4 大日本

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 体験活動と表現活動が繰り返されるよう、発達段階に応じて伝え合い交流する場面を設定し、気づきを共有化し、気づきの質を高め、さらに次の活動への意欲へとつなげるような流れが工夫されている。〔例〕「あきとなかよし」（上P66～67）「自分のはっけん」（下P94～95）等
- 単元の導入は見開きのダイナミックな写真で構成され、児童の興味・関心を引き出し、児童の思いや願いをもとに主体的な活動が始まるよう工夫されている。〔例〕「生きものはっけん」（下P28～29）「わたしの町はっけん」（下P50～51）等
- 深い学びへ導くため、多様な表現活動が例示され、話形を示して子ども自身の言葉を引き出すよう工夫されている。また、伝え合い、交流する場面を授業の中に適切に位置づけ、目的意識をもって学習できるようさし絵や写真が工夫されている。〔例〕「みんななかよし」（上P14）「春はっけん」（下P26）等
- 「せいかつことば」で児童の語彙力向上とともに、豊かな表現力の育成、表現活動の充実を図るよう工夫されている。〔例〕「町のすてきをはっぴょうしよう」（下P66～69）等
- 「はなしかためいじん」「ききかためいじん」として対話する上で重要なポイントを分かりやすく示したり発表する時の話形を示したりすることで、発表交流活動において児童の言語能力が育まれるよう配慮されている。〔例〕「自分のはっけん」（下P94～95）等
- 「きらきらことば」を設け、友だちとの交流を深めるための言葉が紹介されている。〔例〕「みんななかよし」（上P7）「春はっけん」（下P7）等
- タブレット端末を使って活動中に記録を撮る、拡大して観察する、振り返る場面や発表時に電子黒板を使用するなど、生活科の活動をより深めるためにICT機器を活用する場面が適切に例示されている。〔例〕「春はっけん」（下P26～27）等
- 活動を行う際のルートや時間などが表記され、児童が見通しが持ちやすいよう工夫されている。〔例〕「わたしの町はっけん」（下P54）等
- 活動を振り返る際には、学習経過がわかるよう写真を時系列に例示するなど配慮されている。〔例〕「ふゆとなかよし」（上P96～97）等
- 単元と単元とのつなぎでは、活動後の振り返りから、児童の思いや願いをもとに次の活動へとつながる流れを意識して紙面が工夫されている。〔例〕「ふゆとなかよし」（上P81）等
- 学校のことを家庭で報告する場面を適宜設け、家庭との連携を図ることができるよう配慮されている。〔例〕「みんななかよし」（上P4～5）「生きものはっけん」（下P44～45）等
- 家族の笑顔を見つけることをきっかけに、家族の温かさや家庭における自分の役割に自然と気づくことができるような流れが工夫されている。〔例〕「ふゆとなかよし」（上P90～95）
- 町探検など地域に出かける活動を通して、地域の人々との関わりが深まり、自分の住む町への愛着が育まれるよう工夫されている。〔例〕「わたしの町はっけん」（下P64～65）等
- ものを作る活動では、試したり工夫したりする活動が生まれるように、材料や道具のコーナーを作り、児童の試行錯誤が生まれるような教室環境の工夫が掲載されている。〔例〕「あきとなかよし」（上P70～71）等
- 町探検した場所に休日に行ってみるなど、生活科の活動がその後の自分の生活に生かされていく場面を取り上げ、学習内容を実生活に関連づけるよう工夫されている。〔例〕「わた

しの町はっけん」(下P70~71)等

- 夏休みなど長期の休みの前には、地域や家庭で実践してみたいことを児童なりに考え、実行できるヒントとなるよう紙面構成が工夫されている。〔例〕「いきものはっけん」(下P46~47)
- 生活科の活動や体験が、他教科の学習へ広がり発展すると同時に、国語、社会、算数、音楽、図画工作、道徳など他教科領域の学習成果が生活科の活動に生きるよう相互の関連について配慮されている。〔例〕「なつとなかよし」(上P36~37)等
- 本の読み聞かせなども取り入れ、図書室や図書館を活用した学習のあり方についても掲載されている。〔例〕「つくる楽しさはっけん」(下P79)等
- 他教科との関連が深いところには、関連がわかるマークが入れられている。〔例〕(上P16~17)
- 生活科の経験が第3学年以降の学習につながるよう、楽しく学べて何度も作り直せる、工夫の余地が大きいおもちゃ作りで児童の試行錯誤を促したり、通学路に焦点をあてて見つけた場所をつなぐ表現方法をしたりして、発達段階に沿った空間認識の力を育めるよう工夫されている。〔例〕「つくる楽しさはっけん」(下P76)「春はっけん」(下P23)

## 2 使用上の便宜

- 入学当初は、生活科を中心としたスタートカリキュラムに配慮したページが設けられ、学校生活に見通しをもつことで不安を解消し、遊びの中で仲間づくりを進める等、安心できる環境づくりの流れが工夫されている。また、モジュールでのカリキュラム編成が可能となるよう配慮されている。「しょうがっこうせいかつはじまるよ」〔例〕(上口絵P1~7)
- 各見開き内に風船のマークで具体的に課題が提示され、児童が学習の目標や課題を意識しやすいよう工夫されている。
- サイズの違うページや透明シートを使用した仕掛けのあるページ、モノクロの表現でイメージを膨らませるページを設けるなど、児童が日頃親しんでいる絵本のよさを取り入れた構成により、ページをきっかけとして児童の活動が具体的活動につながるよう工夫されている。〔例〕(上巻頭、P62~63)(下P30~31、P113)
- 表紙には丈夫で汚れにくいコーティングが施され、長期の使用に耐えうる造本になっている。名前を書く欄はにじみにくく書きやすいよう工夫されている。
- 製本は奥まで開くようアジロ綴じになっており、写真や絵などをよく見ることができる。
- 巻末に「がくしゅうどうぐばこ」が設けられており、草花、生き物、地図、工作、気象、昔から伝わる遊び、乗り物の乗り方、調べ方やまとめ方、発表の仕方などが提示されており、児童の興味・関心を高め、主体的な活動につながるよう工夫されている。また、情報収集及び伝達の手段がまとめて掲載され、児童が活動を進める際、相手に合わせて手段を選択できるよう配慮されている。
- 読みやすいユニバーサルデザインフォントが使用されている。また、小学校低学年の教科であることから教科書体も取り入れられている。
- 紙面のレイアウトや使用されている文字、配色、読みやすい位置での改行など、特別な支援が必要な児童だけではなく、どの児童にとっても見やすくわかりやすいよう配慮されている。
- 外国の人や障がいのある人、幼児、高齢者など多様な人々と関わる活動場面を随所に取り入れ、発達段階に応じた人権意識を育めるよう配慮されている。またイラストや写真などにおいては男女比が考慮されるとともに、性別により服装や役割に固定観念を持つことがないよう配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
生 活	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 上 みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 下	11 学 図

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童同士の対話のヒントになるように、個と個の対話からグループでの対話へ発展していく等、児童の発達段階に応じた対話の場面を設定し、自分の考えを広げたり深めたりするよう構成されている。〔例〕「わたしのあさがお」（上P26～27）等
- 各大単元冒頭の扉ページには、大きな写真のページを設けることで、児童の期待感や意欲を引き出し、これから行う活動についての意欲を喚起するよう配慮されている。上巻では、幼保での体験や児童の日常体験、下巻では、1年での体験や児童の日常経験をイラストで示すことにより対話を促している。
- 児童の主体的な活動を支援する「ものしりノート」や「ちゃれんじずかん」、図鑑等のページが充実しており、児童が自分で活動を広げていけるよう配慮されている。
- 児童の自発的な言葉をもとにしたリード文と、活動の楽しさと熱気を伝える写真やイラスト、親しみやすい4人のキャラクターと適切な吹き出し等が、自分でもやってみたいという児童の主体的な活動を引き出すよう工夫されている。〔例〕「まちたんけん」（下P18～21）等
- 活動を通して得られた児童の気づきや思いを、カード、作文、手紙、劇化等の様々な方法で表現するよう配慮されている。
- 観察カードの書き方を例示し、表現力の基礎や、科学的見方や考え方の基礎を育むよう配慮されている。また、児童が表現したものをと、身近な人々と伝え合う活動がなされるよう配慮されている。〔例〕「わたしのあさがお」（上P24～25）「わたしたちの野さいばたけ」（下P40～41）等
- 記録例は、児童の発達段階が考慮されたものとなっている。第1学年4～5月の記録例では、簡単な言葉による記述、6月以降はより長い文章を書きこめる形式で示されている。〔例〕「わたしのあさがお」（上P19、P27、P33）
- 情報の収集場面や発信場面においては、人に聞いたり本で調べたりする以外に、郵便、電話、インターネット等の情報手段が例示され、情報教育の素地となるよう配慮されている。授業内でのデジタルカメラやタブレット端末の使用、電子黒板を用いた発表などICT機器の活用場面を取り上げている。
- ICT機器の取り扱いやマナーについて巻末（下P117）に掲載しており、安全な使い方が身につくよう配慮されている。
- 第1学年でのアサガオの栽培を経て、経験を活かす、振り返るという学びの見通しのもと、野菜を育てる活動を取り上げ、育てる野菜の下調べ、畑の土作り、育てる畑にも着目できるよう工夫されている。〔例〕「わたしたちの野さいばたけ」（下P36～49）
- 野菜を収穫した喜びとともに、その成功体験や成長した自分を振り返る場面を設け、秋以降の野菜を育てる活動に自信がもてるよう工夫されている。〔例〕「わたしたちの野さいばたけ」（下P52～55）
- 各大単元の左上に単元を大きく4つの段階（どきどき→いきいき→ふむふむ→にこにこ）に区分し、学習している現在の時点がどの段階にあるのか、一目でわかるよう工夫されている。
- 家での仕事や仕事をしている人について知り、自分の生活について考えるよう取り上げている。さらに仕事に挑戦することで、家の人に感謝の気持ちをもつと同時に、自分のできる

ことを続けようとする意欲がもてるよう配慮されている。〔例〕「ありがとうがいっぱい」(上P96~105)

- 自分たちの町の様子やそこで働く人々を知り、それをまとめ発表していく中で、自分たちの町を愛する気持ちを育むよう配慮されている。〔例〕「まちたんけん」(下P2~35)
- 児童の興味を引き出しやすいよう身近な自然素材や教具が取り上げられている。〔例〕「あきをたのしもう」(上P64~69)
- 試行錯誤を重ねる場面を設定し、いくつもの学習活動を行いながら、児童が自分の願いや思いに沿ったおもちゃを作成、工夫していけるよう構成されている。〔例〕「作ってあそぼう うごくおもちゃ」(下P80~85)
- 雨水や水たまり、水や石、どろ、かげ遊びといった遊びの中で、中学年以降の理科への素地を養うよう配慮されている。〔例〕「あそびにいこうよ」(上P48~49、P52~53、P76~79)
- 身の回りの地域を空間的に考えられるよう、校区の地図を使い、中学年以降の社会科へのつながりに配慮されている。〔例〕「まちたんけん」(下P4~6、P20~21)
- 話す、聞く、書くといった国語的要素を重要視し、手紙や作文を作成する場面が多く設定されている。また巻末資料「学び方図かん」ではそれらがまとめて示されている。
- 校内の学校図書館を見学したり、利用のしかたを聞いたりする活動や、町の図書館を使った活動を載せて、図書を使って読んだり調べたりする場面が取り上げられており、図書館教育への配慮がされている。〔例〕「がっこうたんけん」(上P5、P11)「まちたんけん」(下P26~27)等

## 2 使用上の便宜

- 生活科の学習目標達成のため、内容を「探検」「遊び」「飼育」「栽培」「家族・成長」の5つの活動領域に整理し、それぞれを大単元として構成している。「探検単元」では、第1学年では学校、第2学年では町と、活動の場が広がるよう配慮されている。「飼育単元」では、第1学年では動物に触れたり身近な生きものに親しんだりすることを中心にし、第2学年では自分の決めた生きものと継続的に関わる構成となっている。
- 児童の興味・関心を引き出すため教科書のサイズが大判化(A4変型判)されており、軽量化にも配慮されている。製本も低学年の児童の使用を考慮し、開きやすくなっている。表紙は、厚い用紙が使われ、汚れや濡れに強いコーティングが施されている。
- 下巻では、第1学年、第2学年の配当漢字が使用され、第2学年の配当漢字全てにルビが付けられている。
- 下巻巻末の「学び方図かん」では、インターネットの使い方を掲載し、利用する場合は大人と一緒に調べるなどの配慮事項が記載されている。
- ユニバーサルデザインに配慮し、過度な色使いをせず、記号やマーク表示がおさえられ、シンプルで見やすい紙面構成がされている。
- それぞれの単元の活動を通して、障がいのある人、高齢者、身近な幼児など、多様な人々の関わりを重視して取り扱っている。
- 教科書の登場人物については男女の比率に偏りがないよう配慮され、女性の社会進出や男性の家事分担などにも配慮されている。
- イラストに海外で行われている行事を入れたり、さし絵・写真の中に外国人を登場させたりするなど、国際理解の視点が配慮されている。
- 学校の行き帰りの安全や、学習活動における安全への配慮が十分されている。「いかのおすし」を掲載し、犯罪から自分の身を守るための視点についてふれられ、安全・防災教育に配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
生 活	せいかつ 上 みんな なかよし せいかつ 下 なかよし ひろがれ	17 教 出

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 単元ごとに「ひんと」コラムが設けられ、見つける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの学習活動が繰り返し提示され、児童の一つの気づきが関連づけられた気づきへと質的に高められるような構成となっている。〔例〕「たねを まこう」（上P32～41）「めざせ野さい作り名人」（下P13、P15）等
- 児童たちの会話から活動内容をイメージさせたり、好奇心をくすぐる内容を導入部分で取り入れたりして、学習意欲を高めるよう配慮されている。〔例〕「きせつと なかよし はる なつ」（上P46～47）「作って ためして」（下P84～85）等
- 他の児童や身近な人々との対話によって、自分の考えを広げたり深めたりする学習活動が繰り返し設定されている。〔例〕「きせつと なかよし あき」（上P84～85）「めざせ 生きものはかせ」（下P52～53）等
- 付箋を使って整理する活動や思考ツールを使ってまとめる活動などが例示され、児童が考えたことや気づいたことを整理する学習活動ができるよう配慮されている。〔例〕「えがおの ひみつ たんけんたい」（下P62～63）等
- 小単元ごとに自己評価欄を設けたり、言葉、絵、動作などさまざまな方法の表現活動を例示したりして、気づきの質を高めることができるよう工夫されている。〔例〕「なかよくなるうね 小さな ともだち」（上P68）等
- 具体的な活動や体験を通して学んだことを言葉などで伝え合う活動をしたり、多くのことを教えてくれた地域の人たちに感謝の気持ちを伝えたりして、交流できるよう配慮されている。「体けんをつたえ合おう」（下P70）等
- 学習資料の動画にリンクする二次元コードを設けている。タブレット端末などで読み取り、随時活用できるよう配慮されている。〔例〕「きれいにさいてね わたしのはな」（上P34）「道ぐを つかおう」（下P128～P129）等
- 手紙、電話、ファクシミリの使用、パソコン（インターネット）、タブレットなどの、ICT機器を使用した活動が掲載されている。〔例〕「がっこうのことを つたえたいな」（下P9）等
- 児童の気になっていることを書き込むスペースを設け学びの記録を残したり、自信や意欲のバロメーターをはしごの絵に表し自己評価したりするなど工夫されている。〔例〕「なにを感じたかな」（上P20～21）等
- 児童が、体験活動から学んだこと、感じたことを伝え合い、気づいていることに気づくことに重点をおき、振り返り方が定着するように、しっかり考えることを促すページが設けられている。〔例〕「なにをかんじたかな」（下P40～41）等
- 目次ページに保護者へのメッセージを掲載するとともに、生活科の学習のねらいが明示されている。〔例〕（上P6、下 表紙裏）
- 学習内容を家庭で話したり、生かしたりできるよう、単元末に家の人と交流するコラムが設けられている。〔例〕「わくわくどきどき しょうがっこう」（上P27）「めざせ やさい作り名人」（下P19）等
- 地域の慣習や行事に目を向ける活動や資料が豊富に掲載されている。〔例〕「なつやすみを げんきにすごそう」（上P61）「わたしの町の じまん」（下P42～43）等



- さまざまな仕事をしている人々と関わる活動を通して、仕事の意義に気づき、働く人へのあこがれをもてるよう配慮されている。〔例〕「えがおのひみつ たんけんたい」（下P60～81）
- 児童たちが作ってみたいと思えるようなおもちゃの作り方などを掲載し、児童の自発的な学習を促す工夫がされている。〔例〕「おもちゃの作り方図鑑」（下P98～99）等
- 児童の興味・関心を引きつけ、「もっと〇〇したい。」と考え創意工夫できるようなヒントを与え、児童の活動を意味づけたり、価値づけたりする教師の関わり方を例示し、児童の答えを引き出す工夫がされている。〔例〕「パワーアップ大作せん」（下P92～93）等
- 「小単元名」や「活動の観点」、育成したい資質・能力を示した「さいころのアイコン（きづく、じぶんでできる、かんがえる、つたえる、ちょうせんする、じしんをもつ）」がセットで示され、学習のねらいや見通しが明確にわかるよう工夫されている。〔例〕「わくわくどきどき しょうがっこう」（上P6、P16）「あしたへ つなぐ 自分たんけん」（下P106、P109、P110、P112、P114）等
- 巻末に学びの引き出しを増やす「学びのポケット」を設け、生活科の学習に必要な習慣や技能を、児童たちが自ら繰り返し活用できるようにまとめられている。〔例〕「学びのポケット」（上P127～136）（下P117～136）
- 他教科で学んだことを生活科の表現活動に取り入れたり、生活科で学んだことを他教科に生かしたりできるよう工夫されている。〔例〕「何をかんじたかな」（下P18）等
- 「はってん」で理科、社会科とのつながりが明示され、3年生の学習を見に行く活動が設定されているなど、接続に配慮された構成となっている。〔例〕（下P51）等

## 2 使用上の便宜

- 季節に合わせ、樹木や草花、町の様子が変化していくような単元の配列となっている。
- 2年間の成長や発達に応じて、上巻から下巻へと、児童の活動や気づきが広がっていくよう適切に配列されている。
- 児童の知的好奇心を高める写真やさし絵、活動や体験への意欲を引き出す言葉の表記が豊富である。
- 図解や動植物などのイラストは、正確でわかりやすい表現がなされている。
- 高齢者、外国人、幼児、障がいのある人などと一緒に活動をおこなったり、交流をしたりする活動が設定されていて、同じ学校や、地域でともに生活をしていることに気づき、適切な行動ができるよう配慮されている。〔例〕「あきをみつけにいこう」（上P74～75）「まちが大すきたんけんたい」（下P44）
- 児童にとって、判読しやすいようユニバーサルデザイン（配色やレイアウト、表現方法、文字）が使用されている。
- 随所に板書例があり、思考の流れが見えるよう工夫されている。〔例〕「たからものであそぼう」（上P87）「えがおのひみつ たんけんたい」（下P63）
- 入学当初の児童にあった「スタートカリキュラム」が提案され、幼児期における遊びを通じた総合的な学びが、各教科へスムーズに移行するよう配慮され、楽しく少しずつ教科学習へつながるよう工夫されている。
- 上巻では、2学期（後期）以降、第1学年配当漢字（ルビ付き）と片仮名で、下巻では第2学年配当漢字（ルビ付）で表記されていて、国語科との関連や児童の発達段階に応じた適切な扱いとなっている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
生 活	せいかつ 上 あおぞら せいかつ 下 そよかぜ	26 信 教

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 活動を指示したり、単に例示したりするのではなく、吹き出しや表情豊かな写真やさし絵などで示し、学びの深まりや広がりにつながる活動になるよう配慮されている。
- 活動における感動体験、試す・確かめるなどの探究活動、自らの体験を見返し味わう表現活動を多様に示し、より深い学びにつながるよう児童同士の学び合いや情報交換の場ができるよう配慮されている。〔例〕「ひとつぶのたねから」（上P68～73）、「すすめ すいすい号」（下P52～57）等
- 活動や学びの中で生まれてくる児童同士の気づきや発見を伝え合い、より深い学びや活動につながるよう、伝え合う活動がさし絵や写真の中に表されている。〔例〕「うれしいな いちねんせい」（上P4～25）等
- 児童が日々書き留める観察カードや日記、手紙などを要所に示し、日頃から記録に残して振り返ったり、相手に思いを伝えたりすることの意義が表されている。〔例〕「いっぱい みのって」（下P38、P43～44）等
- 満月の日をタブレット端末で調べる様子をさし絵で掲載し、ICT機器の活用への導入に配慮されている。〔例〕「おつきみ」（上P81）
- 地域のお店をデジカメで撮影したり、撮影したものを電子黒板で映したり、情報教育の活用について配慮されている。〔例〕「わたしたちがすむ町」（下P18～19）
- 教科書の内容と関連する動植物の図鑑のWEBページへアクセスできるURL・二次元コードが巻頭に設けられている。
- 各単元での振り返りの場面を大事にし、児童が自分や友だちの生活・地域との関わり方などを通して自分の成長に気づくことができるよう配慮されている。
- 地域に出かけ、地域の人と関わる中で伝わることの楽しさや心の交流ができたよろこびを味わい、相互の交流活動のなかで働く人や仕事への夢・憧れを抱くことができるよう、単元が構成されている。〔例〕「みんなで いこう」（下P66～73）
- 自分の幼いころの成長を支えてくれた家族や回りの人々との関わり、学校での2年間を通して、互いの成長を振り返る場面を大切にし、自分の成長を実感できるよう配慮されている。〔例〕「すごいね ぼく わたし」（下P100～104）
- 家族の中での役割や家族が互いに支え合っていることに気づけるよう、また学校でそれを話題にして気づきを深めていけるよう、学校での話し合いを家庭の場で確かめたり、学校で学んだことを自ら取り組んだりすることを促すなど、家族と学校との関わりが示されている。〔例〕「わたしとかぞく」（上P98～101）
- いつもの遊び場や散歩道を取り扱う単元を設定し、四季を通して繰り返し足を運び、自然の変化や地域のくらし、人々の様子など多様な気付きや発見のよろこびを感じ、ふるさとへの愛着が深められるよう配慮されている。〔例〕「はるとなかよし」（上P26～33）「まぶしいなつ」（上P56～67）「あきがいっぱい」（上P84～97）「ふゆもきらきら」（上P102～113）
- 第1学年の児童が、友だちと遊んだり登下校時に見つけたりしたものから、生き物や植物に興味をもち、学校や学校の周りを探検していくという構成になっており、児童の興味・関心の広がり合った内容となるよう工夫されている。〔例〕「うれしいな いちねんせい」（上P4～25）
- 児童の知的好奇心を刺激し、興味・関心から思い思いのおもちゃづくりを試行錯誤し、不

思議さやおもしろさを実感できるよう配慮されている。〔例〕「はしれ はしれ」(下P82～87)

- 小1プロブレムや入学期の児童の発達の特徴を考慮し、遊びや活動を重視して、総合的に授業を展開できるよう工夫されている。〔例〕「うれしいな いちねんせい」(上P4～25)
- 聞き取りやインタビューとその方法の立案、地域調べ等、他教科との関連や第3学年以降の教科との関連、総合的な学習の時間との関連等も配慮されている。〔例〕「みんなで 行こう」(下P66～73)
- 五節句などの伝統行事を紹介するだけでなく、童謡も紹介され、児童の興味・関心に合わせ、音楽科の学習とも関連した活動ができるよう配慮されている。〔例〕(上P34～35、P52～53、P80～81、P114～115、P120～121)
- 地域ならではの人、もの、こととの関わりやふれあい、交流を通して、さまざまな学びを深めていく単元展開になるよう配慮されている。〔例〕「わたしたちの まち」(下P16～17)
- 動物飼育に関わっては、学級や学校の実態、地域の実情に応じて選択肢がもてるよう複数の生き物(ヤギ・ウサギ・カナヘビ等)の飼育活動の様子を提示し、飼育活動のまとめとして、その生き物に関わる様々な学習の収束や別れも大切にするよう配慮されている。〔例〕「いきものといっしょ①②③④」(上P44～51、P74～79) (下P28～31、P88～91)
- 他教科や第3学年以降の教科との関連、情報機器(デジタルカメラなど)の導入などに配慮されている。〔例〕「わたしたちの まち」(下P19)

## 2 使用上の便宜

- 教科書のサイズがA B判で紙面にゆとりがある紙面構成となっている。
- 縦書き、右綴じで国語科の学習との関連を図るとともに、見やすい鮮明な印刷となっている。
- 単元展開をリードする2人の主人公を登場させ、その家族や友だち・指導者の姿も描くことにより、教科書に物語性をもたせ、単元名・小単元名ともに児童の言葉で表されている。
- たんごのせつく、たなばた、おつきみ、せつぶん、ひなまつりなどを時系列に配列し、季節の変化と関わりのある地域の行事にこめられた人々の願いや思いを調べる活動を大事にし、周りの人々と関わりながら暮らしをつくっていけるよう構成されている。切り絵で行事の様子を表したり、美しい自然の写真を使った紙面を掲載したり、児童の学習意欲を高める工夫がされている。
- 第2学年で大豆の栽培の単元を設定し、継続的な栽培活動を通して、地域の人とのつながりや友だちとの協力など、さまざまな活動を体験できるよう工夫されている。「生まれかわるだいず」では、食育やキャリア教育へ発展できるよう工夫されている。
- 動植物との継続的な関わりを通して、様々な生き物との別れや命のドラマを体験できるよう工夫されている。
- 巻頭「ご家庭のみなさんへ」では、生活科での学習が児童の生活そのものを創っていける活動になるよう生活科でのねらいが説明されている。
- 全単元にわたってさし絵で個々の児童の思いや実態に応じて選択、あるいは発展する学習の展開が図れるよう配慮されている。
- 学校生活や行き帰りの安全に留意するため、標識や表示・安全を守ってくれる人や場所を示しており、安全・防犯教育に配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
生 活	せいかつ 上 まいにち あたらしい せいかつ 下 だいすき みつけた	38 光 村

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童の学びへの意欲を高め、思考力を育てるとともに、学びを確かな力にするため、各単元は、「ホップ」（導入）、「ステップ」（展開）、「ジャンプ」（振り返り）の3段階で構成されている。
- 児童が対象に興味を抱くとともに、活動の見通しをもち、試行錯誤しながら主体的に体験活動と表現活動を繰り返し、最後に学びを振り返ることができるよう構成されている。
- 児童同士で協働したり、教師や地域の人たちと対話したりする活動が、随所に位置づけられている。〔例〕「ぐんぐん そだて おいしい やさい」（下P26～27）等
- 体験活動と表現活動の相互作用の中で、個々に気づいたり、気づきを関連づけたり、視点を変えて捉えたりすることを意図した、深い学びの具体例が随所に位置づけられている。〔例〕「もっと もっと まちたんけん」（下P72～73）等
- 巻末に、体験方法と表現方法の例が示されており、学習活動中に児童が参照することで、体験活動も表現活動も豊かになり、学びの質がいつそう高められるよう工夫されている。〔例〕「ひろがる せいかつ じてん」（上P142～143）（下P102～103）等
- 対話や発表、絵、文章、観察カード、手紙、ポスター、クイズ、動作化・劇化・絵地図など、児童の発達段階や活動内容に合った例が示されており、児童が目的に応じた多様な表現活動ができるよう工夫されている。〔例〕「なかよし いっぱい だいさくせん」（上P22～P23）等
- 低学年の発達段階を配慮し、学習効果が高まると想定される活動場面において、実物投影機やデジタルカメラの使用の効果がイラストなどで示されている。〔例〕「ひろがる せいかつ じてん」（上P143）等
- 対話やインタビュー、図書利用、学級内の掲示板の活用など、情報収集や発信の例を豊富に示し、手紙・電話・ファクシミリ・情報機器などの活用についても、児童の発達段階に応じて適切に示されている。〔例〕「なかよし いっぱい だいさくせん」（上P22～23）等
- 各単元の「ホップ」（導入）の場面には、学習の「見通し」を示し、学びを確かなものにするための工夫がされている。〔例〕「みんなの にこにこ 大きくせん」（上P14～15）等
- 振り返りを書いて貼るシール（何度も貼ったり剥がしたりできる）がついており、貼る位置によって自己評価を可視化できるよう工夫されている。また、巻末には一年間の学習を振り返ることができる「ジャンプ大しゅうごう」がある。〔例〕（上P145～148）（下P105～108）
- 保護者と一緒に確認しておきたい通学路の安全や、生活科での学習を日常生活の中で生かしたい例などについて、イラストや文章でわかりやすく示されている。〔例〕「なかよし いっぱい だいさくせん」（上P24～25）等
- 通学路の安全を守ってくれる人やまち探検で出会う人など、児童自身と地域の人々の関わりを深める活動が示されている。〔例〕「まちを たんけん 大はっけん」（下P10～13）等
- 地域に関わる単元では、そこで生活したり働いたりしている人々との交流に焦点を当てて取り上げ、関わった人々やその仕事ぶりに対して、児童自身が感じた親しみや憧れの気持ちを、児童の言葉や作例として示されている。〔例〕「もっと もっと まちたんけん」（下P64～77）等
- その単元で特に児童自身に考えてほしい点を「どうすれば」コーナーで示し、児童自身が、場に応じて考えられるよう工夫されている。また、思考のヒントを提示するだけでなく、「？」

のスペースを置くことで、自ら考え活動できるよう工夫されている。〔例〕「広がれ わたし」(下P88～89)等

- 写真やさし絵に吹き出しが書かれ、活動の様子が生き生きと伝わるよう工夫されている。吹き出しは、活動や気づきのヒントになるものの他に、空白の吹き出しがあり、児童が自ら言葉を考え、主体的に活動に取り組めるよう、また、気づきの質が高められるよう工夫されている。
- 児童の生活体験から単元の活動を具体的に考えられるよう工夫されている。〔例〕「ぐんぐん そだて おいしい やさい」(下P18～19)
- 二次元コードを読み取ることで、季節の資料(四季の動植物及び47都道府県の伝統行事)、交通安全、道具の使い方の資料を見ることができ、自分で学習する際に役立たせることができる。〔例〕(上P112)等
- 幼稚園・保育所等と小学校の円滑な接続を図る、スタートカリキュラムのページや、児童の安心、自信、好奇心を軸に、入学当初の活動を幼児教育や他教科等の学習との接続・関連も踏まえながら示されている。〔例〕「あたらしい いちねんせい」(上P4～13)等
- 他教科との合科的・関連的な指導のヒントを随所に示しており、特に入学当初の単元においては、他教科の学習につながるきっかけが豊富に示されている。また、国語との関連を考え、学年の始まりと、児童を次学年の活動にいざなう内容のページなどに、自分の表現になげられるようにする効果的な言葉が提示されている。
- 道徳教育との関連では、挨拶や礼儀、生命尊重やマナーを守ることなど、必要な場面で児童の道徳的な意識が自然と芽生えるよう配慮されている。〔例〕「小さな 友だち」(P36～47)等

## 2 使用上の便宜

- 上下巻ともに季節に沿って単元が構成され、かつ、目次は年間指導計画が一覧できる紙面構成になっているため、一年全体を見通して適切な指導と計画を立てることができ、また、カリキュラム・マネジメントの参考にもできるような工夫されている。
- 単元は季節を追って配列しているが、活動のまとまりごとに構成しているため、指導の順序を柔軟に入れ替えることができるよう配慮されている。また、2学期制・3学期制のいずれにも対応可能である。
- 写真やさし絵が見やすいよう教科書のサイズは、A B版である。
- 児童の心を揺さぶり、活動を広げる豊富な資料が掲載されている。四季の変化を示した「きせつの おくりもの」、単元の発展的内容を示した「もっと やって みたい」のほか、巻末の「ひろがる せいかつ じてん」に安全教育の資料、体験・表現方法の資料などが収録されている。
- 見つける、比べるなどの多様な学習活動は、巻末資料「ひろがる せいかつ じてん」に一覧で示しており、児童が自ら適切な学習方法を見つけることができるよう配慮されている。
- 紙面のデザインは、配色や色調に注意をはらったり、文字と写真、写真と写真の区別が明確になるように罫線を入れたりするなどの配慮がなされている。
- 低学年児童の発達段階を考慮した平易な表記・表現で、文字も読みやすい大きさの書体が使用されている。
- 吹き出し等には、児童が親しみやすい手書き風の書体が用いられている。低学年の児童が書き写す際にも正しい字形で書くことができるよう筆順・画数・とめ・はね・はらいに配慮した字体になっている。
- 幼児や高齢者、外国の人、障がいのある人など、教科書に登場する人物に性別・人種・身体的特徴に偏りがないように配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
生 活	わくわく せいかつ 上 いきいき せいかつ 下	61 啓林館

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童が直接体験へと向うような単元導入がなされており、導入「わくわく」、主たる活動「いきいき」、振り返り「ぐんぐん」として、単元を通して児童たちの活動が発展し、深まるよう配慮されている。〔例〕「いくぞ！がっこうたんけんたい」（上P2～3）
- 単元末に設定されている「ひろがる気持ち」コーナーでは、生活科の学習が児童の日常生活につながり、広がっていけるように、児童たちが自立し生活を豊かにしようとする態度を育てるよう配慮されている。〔例〕「あそびばにでかけよう」（上P43）「あたらしいこといっぱい」（下P9）等
- 「次はこうしたい」、「もっとこうしたい」という児童の願いや思いが、単元末の「めくり言葉」として例示され、児童の活動の連続性・広がりをもたせられるように配慮されている。〔例〕「生きもの大すき」（上P59）「みんな生きている」（下P47）等
- 活動を通して身近な人々、社会、自然と繰り返し関わっていくことができるよう配慮されている。〔例〕（上P12、P48、P76P、102）（下P36～37、P78～79）
- 実物大図鑑や書き込みができるページを設定し、児童が好奇心を高められるよう工夫されている。〔例〕「生きものにあいにいこう」（上P60～61）
- 活動が繰り返し深まるよう、また学びが深まる実感を得られるよう配慮された構成となっている。〔例〕「なつとなかよし」（上P48）「とび出せ 町のたんけんたい」（下P30）等
- 国語や書写で学習したことを生かした、作文・新聞・招待状・パンフレット・ポスター等の表現物を例示し、多様な表現方法を紹介し、児童たちの言語能力を育成するための配慮がされている。〔例〕（下P105）等
- 思考と表現が一体的に行われたり繰り返されたりする低学年の特性に配慮しながら、体験活動と表現活動が繰り返されることで児童の学びの質が高まるよう設定されている。〔例〕「まちのすてき つたえたい」（下P90～91）等
- ICT機器の活用が有効な場面では、学習の助けになる動画・補充資料等の教材の二次元コードを掲載されている。〔例〕（下P13）等
- 児童の発達段階に配慮しながら、デジタルカメラ、コンピュータ、タブレット端末、電子黒板、インターネット等、ICT機器を活用する学習活動を示している。〔例〕「あそびばにでかけよう」（上P43）「大きくそだて わたしのやさい」（下P21）等
- 導入の「わくわく」では、児童の「～したい」「～しよう」という思いや願いを高め、学びの見通しをもてるよう大きな写真を提示したり、児童の興味をひきつけるような写真を多く提示したりしている。〔例〕「げんきにそだて わたしのはな」（P20～21）等
- あいさつやマナー、安全上の注意点などの基本的な生活習慣や知識及び技能は「こんなときどうしよう」などの各種コーナーで学習できるよう工夫されている。〔例〕（上P39）
- 単元末の「ぐんぐん」に「できるかな できたかな？」コーナーが設けられ、学習過程や成果を振り返り、自らの成長や学びの深まりを実感できるよう工夫されている。〔例〕「いくぞ がっこうたんけんたい」（上P17）「おおきくそだて わたしのやさい」（下P25）等
- 家庭との連携に配慮し、保護者の方へのメッセージが設けられている。〔例〕「あたらしいこと いっぱい」（下P8）
- 外部人材との連携（地域の人的・物的資源の活用）の例として、地域のお年寄りや働く人々

等生活を支える人々との交流が分かりやすく示されている。〔例〕「ひろがれ えがお」（上P96～97）「とび出せ！町のたんけんたい」（下P26～35）等

- 具体的な姿を写真やイラストで示し、児童たちが意欲的に学習できるよう配慮されている。また、「きせつだより」が設けられており、家庭や地域でも自主的に活動を発展させることができるような例が多く提示され、学校外でも児童が力をつけていけるよう工夫されている。〔例〕「なつと なかよし」（上P56～57）等
- 季節の行事や歌を例示し、日本の文化や季節の変化を感じ取ることができるよう工夫されている。〔例〕「きせつだより 秋」（下P70～71）等
- 気づいたことをもとに考えるための、「見つける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」等の多様な学習活動の例を写真や表現物・イラスト・児童のせりふ等で示し、次の学習への意欲を喚起するよう配慮されている。〔例〕「せかいでひとつ わたしのおもちゃ」（下P64～65）等
- 国語や書写で学習したことを生かした、作文・新聞・招待状・説明文・パンフレット・ポスター・俳句等の多様な表現物が紹介され、表現の仕方について他教科との関連に配慮されている。〔例〕「まちのすてき つたえたい」（下P95）等
- 各教科の学習で育成を目指す資質・能力との関連を工夫し、学習活動の充実を図る工夫がされている。〔例〕「生きもの 大すき」（上P64～65）「せかいとひとつ わたしのおもちゃ」（下P66～67）等

## 2 使用上の便宜

- 上巻・下巻ともに季節に沿って単元が構成され、単元が進むにつれて活動が広がり、深まっていくよう配列されている。
- 上下巻は、さし絵や写真が大きく非常に見やすいA B判であり、印刷は鮮明で見やすく、耐性がある紙質・製本となっている。また、上巻の巻頭にある「すたあと ぶつく」と、下巻の巻末にある「みらいに むかって」は、小寸ページの用紙で作られ、光沢感があり本文よりも厚い用紙が使用されている。
- 「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿（10の姿）」を踏まえ、児童が主体的に安心して学校生活を始められるよう、上巻の巻頭に「すたあとぶつく」『がっこうだいすき あいうえお』の単元が設定され、スタートカリキュラムとして幼児教育との接続に配慮されている。
- 児童が読みやすいように文字の大小・色・字体が使い分けられている。
- 単元名、小単元名、本文中の言葉については、いずれも児童が行う活動や体験への重要な刺激となるよう位置づけられ、その構成要素の位置も原則として固定されている。
- 単元の導入「わくわく」のページには、児童と学習対象物との関わりが、よくわかるように大きな写真が掲載されている。1つの活動は、見開きを基本として構成されていて活動の内容が捉えやすいよう工夫されている。
- 巻末資料に「がくしゅうずかん」を設け、2年間の生活科の学習を通して、より重点的・弾力的な活動ができるよう配慮されている。
- 多様な児童に配慮し、学習活動の中で参考となるカード等は傾けて配置することを避け、読みやすい構成になっている。
- 防災、安全、健康、環境、伝統・文化についての資料も紹介されていて、児童の活動に役立つよう工夫されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
生 活	わたしとせいかつ 上 みんな なかよし わたしとせいかつ 下 ふれあい だいすき	116 日 文

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 町の施設を板書することにつながりを見つける場面や、カードを複数掲示する場面を示して、多様な表現方法を例示したり、話し合いの場面を具体的に掲載したりすることで、児童が主体的・対話的に考え見通しをもつことができるようになっている。また、学習を振り返ることができるような場面を設定するための工夫にもなっている。〔例〕「まちたんけん1」（下P12～13）等
- 「学びのまど」（ふりかえる つなげる）では、つぼみを何かに例えたりこの先どうなるか見通したりする場面があり、考えるための技法が掲載されている。〔例〕「きれいなはなをさかせたい」（上P41）等
- ドングリや木の葉で遊ぶ場面では、試したり工夫したりする活動が自ずと生まれるよう材料コーナーや改造スペースを作って、児童が試行錯誤できるような教室環境が掲載されている。〔例〕「きせつとあそぼう あき」（上P84）等
- 振り返りカード、観察カード、手紙などの作品例を紹介し、正しい字や文章の書き方が学べるよう工夫されている。〔例〕「ぐんぐんそだてみんなの野さい」（下P31）等
- 巻末の資料「ちえとわざのたからばこ」では、気持ちの伝え方や話し方聞き方のポイントを示したり、調べたことをまとめる方法について示したりして、言語活動の充実が図られている。〔例〕「ちえとわざのたからばこ」（上P126～129、下P116～119）等
- 町たんけんてでわかったことを発表する場面を示し、発表交流活動において児童の言語能力が育まれるよう配慮されている。〔例〕（上P30～31）
- デジタルカメラ、実物投影機やタブレット端末を使い、写真や絵を電子黒板で提示する場面があり、ICT機器を活用した多様なコミュニケーションの方法や活動例が示されている。〔例〕「夏休みを楽しくすごそう」（下P43）「町たんけん2」（下P77）等
- 巻末の資料「ちえとわざのたからばこ」では、電子メールの書き方や音声レコーダー、インターネットの使い方が掲載されている。「ちえとわざのたからばこ」（下P119）等
- 生き物の鳴き声、野菜づくりの動画や学習カードのデータなど、学習を進めるうえで利用できるデジタルコンテンツがある。関連ページには右上にマークが示されている。〔例〕（上P65）等
- 実際の授業の写真に掲載することで、自分もやってみたいという意欲をもったりどうなるのかと想像したりできるようにして、学習活動の見通しをもつことができるよう工夫されている。〔例〕「きせつとあそぼう あき」（上P75、P84）等
- 板書や学習カード、お礼の手紙などで学習したことを振り返る場面を示し、振り返りを通して学習の定着を図り、次にやってみたいこと（課題）を見つけられるよう配慮されている。〔例〕「まちたんけん1」（下P16～19）等
- 家庭で実践したり家族と話し合ったりする場面を設定し、実感を伴う気づきができるよう配慮されている。〔例〕（上P117）等
- 地域の「名人」や働く人の思いや願いにふれる場面を設定し、人と触れ合うことでたくさんの実感を伴う気づきができるよう工夫されている。〔例〕「まちたんけん1」（下P16～17）「ぐんぐんそだてみんなの野さい」（下P30～31）等
- 自然災害、人的な災害、交通災害の三つの観点から、スタートカリキュラム、学校たんけん、学校外へ出かける単元、巻末資料などで防災・安全に関する項目を取り上げ、安全や健



康に気をつけることを、学校・家庭・児童が共通理解できるよう配慮されている。そして、自分たちの生活の安全を守ってくれる人々の存在を知ることなど、地域の人々や様々な場所が関わっていることにも気づけるよう構成されている。〔例〕「いちねんせいになったら」(上P16~17)「ちえとわざのたからばこ」(下P124~125)等

- 板書や観察場面を具体的に示し、児童が主体的に考え、やってみたいことや気づいたことを話し合えるよう配慮されている。〔例〕「がっこうをたんけんしよう」(上P24~25)「町たんけん1」(下P12)等
- 「ぼけっとずかん」では、季節の草花や遊びなどを示して、児童たちが自ら観察したり活動したりするヒントとなるよう工夫されている。〔例〕「きせつとあそぼう はるからなつ」(上P54~55)等
- 夏季休業日などの長期の休みの活動例や計画の立て方を写真や絵などで掲載し、学習したことを生かして、家庭でも実践することができるよう工夫されている。〔例〕「なつやすみがやってくる」(上P64~65)「夏休みを楽しくすごそう」(下P40~43)等
- 「出かけるまえにかくにんしておこう」では、「善悪の判断」「節度、節制」「親切、思いやり」「規則の尊重」「生命の尊さ」などを考える場面が示され、道徳科の内容項目を扱って、双方の学習効果を高める工夫がされている。〔例〕「きせつとあそぼう はるからなつ」(上P48)「きせつとあそぼう ふゆ」(上P102)等
- 栽培単元では上巻で草花、下巻で野菜を扱い、発達段階に合わせてより科学的な認識の基礎を養う単元構成になっている。飼育単元でも、上巻では情緒的観点を中心にし、下巻ではより科学的、探究的に扱い、命の大切さや自然の不思議さ、面白さを感得でき、第3学年の理科へスムーズに接続できる構成となるよう工夫されている。〔例〕(上P34~47)等
- 図画工作との関連では、各単元のまとめとして、体験を絵や立体に表す、素材を利用して作品を作り上げていくといった豊富な表現方法が紹介されている。〔例〕(下P33)等

## 2 使用上の便宜

- スタートカリキュラムにおいては、登下校から学校生活全般について、児童に気づかせたい・注意させたい内容が、具体的な写真やコメントで明示されている。〔例〕「いちねんせいになったら」(上P5~17)
- 一つの単元は基本的に、課題設定、活動、振り返りという構成になっており、見通しが立てやすいよう工夫されている。また、ゆとりをもって活動や体験ができるよう、年間を見通した継続的な栽培活動が行われるよう構成が配慮されている。
- 児童の体への負担を考え、軽い用紙を採用している。
- AB版であり、ランドセルに入る条件を満たしながら、絵本のように横に広がる紙面構成となっている。
- ページが広く開くよう製本が配慮されている。
- 植物の成長過程を楽しんで学ぶことができるようページを山折りにするしかけがされている。〔例〕「きれいなはなをさかせよう」(上P37~38)等
- 外国籍の友だちが上巻・下巻ともに設定され、日常的に交わるような場面が例示されている。
- 視覚活用に制限のある児童に対して、文字の大きさ、罫線や囲みの使い方、色づかいを工夫するなど、カラーユニバーサルデザインに配慮されている。
- 特殊加工を施した実物大の点字があり、実際に触れることができるよう工夫されている。また、道路の点字ブロックや英語や韓国語表記のある看板を示し、様々な立場の人がよりよく暮らすための工夫について気づくことができるよう配慮されている。〔例〕「ちえとわざのたからばこ」(下P134~135)



# 音樂



## (8) 音楽

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 音楽的な見方・考え方を働かせながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりする学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽を聴いて感じ取ったことや想像したことなどを伝え合うなど、音楽科の特質に応じた言語活動の充実を図るための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、コンピュータや教育機器を効果的に活用した学習活動の充実を図るための工夫 (4) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (5) 音楽との一体感を味わい、想像力を働かせて音楽と関わるができるような体を動かす活動の工夫や、学校外における音楽活動とのつながりを意識できるようにするなど、生活や社会の中の音や音楽と関わっていくことができる工夫 (6) 児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫 (7) 他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容の配列、分量についての特徴 (2) 判型、分冊等、造本上の特徴 (3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫 (4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮
3 その他	我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを味わえる学習活動の工夫

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
音 楽	小学音楽 音楽のおくりもの	17 教 出

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 音楽的な見方・考え方を働かせて、学習活動に取り組めるように、音楽を形づくっている要素が「音楽のもと」として紙面右上に示されている。中・高学年では、児童が聞き取ったり感じ取ったりした要素を書き込めるメモ欄が設けられている。
  - 〔例〕1年「リズムとなかよし」(P19)、6年「短調のひびき」(P13) など
- 聴き取ったことや感じ取ったことなどを言葉で表現する際のヒントとなるように、巻末に「音楽を表すいろいろな言葉」が掲載され、言語活動が充実するよう工夫されている。
  - 〔例〕2年「音楽をあらわすいろいろなことば」(P73) など
- 「音のスケッチ」のページが設けられ、音をつなげて旋律をつくったり、音の重なりや全体の組み立てなどを工夫してまとまりのある音楽をつくり上げたりするなど、他の児童と思いや考えを出し合い、試行錯誤しながら学習を進めることができるよう工夫されている。
  - 〔例〕3年「音のひびきや組み合わせを楽しもう」(P58～59) など
- 目次の二次元コードを読み取ることによって、曲の説明、作曲者のメッセージ、鑑賞資料、音に連動した楽譜、楽器の範奏など、学習を支援するコンテンツをICT機器で効率的に閲覧することができるよう工夫されている。
  - 〔例〕4年「目次右下」、5年「目次右下」 など
- 紙面左上に学習のめあてを提示し、また、方位磁針のイラストマークがついた「まなびナビ」のコーナーで学び方や学びのプロセスを示すことで、児童が見通しをもって学習を進めることができるよう工夫されている。
  - 〔例〕4年「かけ合いと重なり」(P32～33)、5年「声のひびき合い」(P22～23) など
- 前に学習したことを振り返るためのページがカエルのイラストマークで示され、学んだことを繰り返し確認することで基礎・基本が身につくよう配慮されている。
  - 〔例〕6年「ききどころを見つけて」(P29) など
- 音楽との一体感を味わえるよう、低学年では、音楽に合わせて体を動かす活動や音楽を聴いて感じ取ったことを身ぶりで表現する活動が取り上げられている。
  - 〔例〕1年「おんがくにあわせてからだをうごかそう」(P8～9) など
- 旋律の特徴の違いを感じ取らせるための「体の動きの例」や和音の響きの違いを感じ取らせるための「ポーズの例」など、体を使った学習活動がイラストで示されている。
  - 〔例〕3年「せんりつの流れとへん化」(P32～33) など
- 生活の中で音や音楽が果たしている役割や、音楽活動が人々の心をつないでいることを取り上げたコラムが掲載されており、音や音楽と生活や社会の関わりについて考えることができるよう配慮されている。
  - 〔例〕6年「音楽にできること 心を伝える 心をつなぐ」(P40～41) など
- 折り込みを使ったワイドな紙面や見開きの紙面に歌詞の内容を表現した写真やイラストを掲載するなど、児童の学習への興味・関心を高めたり、歌詞の情景や心情を思い浮かべたりすることができるよう工夫されている。
  - 〔例〕3年「茶つみ」(P12～13)、4年「さくら さくら」(P8～9) など
- 現在活躍している音楽家や狂言師のメッセージ及び活動場面の写真が大きく取り上げられ、音楽の学習への意欲が高められるようになっている。
  - 〔例〕5年「狂言師」(目次前のページ)、6年「ピアニスト」(目次前のページ) など
- 巻末の「音楽ランド」には、合唱や合奏に取り組める曲などが多彩に取り上げられており、

児童の実態や興味に応じて選択して取り組むことができるようになっている。

- 図書館やインターネットなどで音楽に関することを調べる学習活動が示されており、社会科学や総合的な学習の時間との関連が図られている。
- 自分のよさや可能性を認識したり、多様な他者を価値のある存在として尊重したりするなど、道徳教育の観点に立った歌詞や写真などが選ばれている。
- 「Short Time Learning」のコーナーに英語の歌が取り上げられ、児童が英語に親しむことができるよう工夫されている。また、様々な国の音楽が幅広く取り上げられている。  
〔例〕3年「音楽ランド」(P62)、4年「音楽今昔」(P44~47) など

## 2 使用上の便宜

- 学んだ知識や技能を着実に身につけ、学びを深めることができるよう、題材構成や領域・分野ごとの系統性について配慮されている。
- 判型は、低学年はA B版、中学年以降はA 4変形版と学年でサイズを区別することで、児童の発達にあわせた配慮がされている。
- 鍵盤ハーモニカと鍵盤図がびたりと合うような紙面となっており、児童が楽しみながら楽器の演奏の仕方を身につけることができるよう配慮されている。また、学習内容を着実に身につけたり、理解を深めたりするための透明シートが設けられている。
- 目次は、「導入部分」「主要部分」「オプション部分」の3つで構成されている。巻末の折り込みページには、リコーダーの運指表や音符・休符・記号、音符の書き方の例などがまとめられている。
- 判読しやすいように配色やレイアウトが工夫されており、UDフォントを使用するなど、児童にとって学びやすい紙面となるよう配慮されている。

## 3 その他

- 歌唱共通教材を含む日本の歌は、「にっぽんのうた みんなのうた」のコーナーで、歌い継いでいきたい我が国の歌として取り上げられている。  
〔例〕1年「うみ」(P26~27)、6年「おぼろ月夜」(P8~9) など
- 中学年から始まる和楽器の学習として和太鼓や箏が取り上げられ、鑑賞したり演奏したりして日本の音や音楽に親しむことができるよう工夫されている。  
〔例〕4年「日本の楽器をたずねて」(P60~61) など
- お囃子の太鼓のリズムを口唱歌で歌ったり、声の出し方をまねしながら民謡を歌ったりする活動など、児童が地域に伝わる音楽に親しみがもてるよう工夫されている。  
〔例〕5年「日本の民ようをたずねて」(P36~39) など
- 4、5年生では「日本の楽器をたずねて」、6年生では「私たちの国の音楽」のコーナーが設けられ、篠笛など日本の楽器を紹介し、我が国や郷土の文化を大切にする態度を育めるよう工夫されている。  
〔例〕6年「私たちの国の音楽」(P36~37) など

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
音 楽	小学生の音楽	27 教 芸

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 音楽的な見方・考え方を働かせて、学習活動に取り組めるよう、音楽を形づくっている要素が紙面右下に示されている。また、各学年で学習した音楽を形づくっている要素は、「ふり返りのページ」に見開きでまとめられている。  
〔例〕1年「はくをかんじとろう」(P19)、2年「ふりかえりのページ」(P80~81) など
- 着目したり考えたりする際の観点や他の児童と話し合う際の発言例などを、キャラクターによる吹き出しで示すことで言語活動が充実するよう工夫されている。  
〔例〕3年「拍ののってリズムをかんじとろう」(P30~31) など
- 自分が考えたリズムや旋律、伴奏などを書き込めるワークシートが設けられ、他の児童と意見を交換したり、実際に音で試すことを繰り返したりしながら、ともに一つの音楽をつくり上げていく協働的な学習が進められるよう配慮されている。  
〔例〕4年「日本の音楽でつながろう」(P60~61) など
- 二次元コードを読み取ることによって、曲の説明や打楽器の範奏、旋律楽器の運指、学校外における音楽活動の鑑賞資料など、学習を支援するコンテンツをICT機器で効率的に閲覧することができるよう工夫されている。  
〔例〕5年「曲について」(P15)、「短調の音階」(P17) など
- 1年間に学習する内容について大まかなイメージをもつことができるよう、目次の前に「学びの地図」のページが設けられている。また、見通しをもって学習に取り組めるよう、題材のねらいや学習目標、活動文がよびかけの形で紙面左にわかりやすく示されている。  
〔例〕6年「6年生の学習」(P4~5)、「歌声をひびかせて心をつなげよう」(P10) など
- 前に学習したことを確かめるためのページを「おもいだそう」のマークで示し、新しい学習内容と前の学習内容を関連づけながら学びが深められるよう配慮されている。  
〔例〕1年「はくのにってリズムをうとう」(P23) など
- 音楽との一体感を味わえるよう、低学年では、体を動かしながら歌うことができるわらべうたや遊び歌、楽しく遊びながらリズム打ちをする活動が取り上げられている。  
〔例〕2年「はくのまとまりをかんじとろう」(P14~15) など
- 音の高さの違いを手の動きと関連づけて音程感を育てる「ドレミ風船」や、和音の響きの違いを体を動かして感じ取る「和音体操」など、体を動かす学習活動が取り上げられている。  
〔例〕5年「和音の移り変わりを感じ取ろう」(P34~35) など
- 身の回りの音を見つける学習活動や身の回りで音がどのような役割をもっているのかについて説明するコラムや写真が取り上げられ、児童が音や音楽と生活や社会との関わりを考えることができるよう配慮されている。  
〔例〕6年「音の働きや役割について考えよう」(P74~75) など
- 歌詞の内容を表現したダイナミックな写真や楽団の全体を写した写真を見開きで掲載するなど、児童が歌詞の表す情景や心情を思い浮かべたり、学習への興味・関心を高めたりすることができるよう工夫されている。  
〔例〕3年「茶つみ」(P14~15)、5年「いろいろな音色を感じ取ろう」(P26~27) など
- 現在活躍しているスポーツ選手や歌舞伎役者のメッセージや写真、演奏家からのワンポイントアドバイスが取り上げられ、音楽の学習への意欲が高められるようになっている。  
〔例〕6年「歌舞伎役者」(P2~3)、3年「リコーダー奏者」(P25) など
- 巻末の「みんなで楽しく」には、歌唱、器楽の曲が多彩に取り上げられており、児童の実



態や興味に応じて選択して取り組むことができるようになっている。

- 社会科や総合的な学習の時間との連携を図った音楽を調べる活動が取り上げられ、調べ方やインタビューでのやり取り例なども示されている。
- 自分のよさや可能性を認識したり、多様な他者を価値のある存在として尊重したりするなど道徳教育の観点に立った歌詞や写真などが選ばれている。
- 第3学年から始まる外国語活動の学習がより楽しく展開できるよう、英語の歌が取り上げられている。

〔例〕3年「みんなで楽しく」(P77)、4年「みんなで楽しく」(P77) など

## 2 使用上の便宜

- 児童の発達段階に応じて「音楽的な見方・考え方」を働かせながら、学習を積み重ねていくことができるよう、題材構成や音楽を形づくっている要素などの系統性について配慮されている。
- 判型はA B版となっており、楽譜や写真、イラストが大きく掲載されている。
- 児童が6年間でいろいろな音楽と出会い、友だちと関わり合いながら音楽表現することの楽しさを味わうことができるよう、6学年分の教科書を並べると、表紙のイラストがつながり、一つのイラストになる工夫がされている。
- 目次には、ヒントを出したり考えるきっかけを示したりして、児童の学習活動を深めたり、サポートしたりするキャラクターが紹介されている。巻末には、リコーダーの運指表や音符・休符・記号などがまとめられている。
- 優しい色調のイラストや、白を基調とするすっきりとしたデザインを採用するなど、児童にとって見やすく学びやすい紙面となるよう工夫されている。

## 3 その他

- 歌唱共通教材は、「こころのうた」と題し、世代を超えて受け継いでいきたい曲として扱われている。また、巻末に「歌いつごう日本の歌」コーナーも設けられている。  
〔例〕1年「うみ」(P28~29)、2年「うたいつごう日本のうた」(P70~71) など
- 中学年から始まる和楽器の学習として和太鼓や箏が取り上げられ、鑑賞したり演奏したりして日本の音や音楽に親しむことができるよう工夫されている。  
〔例〕4年「日本の音楽でつながろう」(P56~61) など
- お囃子の太鼓のリズムを口唱歌で歌ったり、声の出し方をまねしながら民謡を歌ったりする活動など、児童が地域に伝わる音楽に親しみがもてるよう工夫されている。  
〔例〕3年「ちいきにつたわる音楽でつながろう」(P62) など
- 裏表紙には、「わたしたちが受け継ぐ」と題して、各地に伝わる郷土芸能を大切に受け継いでいる子どもたちの写真が掲載され、我が国や郷土の文化を受け継ごうとする気持ちが育まれるよう工夫されている。  
〔例〕1年「おててこ舞」(裏表紙)、4年「請戸の田植踊」(裏表紙) など



# 図画工作



(9) 図画工作

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	<p>(1) 造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実が図られているか。</p> <p>(2) 互いの活動や作品を見合いながら、感じたことや思ったこと、考えたことなどを、話したり聞いたり話し合ったりする、言葉で整理するなどの言語活動の充実が図られているか。</p> <p>(3) 情報手段を活用した学習活動の充実を図るための工夫が図られているか。</p> <p>(4) 題材など内容や時間のまとまりの中で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習場面の設定や組み立てが工夫されているか。</p> <p>(5) 児童や学校の実態に応じて、家庭や地域社会、地域の美術館などとの連携やその利用及び活用が図れるよう工夫されているか。</p> <p>(6) 児童の主体性や興味・関心を引き出すための工夫が図られているか。</p> <p>(7) 他教科での学習を生かしたり、関係づけたりする教科横断的な学習の視点が配慮されているか。</p>
2 使用上の便宜	<p>(1) 内容の配列、分量についての特徴</p> <p>(2) 判型、分冊等、造本上の特徴</p> <p>(3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫</p> <p>(4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮</p>
3 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就学前教育や中学校との接続への配慮</li> <li>・ 安全指導の充実</li> </ul>

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
図画工作	図画工作	9 開隆堂

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 造形的な活動場面の写真と吹き出しが多く、題材で掲載されており、児童が発想や構想を深めながら造形的な活動に主体的に取り組めるよう工夫されている。
- 他の児童と気持ちを伝え合いながら、共同して造形的な活動に取り組む題材が設定されている。特に3・4年下においては、表題が「力を合わせて」となっており、巻頭の見開きと巻末P57に大きく取り上げられている。(1・2年上P12～13、P28～29、P34～35、P47 1・2年下P10～11、P48 3・4年上P12～13、P26～27、P34～35、P46～47 3・4年下P16～17、P28～29 5・6年上P16～17、P24～25、P28～29、P40～41 5・6年下P16～17、P22～23、P26～27、P28～29)
- 自らの作品や親しみのある美術作品などの見方や感じ方を他の児童に伝える表現活動を通して、鑑賞における資質・能力の向上と対話的な学びを関連させている。(1・2年上P37、P56～57 1・2年下P40、P57 3・4年下P26～27、P38～39 5・6年上P42～43 5・6年下P26～27、P36～37、P42～43)
- 表現や鑑賞の活動において、感じたことや思ったことなどを言葉で伝え合い、コミュニケーションを図りながら活動できる題材が多く設定されている。
- 「話し合いのしかた」(3・4年下P57)では、話し合いのポイントが具体的に例示されている。
- 題材の最後に「ふりかえり」を設定し、他の児童や指導者との対話を通して、言語能力の育成を図れるよう配慮されている。
- 「コンピュータを活用しよう」(5・6年下P57)では、コンピュータやデジタル機器の活用場面やその方法が具体的に例示されている。
- 「Myキャラが動き出す」(5・6年上P40～41)など、デジタルカメラやタブレットを使った表現や鑑賞の活動事例が取り上げられている。(5・6年上P10～11)
- 「技術の発達と表現の広がり」(5・6年上P46～47)では、コンピュータを活用したプログラミング教育に関連する事例が取り上げられている。一方で、コンピュータを活用しなくても児童のプログラミング的思考を育成できる題材として「コロがるくんの旅」(5・6年上P24～25)が取り上げられている。
- 全学年の巻頭ページに、学習の見通しを持たせるため、年間に扱う中心的題材や活動に取り組んでいる様子が見開きで紹介されている。
- 親しみやすいキャラクターを用いて、育成を目指す資質・能力の三つの柱に対応した「学習のめあて」を全ての題材で示し、より学びが深められるよう工夫されている。また、重点的に取り組ませたいめあては、色づけされ強調されている。
- 題材の最後に、学習のめあてに対応した「ふりかえり」が児童にとってわかりやすい言葉で示され、自己評価が行いやすいよう工夫されている。
- 各地の美術館や地域社会での取組を「みんなのギャラリー」として取り扱い、児童が自分たちの住む地域に目を向け、児童や学校の実態に応じて活動できるよう配慮されている。(各冊子P48～49)
- 様々な材料や地域の伝統文化などを取り上げ、図画工作で育成する力が、地域や身近な社会に関わることを示している。また、「同じもの、たくさん」(5・6年上P17、P19)等のページにも、児童の活動と関連する地域の造形や日本の伝統文化を取り上げている。

- 「美術館をたのしもう」（5・6年上P56～57）では、美術館での鑑賞マナーやその活用方法を具体的に紹介している。
- 鑑賞ページには「小さな美術館」として、美術館や地域の作品が取り上げられている。  
（1・2年上P40～41 1・2年下P38～39 3・4年上P32～33 3・4年下P36～37 5・6年上P335・6年下P30～33）
- 児童の主体性を引き出すため、表紙の題字や題材名などにイラストや記号、鮮やかな色彩が用いられ、デザインが工夫されている。
- 目次の次のページには、表題に関連した内容を写真で大きく掲載し、児童の興味・関心を引き出すよう工夫されている。
- 全学年の教科書に「ひらめきコーナー」（P18～19）を設け、児童の造形的な活動への興味・関心を引き出すよう工夫されている。
- 「本から飛び出した物語」（3・4年下P26～27）等、他教科等と関連して扱える題材を設定し、各題材のページ右下に「あわせてまなぼう」として教科名が示されている。
- 3・4年生以上において、図画工作で使う言葉の英単語を掲載し、二次元コードを活用して音声を聞くことができる等、外国語活動・外国語科との連携が図られている。

## 2 使用上の便宜

- 内容や学習指導要領で扱われる道具、材料について、児童の発達の段階に応じて系統的に題材が配列されている。
- 学習指導要領に示されている年間授業時数を踏まえた適切な分量である。
- A4版で造形的な活動の様子が大きく掲載されており、文字の大きさ、色、書体も鮮明で分かりやすい。言葉のまとまりを考慮して改行が行われており、図版や写真などが重なる場合には、区切りをつける等、配慮されている。
- 目次には、題材の内容が色別のマークで見やすく整理されている。また、それぞれの題材の中心となるめあては、オリジナルキャラクターを用いて分かりやすく示されている。

## 3 その他

- 中学校との連携等を意識した題材が取り上げられている。  
（3・4年上P56～57「みんなとつながる」等）
- 紙面に二次元コードを掲載し、制作の手順やポイントだけでなく、用具の安全な使い方等を動画でわかりやすく紹介している。（3・4年下P52～53等）

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
図画工作	図画工作	116 日文

1. 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 造形的な活動場面の写真と吹き出しが、発想や構想の深まりのヒントになるように示されている。また、1・2年下から、「図画工作のつながり ひろがり」のページが設定され、児童の造形的な視野を広げることができるよう配慮されている。
- 他の児童と気持ちを伝え合いながら、共同して造形的な活動に取り組む題材が設定されている。(1・2年上P14～15、P38～39 1・2年下 P19、P32～33、P44～45 3・4年上P12～13、P28～29、P40～41、P46～47、P52～53 3・4年下P10～11、P48～49 5・6年下P44～45)
- 自らの作品や親しみのある美術作品などの見方や感じ方を他の児童に伝える活動を通し、鑑賞の資質・能力の向上と対話的な学びを関連させている。(1・2年上P31 1・2年下P14～15、P26～27、P29、P42～43 3・4年下P23 5・6年上P16～17、P52～53)
- 発表の様子、鑑賞など他の児童と対話する場面の写真が多く掲載されている。また、言語活動の充実を図る手がかりとして、作品を制作した児童のコメントが多数掲載されている。
- 「カードを使って」(5・6年上P16～17)では、アートカードゲームによる対話的鑑賞を取り上げている。また、自らの作品についてプレゼンテーションを行う場面も紹介されている。(5・6年下P47)
- 題材の最後に「ふりかえり」を設定し、他の児童や指導者との対話を通して、言語能力の育成が図れるよう工夫されている。
- 「使ってみよう 材料と用具」では、カメラの使い方やインターネットの活用法について示されている。(3・4年上P65 5・6年下P63)
- 「形が動く絵が動く」(5・6年上P18～19)等、タブレットやコンピュータ・カメラを使った表現や鑑賞の活動事例を児童の発達段階に応じて取り上げられている。(1・2年下P28～29 3・4年上P10～11、P22～23、P30～31 3・4年下P38～39 5・6年上P16～17、P28～29 5・6年下P12～13、P28～29、P46～47)
- 児童が表したいものを実現するための手順や組み合わせを論理的に考える場面が設定されるなど、プログラミング的思考を育むための題材が取り上げられている。(1・2年下P48～49 3・4年上P44～45 3・4年下P50～51 5・6年上P50～51 5・6年下P16～17)
- 目次の横に「図画工作をはじめよう」のページが設定され、児童が見通しをもち主体的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。
- 児童に分かりやすいように、全ての題材において育成を目指す3つの柱に基づく「学習のめあて」が特徴的なマークで示され、授業後には自らそれを生かして振り返ることができるよう工夫されている。
- 題材の最後に、活動を通して感じたり考えたりしてほしいことが例示され、学びに向かう力、人間性等の涵養につながるよう工夫されている。
- 地域での作品展示など、地域社会と協働した活動例が取り上げられている。(3・4年上P56～57 5・6年上P54～55)
- 伝統的な遊び、玩具、工芸、文化などについて、題材ページ(3・4年下 P56～57 5・6年上P24～25 5・6年下P10～11、P26～27、P38～39、P57)や特設ページ(1・2年下P63 3・4年下P2～4、P56～57、P65 5・6年上P2～4、P36～37 5・6年下P2～4、P56～57)で取り上げられている。
- 「美術館へ行こう」(5・6年下P36～37)では、様々な地域の取組を紹介するとともに、



地域の美術館にも目を向けることができるよう配慮されている。

- 児童が制作した作品などを家庭で扱う様子や、保護者と共に鑑賞して楽しむ様子を写真で掲載し、図画工作の学びを生活に関係づけられるよう工夫されている。(1・2年上 P40～41 1・2年下 P42～43 3・4年上 P57 3・4年下 P18～19、P28～29 5・6年上 P24～25)
- 児童の興味を引き出すため、題材名とそのデザインや色彩等が工夫されている。また、裏表紙には、図画工作や教科書に興味を持たせるための工夫として「形や色を楽しもう」のコーナーが設定されている。
- 巻頭・巻末には、児童が造形的な見方・考え方を働かせて学習を進めることができるよう、魅力的な身の回りのものや美術作品等の図版が掲載されている。
- 身近なものや素材、色、形への興味を引き出すための工夫として「ひらめきポケット」のページが設定されている。また、児童の興味を広げられるように、造形的な活動を選択できる題材が多く設定されている。
- 「言葉から想像を広げて」(5・6年下 P42～43) 等、他教科等での学習を生かしたり、関係づけたりした題材が複数取り上げられている。
- 道徳科と関連が深い題材には、ページ右下にマークが示されている。

## 2 使用上の便宜

- 児童の発達段階に応じて学びが深められるよう系統性が配慮されている。
- 各学年とも、年間の行事や季節に応じて題材を選択できるよう配列されている。
- A4判で児童の思いや工夫が表現された作品が多く掲載され、図版や写真などは見やすいよう鮮明に印刷されている。
- コントラストや文字の背景色等、カラーユニバーサルデザインに配慮した編集がされている。また、図版や写真などが重ならないよう配置が工夫されている。

## 3 その他

- 1・2年上の巻頭には、幼児期の経験や学びを振り返ることができるページが設けられている。また、5・6年下の巻末には、中学校への学びのつながりを意識することができるページが設けられている。(5・6年下 P13 等)
- 多くの題材で「きをつけよう」「かたづけ」の項目が設けられ、児童が材料や用具について安全で適切な扱いができるよう配慮されている。



# 家庭



(10) 家庭

観 点	着 眼 点
<p>1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫</p>	<p>(1) 生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫</p> <p>(2) 調理や制作等における体験を通して、生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解したり、観察や実習等の際のレポート作成や考察、思考したことを発表したりするなど、言語活動を充実させるための工夫</p> <p>(3) 情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫</p> <p>(4) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返り、自己の成長を感じたり、学んだことをもとに自らの生活に生かしたりすることができるような工夫</p> <p>(5) 衣食住などに関する実践的・体験的な活動を設定し、その活動を通して児童の思考力・判断力・表現力が育成される工夫や、基礎・基本から応用へと児童の発達段階に応じた系統的な配列の工夫</p> <p>(6) 児童の興味・関心を生かし自主的、自発的な学習を促すための工夫</p> <p>(7) 他の教科等との関連を図るとともに、地域や学校の実態に応じた指導の工夫</p>
<p>2 使用上の便宜</p>	<p>(1) 内容の配列、分量についての特徴</p> <p>(2) 判型、分冊等、造本上の特徴</p> <p>(3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫</p> <p>(4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮</p>
<p>3 その他</p>	<p>施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、熱源や用具、機械などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底するための工夫</p>

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
家 庭	新しい家庭	2 東書

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 生活の営みに係る見方・考え方を「家庭科の窓」として設定し、すべての大題材のタイトル横に示すことで、どの題材でどの視点を重視するかが一目でわかるよう示されている。また、各大題材には、学びを深めるために必要な活動が明確な指示と共に示されている。

〔例〕 P6 主に、協力の視点で考えよう、P14 主に、健康・快適・安全、生活文化の視点で考えよう、P32 主に、持続可能な社会の視点で考えよう

P96～104 活動1「考えよう」 活動2「やってみよう」 活動3「話し合おう」  
活動4「やってみよう」 活動5「深めよう」 等

- 消費者教育と生活の営みに係る見方・考え方の一つである「持続可能な社会の構築」の視点を重視し、第4大題材で消費者としての基本的な知識や態度が身につくよう配慮されている。

- 全学習項目で問題解決的な学習が繰り返し行える構成（ステップ1「課題発見」見つめよう→ステップ2「課題解決・実践活動」計画しよう・実践しよう→ステップ3「評価・改善」生活に生かそう・新しい課題を見つけよう）になっており、目的や見通しをもちながら取り組めるよう工夫されている。また、ステップ1や2では、「話し合おう」「やってみよう」「調べよう」等で主体的・対話的な学びにつながる活動、ステップ3では、友だちや地域の人々への発表・発信も含めた「言語活動の充実」につながる活動が組まれている。

〔例〕 P6 ステップ1「どんな生活をしているのかな」、ステップ2「自分にできそうな家庭の仕事を見つけよう」、ステップ3「できることを増やしていこう」 等

- 調理や製作などの基礎技能に関しては、動画コンテンツを活用できることを表す「D」マークが示されている。

〔例〕 P17 包丁の使い方、P18 皮のむき方 等

- 各小題材に「めあて」と「ふり返ろう」を、また「5年生のまとめ」「2年間のまとめ」を設けることで、学習内容が定着し、自分の成長が実感できるよう工夫されている。

〔例〕 P88 めあて「夏に快適に過ごすための住まい方や衣服の着方、手入れができるようになるろう。」 P93 ふり返ろう「夏を快適に過ごすための住まい方や衣服の着方、手入れができるようになりましたか。」 等

- 発達段階に応じた知識・技能の習得ができるよう、製作や調理実習題材が組まれている。特に巻末資料「いつも確かめよう」は、第5学年で学んだ技能を第6学年で再度使うことで、より確実な定着を図るよう配慮されている。また、写真とイラストを使うことで分かりやすく、児童の意欲・関心を高める工夫がされている。さらに、作るものを複数提示し、学校や児童の実態に合わせて選択できるよう工夫されている。

〔例〕 P16「ゆでる調理をしよう」（5年）→ P108「1食分の献立を立てて、調理しよう」（6年） P25「手ぬいにトライ!」「マイ・ミニバッグ」（5年）→ P97「ふくろやカバー」（6年） 等

- 食生活に関わる4つの題材の学習を食育の目標と密接に関連させており、「食事の重要性」「心身の健康」「食品を選択する能力」「感謝の心」「社会性」「食文化」の面から指導できるよう構成されている。

- 家族・家庭、衣食住、消費・環境など、すべての分野で日本の伝統的な生活に関わる文化や資料が取り上げられている。

〔例〕 P42 ご飯、P44 みそ汁、P57 もったいない、P63 日本てぬぐい 等

- 学んできたことを生かして、長期休業の前に、生活の課題を見つけ解決に取り組む「生活を変えるチャンス！」が設けられている。実践の進め方や課題例・実践例が挙げられており、児童が自主的に取り組みやすくなるよう工夫されている。

〔例〕 P61 「生活を変えるチャンス！②」自分の課題を見つけ、家族や地域の人々と関わりながら、計画を立てて取り組みましょう。「年末そうじ大作戦」等

- 地域の人々との関わりを大切に、自らが地域の一員であることに気づき、感謝するとともに、地域の一員として自分にできることを考えられるような資料が提示され（家庭や地域をよりよくしていこうとする実践の紹介、地域の人やプロの人へのインタビュー記事を載せる）、仕事や生活への興味・関心を高めるよう工夫されている。

〔例〕 P124 私から地域につなげよう！広げよう！ P126 地域を笑顔に

P127 地域の一員として P22、P38、P49、P94等 プロに聞く！ 等

- 他教科の学びや中学校家庭分野と関連づけた学習ができるよう、工夫されている。また、家庭科に関係ある英単語を脚注に掲載し、次ページに日本語を示すなど英語の学習との関連が図られている。

〔例〕 P17 vegetable→P18 野菜、P55 clean→P56 そうじをする等

## 2 使用上の便宜

- 巻頭ページでは、第5学年から始まる家庭科とはどのような教科であるか、また学ぶ意義がイラストとともに示され、児童のやる気を引き出すと同時に、第6学年までの二年間の学習の見通しがもてるよう工夫されている。さらに、成長の振り返りとして、第4学年までに学んだ他教科との関連も示されている。

- 判型はA4判を採用し、生活に必要な基礎的・基本的な技能が巻末の「いつも確かめよう」にまとめられ、児童が実際に手をのせて練習できる実寸大写真がつけられている。また、配色やデザインについて色覚の多様性に配慮するとともに、ユニバーサルデザインの字体を使用するなど、児童が学習しやすいよう工夫されている。

- 表紙は児童がさまざまな世代の人と交流する様子が描かれ、その中には買い物や調理、製作、団らんなど、これから学習する内容が説明とともにまとめられており、いつでも確認して学習できるよう工夫されている。

- 児童の理解を促す手助けとなるよう、各ページの上部には大題材の領域を示すマークが、教科書全体には16種類のマークが使われている。

- 児童の理解を促す役割を果たすよう、脚注には、家庭科で使われる専門的な用語が解説されている。

- イラストや写真などが性別による固定的な役割分担にならないようにするとともに、高齢者、障がいのある人、外国から来た人との関わりを通して共生の視点に気づくことができるよう配慮されている。また、さまざまな家族形態があり、どれもかけがえのない家族であることに気づかせ、児童の自己肯定感を高める指導ができるよう配慮されている。

〔例〕 表紙、P6、P58、P74、P77、P86、P116 等

- 食物アレルギーについては、本文や図で取り上げ、食品や表示を確認するよう促している。

## 3 その他

- 調理や製作における器具・用具の扱い方、作業上の安全、衛生面など、安全に注意すべき点を解説するとともに、注意喚起のための「安全マーク」が示されている。さらに、調理実習、製作実習、地震が起こったときに関する記述が巻末にまとめられ、繰り返し確認できるよう工夫されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
家 庭	小学校 わたしたちの家庭科	9 開隆堂

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 生活の営みに係る見方・考え方の視点を「協力・助け合い」「健康・快適・安全」「生活文化」「持続可能な社会」として設定し、それぞれに印を決め、案内役の四つ葉のクローバーのキャラクター近くに配置している。どの題材でどの視点を重視するかが、一目でわかるように示されている。

〔例〕 P1～2「はじめよう！家庭科」、P102「洗剤の量とよごれの落ち具合」等

- 消費者教育と共通することを大きく2つの題材で取り上げ、他の題材の中でも関連づけて取り扱い、消費者としての実践的態度が身につけられるよう工夫されている。

〔例〕 P28～33「整理・整とんで快適に」

P58～63「生活を支えるお金と物」

- 全学習項目で問題解決的な学習が繰り返し行える構成（「1 見つける・気づく」→「2 わかる・できる」→「3 生かす・深める」）になっている。児童が自分のこととして自分の生活を見つめ、問題に気づくための導入がしやすいよう各題材の最初には大きな写真やイラストが使われている。また、「考えよう」「調べよう」「やってみよう」「話し合おう」など、話し合いの活動や思考する活動、意見を述べる活動など言語活動の充実につながる活動が設定されている。

〔例〕 P90～93「クリーン大作戦」等

- 調理の様子や製作の仕方、実験など、動画コンテンツを活用できるページには二次元コードが示されている。

〔例〕 P15「②③野菜・いもをゆでるとどうなるのだろう」

P40「③布をぬってみよう」、P128～129「生活の中のプログラミング」等

- 学習内容が定着し、自分の成長が実感できるよう、各小題材に「学習のめあて」、「できたかな」、「ふり返ろう」が、第6学年の終わりに2年間の学習の振り返りが設けられている。また、家庭科の学習を振り返り、そこで見つけた新しい課題を解決するための取組「レッツトライ」が3点例示されている。児童が取り組みやすいよう課題解決に向かうステップが示されている。

〔例〕 P126～127「2年間の学習をふり返って、中学校の学習に生かそう」

〔例〕 P76～79「レッツトライ 生活の課題と実践」

- スモールステップで繰り返し積み重ねて基礎・基本の知識・技能の習得が着実にできるよう、発達段階に応じた製作や調理実習題材が組まれている。また、写真とイラストを使うことでわかりやすく、児童の意欲・関心を高める工夫がされている。さらに、学校や児童の実態に合わせて選択できるよう作るものが複数提示され、★印で難易度が示されている。

〔例〕 P10「クッキング はじめの一步」→ P112「こんだてを工夫して」

P20「ソーイング はじめの一步」→ P104「生活を豊かに ソーイング」

P44～47 ③制作しよう（①ランチョンマット、②マルチカバー、③クッションカバー） P115「いろいろなおかずの例」

- 食事の役割について考え、調理の基礎を習得し、栄養を考えた食事の献立を立てることができるようにするため、ステップアップしながら学習が進められるよう題材構成が決められている。

〔例〕 P48～56「食べて元気に」 P84～89「できることを増やしてクッキング」

P112～118「こんだてを工夫して」



- 衣食住などの内容を関連させ、日本の伝統的な文化に関する生活に関わる内容を取り上げている。伝統文化を紹介している箇所には「伝統マーク」をつけ、児童が関心をもてるよう工夫されている。
- 学んできたことを生かして、長期休業中に、生活の課題を見つけ、解決に取り組む「チャレンジコーナー」が学期のまとめりごとに設けられている。環境や防災、伝統文化など実践の進め方や課題例・実践例が挙げられており、児童が自主的に取り組みやすくなるよう工夫されている。

〔例〕 P37、P57、P75、P103、P119 「チャレンジコーナー」

- 自分の家庭生活と地域の人々との関わりに気づき、自分が地域でよりよい関係をつくるためにどんな工夫が必要かを考えられる構成となるよう工夫されている。
- 他教科や様々な学びと関連づけて学習できるよう、関連を示すマークが記載されている。また、家電製品に使われているプログラミングの例を取り上げたり、家庭科の用語と英語訳を各ページの脚注や巻末の「ことばのページ」に記載したりしている。

〔例〕 P9、P17、P113、P119 等 関連を示すマーク  
P135、P136 ことばのページ

## 2 使用上の便宜

- 巻頭ページからP5までは、第5学年から始まる家庭科とはどのような教科であるか、またそれを学ぶ意義が写真やイラストとともに示され、児童の興味・関心を引き出すと同時に、第6学年までの二年間の学習の見通しがもてるよう工夫されている。また、家庭科学習の進め方についてイラストで具体化されている。
- 写真やイラストが大きく掲載されているだけでなく、写真では見えない部分をイラストで掲載し、実際に児童が見るアングルを表示するなど工夫がなされている。また、実寸大写真をつけたり、記述が丁寧に書かれたりしている。実習や制作の手順は横流れで統一し、見やすくなっているなど、右利き左利きにも配慮されている。ユニバーサルデザインの字体を使用し、児童が学習しやすい工夫がされている。
- 主人公の児童が生活を見つめ、地域と関わって成長していく姿が表紙で提示されていて、ガイダンスの入り口として活用できるようになっている。
- 児童が関心や意欲をもって主体的に学習が進められるように、マークやキャラクターが用いられており、理解を促す手助けとなっている。
- 児童の理解を促す役割を果たすよう、脚注には、「ひと口メモ」があり、家庭科で使われる専門的な用語が解説されている。
- 男女の区別や障がいの有無に関わらず、子どもから高齢者まですべての人が平等な関係であることを前提にして、記述や課題の設定・写真や図が工夫されている。また、家族や周囲の人との関わり大切さが認識できるよう配慮されている。
- 食物アレルギーについては関連する本文や図で取り上げ、食品や表示を確認するよう促している。

## 3 その他

- 大題材の学習の前に調理や製作における器具・用具の扱い方、作業上の安全、衛生面など、安全に注意すべき点を解説するとともに、注意喚起のための「安全マーク」が示されている。また、災害時の具体的な対応を促す「防災マーク」も各所に示されている。さらに、家庭科での安全・防災について、基本的事項を冒頭のページにまとめ、いつでも確認できるよう工夫されている。



# 保 健



(11) 保 健

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 保健の見方・考え方を働かせながら課題解決を図り、学習活動を通して健康の大切さを実感できるための工夫 (2) 言語能力の育成を図るための工夫 ・健康などに関する課題を解決するために、児童による話し合いや発表、教師による資料の提示などを行うことにより、言語能力の育成を図るための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫 (4) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (5) 望ましい生活習慣に関する指導や安全に関する指導を重視し促進するための工夫 (6) 児童の健康・安全に関する身近な課題に対する主体的な学習活動を促すための工夫 (7) 他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容の配列、分量についての特徴 (2) 判型、分冊等、造本上の特徴 (3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫 (4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
保 健	新しい保健	2 東書

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童の興味・関心を喚起できるよう<気づく・見つける>活動が、すべての単元で設定されている。

【例】

[3・4年]「けんこうというたからもの」のステップ1<気づく・見つける>では、「ずっとけんこうでいられますように」と書かれた七夕の短冊の写真を示し、「なぜ、けんこうであるようにねがうのですか」と問いかけることで、児童の興味・関心が喚起されるよう工夫されている。(P4～5)

[5・6年]「病気の起こり方」のステップ1では、かぜをひいて手当をされている写真を示し、「私たちは、どんなときにかぜをひくのでしょうか」と問いかけることで、児童の興味・関心が喚起されるよう工夫されている。(P48～49)

- 多様な考えが交流されるよう<深める・伝える>活動が、すべての単元で設定されている。

【例】

[3・4年]「けんこうによいかんきょう」では、ステップ3<深める・伝える>において、ステップ1で気づいたことと、ステップ2<調べる・解決する>で調べたことをもとにして、身の回りの環境をどのように整えたらよいのかについて、考えを深めたり、話し合ったりする活動が設定されている。(P21)

[5・6年]「事故やけがの原因」では、ステップ3において、ステップ1で気づいたこととステップ2で調べたことをもとにして、「ほかの人の意見を聞いて、考えたことや分かったことを書きましよう」という発問が準備されており、積極的に友だちに伝えることや友だちの意見を聞いて考えを深めることができるよう配慮されている。(P23)

- より理解を促すためのインターネットを用いたデジタルコンテンツの情報が豊富に掲載されている。

【例】

[3・4年]「よりよく成長するための生活」では、体がよりよく成長するために、適切な運動、バランスのとれた食事、十分な休養・睡眠を毎日続けることの必要性が書かれており、さらに理解を促すため「スポーツ選手にインタビュー」という動画が準備され、インターネットを用いて視聴できるよう工夫されている。(P39)

[5・6年]「けがの手当」では、指を切ってしまった場合や転んで膝をすりむいてしまった場合などの手当の方法が示されており、「けがの手当をしよう」という実習を行うことができるようになっている。その際に、児童が実習を行いやすいように、インターネットを用いて技能内容を視聴できるよう工夫されている。(P44)

- 全ての単元が4ステップ構成となっており、分かりやすい授業構成となっている。

【例】

[3・4年]「育ちゆくわたしたちの体」では、ステップ1では今の自分と赤ちゃんの頃の自分を比べることで体の成長に気づき、ステップ2では身長伸びをグラフにすることで成長を確認できるようになっている。そして、ステップ3では自分の成長を振り返り、ステップ4では学んだことをまとめられるよう構成されている。(P24～30)

[5・6年]「生活習慣病の予防」では、ステップ1では日頃の生活行動を振り返ることで気づきを促し、ステップ2では生活習慣病の要因や予防方法を調べるようになっている。そして、ステップ3では、お菓子を過剰摂取しているさし絵をもとに、多様な意見を出し合い、考え

を交流する場面が用意され、ステップ4では学んだことをまとめられるよう構成されている。  
(P57～62)

- グラフやさし絵を効果的に用い、児童が視覚的に生活習慣や安全に関して理解しやすいよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「けんこうによい1日の生活」では、元気がないたくみさんの1日と、元気いっぱいのおあやかさんの1日を円グラフにして比較することにより、規則正しい1日の生活リズムを視覚化し、重要性が伝えられている。(P12～13)

〔5・6年〕「事故やけがの原因」では、児童にとって身近な危険場所である交差点、公園、運動場などをさし絵で示し、怪我をしたり事故が起きそうな場面を探して○をつける学習活動を通して、自分事として怪我や事故について学ぶことができるよう工夫されている。(P20～21)

- 主体的な学びを支援するために<はってん>マークがつけられた資料が多く用意されている。

【例】

〔3・4年〕「けんこうというたからもの」では「体の部分の名前」について、「育ちゆくわたしたちの体」では、「骨や歯の発育」についてそれぞれ説明が記載されており、心身の成長が著しい中学年の児童が、主体的に学べるような発展内容の資料が準備されている。(P10、P30)

〔5・6年〕「心と体のつながり」では、一流のスポーツ選手から学ぶ「きん張を味方にする方法」について、「喫煙の害と健康」では、現代的な課題である「さまざまな依存症」(アルコール、ゲームなど)についてそれぞれ説明が記載されており、思春期の入り口にいる高学年の児童が主体的に学べるような発展内容の資料が準備されている。(P12、P66)

- 外国語科、理科、家庭科など、積極的に他教科と関連づけた内容構成がとられている。

【例】

〔3・4年〕「けんこうというたからもの」では、「体の部分の名前」において名称に英語表記がつけ加えられており、外国語活動との関連が図られている。また、「思春期にあられる変化では、思春期の体つきの変化を学ぶ内容において、5年生の理科「人のたん生」との関連が図られている。(P10、P35)

〔5・6年〕「交通事故の防止」では、交通事故を防止するための学習において、3年生の社会科「地域の安全を守る働き」との関連が図られている。また、「病気の起こり方」では、かぜなどの病気が起こる要因を調べたり、解決したりする学習において、5・6年生の家庭科「快適な住まい方」との関連が図られている。(P31、P51)

## 2 使用上の便宜

- 学習指導要領の配列に合わせ、各学年の内容が配列されている。また、示された内容の所定配当時数内での指導が可能なように構成され、確実に学べるよう配慮されている。
- 判型はA4版で、児童が思考・判断したことを表現するための記入スペースが豊富に設けられ、ワークシートのように活用できるよう配慮されている。
- 目次は、単元名と資料のそれぞれについて示されている。また、第3・4学年の教科書の巻末に次学年の目次を掲載し、見通しを持って学習できるよう配慮されている。
- 文節改行を基本とし、文章が読み取りやすいよう工夫されている。また、毎時、学習の進め方を示すことで、授業の見通しをもって学習できるよう配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
保 健	たのしい保健	4 大日本

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 知識・技能の定着を図り、さらに学びを深められるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「1日の生活のしかた」では、自分の1日の生活を振り返り、どのようにすれば規則正しい生活ができるようになるのかを伝え合う活動が設定されており、友だちとの対話によって様々な見方や考え方を知り、思考を深められるよう工夫されている。(P10～11)

〔5・6年〕「けがの手当」では、すり傷や打ぼく・ねんざ、鼻血などに対して、自分で手当ができる技能が身につけられるようになっている。また、怪我をした場面において、友だちにどのように伝えればよいのかについて考えることにより、思考を深められるよう工夫されている。(P31)

- 話し合う活動が設定された学習構成がとられている。

【例】

〔3・4年〕「けんこうな生活」では、「けんこうだと思えるのは、どのようなときでしょうか」、「大人の体になるじゅんぴ」では、「みなさんと大人では、体つきにどのようなちがいがあるのでしょうか」等、友だちと話し合う活動が設定されている。(P8、P26)

〔5・6年〕「不安やなやみがあるとき」では、「不安やなやみにはどのようなものがあるのでしょうか」、「けがの手当」では、「けがをしたときには、どのように行動していますか」等、友だちと話し合う活動が設定されている。(P12、P30)

- ICTを使える内容には<ウェブ>マークがつけられ、動画や資料を使って学習できるよう配慮されている。

【例】

〔3・4年〕「けんこうによい生活かんきょう」では、早寝・早起き・朝ご飯という規則正しい生活ができるようウェブサイトに資料が用意されており、インターネットを用いて視聴し、学習に役立てられるよう配慮されている。(P18)

〔5・6年〕「薬物乱用の害と健康」では、薬物が体にもたらす危険性を学ぶとともに、麻薬・覚せい剤乱用防止センター（「ダメ。ゼッタイ。」）のウェブサイトを紹介し、インターネットを使ってさらに深く学べるよう配慮されている。(P51)

- 「やってみよう」「話し合ってみよう」「活用して深めよう」の3点で授業構成されており、シールを使って振り返りができるよう工夫されている。

〔3・4年〕単元の最後には、3年のまとめ（毎日の生活とけんこう）、4年のまとめ（育ちゆく体とわたし）というように学習のまとめのページが設けられている。そして、巻末についている3段階のシール（十分分かった・できた/だいたい分かった・できた/もう少しがんばりたい）によって、学んだことを振り返られるよう工夫されている。(P20、P36)

〔5・6年〕「不安やなやみがあるとき」では、「やってみよう」において、心や体がリラックスする呼吸法が学習内容として位置づけられている。そして、「話し合ってみよう」では、不安や悩みを軽くする方法について話し合う場面が設定され、「活用して深めよう」では、不安や悩みを軽くする自分なりの方法を探す学習活動が設定されている。どの単元においても、学習の見通しをもって学ぶことができるよう配慮されている。(P12～13)

- 日常生活を振り返るためのチェック欄を設けたり、様々な事故や怪我についてデータを示したりすることで、児童が健康で安全に生活ができるよう配慮されている。

【例】



[3・4年]「1日の生活のしかた」では、朝の生活の仕方について6項目（あいさつをする、歯みがきをする等）、昼の生活の仕方について4項目（給食をのこさず食べる、元気に運動して遊ぶ等）、夜の生活の仕方について6項目（宿題をする、家事をてつだう等）の具体的なチェック項目が示され、児童が日常生活を見直しながら、規則正しい生活の仕方を学べるよう工夫されている。(P10～11)

[5・6年]「けがの原因」では、学校内の事故や怪我だけでなく、交通事故、水の事故、犯罪被害について、どのような場所で発生し、何をしている時に起こりやすいのかについて円グラフで示すことで、様々な事故や怪我に対して注意を促している。(P20)

- <はってん>マーク、<もっと知りたい！>によって、児童の主体的な学習を促すよう工夫されている。

**【例】**

[3・4年] <はってん>マークがつけられた「受けつがれていく命」では「育ちゆく体とわたし」の学習を踏まえ、胎児がお母さんのお腹の中で大切に育てられて誕生してきたことを記載し、命の尊さと大切さを伝えている。(P37)

[5・6年] <もっと知りたい！>では、現代的な課題である「がんの予防」「目の健康を守ろう」「たばこのけむりのおもな成分」「オリンピック・パラリンピックとたばこ対策」等について取り上げ、児童が主体的に学んだり、調べたりできるような内容構成となっている。(P54～55)

- 家庭科や算数科など他教科との関連や、保健における他学年との関連を意識した内容構成がとられている。

**【例】**

[3・4年]「体のせいけつ」では、目には見えない汚れや汗についての学習において、5・6年生の家庭科「衣服の着用と手入れ」との関連が図られている。また、「大きくなったわたし」では、自分の身長の変化をグラフにする活動において、3年生の算数科「小数のひき算」「ぼうグラフ」との関連が図られている。(P15、P25)

[5・6年]「生活のしかたと病気の予防①」では、3年生の保健「けんこうな生活」との関連が図られている。(P42)

## 2 使用上の便宜

- 学習内容の系統性、領域のバランス等を総合的に配慮された単元配列となっている。また、各学年の発達段階を踏まえ、授業時間数を考慮した学習内容で構成されている。
- 判型はA B版であり、記入欄が多く設定されていることで、児童が書き込んで学びやすいよう工夫されている。
- 第3・4学年の教科書には、各学年の目次を掲載することで見通しを持って学習ができるよう配慮されている。また、必要に応じて脚注がつけられ、他教科との関連が図られている。
- 児童が学習しやすいよう教科書のフォントや配色について、ユニバーサルデザインに配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
保 健	わたしたちの保健	207 文教社

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 課題解決からさらなる思考が深められるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「1日の生活リズム」では、写真やイラストなどを用いて、これまでの自分の生活を振り返ることができるよう工夫されている。そして、自分の課題を発見させ、解決していくために基本となる正しい行動（しっかり運動、きちんと食事、十分な睡眠など）を学習し、学習したことをもとによりよい生活リズムを考えさせるよう構成されている。(P6～9)

〔5・6年〕「学校生活でのけがの防止」では、イラストを用い、学校の中で怪我をしそうな場所を振り返ることができるよう工夫されている。そして、自分たちの課題を発見させ、課題を解決していくために、多くの資料や他の児童との話し合いの中から課題の解決をさせ、いろいろな場面から怪我をしないためにどうすればよいのかを考えさせるよう構成されている。(P15～17)

- 資料や体験などをもとに自分や他者と考えを交流し、言語能力を育成するよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「体の発育」では、これまでの自分の身長や体重の変化を調べ、いつ頃変化が起こったのかなどを振り返ることができるよう工夫されている。そして、他の児童の身長や体重の変化を自分と比べ、その変化の違いがなぜ起こっているのかなど身近なことを話し合わせることで、自分の言葉で表現しやすくできるよう工夫されている。(P18～21)

〔5・6年〕「不安やなやみへの対処①」では、これまでに経験した不安や悩みを振り返ることができるよう工夫されている。そして、不安や悩みを解消・解決するには、どう対処するとよいのかを経験や資料をもとにして自分の考えを整理させたり、話し合わせたりすることで、自分の言葉で表現しやすくできるよう工夫されている。(P8～10)

- ICTを活用し、自ら情報を収集する能力を育成するよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「体のせいけつ」では、教科書に示された二次元コードを使い、一日着た衣服には、襟や袖などに汚れがたくさんついている様子を動画で視聴できるページにアクセスできるなど、さらに学習を深めるための情報を自分たちで手に入れられるよう配慮されている。(P12)

〔5・6年〕「地域での安全」では、身の回りの危険や犯罪被害を防ぐためにどうしたらよいのかを考えることができるよう工夫されている。教科書に示された二次元コードを使うと消防庁や警察庁などのホームページへアクセスでき、他に身の回りにはどんな危険や犯罪被害があるのかなどのさらなる知識を自分たちで入手できるよう配慮されている。(P22)

- 単元全体を捉えた文章で見通しをもち、最後に全体を捉えた振り返りを行えるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「毎日の生活とけんこう」では、導入で単元全体を捉えた短い文章を示すことで、どのようなことを学習するのか見通しをもてる構成になっている。単元の最後に「わたしのけんこうせん言」として、これまでの学習を振り返り、どんなことを大切にこれから生活していきたいかを考えさせるという構成になっている。(P2～16)

〔5・6年〕「病気の予防」では、導入で単元全体を捉えた短い文章を示すことで、どのようなことを学習するのか見通しをもてる構成になっている。単元の最後は「わたしのいきいき宣言」として、これまでの学習を振り返り、病気にならずに過ごしていくためにどうしたらいいかを

考えることができるよう工夫されている。(P30～52)

- 体験活動や家庭・地域と連携し学習が進められるよう工夫されている。

【例】

[3・4年]「体のせいけつ」では、実際に自分の手の汚れを知るために、脱脂綿を使って自分の手の汚れを確認したり、寒天を使って洗っていない手と水で洗った手、石けんで洗った手の細菌の有無や細菌の量について知ったりするなど、体験を通して学習を深めるよう工夫されている。(P11)

[5・6年]「地域での安全」では、危険や犯罪から身を守るために、地域に「こども110番の家」があったり、地域パトロールの方がいたりして、自分たちを危険や犯罪から守ってくれているということを知ることができる。また、着衣泳を行うことで、水の事故から自分の身を守る方法を体験して学習することができるよう工夫されている。(P21～23)

- 興味・関心を高めることにより、主体的な学習活動を促すよう工夫されている。

【例】

[3・4年]「体のよりよい発育」では、〈もっと知りたい〉や〈発てん〉マークを用い、学習したことの詳細な知識として適切な睡眠をとるための具体的な方法を知ることができる。また、体のよりよい発育と新体力テストを関連させ、運動や朝食、睡眠の大切さについてもより感じさせることできる。そのことにより、自ら運動に取り組み、よりよい睡眠をとろうとする気持ちを高められるよう配慮されている。(P28～31)

[5・6年]「病気の起こり方」では、〈情報コーナー〉や〈発展〉マークを用い、目や鼻、口などの体の仕組みをさらに知ったり、「せきやくしゃみが出るのはなぜか？」などのさまざまな疑問を解決したりする中で、児童の「体の仕組みがしっかり働くようにするにはどうしたらいいか」という追究したい気持ちを高められるよう配慮されている。(P30～33)

- 教科の横断的なつながりを大切にするよう工夫されている。

【例】

[3・4年]「思春期の体の変化②」では、体の中に起こる変化につながっていく内容を、「体のよりよい発育」では、五大栄養素やバランスのよい献立作りなどにつながっていく内容をそれぞれ学習する。これらの学習は、5年生の理科や第5・6学年の家庭科との関連が図られるよう配慮されている。(P24～31)

[5・6年]「地域での安全」では、自分たちの地域の危険箇所などについて知ったり、地域における防犯上の課題を考え、「地域安全マップ」を作成することで、3年生の社会科や総合的な学習の時間との関連が図られるよう配慮されている。(P21～23) また、「けがの防止」では、自助・共助・公助について学ぶことができ、5年生の社会科との関連が図られるよう配慮されている。(P28～29)

## 2 使用上の便宜

- 学習活動の流れは、課題提示から解決に至るまでの学習指導上の順序性が考えられており、1単位時間あたりおおむね2～3ページで構成されている。
- 版型はA4判で作られている。思考力・判断力・表現力等を高められるよう、記入スペースが多く設けられている。
- 目次は1ページに収められていて、各単元の単元名が色分けされている。必要に応じてページ下方に脚注が記載され、児童に多角的な観点を提示することで、学習意欲が向上するよう工夫されている。
- 書体や文字の大きさ、ルビの添付等児童にとって読みやすい教科書となっている。また、キャラクターが対話形式で登場することにより、児童の思考を手助けするよう工夫されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
保 健	小学保健	208 光文

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 保健学習にかかわって、児童を学びに向かわせ、深い学びができるよう工夫されている。

【例】

[3・4年]「けんこうな生活」では、健康の意義や重要性について疑問を投げかけている。

(P7) そして、単元の終わりに「早ね早起き朝ごはん」や「スマートフォンやタブレットの使い方と生活のリズム」などについてふれ、知識の獲得だけでなく、様々な視点で考えられるよう配慮されている。(P14～15)

[5・6年]「病気の予防」では、病気にならないためにはどうしたらよいか疑問を投げかけている。(P39) そして、単元の終わりに「エイズ」や「新しい感染症と再び注目された感染症」など、発展的な学習についてふれられている。(P46～47)

- みんなで自分の考えを出し合い、学習課題を解決できるよう工夫されている。

【例】

[3・4年]「体のせいけつ」の〈考えよう〉では、どんな手洗いをするとよいかについて考えることができるよう工夫されている。また、〈話し合おう〉では、どうして毎日ハンカチや衣服を取りかえるのかについて話し合えるよう工夫されている。さらに、〈学んだことを生かそう伝えよう〉では、話し合ったことを生かし、体を清潔に保つためにこれから気をつけたいことや心がけたいことを振り返ることができるよう工夫されている。(P16～17)

[5・6年]「交通事故の防止」の〈考えよう〉では、絵の場面を見て、どんな危険があるのかやどう行動するのがよいかについて考えられるよう工夫されている。また、〈話し合おう〉では、交通事故を防ぐためにカーブミラーと横断禁止の標識をどこに設置するとよいかについて話し合うことができるよう工夫されている。さらに、〈学んだことを生かそう伝えよう〉では、自分の身近な場所で交通事故が起きそうな場所を思い浮かべ、どう行動するとよいかや、考えた理由についての記述欄が設けられている。(P26～27)

- ICT機器を使うことで、学習内容の理解を促すよう工夫されている。

【例】

[3・4年]「けんこうな生活」では、二次元コードを用い、手の汚れや衣服の洗い方について、ICT機器を使って動画を見ることができるよう工夫されている。(P16～17) また、インターネットを活用して朝食の大切さについて詳しく調べることができるようWEBサイトが記載されている。(P10)

[5・6年]「心の健康」では、二次元コードを用い、心と体の関わりについて、ICT機器を使って動画を見ることができるよう工夫されている。(P13) また、WEBサイトが記載されており、インターネットを用いて呼吸の方法や効果について詳しく調べることができるよう工夫されている。(P18)

- 単元の終わりに、学習したことを振り返ることができるよう工夫されている。

【例】

[3・4年]「体の発育と健康」では、学習したことを振り返るための問題が用意されている。また、自分の生活に一番生かしたいと思った学習について、理由を記述することができるよう工夫されている。(P40)

[5・6年]「けがの防止」では、学習したことを振り返るための問題が用意されている。

また、内容が記載されているページ番号を明記することで、復習できるよう工夫されている。(P38)

- 絵図で示したり、比較したりすることで、望ましい生活について理解を促すよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「けんこうな1日の生活」では、規則正しい生活をする意味が理解できるよう、生活のリズムが崩れることによる影響について、絵図で示されている。(P13)

〔5・6年〕「生活習慣病の予防②」では、毎食後の歯みがきや口濯ぎをしない生活と、毎食後に歯みがきや口濯ぎをしている生活を、絵図を用いて比較し、歯が溶けやすい状態がどちらなのかが一目で見てわかるよう工夫されている。(P51)

- 保健の大事さを伝えたり、身近な課題を取り上げたりすることで、児童が保健学習に主体的に取り組めるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕保健学習の導入にあたり、保健の大切さについて語ったトップアスリートのメッセージや、身近な例で保健を学ぶことの意義を描いた漫画が紹介されている。(P1~2)

また、巻末ページの「共に生きる社会のために」では、身近な場所で目にするマークの意味を理解し、自分にできることを考えさせることで、一人一人がお互いを尊重して支え合って生活をしていく大切さを伝えられるよう工夫されている。(P41)

〔5・6年〕「自然災害から身を守る」では、発展的な内容として、災害が起こった時にどのような危険があるのかや、危険を避けるためにどのように行動するのかを考えることができるよう工夫されている。(P36~37) また、巻末ページの「共に生きる社会のために」では、国際シンボルマークや障がい者スポーツにふれることで、共生社会のための一人の人間であることの理解が促されている。(P65)

- 学習活動を充実させるため、他の教科との関連が図られている。

【例】

〔3・4年〕「変化していく体」では、第1学年から第4学年までの自分の身長を表に書き表し、それぞれの一年間に伸びた身長を計算することで、算数科で学習する長さの単位や小数のひき算を生かして考えられるよう工夫されている。また、マークを用い、横断的な学習であることが明記されている。(P24)

〔5・6年〕「喫煙の害」では、たばこの煙の中の主な有害物質（主流煙と副流煙）についてふれ、中学校の内容につながる系統性のある指導ができるよう配慮されている。(P55)

## 2 使用上の便宜

- 学習内容は、児童の発達段階に応じ、日常生活での実践につなげることができるよう工夫されている。
- 版型は全ページカラー印刷のA4版で、写真やイラストも大きい。また、記入欄が大きく、自分の考えを十分に書くことができるようになっている。
- 目次は、学習する内容をイメージできるように、単元名の下に問いかけが示されている。単元ごとに脚注があり、学習への意欲をもたせることができるよう工夫されている。
- 文章が簡潔になっており、重要な事項については太字や色文字で目立たせている。また、未習の漢字にルビを用いることで、児童の読みの負担が軽減されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
保 健	みんなの保健	224 学研

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 単元ごとに最初に学習を行う意味を明確にし、小単元の終わりにはさらに学習を深められるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「健康な生活」では、単元の最初に、毎日を健康で過ごすためにどんな生活を送ればよいのかについて、自分の生活を振り返って考えることが明記されている。(P5) また、小単元の終わりでは、手の洗い方やみんなの健康を守るための活動などについてふれ、実践的な学習ができるよう工夫されている。(P16～17)

〔5・6年〕「心の健康」では、単元の最初に心の発達の仕方や悩みなどを抱えた時はどうしたらよいのかなどについて、自分の経験から課題を見つけ、考えることが明記されている。(P5) また、小単元の終わりには、自分のよい所を発見したり、思春期の心についてふれたりするなど、自分の経験を振り返りながら学習を深めることができるよう工夫されている。(P8～9)

- 自分の考えをもったり、みんなで話し合ったりすることによって学習課題を解決できるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「体の清けつ」の〈考える・調べる・話し合う〉では、なぜ下着やハンカチを身につけるのかについて話し合い、考えられるよう工夫されている。また、〈まとめる・深める・学びを活用する〉では、室外から室内に帰っておやつを食べようとしている人に、どのようなアドバイスをするのかを考えられるよう工夫されている。(P12～13)

〔5・6年〕「不安やなやみへの対処」の〈考える・調べる・話し合う〉では、不安や悩みを抱えた時の対処をみんなで出し合い、他の児童の意見の中で自分もできそうな対処について考えられるよう工夫されている。また、〈まとめる・深める・生活につなげる〉では、他の児童が挙げた不安や悩みへの対処で、参考になったことについて記述することができるよう工夫されている。(P12～13)

- ICT機器を使って、理解を促したり、調べたりできるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕教科書の最初に、それぞれの単元でポイントとなる画像や動画、外部リンクを見ることができるよう二次元コードが示されている。(P4) また、「体の中で起こる変化」では、〈教科書サイト〉マークによって、二次元コードを用いて学習できる箇所が明記されている。(P26)

〔5・6年〕教科書の最初に、それぞれの単元でポイントとなる画像や動画、外部リンクを見ることができるよう二次元コードが示されている。(P4) また、「学校や地域でのけがの防止」では、タブレットを用いて学校で怪我の起こりやすい場所を撮影し、調べてみる活動にふれ、情報機器の活用を促すよう配慮されている。(P24)

- 単元の終わりに、学習したことを振り返り、深め、つなげられるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「体の発育・発達」では、学習したことを理解したかどうかをチェックすることができるよう工夫されている。また、体力を高めたり、色々な動きを身につけたりするためにどんなことをしたらよいのかについての記述欄がある。さらに、学習したことを生

活に生かせること、もっと学習したいと思ったことを記述することができるよう工夫されている。(P34)

〔5・6年〕「けがの防止」では、学習したことを理解したかどうかをチェックできるよう工夫されている。また、様々な場面を例に挙げ、考えたり、確認したりすることができるよう工夫されている。さらに、学習したことを生活に生かせること、もっと学習したいと思ったことを記述することができるよう工夫されている。(P32)

- 絵図を用い、例を比較したり、乱れた生活をするるとどのようになるのかについての流れを示したりすることで、よい生活とは何かが理解しやすいよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「1日の生活のしかた」では、整ったリズムで生活している人と乱れたリズムで生活している人を比較することで、規則正しい生活をするための時間の使い方が理解できるよう工夫されている。(P8)

〔5・6年〕「薬物乱用の害」では、薬物乱用防止について、薬物を使用した時に、依存症になるまでの流れが絵図で示されており、薬物を乱用してはいけない意味が理解できるよう工夫されている。(P51)

- 保健学習を行う意味を明記したり、身近な課題を取り上げたりすることで、主体的に学習することができるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕保健学習の導入にあたり、一人一人が「限りない能力」と「自分らしさ」をもっていることを示し、健康が夢を叶えるための土台になっていることが説明されている。(表紙裏)

〔5・6年〕「けがの防止」では、発展的な内容として、「自然災害や緊急事態に備えて」について取り上げられている。自然災害や緊急事態にはどのようなことが起こるのか、災害に備えてどのようなことができるのか、災害が起こった時にはどうすればよいのかについて、自分の生活をもとに考えられるよう工夫されている。(P28～29)

- 学習活動をさらに充実させるために、他の教科や運動領域との関連が図られている。

【例】

〔3・4年〕第5学年の理科で学習する人の誕生と関連をもたせて学習することができるよう、「体の発育・発達」の「もっと知りたい調べたい」では、新しい命の誕生について取り上げられている。(P29)

〔5・6年〕「不安やなやみへの対処」では、不安や悩みへの対処の方法として、体ほぐしの運動を行うとよいことにふれている。＜関連＞マークを用い、体ほぐしの運動は体の調子に気づいたり、気持ちをほぐしたりできる効果があることを説明している。(P13)

## 2 使用上の便宜

- 原則1単位時間の学習内容が見開き2ページで構成されており、学習の流れの見通しをもつことができるようになっている。
- 版型は全ページカラー印刷のA4版である。また、環境に配慮した用紙が使われるとともに、2年間の使用に耐えられるよう整本されている。
- 目次において、資料の中身についても記載されており、児童の興味・関心を喚起しやすくしている。児童が実生活に生かすことができる内容等が脚注で示されている。
- 児童にとって学習しやすい書体、色、表現、配列は、ユニバーサルデザインに配慮して作成されている。





# 英語



(13) 英 語

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行うなど、主体的・対話的で深い学びの実現を図る工夫 (2) 簡単な語句や基本的な表現などの定着を図る学習内容の充実など、言語能力の育成を図るための工夫 (3) 視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、学習活動の充実を図るための工夫 (4) 児童が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (5) 家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫 (6) 児童の興味・関心に合った言語活動の題材の工夫 (7) 他の教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりする工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容の配列、分量についての特徴 (2) 判型、分冊等、造本上の特徴 (3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫 (4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮
3 その他	我が国の文化や、他の国々の文化に対する理解を深め、国際協調の精神を養う工夫

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
英 語	NEW HORIZON Elementary English Course NEW HORIZON Elementary English Course Picture Dictionary	2 東 書

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童の身近な話題を題材とし、生活の中で英語を使うという使用場면을重視するよう設定されており、主体的に学ぼうとする意欲をもたせるよう工夫されている。リスニングの活動では、場面や状況をイラストや写真で示し、内容を推測しながら取り組めるよう配慮されている。また、単元目標に対応した22の「めざす姿」を設定し、目的や場面、状況等に応じて児童が既習事項を選択して表現できるようにすることで、主体的・対話的で深い学びの実現に対する工夫がされている。

〔例〕 6年P14～15 Unit 2 「Starting Out」、5年P6～7、6年P2～3 「もくじ」(めざす姿)

- 各Unitの2番目のパートである「慣れる」(Your Turn) では、重要表現に慣れるよう、ペアワークやグループワークで、やり取りを通して繰り返し聞いたり話したりする構成になっている。脚注Word Linkの別冊参照ページを開くことでやり取りの幅を広げる等、工夫されている。また、Sounds and Lettersでは、児童がアルファベットの音を少しずつ学びながら、巻末のノートに書いていくようになっており、負担なく積み重ねていけるよう工夫されている。また、過去形(動作を表す語)や頻度を表す語等、話題に変化をつけながら何度も繰り返して取り扱い、定着を図るよう工夫されている。

〔例〕 6年P36～37 Unit 4 「Your Turn」、 「Word Link」、 「Sounds and Letters」

6年P34～39 Unit 4、P50～55 Unit 6、P64～69 Unit 7 (過去形)

- 映像や音声をふんだんに用いて効果的に学習できるよう工夫されている。教科書及び分冊の紙面には、二次元コードやURLが示され、映像や音声などのデジタルコンテンツにアクセスできるようになっており、児童が学校だけでなく、家庭においても映像や音声にふれて、興味・関心を高められるよう工夫されている。

〔例〕 5年P17 Unit 1 「Interviews! 日本のすてき」

- すべてのUnitが、「音に出会う」「会話に慣れる」「コミュニケーションを楽しむ」「世界を広げる」という4つのパートの基本構成になっていることで、児童が見通しをもって活動できるよう工夫されている。Check Your Stepsでは、巻末コミュニケーションカードを使った成果物を貼ることができ、テーマに沿ったスピーチをしたり、それをもとにコミュニケーションを行ったりできるよう工夫されている。また、「ふり返ろう」への記入とあわせて、ポートフォリオとして評価や振り返りの材料となるよう工夫されている。

さらに、英語で何ができるようになるのかを別冊にも示し、児童がゴールの姿をイメージできるよう工夫されている。

〔例〕 5年P4～5 「たくさんの発見をしながら、英語を学ぼう。」

6年P80～81 「Check Your Steps 3」

別冊P44～45 「英語で何ができるようになるのかな？」

- 各学年2つ目のまとめりである「地域紹介」では、自分の住んでいる地域のことを紹介したり、世界と日本とのつながりを考えたりするなど、地域社会と連携した学習ができるよう工夫されている。また、Check Your Stepsの中で完成した作品を使って、地域・社会との連携を図ることもできるよう工夫されている。

〔例〕 5年P37 「Open the Door 2」、P62～63 「Check Your Steps 2」

- 児童の身近な生活を舞台とし、2年間を通したストーリーを設定し、日常生活や学校生活に関連する場面が多く取り入れられ、児童が、自分のこととして自らの学校生活と重ね合わ

せながら学ぶことができるよう配慮されている。

- 6年Unit5は、理科で学習した「食物連鎖」の内容をもとに学習できるよう工夫されている。また、図画工作科と関連されたカードづくり、算数科のたし算、音楽科の和楽器、家庭科の栄養素、社会科の食料や輸出入等、他教科等との関連が図られるよう配慮されている。また、それらの箇所には、他教科等との関連があることがわかるようマークが示されている。

〔例〕 6年P42～49 Unit5 「We all live on the Earth」 (理科、社会科等)

6年P50～59 Unit6 「Let's think about our food」 (家庭科、国語科等)

## 2 使用上の便宜

- 第5学年では日本を、第6学年では世界をテーマに学習内容を組織し、異学年で使う表現や話題をつなぎ、各学年8つのUnitを3つのまとまりとしている。自分から出発し、地域、日本、世界を考え、再び自分を見つめられるよう工夫されている。8つのUnitの他に、テーマ別のまとめとして年3回、学びを「振り返り」、伝える力を「確かめる」ためのCheck Your Stepsがあるという構成になっている。

〔例〕 6年表紙裏、P1 「『6年生のテーマ』世界に生きるわたしたち」

- 別冊があり、別冊のPicture Dictionaryは、2年間使い続ける構成になっている。別冊には、中学校の学習にも配慮して選定された、小学校で学びたい語や表現がジャンル別に収録されており、持ち運びの負担に配慮した小判になっている。本体は、文字の書き込みやすさやカードの貼りやすさに配慮した大判になっている。また、1ページで1単位時間扱いの見開き構成になっており、学びやすいよう工夫されている。

- 巻頭に、テーマと3つのまとまりを写真で示し、学習の見通しをもてるよう配慮されている。第5学年では、次の2ページにわたって、「英語ができるようになったらできること」を写真と文で示し、英語学習への期待が高められるよう工夫されている。目次では、3つのまとまりを意識できるように、Unitの部分が色分けされている。巻末には、コミュニケーションカードがあり、活動を通して、児童の思いを形にして楽しみながら学べるよう工夫されている。また、第5学年では、アルファベットの書き方、第6学年では、アルファベットチャートが資料として記載されている。

〔例〕 5年P2～3 「英語ができるようになったら、未来が広がるよ！」

- 外国人児童が日本語を介さずに指示を理解できるよう、4技能がキャラクターで示されている。また、学習過程がわかりやすいよう、活動が紙面上の定位置に配置されている。巻末コミュニケーションカードにミシン目を入れて切り離しやすくしたり、巻末の4線ノートを書き込みしやすい紙質にするなど配慮されている。文字に関しては、ユニバーサルデザイン字体を使用し、4線の幅や基線の色使いにも配慮されている。

〔例〕 5年P2～3 (4技能のキャラクター：スピーキング・バード等)

## 3 その他

- 第5学年のUnit7～8は、「日本」をテーマに日本のことを紹介する単元であり、それを受けて第6学年のUnit4～6「世界と日本」で世界と日本のつながりを考えるなど、文化に対する関心や理解を深めようとする態度が養えるよう工夫されている。また、各Unitの最後に「世界を広げる」(Over the Horizon)が設けられ、内容に関連するクイズや英語を使う活動があり、言語の背景にある文化等をより深く学ぶことができるよう工夫されている。

さらに、外国で活躍する日本人や日本で活躍する外国人を豊富に取り上げ、グローバル社会を生き抜く力を育成するという観点が重視されている。

〔例〕 5年P24～25 Unit2 「Over the Horizon 世界の一年について考えよう。」

5年P80～81 Unit8 「Over the Horizon 日本生まれのヒーローについて考えよう。」

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
英 語	Junior Sunshine	9 開隆堂

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 第5学年では、自分の名前や好きなものの紹介等、自分のことについて英語で表現する内容から始まり、あこがれの人、年賀状の作成、特別な人へのメニュー、自分の町の紹介等、広い場面・状況で英語を活用するよう配慮されている。さらに第6学年では、日本の紹介、世界の衣食住、世界で活躍している人など、国際社会を意識させる内容へと広がるよう工夫されている。各lessonのLet's Playでは、そのlessonでの学習内容を踏まえ、ペアやグループで自分の考えや気持ちを伝え合う活動が設定されている。さらに、第5学年も第6学年も、Project 1、2が用意され、協力し合ってゲームやクイズをする活動、グループで自己紹介をし合う活動、お世話になった人に感謝の気持ちを伝える活動等、既習の表現を使って主体的・対話的で深い学びの実現を図るよう工夫されている。

〔例〕5年P56～59 Lesson 7 「Happy New Year」、P33～37Project 1 「パーティーを楽しもう。」

- どのlessonも、まずリスニングによるインプットから始め、ゲームやチャンツなどの活動で基礎を身につけられるよう配慮されている。ほぼすべてのlessonにおいて、Let's Listen → Let's Play → Let's Try の過程で目標表現を使った活動を段階的に繰り返し、定着を図るよう工夫されている。また、互いの考えや気持ちを伝え合う基本的な表現(like, can, want (to), have) や身近なものを表す表現(食べ物、スポーツ、年間行事、学校生活、身の回りのものなど)が、2年間にわたり繰り返し提示され、自分のことを伝え合う言語活動がしやすいよう工夫されており、重要な表現を自然に繰り返し学習できるよう配慮されている。書く・読む活動は、教科書の後半にまとめられ、第5学年の「大文字を書こう。」から第6学年の「ポスターから情報を読み取ろう。」まで、lessonごとに段階的・体系的に学習できるよう配慮されている。

〔例〕5年P82 Lesson 1 「大文字を書こう。」、6年P100 Lesson11 「ポスターから情報をよみとろう。」

- 各単元に視聴覚教材が用意され、音声や動画を有効活用し、児童の興味・関心を高めるよう工夫されている。また、音声や動画など学習に効果的なコンテンツが活用できるよう二次元コードやURLが表記されている。

〔例〕5年P18～19 Lesson 3 「Let's Listen 1」、 「Let's Watch and Think」

- 表紙の裏に「CAN-DOマップ」が提示され、一年間で学習する内容の見通しをもちやすいよう工夫されている。各単元の最後に、「ふりかえりをしよう」の欄を設け、学習したことを児童自身が振り返ることができるよう工夫されている。

〔例〕6年表紙裏(CAN-DOマップ)、P5 Lesson 1 「ふりかえりをしよう」

- 随所に地域的な話題を取り上げることで、児童が自分の住んでいる地域について考えるきっかけとなっている。第5学年「わが町しょうかい」では、自分たちの町について紹介したり、ポスターを作ったりする活動があり、伝えたい、調べたいという意欲を高めるよう工夫されている。

〔例〕5年P68～73 Lesson 9 「I love my town.」、P74 「『自分の町しょうかい』ポスター」

- 第5学年では名刺交換をしよう、プロフィールカードを作ろう、年賀状を作ろう、ランチメニューを考えよう、第6学年ではツアープランナーになろう、短冊に願いを書こう、思い出を絵本にしよう等、児童の興味・関心を高めるよう言語活動の題材が工夫されている。

〔例〕5年P26～32 Lesson 4 「Can you do this?」、6年P52～59 Lesson 9 「My Favorite Memory」

- 目次や各lessonの活動のページに、他教科との関連がわかるよう教科ごとのマークが示されている。社会科の世界と日本との関わりや様々な国の様子を知る学習と関連付けた内容、地図記号や日本の地理の学習と関連付けた内容、家庭科の食品と栄養素の学習と関連付けた内容の他、理科、国語科、図画工作科等、他教科等との横断的な学習や活動ができる内容が豊富に取り入れられている。また、多彩な職業を多くの箇所ですすことで、キャリア教育についての配慮がされている。第5学年のLesson5の最後には、「プログラミングで道案内」が配置され、プログラミング学習に関連する活動が取り入れられている。

〔例〕 5年P12～17 Lesson2 「When is your birthday?」 (国語科、社会科)

6年P66～67 Lesson10 「I have a dream.」 (キャリア教育)

## 2 使用上の便宜

- どのlessonも、聞く活動から始まり、簡単な表現を発音する、チャンツをする、簡単なゲームの中でやり取りをする、自分のことを話す、相手とやり取りをする、グループまたはクラスの前で発表する、のように、たくさんのインプットからインテイク、アウトプットへと活動が配置されている。文字、読み・書きの学習は、教科書の後半にまとめられ、高学年で初めて英語の読み・書きを学習する児童が、lessonの中で話す・聞く活動に焦点を置きやすいよう配慮されている。学習内容の分量は、1単位時間の授業内容が1ページ程度になっており、児童に過重な負担にならないよう配慮されている。

- 判型はA B判で、児童が机の上で扱いやすい大きさになっている。児童が読み書きするページでは、鉛筆で書きやすく、消しゴムで消しやすい紙が採用されている。また、製本は、大きく開くことができ、堅牢なつくりになっている。

- 目次の各lessonの欄に「文字に慣れよう」の表記があり、それぞれの学年での「書くこと」の学習内容がわかるよう工夫されている。巻末には、付録として、「発音クリニック」、「この教科書で学んだことリスト (各学年)」、「単語リスト (各学年)」、「絵カード」、「ローマ字表 (へボン式)」、「アルファベット」がつけられている。「絵カード」は、厚手の紙に印刷され、切り離してそのまま授業の活動の中で利用することができるよう工夫されている。また、第6学年では、「中学校につなげよう」も巻末付録に加えられており、中学校への接続を図る工夫がされている。

〔例〕 5年P2～3「もくじ」、P108～113「この教科書で学んだことリスト」

- 日本語の文章表現は、意味のまとまりのある表現の途中で切れることがないように文節で改行されているなど、児童が読みやすいよう配慮されている。絵や写真、図が豊富に使用され、視覚的に理解を助けるよう工夫されている。また、色遣い、色に関する記述が配慮されていたり、隣り合う色の区別がつきやすくなり、色には文字も付加したりするなど、カラーユニバーサルデザインに関する配慮がされている。1ページごとの余白が十分確保され、視覚情報量が児童の負担にならないよう配慮されている。

## 3 その他

- 日本や他の国の文化から児童に親しみやすいもの(食べ物、自然、世界遺産等)を取り上げ、それらの写真を多く掲載し、児童の興味・関心を高め、理解を深めるよう工夫されている。日本の文化と他国の文化を比較する单元では、自国の伝統・文化を再発見できるよう工夫されている。英語を通して、自国のことや外国の文化を学ぶことで、それぞれの国のよさを知り、自他を敬愛し、国際社会の形成に主体的に参画する態度を育むよう配慮されている。また、様々な国の人々を登場させ、国際協調の精神を養うよう工夫されている。

〔例〕 6年P18～23 Lesson4 「Welcome to Japan.」

P40～45 Lesson7 「Watch the world.」

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
英 語	JUNIOR TOTAL ENGLISH	1 1 学 図

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 小学校高学年の日常生活が舞台となっており、児童にとっての身近な話題が豊富に取り上げられている。学級での朝の様子、スーパーマーケットや休日のデパートの様子、友だちの家に遊びに行った時の様子、授業前の教室の様子、町内会の行事等、実際に児童自身が経験したことがあるような場面や、海外のレストランの場面や海外から転校生が来る場面等、児童が自分の生活の中でも使える、将来使ってみたいという意欲をもたせるような場面設定となっている。各lessonは、2～3つのSceneに分かれており、各Sceneは3コマのイラストで示され、内容を推測しながら取り組めるよう配慮されている。また、各lessonには、2～3回のSmall Talkのアクティビティが組み込まれ、その単元で学んだ表現を使った主体的・対話的で深い学びの実現を図るよう工夫されている。

〔例〕 Book 1 (5年) P70～80 Lesson 5 「What time do you get up on Sundays?」、  
P72～73 L. 5A 「Let's Listen Let's Chant」、 「Small Talk」

- 各lessonをA、B、Cの3つまたはA、Bの2つのセクションに分け、それぞれのSceneを設定し、1セクション2単位時間で同じ目標表現を繰り返し学習するように構成されている。また、毎時間行う基本セットをlessonごとに設定している。「基本セット」は、Songs for Lessons、Let's Listen、Scene、Let's Chant で構成されており、内容は聞く活動が中心になっている。「基本セット」を毎時間繰り返すことで、目標表現の定着を図るよう工夫されている。「Let's Listen Let's Chant」の欄には、聞いた回数をチェックするための表記があり、繰り返し聞いて気づきを促すよう工夫されている。年間10回のAlphabet Cornerでアルファベットの読み書きを繰り返し、定着させるよう工夫されている。

〔例〕 Book 1 (5年) P7 「学習の流れ」、P24 L. 1A 「Let's Listen Let's Chant」  
P32 Alphabet Corner 「大文字さがし」

- インターネットのコンテンツを活用できる「クラスルーム・イングリッシュ」、「あいさつをしましょう」等のページには二次元コードが表記され、音声を聞くこともできる。各セクションには、視聴覚教材が用意されている。

〔例〕 Book 1 (5年) P8～9 「クラスルーム・イングリッシュ」、P36 L. 2A 「I'm thirsty.」

- 各Lessonの最初のページに「レッスンのとびら」が設定され、レッスンの目標、学習の進め方が表示されており、児童が見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。また、各活動につけられている番号(①、②、③等)は、1単位時間分ずつ色分けされており、1単位時間に学習する量が児童にもわかりやすいよう工夫されている。Book 1、Book 2とも、Lesson 1の前にPre-lessonを設定し、前学年までに学習した内容を振り返り、次の学習にスムーズに進めるよう工夫されている。単元の最後のページに「Check Time」の欄を設け、学習したことを児童自身が振り返ることができるよう工夫されている。

〔例〕 Book 1 (5年) P21 Lesson 1 「What sport do you like?」 (レッスンのとびら)  
P17～20 「Pre-lesson」、P31 「Check Time」

- 夏休みに出かけた場所や、自分たちの地域でできることの紹介など、自分たちの地域について考える内容が取り入れられている。

〔例〕 Book 2 (6年) P53～63 「Lesson 4 I went to my grandparents' house.」  
Book 2 (6年) P67～75 「Lesson 5 We have a big park.」

- 各lessonの初めの聞く活動では、始業前の教室、朝の校庭、教室の窓から見える町の様子、習い事、雑貨店での買い物、レストランでの注文等、児童の生活に密接に関わる場面が多く



取り上げられている。また、Small Talkでは、身近で具体的な内容を示し、児童が興味・関心を持って言語活動に取り組めるよう工夫されている。

〔例〕 Book 1 (5年) P33~43 Book 2 (6年) 「How many CDs do you have?」

Book 2 (6年) P45 「Small Talk」 (あなたの好きな食べ物をしょうかいしましょう。おいしそうに言えましたか。)

- 他教科との関連がある内容は、マークを使ってわかりやすく表示され、各lessonに組み込まれている。国語科、社会科、算数科、理科、音楽科、家庭科等、多岐にわたった他教科等との関連が図られている。また、算数科の面積や対称な図形の学習内容に「ロボットを動かそう!」を組み合わせ、プログラミング学習を意識した活動が工夫されている。

〔例〕 Book 1 (5年) P27 「世界の楽器」 (音楽科)

Book 1 (5年) P63 「ロボットを動かそう!」 (プログラミング学習)

## 2 使用上の便宜

- 各lessonは、「聞く」→「聞いて繰り返す」→「話す(やり取り)」→「話す(発表)」 「読む」「書く」と内容が配列されている。豊富なインプットの活動から始まり、「聞いて繰り返す」という簡単なアウトプット、さらに「やり取り」や「発表」といった児童が自分のことを伝えるアウトプットへと活動が配置され、易から難へと段階的に進められるよう配慮されている。1ページが1単位時間の授業の内容になっており、児童に過重な負担にならない分量になっている。1つの活動を15分で行う構成になっており、短時間学習に対応したつくりになっている。

〔例〕 Book 2 (6年) P4~7 「『JUNIOR TOTAL ENGLISH 2』で学習しましょう!」

- 判型はA版で、大きく見やすい誌面になっている。
- 表表紙の裏には、Book 1では、「英語が使われているいろいろなシーン」の写真が掲載され、児童の身近で見られる英語の表示が紹介されている。また、避難場所を知らせる表示、津波注意の看板等、危険から身を守るための表示に英語が使われている事例も示されている。Book 2では、「英語を使用する職業」として、通訳、翻訳者、パイロット等の写真が紹介されている。巻頭には、各lessonのテーマと目標表現が簡潔に表記された目次、教科書の使い方、学習の進め方、「クラスルーム・イングリッシュ」、これまでに学んだことを振り返るPre-lessonが用意されている。巻末には、毎時間行う「基本セット」の中のSongs for Lessonsの歌詞、Word List、ローマ字表等が用意されている。

〔例〕 Book 1 表表紙裏「英語が使われているいろいろなシーン」、P2~3「目次」

- イラストや写真が豊富に使われ、視覚的に理解を助ける工夫がされている。カラーユニバーサルデザインや、見やすい字体が採用されている。4線の間隔を5:6:5にすることで、小文字を書きやすくする工夫がされている。巻末のWord Listは、すべてイラストと文字で表記されているため、イラストを手掛かりに単語の意味を推測できるよう配慮されている。

〔例〕 Book 1 (5年) P144~151 「Word List」

## 3 その他

- 日本各地の伝統的な祭り、伝統料理、各地の観光地や世界遺産、世界で活躍した日本人等、日本の文化を知り、英語で発信する活動が多く取り入れられ、自国の伝統・文化を再発見できるよう配慮されている。各lessonの最後のページの「Column コラム」では、様々な国を取り上げ、世界の文化や風習、その背景にある思いにふれ、児童が多様な考え方に気づき、自国や他国の文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度や国際協調の精神を養うよう工夫されている。

〔例〕 Book 2 (6年) P41~52 Lesson 3 「What festival do you want to see?」 (日本の祭り)」、P90 Column 「どんな人にも快適な生活を」

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
英 語	CROWN Jr.	15 三省堂

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- コミュニケーションの場面は、家庭生活、学校生活等、身近な暮らしに関する場面や、買い物、道案内といった英語が使用でき役立つと感じられる場面が設定されており、主体的で対話的に学習に取り組めるよう工夫されている。コミュニケーションの場面で使用できる語彙や表現のリスト、コミュニケーションを行うときに必要な内容等が豊富に配置され、「話す」活動、「聞く」活動に積極的に取り組めるよう工夫されている。また、コミュニケーションの目的、場面設定をわかりやすくするために、多くのさし絵が使用されている。児童が感情移入できるように登場人物の様子が描かれており、それらによって、主体的に活動に取り組めるよう工夫されている。

〔例〕 6年P16～25 Lesson 1 「We are from India.」、5年P86～87 Try 「道案内」

- 各Lessonは、たくさんの「聞く・話す」活動で始まり、その後「書く」活動が設定されている。Listen&Talk→Enjoy Listening→Talk to Friendsの流れの中で、新しい語句や基本的な表現などに何度もふれ、繰り返し練習して自然に理解が深まるよう工夫されている。Stepでは、目的・場面・状況に応じて思考力・判断力を働かせ自己表現させることを通して定着を図ったり、グループ活動を通して互いに学び合いながら定着を図ったりできるよう工夫されている。Storyでは、児童になじみのある物語を使って、英語に自然に親しみ、「聞く・読む」活動に取り組めるよう工夫されている。各Lessonのまとめには、「書く」活動がある。自分の考えや気持ちを表すことを通して、文字にふれることができるよう工夫されている。

〔例〕 5年P16～25 STEP Lesson 1 「I have many yo-yos.」

P19 Story 「The North Wind and the Sun (北風と太陽)」

5年P48～49 Lesson 3 「Write & Speak」

- 豊富な音声教材と視覚教材を使って充実した活動ができるよう工夫されている。二次元コードが随所に配置されており、タブレットやスマートフォンなどのICT機器を使って読み込めば、それぞれの箇所の単語や文の音声を何度も聞くことができるよう工夫されている。そして、家庭学習においても、自主的に学習に取り組めるよう工夫されている。Panoramaは、音声の出る絵辞典のようになっているので、興味・関心を高めて語彙を増やすことができるよう工夫されている。

〔例〕 5年P26～27 Lesson 2、6年P42～43 Lesson 3 の「Panorama」

- 大単元の構成は、学習の見通しを立てる (HOP) →基礎的・基本的な表現の知識・技能の習得 (STEP) →実際の場面で英語を使用する活動とその振り返り (JUMP) といったスモールステップで構成されており、学習の見通しを立てて、英語を練習しながら身につけ、実際の場面で英語を使ってみて達成感を味わえる振り返りができるよう配慮されている。HOPでは、STEP、JUMPを通して、自分は誰に、どんなことを伝えるようになりたいかを意識できるようになっている。JUMPの振り返りでは、目標が達成できたかどうか自己評価できるよう配慮されている。また、各学年の巻末にあるCAN-DOリストを使って、学年の初めに目標として意識づけをしたり、学年の途中や終わりに振り返ったりすることができるよう配慮されている。そして、それらを通して、わかったことやできるようになったことを確認して、学習への理解と意欲が高められるよう工夫されている。

〔例〕 6年P15 「HOP Get Ready 1」、P38～39 「JUMP Presentation 1」

- 家庭や地域とのつながりを題材とした、コミュニケーションの活動が設定されている。第5学年では、「友だちや家族の紹介」、「おすすめの場所・こと・もの」の題材を通して、第

6 学年では、「友だちや家族」、「日本の文化・他国の文化」の題材を通して、家庭や地域と関わる気持ちを育むよう工夫されている。

〔例〕 5 年 P40～49 Lesson 3 「She is a cook.」 (友達や家族の紹介)

6 年 P88～97 Lesson 7 「At This Moment」 (日本の文化・他国の文化)

- 題材の内容は、児童が興味・関心をもてるような身の回りの日常生活に関するもの、日本の伝統文化および他の国々の文化、動物や自然、将来の職業等が多く取り上げられている。第 5 学年では、「自分のこと」「友だちや先生など身近な人のこと」「日本のこと」等を扱い、第 6 学年では「自分たちのこと」「将来のこと」「世界のこと」等を扱い、題材の内容に広がりや深まりをもたせるよう工夫されている。

〔例〕 5 年 P39 HOP Get Ready 2 「Hello, Mr. Sano!」

6 年 P98 JUMP Presentation 3 「I want to be a .... 20年後のわたしはきっと…」

- 他教科等で学んだことが英語学習の中で生かされ、児童が積極的に学習できるよう工夫されている。また、キャリア教育とのつながりでは、将来の自分の職業について考える題材が取り上げられている。

〔例〕 5 年 P100 JUMP Presentation 3 「Mt. Fuji is beautiful.」 (社会科)

5 年 P108～109 「この日本語、どこから来たの？」 (国語科)

6 年 P78～87 Lesson 6 「I want to be a vet.」 (キャリア教育)

## 2 使用上の便宜

- 分量は、学習・指導上において無理がないよう配慮されている。単元展開や授業展開は弾力的に運用できる構成になっているので、時間数を調節できるよう工夫されている。そして、小学校段階で学習する語彙や文構造について、音声と文で繰り返し学習できるよう工夫されている。

- 紙面の構成は、大判 (A B 判) が使用され、イラストや写真が大きい。

- 「Words & Phrases」等、様々な付録が配置され、授業中だけでなく自主的な学習に活用できる。第 5 学年の巻末には、「時差時計」等のカードや地図を切り取ることができ、それらを使って理解できるよう工夫されている。第 6 学年の巻末には、「絵日記台紙」等のカードを切り取ることができ、それらを使って言語活動に取り組みよう工夫されている。また、ことばや文化に関するコラムや資料があり、英語を学ぶことの意味やおもしろさに気づくよう工夫されている。

〔例〕 5 年 P112～127 「Words & Phrases」、P110～111 「英語が話されている国ぐに」

- 特別な配慮を必要とする児童への配慮として、文字や図版が見やすい紙面になるように、判型は大判 (A B 判) が使われており、文字の大きさや字体は読みやすいよう配慮されている。どこに何があるかわかりやすくするために、囲み、線、アイコンに工夫がされている。5 領域を示すアイコンを使用することで、どんな活動をするのか一目でわかるよう工夫されている。イラストや図版などは、誰にでも見やすい紙面になるように色の配色や濃淡に配慮がなされ、カラーユニバーサルデザインへの配慮がなされている。

〔例〕 5 年 P7 「この教科書で使われているマーク」

## 3 その他

- 世界にある様々な言語・文化に関心を持ち、英語を学ぶことで広く世界に扉を開くことができるということを理解できるよう工夫されている。また、児童が相手を大切にしながら関わろうとする気持ちや態度を育てる題材を取り上げ、国際社会の形成に積極的に参加しようとする態度を養うよう工夫されている。

〔例〕 5 年 P91 「実世界の英語 海外旅行の計画を立てよう」、6 年 P36 「世界のまつり」

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
英 語	ONE WORLD Smiles	17 教 出

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童が主体的に学ぼうとする意欲をもてるよう、学校生活に合った活動やテーマを多く取り入れている。また、外国人に対して説明する場面を設定する等、英語を使う必然性を感じられるよう工夫されている。「Let's Think」では、言語や文化、コミュニケーション等について、気づきや思考を促す問いを設置し、考えを深める機会となるよう工夫している。また、自分との共通点や違い、他の児童のよい点に気づきながら、自尊感情を高めることや他者理解へとつながるよう、ペアやグループで取り組む言語活動等、協力し合いながらの活動がたくさん盛り込まれている。これらによって、主体的・対話的で深い学びの実現を図るよう工夫されている。

〔例〕 6年P68 Lesson 6 「Let's Think 2 スポーツ選手をどんな人たちが支えているかな。」  
5年P63 Lesson 5 「グループの中で、できることを発表しよう。」

- シールを使って他の児童のための食べ物・飲み物を作成して活動する等、児童が思わず話したくなる、やってみたくなるような、表現意欲を高めるよう工夫されている。繰り返し語句や表現にふれることで、定着を図るよう工夫されている。また、各lessonの終わりには、単語を探したり書いたりする活動や音声と文字のコーナーが設けられ、負担なく文字に慣れ親しむよう工夫されている。

〔例〕 5年 Lesson 7 P84 「Activity 1」、P88 「Sounds and Letters」、P89 「Review」

- 映像や音声に十分にふれて学習できるよう配慮されている。また、インターネットを活用して児童がデジタルコンテンツを視聴して自主的な学習に活用できるよう、二次元コードとURLを目次に掲載している。

〔例〕 6年 Lesson 1 P12～13 「Let's Watch」

- 児童が学習の見通しをもって学べるよう、各lessonの初めに、ねこのキャラクターが紹介する形で目標を明示している。また、児童が興味をもって学べる必然性のある活動の設定と育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って達成度を確認できる振り返り表を通して、主体的・対話的で深い学びを実現するよう工夫されている。

〔例〕 5年 Lesson 1 P15 (目標の明示)、P23 「Lesson 1 をふりかえろう」

- 第5学年では、各地の名所や名物をイラストや写真で紹介した日本全国地域ごとの地図をを使って3ヒントクイズ等を作り、やり取りをすることで、地域と関わった取組を行うことができるよう工夫されている。また、第6学年では、自分の住んでいる地域の紹介を通して、地域のよさについて考えたり伝えたりする活動が設定されている。また、第5学年では、家庭での役割を題材とする等、家庭や地域社会と連携した学習を実施しやすいよう工夫されている。

〔例〕 5年P66～79 Lesson 6 「Where do you want to go?」

6年P22～31 Lesson 2 「My town is beautiful.」

- 主体的な学びを促進し、対話的な学びへと導くため、児童の興味・関心に合った題材を設定している。たとえば、第5学年では、夢の教育番組を考える題材、第6学年では、自分の町のおすすめの場所を書いたシートを作り、グループで観光マップを作る題材、第6学年の最後にはこれまでに学んだことを生かして自分のことを書いてMy Bookを作る題材等が取り上げられている。

〔例〕 5年 P37 Lesson 3 「Let's Listen 2」 「Activity」

6年 P28～29 Lesson 2 「Let's Read and Write」 「Final Activity」

## 6年 P101 Lesson 9 「Plus Activity」

- 低学年の道徳科や国語科に使われる教材を、漫画やイラストとともに英語で掲載するなど、他教科で学習した話を読む活動を設けている。第5学年では、都道府県の「名所・名物マップ」を掲載したり、地図記号を扱ったりする等、社会科の学習との関連がある。他にも、家庭科との関連でおすすめのメニュー作り等、他教科等との関連が図られるよう工夫されている。また、第5学年のLesson 1では自己紹介、同Lesson 2ではクラスの誕生日カレンダー作りといった、学級づくりとも連携を図れる活動が設定されている。第5学年、第6学年とも、将来の夢というキャリア教育につながる内容を含んだ題材も取り上げられている。さらに、第5学年では、学校のルールや避難訓練の合言葉等、道徳や保健衛生、防災等の観点を含む内容が配置されている。

〔例〕 5年 P72～75 「Welcome to Japan 名所・名物マップ」 (社会科)

6年 P82～85 Let's Read and Act 2 「The Letter (by Arnold Lobel)」 (国語科)

6年 P86～93 Lesson 8 「What do you want to be?」 (キャリア教育)

## 2 使用上の便宜

- 各Lessonの題材内容は、児童の発達段階、興味・関心について配慮されている。学級内での自己紹介から、学校や地域、国内、海外へと、学年や単元が進むにつれて徐々に視点が広がっていくよう配置されている。また、分量については、児童に負担がないよう工夫されている。
- 本体の判型は、A B判であり、大きく見やすい紙面になっている。
- 巻頭には、地球の写真と、世界各国の子どもたちが自分の国の挨拶や将来の夢・好きなことや言葉を掲げた写真を載せている。目次の次のページには、クラスルーム・イングリッシュやコミュニケーションを行うときに大切にしたいこと、1年間の学習目標が載せられている。自分が英語でできるようになりたいことを書く欄もあり、意欲をもって学習を始められるよう工夫されている。巻末には、語句や表現がまとめて載せてあり、学習中も使えるよう工夫されている。発展として、Let's Enjoy the Musicのコーナー、第6学年では辞典の使い方が載せられている。巻末折込には、アルファベット表・ローマ字表が掲載され、参照しやすいよう工夫されている。活動に使う切り取り線付きの絵カードや第5学年では、活動用のシールも用意されている。

〔例〕 5・6年表表紙の裏～P1 「Welcome to ONE WORLD Smiles!」

P4～5 「Classroom English」 「5年生(6年生)の英語の学習が始まるよ」

5年 P112～117 「My Word Bank」

- 本文等、読みやすい位置で改行され、内容を理解しやすいよう工夫されている。コーナーごとのアイコンも一目見ただけで、するべきことがわかるよう工夫されている。また、色覚特性によって影響が生じないよう、カラーユニバーサルデザインとして、識別しやすい配色を用い、アルファベットについては、書くときのアルファベットに近い形状の字体が使用されている。4線の上下幅は、4:5:4とし、書く練習もしやすいよう工夫されている。日本語についても、特別支援の観点で読みやすいユニバーサルデザインの字体を用いている。

## 3 その他

- 国際理解につながるコーナーとして、「Let's Look at the World」が設けられている。5年Let's Look at the Worldでは、外国の学校の様子を知り、自分達の学校の違いや共通点を知ること、6年Lesson 3では、好きな日本文化を紹介するポスターを作って発表する活動等を通して、伝統文化を尊重し、国際社会の平和を願う気持ちを育むよう配慮されている。

〔例〕 5年 P45 「Let's Look at the World 1」、6年 P32～41 Lesson 3 「Welcome to Japan.」

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
英 語	Here We Go!	38 光 村



1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 第5学年、第6学年を通して一貫したストーリーになっている。第5学年の児童が、オーストラリアやアメリカ、インド出身の友だちと交流し成長していく内容となっており、それぞれ異なる文化的背景をもった登場人物たちの交流と成長、彼らが学校生活の中で協力し合う姿にふれることができる。児童の興味・関心を引き出す内容を設定することで、主体的な学習を促すよう工夫されている。各Unitの最後には、「できる」「考える」「深める」という3つの観点による「ふりかえろう」のコーナーが用意されている。Unitの学習を主体的・対話的で深い学びの観点からも振り返ることができるようになっている。

〔例〕 5年P27「ふりかえろう」

- 各Unitは、Hop!→Step 1→Step 2→Jump!の順で構成されている。Stepのページは見開きで構成されており、ストーリーの中のターゲットとなる表現に気づくことから始まり、聞く活動→チャンツ→簡単な練習→言語活動→書く活動と、スモールステップを踏めるよう配慮されており、繰り返し表現に慣れ親しみながら定着が図れるよう構成されている。また、第5学年、第6学年ともLet's startを設け、中学年の外国語活動や前学年までに学習した英語の表現に繰り返しふれることができるよう工夫されている。読み書きの学習においても、段階を追って繰り返し慣れ親しめるよう配慮されている。

〔例〕 5年 P10～19「Let's start!」

P55右下「 」、P134～135「Sounds and Letters」

- 映像資料を視聴して考える活動が全Unitに設定されている。ストーリーはアニメーション動画が用意されており、コミュニケーションの場面や状況を視聴することができる。映像の一部と音声は、二次元コードを使用して参照できるようになっている。

〔例〕 5年P20「Story」、P22「Let's watch.」

- 巻頭には各UnitのGoalを一覧できる「もくじ」、学習の仕方を視覚的に示す「教科書の使い方」、「5年生（6年生）でできるようになること（CAN-DO）」が示されている。Hop!のページには単元のゴールが示されており、できるようになることを確認してから学習を始められるよう工夫されている。Stepのページは見開きで構成されており、聞く活動から徐々に話す活動、書く活動へと進むよう工夫されている。Jump!のページでは、慣れ親しんできた表現を読む活動や、話し合う活動等、単元のゴール活動に取り組むよう配慮されている。

〔例〕 5年 P6～7「教科書の使い方」P8～9「5年生でできるようになること（CAN-DO）」

Unit 9 P107右上「Goal」、P108～109「Step 1」、P112～113「Jump!」

- 家の手伝いを題材にしたり、家族のよいところに着目する題材を扱ったり、地域のよいところを発表する活動を行ったりする等、家庭や地域への関心を高めるよう工夫されている。

〔例〕 5年 P52～59 Unit 4「What time do you get up?」

6年 P70～77 Unit 6「This is my town.」

- 各Unitには世界12か国に住む小学生たちが実際に話しかけるWorld Tourのコーナーが設けられている。英語を使うことを楽しみながら自分の考えを話す同年代の小学生の姿を視聴することによって、児童の学習意欲が高まるよう工夫されている。Unitを支える教材として、Fun Timeがある。Fun Timeは「文字遊び」を系統的に位置づけており、楽しみながらアルファベットの字形、読み方、音に慣れるよう配慮されている。題材については、自分のことや地域のことを伝える、夏休みの出来事や感想を伝える、中学校で入りたい部活動を伝える等、児童にとって身近な場面を設定し、関心をもちやすいよう工夫されている。

〔例〕 6年 P24「World Tour」、P36～37「Fun Time 2」

(題材例) 5年 P20~27 Unit 1 「Hello, everyone.」

6年 P50~57 Unit 4 「My Summer Vacation.」

- 国語科との関連を図るため、各学年に「言葉について考えよう」が設けられている。この他、社会科、家庭科等、他教科等で学んだことを生かせる活動が設定されている。児童がすでにもっている経験や知識を生かし、児童の意欲を高め、活動内容を深めるよう工夫されている。

〔例〕 5年 P92 「言葉について考えよう」 (国語科)

5年 P82~89 Unit 7 「What would you like?」 (家庭科)

6年 P79 Fun Time 6 「学びをつなげよう」 (社会・図画工作科)

## 2 使用上の便宜

- 言語材料、言語活動、題材内容など各方面にわたって、平易なものから難しいものへと段階的に指導できるように配慮され、児童の発達段階に応じたコミュニケーションのレベルや題材の扱いとなるよう工夫されている。内容の構成は、第5学年、第6学年とも1年間の学びのスタートであるLet's startから始まり、Unitとそれを支える教材を関連づけながら学習を進めていく構成になっている。Hop!、Step 1・2、Jump!はそれぞれ見開きで共通した構成になっており、基礎的な知識理解、技能の習得と活用から思考力、判断力、表現力を養う言語活動へと至る学習の過程となっている。各UnitのHop!は見開きを使ったパノラマのイラストで、Unitのストーリーを視聴して概要を捉えることができるよう工夫されている。

- 判型については、A B判を採用している。その為、紙面が大きく見え、児童が学習しやすいよう配慮されている。

- 巻末には、「絵辞典」「ペンマンシップ・シート」「Let's play sugoroku.」「学びのパスポート」等がついている。絵辞典はカテゴリー別に語彙が整理され、既習の語を探して使えるよう工夫されている。ペンマンシップ・ノートは水性ペンを用いて、文字を何度も書いて練習できるようになっている。Let's play sugoroku.はすごろく遊びで、「英語でできるようになったこと」を確認できるよう工夫されている。また、学びのパスポートには学んだことを書き込むことができるようになっており、学年末に自分の成長を振り返ることができるよう工夫されている。他にも巻末には「学習した表現」の一覧や、アルファベットの音と文字の関係を一覧にしたSounds and Lettersのまとめがあるので、学習を振り返ることができるよう工夫されている。

〔例〕 6年 P118~135 「絵辞典」、P140~142 「Let's play sugoroku.」

- 各Unitのレイアウトが統一されており、同じ種類の情報を決まった位置に配置し、児童が迷わずに学習に取り組めるよう配慮されている。当該学年以上の配当漢字には全て振り仮名が付されている。児童が学習しやすい4線の幅に対応した字体のアルファベットを使用している。本文用紙は、軽くて裏写りにくく、鉛筆で書き込みやすい質感の紙が用いられている。カラーユニバーサルデザインへの配慮を行い、色覚特性のある児童も学習しやすいように紙面が工夫されている。

## 3 その他

- 世界12か国の子どもたちの生活の様子や、世界で活躍する日本人を題材として取り上げる等して、自国や他国への関心を高め、その生活や文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うよう配慮されている。また、ひな祭りや七夕など、日本の伝統行事を外国の人に紹介する活動が設定され、日本には季節ごとにいろいろな祭りや行事があること、また地域によっても多様であることに気づき、伝統文化への関心が高まるよう工夫されている。

〔例〕 5年P50~51 Review 「世界の友達1」、6年P28~35 Unit 2 「Welcome to Japan.」

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
英 語	Blue Sky elementary	6 1 啓林館

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 第5学年では、主に自分の身近なことや知っていることを英語で表現する内容を多く扱い、第6学年では、自分たちの町や地域の紹介、小学校の思い出紹介、将来の夢紹介等、身の回りのことをもう少し詳しく調べたり、身の回りから少し離れたことを知ったり、考えたりしながら学習する内容を多く扱っている。いずれも児童の興味・関心を引き出す内容を扱い、主体的な学習を促している。各Unitには3つのPartがある。各Part末のActivityでは、ペアワークやグループワークが設定されており、主体的・対話的な学習を通して自分の考えや気持ちなどを伝え合う力が養えるよう配慮されている。各Unitの最初に設定されているListen and Guessでは、英語の意味や使い方について、児童が推測し、自ら考え、理解できるような学習活動になるよう工夫されている。

〔例〕 6年 P30～39 Unit 3 「I want a big park in our town.」

P30 「Listen and Guess」、P37 「Activity」

- 基礎的な語彙や表現は、各UnitでListen and PlayやChantなどで明示されている。これらの語彙や表現は、言語活動の中で繰り返し身につけられるよう工夫されている。また、各Unitの構成は短く簡単な表現を聞いて、意味や使い方を推測するインプットの活動から、学習した表現を実際を使って自分の言いたいことを伝えるアウトプットの活動へと発展するよう工夫されている。Unitの最終活動として、学んだ語句や表現を使ってやり取りや発表の活動を行う。定着を図るために、理解した表現を実際に使う活動までをスモールステップで学習できるよう工夫されている。各Unit末のLet's Read and Writeでは、アルファベットを讀んだり書いたりする練習を行い、定着を図れるよう促している。

〔例〕 5年Unit 3 P32～33 Part 1 「Listen and Play」 「Chant」

P35 Part 2 「Think and Say」、P37 Part 3 「Activity」

P39 「Let's Read and Write 3」

- 音声を用いた教材が随所に設定されており、臨場感をもってコミュニケーションが進められるようになっている。教科書に二次元コードを設けてJingleなどの音声素材にアクセスでき、授業の復習や自主的な学習ができるようになっている。

〔例〕 6年 Unit 7 P75 「Jingle」、P78 「Listen and Do 2」

- 各Unitは扉→Part 1・2・3→Looking Backで構成されている。各Unitの学習後にできるようになりたいことをGOALとして扉で提示し、学習の見通しが立てられるよう工夫されている。扉ページのイラストは、既習の表現を使ったやり取り (Small Talk) ができるよう工夫されている。また、GOALに向けたスモールステップのめあてを各Partに設け、各Partのページには、めあてに対する達成度を振り返り、色を塗るバロメータが掲載されている。Unitの最後には、学習した内容を振り返り、自己評価するコーナーとしてLooking Backが設けられている。主体的に学習に取り組む態度を児童自らが振り返る問いも含まれている。巻末にはCan-Do Listがあり、4技能5領域別の目標に対する達成度を自分自身で確認することができる。また、4技能5領域を示すアイコンが設定されており、それぞれの活動で身につける力を意識できるよう配慮されている。

〔例〕 6年 Unit 1 P11 「GOAL」、P12 Part 1 「できたかな?」、P18 「Looking Back」

6年 P120 「Can-Do List」、P2 「4技能5領域を示すマーク」

- 第5学年では、一日の生活、道案内を扱うUnitが設定されている。第6学年では、自分たちの町・地域、週末のできごとを扱うUnitが設定されている。学習を通して、家での役割分担や週末の家庭での過ごし方を見直すとともに、自分の住む地域への関心を促す題材が設定



されている。

〔例〕 5年 P30～39 Unit 3 「I sometimes walk the dog.」

6年 P52～61 Unit 5 「What did you do last weekend?」

- 題材については、児童の身近な場面から導入を図り、抵抗なく英語にふれられるよう配慮されている。身近な人とのやり取りを中心とした場面、思い出を伝える場面や自分のこれからについて発表する場面等が扱われている。登場するキャラクターは同年代の小学生や小学校の先生が設定され、児童が人物の言動に興味をもって学習を進められるよう工夫されている。防災・安全等の今日的な話題も取り上げられている。

〔例〕 5年 P20～29 Unit 2 「I study math on Monday.」

6年 P84～93 Unit 8 「I want to join the brass band.」

- 日本語との語順やアクセントの違いを取り上げており、国語科との関連が図られている。第5学年では、表やグラフを読んだり作成したりする活動が設定されており、算数科との関連が図られている。第6学年では都道府県の特徴や外国の祭りや習慣を扱っており、社会科との関連が図られている。この他にも、他教科等との関連が図られるよう工夫されている。

〔例〕 5年 P50 「Did you know?」 (国語科)

6年 P20～21 Unit 2 「Welcome to Japan.」 (社会科)

## 2 使用上の便宜

- Unitの各Partに見開きで2単位時間という余裕をもたせた時間配当で構成されている。第5学年、第6学年ともに8つのUnitが設定されている。各Unitの最初のページでは、イラストを見ながら英語を聞き、Unit全体のめあてを確認してからPart 1へと進む構成となっている。短時間で終わる活動や繰り返し学習する活動にはモジュールマークが付いており、状況に応じて柔軟に扱えるようになっている。各学期の最後にはREVIEWが設定されており、Unitで学習した表現の復習と活用ができるようになっている。

〔例〕 6年 P2 「モジュールマーク」、P40～41 「REVIEW 1」

- 判型については、A B判を採用している。製本はページが大きく開けられるよう配慮されている。

- 巻末のWord Listはカテゴリー別に学習する単語が一覧となっている。どのUnitで学習する単語かがわかるように、Unit番号が明示されている。二次元コードを読み取れば単語の読み方をすぐに音声で確認することができる。第5学年、第6学年ともに絵を見ながら物語の内容を推測するStoryコーナーが巻末に設定されている。巻末の絵カードは切り取りやすいようにミシン目が入っている。各ページにも「→絵カード」のアイコンがあり、どのUnitで絵カードが使えるのかわかりやすくなっている。

〔例〕 6年 P100～118 「Word List」、P96～99 「Story」

- 日本語にも英語にもユニバーサルデザインの字体を採用している。行間にゆとりをもたせたり、読みやすい文節で改行したりするなど、読みやすい紙面になるよう配慮されている。4線幅の比率は、5 : 6 : 5となっており、小文字が認識しやすいという工夫もされている。教科書全体をやさしい色使いでシンプルなデザインにするよう配慮している。

## 3 その他

- 英語の学習を通して、英語圏のみならず、広く世界に目を向け、国際理解、伝統文化についても幅広く考えられる題材が取り上げられている。各Unit末に設定されているDid you know?のコーナーでは、自国の文化について理解を深めたり、外国の言語的・文化的な内容に気づいたりすることができるよう工夫されている。

〔例〕 5年 Unit 3 P36 Part 3 「Listen and Do」、P38 「Did you know?」



# 道 德



(12) 特別の教科 道徳

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 道徳科における見方・考え方を働かせながら、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」の実現に向けた工夫 (2) 言語活動の充実を図るための工夫 (3) ICT機器を活用した学習活動の充実を図るための工夫 (4) ねらいとする道徳的価値への方向付けを図ったり、学んだ道徳的価値を基に自らを振り返ったりするための工夫 (5) 道徳科の特質に応じた体験活動を生かした工夫や、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫 (6) 児童が道徳的価値を自分との関わりで考えることができるような工夫 (7) 他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容の配列、分量についての特徴 (2) 判型、分冊等、造本上の特徴 (3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫 (4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
道 徳	新訂 新しい道徳	2 東 書

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 様々な活動の中で積極的に議論することを促し、児童の多様な考えを引き出せるようにするために、児童の発達の段階を踏まえたジグソーパズル、学校新聞、漫画など、様々な素材や方法を取り入れた教材が配置されている。

〔例〕 1年P70～72「みつけてみよう」 3年P91～93「教えて！なんでもそうだん室」  
5年P134～137「大きなじこをよぶ『ヒヤリ・ハット』」 など

- いじめ問題について全学年で取り上げられている。各学年とも、これからいじめについて考えるという示唆を与えるための「とびらのページ」、続けて直接的な教材、ねらいとする道徳的価値に迫る間接的な教材がユニットとして掲載されており、複数時間にわたり、深くじっくり考え、いじめをしない、許さない心を育てることができるよう配慮されている。ユニットは、目次のページで明示されている。

〔例〕 1年P46～52「いじめのないせかいへ」（とびらのページ）  
「ダメ」（直接的な教材） 「こころはっぱ」（間接的な教材）  
3年P29～36「いじめのないせかいへ」（とびらのページ）  
「しょうたの手紙」（直接的な教材） 「いいち、にいつ、いいち、にいつ」 など

- 人権・福祉、安全・防災、国際理解・平和、食育、オリンピック・パラリンピック、キャリア教育など現代的な課題に対応した題材を各学年で取り上げ、児童が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりできるよう工夫されている。また、情報モラルにおいては、発達の段階に応じて指導ができるよう配慮されている。さらに、インターネットについて、第4学年から第6学年までの各学年で異なる視点から扱い、学習が深められるよう工夫されている。

〔例〕 1年P110～112「いたずらがき」 2年P50～51「かむかむメニュー」  
3年P148～150「ひみつの手紙」  
4年P135～139「花丸手帳～水泳・池江瑠花子選手」  
5年P164～166「その遊び方、だいじょうぶ？」  
6年P18～19「しょうらいの夢を語ろう」 など

- 道徳的価値に根差した問題解決的な学習を取り入れ、児童が主体的に考え、判断し、意欲的に活動できるよう工夫されている。

〔例〕 2年P19～21「大すきな フルーツポンチ」 4年P104～106「お母さんのせいきゅう書」  
5年P26～29「駅前広場はだれのもの」 など

- 他教科の学習や生活に関連づけて、伝統と文化を尊重することの重要性に気づくことができるよう、巻末に折り込みを使った紙面の付録があり、多数の写真や資料が掲載されている。

〔例〕 3年P156～159「つながる 広がる ー日本の四季と伝統文化」  
4年P159～163「つながる 広がる ーきょうどに対する思い」  
5年P171～175「つながる 広がる ー日本のゆたかな自然と伝統文化」 など

- 「美しいものに感動する心」を扱った教材が複数取り上げられている。

〔例〕 2年P88～91「七つのほし」 4年P92～95「花さき山」 など

- 自分の考えをもとに話し合ったり書いたりするなどの言語活動が充実するよう工夫されている。

〔例〕 2年P102～103「ありがとうカード」 6年P96～97「言葉のプレゼント」

- 各学年4教材ずつ、インターネットを活用した学習ができるよう配慮されている。デジタ

ルコンテンツを活用することのできる教材には、表紙裏の目次と、各ページに「D」マークが提示されている。

〔例〕 3年P22「ツバメの赤ちゃん」 4年P126～129「世界の小学生」

6年P136「タマゾン川」 など

- 授業ごとに色を塗る「学習の記録」や、学習活動のページでの発言や考えたことをまとめる「学習のふり返し」「これからも かがやく自分に」「学習のまとめ」を設け、児童が自ら振り返って成長を実感できるよう工夫されている。

- 各学年で家庭や地域活動に関する題材を取り上げ、家庭や地域社会の一員としての役割と責任の自覚が深められるよう工夫されている。

〔例〕 1～2年ふろく「つながる ひろがる」 3～6年付録「つながる 広がる」

- 各教科での道徳性の育成につながる教材や学習活動が取り上げられ、関連が図られている。また、巻末の付録には、発達の段階に応じた歌や、各教科と関連した内容が掲載されるなど、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての道徳科の指導ができるよう工夫されている。

〔例〕 1年P122「ちいさな せかい」（音楽科）

2年P134「なにに 気をつければ よいのかな」（生活科）

5年P172～175「短歌によまれた美しい自然」（国語科）

6年P189「活やくしている日本のスポーツ選手」（体育科）

- 学習の案内をするキャラクター「こころん」を登場させ、気づきや疑問、考えのヒントなどを示すことにより、児童が自ら考えたり、これからの課題や目標を見つけたりできるよう工夫されている。

- 写真やイラストに登場する人物について、性別による偏りがないように、また、身体的特徴の表現の仕方にも配慮されている。

- 第1学年では、小学校入学前後の生活が紹介されている。また、高学年では、中学生になるにあたって自己の生き方について考えることを促す教材が取り上げられ、幼児教育・中等教育との関連が考慮されている。

〔例〕 1年P6～11「ようこそ、一ねんせい」 6年P156「夢」 など

## 2 使用上の便宜

- 教科書の巻頭に、「気づく」→「考える・話し合う」→「ふり返る・見つめる」→「生かす」という学習手順が示され、その手順に沿って、考え、議論する道徳の学習を進められる構成になっている。

- 児童が見通しをもって学習に取り組めるよう、学習指導要領の四つの視点をマークで表したり、教材のタイトルの横にわかりやすい言葉で示した「学習のテーマ」を掲載したりするなど配慮されている。

- 判型はA B判が使われ、さし絵や写真などの視覚的な資料が大きく掲載されており、児童の感性に訴えかけ、学習意欲を高める工夫がされている。

- 環境に優しい再生紙や化学物質を抑えた植物油インキを使用するなど、環境やアレルギーに配慮されている。

- 丈夫に綴じられており、紙面をしっかりと開くことができるよう配慮されている。用紙はしっかりしているが、低学年の児童でも扱いやすいよう、軽量化が図られている。

- 本文は少し太めの字体が使用されており、学年段階に合わせて使用する文字の大きさ、字間・行数を調整するなど、読みやすさが配慮されている。小さい文字となる振り仮名には、ユニバーサルデザインの字体が使用されている。また、マークなどは、色分けだけでなく、デザインや文字によって判別できるよう配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
道 徳	かがやけみらい 小学校道徳 きづき	11 学 図
	かがやけみらい 小学校道徳 まなび	

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 全学年において、巻頭に「道徳の学習を始めよう」が配置され、学習の進め方が示されている。さらに、続けて「学級づくり」のページが設けられ、道徳科の学習において、仲間づくりや集団づくりが進められるよう工夫されている。
- いじめ防止に関しては、各学年ともに、特に「公正、公平、社会正義」の内容項目において取り上げられている。いじめをなくすことや、周りの人との関係について深く考えさせたい教材には「ともにいきる」マークがつけられ、系統的に学びが深められるよう工夫されている。また、全学年、コラム「ともにいきる」が配置されている。  
 [例] 1年P91～93「おおい？ すくない？」 2年P18～21「およげない りすさん」  
 5年P100～103「しらんぷり」 など
- 全学年において、児童の具体的な生活の場に即した情報モラルに関わる教材が取り上げられている。例えば、SNSなど顔が見えない相手とのやりとりを扱った教材や、写真や動画など個人情報について扱った教材など、現代の情報社会におけるルールやマナーについて理解し、それらを守ろうとする態度が養えるよう配慮されている。  
 [例] 5年P50～53「たんていのつもりが…」 など
- 国際理解教育、食育、環境教育、防災・安全教育、キャリア教育など、多様な現代的課題に対応し、児童が幅広く興味や問題意識をもつことができるよう配慮されている。  
 [例] 2年P42～45「かえるのおり紙」 3年P94～98「おばあちゃんのおせち」  
 4年P118～119「姉妹で運ぶ物資と笑顔」 5年P66～69「サケをよぶ森」  
 6年P64～67「作業服のノーベル賞」 など
- 各学年スポーツに関する教材を取り上げ、様々な選手の生き方にふれることができるようになってきている。また、全学年にコラム「スポーツだいすき」が配置されている。  
 [例] 5年P44～49「今しかできないことをがんばって！」  
 「スポーツマンシップをみがく」 など
- 多様な人々とよりよい社会を築くために、それぞれの個性を認め合い、互いのよさを輝かせ合っている人々を扱った教材が多く取り上げられている。  
 [例] 3年P102～103「ようちゃんのはさみ」 4年P82～84「車いすをあやつって」 など
- 全学年で、伝統と文化を題材とした教材が取り上げられるとともに、巻末には日本の様々な地域が「ふるさとコラム」として掲載されている。  
 [例] 4年P134～135「ふるさとコラム わたしたちのお花見」 など
- 別冊「まなび」の発問は、児童が多面的・多角的に考えることができる問いや、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、教材の特性に適したものが配置されている。また、問う内容を明確にすることで、児童が自分の考えをもちやすいよう工夫されている。「自分の考え」と「友達の考え」を記入する欄が設けられ、児童が考えを比べながら、話し合ったり書いたりすることで、言語活動の充実が図られている。  
 [例] 1年別冊P10～11「きまりの よい せいかつ」 など
- 問題解決的な学習、体験的な理解については、別冊「まなび」に発問「やってみよう」が設置されている。また、話し合いや役割演技について、巻末に「まなびのヒント」として簡単な方法が示され、授業への導入がしやすいよう工夫されている。  
 [例] 6年別冊P8～9「誠実であること」 P50～51「まなびのヒント」 など



- 別冊「まなび」は、「自分自身のこと」「他の人との関わり」「身の周りの、大勢の人たちとの関わり」「命や自然、美しいものとの関わり」と、4つの視点ごとに再構成されており、児童が複数時間の学習をつなげ、積み上げ、学びを深められるよう工夫されている。また、項目ごとに構成されていることで、心の変容や成長を児童だけでなく、指導者も見取りやすくなり、教育内容の質の向上に向けたPDCAサイクルが意識しやすいよう配慮されている。
- 別冊「まなび」には、自分や他の児童の考えを記録したり、地域や家庭のことで気づいたことを書き込んだりするページが設けられ、学校での学習を家庭と共有できるようになっている。
  - 〔例〕 2年別冊P28～29「みんなの ために」
  - 3年別冊P30～31「だれかのために、できることを」
  - 6年別冊P10～11「節度ある生活、安全な毎日」 など
- 別冊「まなび」の巻末に「保護者の方へ この教科書でめざすこと」のページが設けられ、学習内容が解説されており、家庭と連携を図って道徳性が養えるよう配慮されている。
- 全学年、全教材に二次元コードが配置され、スマートフォンやタブレットから、WEB上のコンテンツを簡単に利用できるようになっているなど、ICT機器を活用した学習活動が展開しやすいよう配慮されている。

## 2 使用上の便宜

- 読み物冊子の「きづき」と、活動冊子の別冊「まなび」の二部構成になっている。「きづき」本文には、内容項目、主題、発問の提示がなく、児童が自ら道徳的な価値や課題に気づくよう促されている。「まなび」には、各教材の題名の横にマークとともに内容項目が明記されており、「かんがえよう」「みつめよう」「やってみよう」などの活動内容を明確にする発問や振り返り欄があり、気づいたことを議論する対話的な学習から深い学びにつなげていくよう工夫されている。また、「まなび」は内容項目ごとに見開きにまとめられており、ポートフォリオとして児童が学びの深まりを長期的に見て実感できるよう工夫されている。
- 別冊「まなび」の「こころのパレット」は、低・中・高学年の1学年単位でタイトル名が統一され、同じ課題に対する発達段階の変化が見取りやすくなっている。
  - 〔例〕 内容項目 正直、誠実
  - 低学年 1 別冊P8～9「あかるいところで」 2年別冊P8～9「明るい心で」
  - 中学年 3 年別冊P8～9「すなおで明るく」 4年別冊P8～9「すなおで明るく」
  - 高学年 5 年別冊P8～9「誠実であること」 6年別冊P8～9「誠実であること」 など
- 低学年教材では、分かち書き、文節改行が施されたり、学年配当漢字について全て振り仮名がつけられたりするなど、文章を読むことへの負担を軽減するよう配慮されている。
- ユニバーサルデザインの観点から、マークは色とデザインの双方で判断できるよう配慮されている。また、文字は発達の段階に応じた大きさが使用されている。
- 漫画を用いたり、SNSでのやりとりをイラストにしたりするなど、内容を理解しにくい児童にも場面の状況を把握しやすいよう工夫されている。
  - 〔例〕 2年P72～73「ゲームをしていたつもりなのに」
  - 4年P128～129「ちょっと待って」 など
- 別冊「まなび」には、開いたとき、ページとページの間に「のりしろ」のためのスペースが設けられており、自作プリントや関連資料等を使用した場合は、貼ることができるよう工夫されている。
- 環境に配慮した紙、植物油インキを使用して製作されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
道 徳	小学道徳 はばたこう明日へ	17 教 出

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童一人一人が問題意識をもち、他の児童との学び合いを通じてより深く自己を見つめる主体的・対話的で深い学びを実現するために、「導入」→「展開」→「終末」の学習の流れとポイントが示されている。
- 考え、議論する道徳を実現するために、全学年の巻頭にオリエンテーションのページが設けられ、言語活動が適切に行われるよう工夫されている。また、「考えよう」や「モラルスキル教材」の中に設けられた「やってみよう」や、教材の前に配置された「拡大導入ページ」などに、自分の考えを書いたり、話し合ったり演じたりすることにより、言語活動が充実するよう工夫されている。
  - 〔例〕 1年P36～39「なかなおり」 2年P62～65「きゅう食当番」  
3年P58～61「どうしていけないのかな」  
5年P10～13「心をつなぐあいさつ」 など
- いじめ問題について直接的な教材だけでなく、集団や社会との関わりを考える間接的な教材でも取り上げられている。教材は、児童の生活実態や発達の段階に応じて配置され、発展的に繰り返し学習することができ、考えを深めていくことができるよう配慮されている。
  - 〔例〕 1年P76～79「ねずみくんの きもち」 2年P25～27「たかしくんも いっしょに」  
4年P37～41「プロレスごっこ」 6年P25～29「友達だからこそ」 など
- 児童の発達の段階に合わせ、電話や学級新聞、メールなどを題材にした情報モラル教材が全学年に掲載され、個人情報への配慮や情報を扱う際のルールの必要性を考えることができるよう工夫されている。
  - 〔例〕 1年P20～23「くまさんの おちゃかい」 4年P47～49「守りたい自分のじょうほう」  
6年P38～41「食事中のメール」 など
- 食育、防災、法、健康、福祉、キャリア教育などについて身近な事例をもとに現代社会におけるさまざまな課題に向き合える多様な教材が取り上げられている。
  - 〔例〕 2年P67～69「とおるさんのゆめ」 3年P30～33「わたしたちの『わ』」  
5年P18～21「ある朝のできごと」 6年P42～45「安全について考えよう」 など
- 巻末に「学習の記録」と「一年間の振り返り」が設けられ、書き込むことができるようになっており、児童が、学年末に自分の成長を感じることができるよう工夫されている。
- 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度などを育めるよう、全国のさまざまな教材が多数取り上げられている。
  - 〔例〕 1年P106～109「日本の ぎょうじ」 3年P46～50「エイサーの心」  
5年P140～143「世界にひびく伝統の音」 など
- 歴史や文化、スポーツなどさまざまな分野で輝かしい業績を築いた人たちが取り上げられており、児童が生き方に憧れと共感を抱くとともに、自分の生き方について考えを深めていくことができるよう配慮されている。
  - 〔例〕 1年P86～89「すきな ものを 見つけよう ー澤 穂希ー」  
4年P92～97「ゆめに向かって泳ぐ ー寺川 綾ー」  
5年P126～130「ブータンに日本の農業を」  
6年P160～163「北海道の名づけ親 ー松浦武四郎ー」 など
- 自然を大切にし、環境保全に寄与する心を養うことができるよう自然愛護を扱った教材が多く取り上げられている。

〔例〕 2年P6～9「春が いっぱい」

4年P104～109「受けつがれてきた命 一屋久島三代杉」

5年P154～155「知床の自然」 など

- 学びをさらに深め、充実させることができるWEBサイト「まなびリンク」のURLや二次元コードが教科書の巻末に掲載されている。主に第3学年～第6学年の教材において、児童の興味・関心を高めたり、内容理解を助けたりすることができるよう工夫されている。

〔例〕 3年P10～13「おそろしいゲームいぞん」 4年P98～103「一步一步の積み重ね」

5年P26～29「よさこいソーラン祭り」 6年P34～37「青い海を取りもどせ」 など

- 各学年で「家族と自分との関わり」について考えることができる教材が多数掲載されており、家族の一員として、その役割と責任の自覚を深めることができるよう工夫されている。

〔例〕 2年P108～109「せい長かいだん」 3年P42～45「わたしの妹、かな」

4年P84～87「ブラッドレーのせいきゅう書」

6年P92～95「生かされている『大切な命』」 など

- 学校の実態に応じたカリキュラム・マネジメントに対応できるよう、各学年の巻末に他教科や領域との関係が一目でわかる学習内容一覧が設けられている。

〔例〕 1年P102～105「七つの ほし」(国語科)

3年P132～135「昔から味をつたえる野菜」(社会科)

6年P98～101「百一才の富士」(図画工作科) など

- 教材文中の登場人物、写真・イラストなどについて、性別の偏りがないように配慮されている。
- キャラクター「とりどり先生」を登場させ、学習への導入、気づきや疑問など児童が考える際のヒントを示すことにより、児童の思考を促し、考えを引き出すよう工夫されている。
- 全学年、障がいのある人が描いた絵を巻末に掲載し、児童がパラリンアート活動に関心をもつきっかけとなるよう工夫されている。

## 2 使用上の便宜

- 全学年を通して、児童が無理なく学習できるよう教材内容が精選され、短い教材、見てわかる教材が多く取り上げられており、児童にとって内容がわかりやすく、考え、議論する時間が十分に取れるよう配慮されている。学年ごとの教材は、児童の発達の段階に配慮された内容(物語教材で学ぶ低学年、生活教材で学ぶ中学年、人物の生き方から学ぶ高学年)と文章量で構成されている。
- 学習指導要領に示されている四つの視点ごとに教材の色や絵柄を変え、領域の区別がしやすくなるよう配慮されている。また、各学年とも学期ごとに領域の偏りがないように、バランスよく教材が配置されている。
- ユニバーサルデザインに配慮した、誤読されにくい字体が使われている。また、発達の段階に応じた大きさの文字が使われており、字間・行間は適切で、児童が読みやすいようにデザインされている。
- その学年で学習する漢字については、全ての教材でその初出箇所に振り仮名がつけられている。固有名詞については、全て振り仮名がつけられており、児童の負担が軽減するよう配慮されている。
- 印刷には、化学物質の使用を抑えた植物油インキを使用しており、アレルギーや健康に対して配慮されている。また、用紙には環境に優しい再生紙を用い、環境に配慮されている。
- 判型はA B判で、イラストや写真・図版等の視覚的な資料が大きく掲載されており、児童が興味や関心をもったり、学習への理解が深まったりするよう工夫されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
道 徳	道徳 きみがいちばんひかるとき	38 光 村

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 一人一人の児童が自分自身の問題として捉え「自分ならどうするだろう、どう考えるだろう」という主体的な姿勢で学習に取り組むことができるよう、全学年の教材冒頭に、キャラクターによる児童への呼びかけの言葉が示されている。
- 一人一人が考えたことや感じたことを振り返るために、全学年を通して、教材末に学習のてびき「考えよう・話し合おう」が設けられ、自分に引き寄せて考えたり、問題を解決するために話し合ったりするなど多面的・多角的に考えられる発問が教材に応じて置かれている。
- 全学年を通して、さまざまな内容項目からいじめ問題に結び付く教材とコラムとを組み合わせた「ユニット」が設定されており、いじめをしない、させない、見過ごさないための道徳性が系統的に育成されるよう工夫されている。
  - 〔例〕 2年P68～77「クラスの大へんしん」「およげないりすさん」「いやな気もちかもしれないよ」
  - 4年P41～49「ひとりぼっちのYちゃん」「学級会での出来事」「いじめを見つけたら」
  - 6年P42～55「泣き虫」「この胸の痛みを」「いじめにどう向き合うか」 など
- 全学年を通して、発達の段階に応じ、情報モラルの内容を扱った教材とコラムとを組み合わせた「ユニット」が設定されている。道徳科の特質を踏まえ、情報モラルに関して深く考えることができるよう工夫されている。
  - 〔例〕 1年P127～132「みんなが つかう ばしょだから」「きまりをまもらないと」
  - 3年P17～23「やめられない」「インターネットにむちゅう」
  - 5年P18～23「あいさつって」「インターネット上のマナー」 など
- さまざまな地域教材や日本の伝統文化を取り扱った教材が、学年の発達の段階に即して、全学年に配されている。写真等の資料も多く紹介され、児童が日本の伝統に親しみ、国や郷土を愛する気持ちを育み、この国の文化や伝統の素晴らしさを実感するきっかけとなるよう工夫されている。
  - 〔例〕 2年P138～141「おせちのひみつ」 5年P124～128「曲げわっぱから伝わるもの」
  - 4年P128～P131「祭りだいこ」 6年P137～141「ようこそ、菅島へ」 など
- 第2学年以上の教材末の学習のてびきには、「つなげよう」が設けられており、他の学習や生活の中で児童に考えさせたいことが示されている。
  - 〔例〕 2年P21 4年P40 6年P110 など
- 児童が自己評価の記録を残す「学びの記録」が、各学年3か所に位置づけられている。「学びの記録」に記録された自分の考えや行動を振り返ることで、児童自身が変化や成長を自覚できるとともに、教師にとっても、長期的な児童の成長を評価するために有効に活用できるよう工夫されている。
  - 〔例〕 1年P36～38 2年P64～66 3年P72～74
  - 4年P66～68 5年P74～76 6年P82～84 など
- 第2学年以上の巻頭には、書いたり、読んだり、演じたりする活動に取り組みながら、主体的に考え、話し合うことが道徳の授業では大切であることを児童に示す「道徳の時間」が設けられており、考える道徳、議論する道徳となるよう工夫されている。
- 第3学年以上の長期休業日前に環境、国際理解を扱ったコラムを位置づけ、その中に「夏

休みに調べてみよう」「冬休みに調べてみよう」というコーナーが設けられており、児童が、長期休業日の間に自主的な学びに生かしたり、家庭での話し合いにつなげたりするよう工夫されている。

〔例〕 1年P35 「なつやすみの まえに」 3年P71 「夏休みに調べてみよう」  
5年P151 「冬休みに調べてみよう」 など

- 全学年に「生命の尊さ」をテーマとした教材が3つずつ位置付けられており、生命の連続性、有限性などについて考えることができるよう工夫されている。

〔例〕 1年P16～17「みんな いきてる」 P45～47「いきて いるって」 P114～117「ちいさな ふとん」  
4年P36～40「生きているしるし」 P54～60「いのちをつなぐ岬」 P104～107「生き物と機械」 など

- 系統的な学びにより児童の考えの深まりを促せるよう、内容項目の関連に配慮した教材の配列となるよう工夫されている。
- 異文化を理解し、世界の人たちと協力し合うことの価値が実感できるよう、世界の遊びや食べ物の紹介（低学年）、外国から来た人との交流（中学年）、歴史上の出来事を通した国と国との友好（高学年）など、児童の発達の段階に応じて、多様な教材が掲載されている。

〔例〕 2年P142～145「日本のお米、せかいのお米」  
3年P131～135「マサラップ」 6年P182～187「エルトゥールル号」 など

- 教科書全般にわたって、教科書や挿絵に登場する人物や執筆者について、性別による偏りが無いよう配慮されている。また、人種・身体的特徴についても多様性に意を用い、人種に配慮した記述となっている。

〔例〕 1年P112～113「せかいのこどもたち」 3年P104～105「みんながくらしやすい町」  
5年P33～35「公園のきまりを作ろう」 など

## 2 使用上の便宜

- 年間を3つのまとまりに分け、そのまとまりごとに重点的に学習する内容が設定されている。それぞれの視点に合わせた連続性ある学習が可能となるよう工夫されている。
- 文字の大きさや配置、写真や絵の色使いの他、枠組みを使ったデザイン処理など、ユニバーサルデザインの観点から、児童にとって理解しやすいよう配慮されている。
- 第1、第2学年では、児童の読みのつまずきを軽減できるよう、行頭に助詞がこないよう配慮されている。表記においては、第1学年は分かち書き、第2学年では3文節程度の分かち書きとしており、低学年児童の読みの負担を軽減するよう配慮されている。
- 第1学年では、数字以外は漢字表記とせず、平仮名が用いられている。第2～第6学年では、当該学年の配当漢字に全て振り仮名が付されており、全学年を通して読みの負担を軽減するよう配慮されている。
- 本文には、軽くて裏写りにくい用紙を採用し、判型は、小学生が手に持ちやすく扱いやすいB5変形型である。
- 読み物教材の他にも、視覚的に児童の興味・関心を喚起する漫画形式の教材、見開きの1枚の絵などから考える教材が位置づけられている。いずれも児童にとって親しみやすく、新鮮な驚きを感じる絵や写真が掲載されている。
- 原料や製法については、環境への負担を少なくし、児童の健康にも配慮している旨が明記されている。環境に配慮し、光の反射を抑えた紙が使用され、エコマーク認定の植物油インキで印刷されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
道 徳	小学道徳 生きる力 小学道徳 生きる力 道徳ノート	116 日 文

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童の興味・関心を喚起させるだけでなく、人間の弱さとそれを乗り越えようとする強さや気高さについて考えることに重点が置かれている教材が多数取り上げられている。教材を通して、登場人物の生き方に学び、誇りある生き方、夢や希望など、喜びある生き方につなげていくことができるよう配慮されている。
  - 〔例〕 4年 P80～83 「がむしゃらに」  
5年 P4～7 「のび太に学ぼう」 P164～171 「かぜのでんわ」  
6年 P166～169 「のぼさんの夢 ―正岡子規―」 など
- 生命について、多面的・多角的に考えられる教材を配置して、生命の尊さを理解し、かけがえのない生命を尊重することについて学ぶことができるよう配慮されている。
  - 〔例〕 1年 P8～11 「うまれたての いのち」 P22～25 「つばめ」  
5年 P8～11 「『命』」 P46～51 「ひとふみ十年」  
6年 P100～103 「その思いを受けついで」 など
- 生命あるすべてのものをかけがえのないものとして尊重し、発達の段階に応じて児童が生命の尊厳について考えられるよう配慮されている。
  - 〔例〕 2年 P150～153 「生きて いるから」  
4年 P4～7 「あなたの時間にいのちをふきこめば」  
6年 P8～11 「命のアサガオ」 など
- いじめの防止が重要なテーマとして位置づけられ、多面的・多角的な視点から考えられるよう複数の教材が用意され、学級の状況に応じた授業を展開できるよう工夫されている。また、いじめの事象そのものの教材だけでなく、「相互理解、寛容」や「友情、信頼」、「生命の尊重」などの内容項目で取り扱う教材の中から人間関係や命の尊さなどをテーマとした教材と組み合わせ、集中的に扱う構成とすることで、いじめをなくそうとする心情や態度の育成が図られている。
  - 〔例〕 1年 P108～109 「やめろよ」  
3年 P82～85 「たからさがし」 P144～147 「ダブルブッキング」  
5年 P12～15 「あいさつ運動」 P136～139 「すれちがい」 など
- 情報モラルについては、児童の身近で起こりうる題材が取り上げられ、興味・関心をもちやすいよう配慮されている。
  - 〔例〕 2年 P28～29 「おにいちゃんの 電話」 5年 P142～147 「知らない間のできごと」  
6年 P52～57 「カスミと携帯電話」 など
- 問題解決的な学習に適している教材は、教材のあとに「学習の手引き」が挿入されており、具体的な活動例や留意点などが示され、児童の体験をもとに考えを深められるよう工夫されている。
  - 〔例〕 3年 P6～9 「もっと調べたかったから」 5年 P26～29 「通学路」 など
- 家庭や学校を取り巻く郷土に関心をもつとともに、国や郷土に受け継がれる伝統と文化に親しむことを通じて、その素晴らしさや大切さを実感できるよう工夫されている。
  - 〔例〕 1年 P36～41 「にっぽんの おかし」  
4年 P148～153 「浮世絵 ―海をわたったジャパン・ブルー―」  
5年 P68～71 「和太鼓調べ」 6年 P36～39 「ぼくのお茶体験」 など
- 考える、話す、聞く、書く、それぞれの活動の手助けができるよう、別冊「道徳ノート」

が用意されており、道徳科における児童の道徳性の成長の様子や学習状況を継続的に把握できるよう工夫されている。

- 児童に身近な人物やさまざまな生き方を教材として取り上げることで、自己をみつめ、人としての生き方について考えられるよう配慮されている。  
〔例〕 2年 P70～73 「虫が大すき ―アンリ・ファーブル―」  
3年 P124～127 「いちばんうれしいこと」  
6年 P18～21 「それじゃ、ダメじゃん」 など
- 全学年の巻頭では学習方法が解説され、学習の支援になるよう配慮されている。学習方法は、「①気づく」→「②考える・深める」→「③見つめる・生かす」と示され、特に「②考える・深める」では、話し合い活動が具体的に写真で提示されている。
- これからの社会的課題に向き合い、子どもたちが自分のこととして考え、前向きに取り組むことができるような題材が取り上げられている。  
〔例〕 3年 P128～131 「助かった命」 5年 P158～161 「ながらって」 など
- 世界を舞台に活躍する選手やそれを支える人々について考え、力強い生き方や苦しみを考えさせることができるよう工夫されている。また、東京 2020 オリンピック・パラリンピックと関連させた教材も複数扱われている。  
〔例〕 1年 P42～45 「オリンピック・パラリンピック」  
5年 P36～41 「ソフトボールに恩返しを ―上野由岐子―」  
6年 P4～7 「スポーツの力」 など
- 伝記を扱った教材では、生きる勇気や知恵などを感じられるとともに、人間としての弱さを見せる姿なども表現され、生きることの魅力や意味などについて考えられるよう工夫されている。  
〔例〕 3年 P172～175 「富士と北斎」 5年 P16～19 「マンガ家 手塚治虫」  
6年 P120～123 「杉原千畝 ―大勢の人の命を守った外交官―」 など
- 児童も社会の一員であるという自覚をもち、互いに協力し合おうとする意欲を育むため、自分たちの学級や学校全体に目を向けさせるような教材が掲載されている。  
〔例〕 3年 P60～63 「学級しようかい」 4年 P106～109 「交かんメール」  
6年 P58～61 「ぼくたちの学校」 など

## 2 使用上の便宜

- 学年ごとに、児童や学級の実態を踏まえ、1学期には学級づくりや学校生活・集団生活の充実（第1、第2学年）、オリエンテーションやよりよい人間関係の形成（第3学年～第6学年）、学年の後半には振り返りを意識した内容項目や教材が配置されている。
- 別冊「道徳ノート」が本冊にちょうど収まり、収納しやすい工夫が施されている。
- ユニバーサルデザインの観点から、スムーズに読み進められるように、まとまりで改行したり、教材タイトルの部分にあらすじを示したりしている。また、必要に応じて主な登場人物を整理して配置するなど、児童が読み取りやすいよう配慮されている。
- 児童が見通しをもって学習することができるよう、各教材にはすべて主題名が記載され、道徳的価値、または教材に関わる導入の発問例が示されている。
- 印刷には化学物質を抑えた植物油インキを使用しており、アレルギー等健康に配慮されている。
- 大きな判型(A B判)を採用し、見開きで見やすいページ構成となっている。通常の上質紙よりも軽い用紙が使用され、児童の負担を軽減するよう配慮されている。表紙には、生き生きと学習に取り組む児童の姿を写真で掲載し、児童の学習意欲を高める工夫がされている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
道 徳	小学道徳 ゆたかな心	208 光 文

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 教科書の巻頭にオリエンテーションとして「さあ、道徳の学習が始まります」を配置することで、道徳の学習で「どういったことを、どのように学ぶのか」を明らかにし、道徳性を養う意義を児童自らが考え理解し、目的意識をもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。

〔例〕 全学年P2～9

- オリエンテーションの中で、「どうしてだろう」「なぜだろう」と、児童が常に問いをもって授業に臨むことの意味が示されている。各教材においても、導入で問いをもたせる活動や、教材内のキャラクターによる問いかけを通して、児童が教材を読む際に、自主的・主体的に問題について考える学習ができるよう工夫されている。

- 児童が学習後の振り返りができるように、巻末に自己評価シート「学びの足あと」が配置されている。授業後の心の動きや学びを継続して記しておくことで、自ら成長を実感し、新たな課題や目標を見つけて学習に取り組むことができるよう工夫されている。また、学期末や年度末の振り返りもできるように「まとめ」欄も設けられている。

- 「生命の尊さ」については、人権尊重の精神を重んじ、生命に対する畏敬の念をもち、人間としてよりよく生きる喜びにつながるよう、重点主題として6年間の見通しをもって取り組めるよう工夫されている。

〔例〕 3年P43～51「自分のいのち」「いのちのまつり」「いただきます」

4年P153～157「みんなの命」「レスキュー隊」「五百人からもらった命」

6年P139～151（命かがやかせて）「生命のメッセージ」「命と向き合う人生」「負けないで」 など

- 各内容項目において、直接的・間接的にいじめについて児童自身の問題として捉えられるような教材が配置されている。また、本編教材のほかにも、全学年にコラム「みんな仲よし楽しい学校」を発達の段階に合わせて設置するなど、特に学校生活において、児童自らがいじめ防止などに主体的に関わる態度が育めるよう配慮されている。

〔例〕 6年P74～77「森川君のうわさ」 など

コラム「みんな なかよし 楽しい 学校」 1年P130 3年P156 5年P144 など

- 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の内容を中心に、地域に根づく伝統や文化、行事、先人など、児童にとって身近なものや人物を題材とした教材を取り入れ、伝統と文化を尊重し、国や郷土を愛する態度を養うことにもつながるよう工夫されている。

〔例〕 3年P74～75「郷土かるた」 4年P172～175「かつおぶし」 など

- 諸外国の生活や文化について紹介した教材を各学年に配置し、諸外国の文化や生活についてふれながら、その文化や生活を尊重し、親しみをもつことにつながるよう工夫されている。また、オリンピックやパラリンピックを題材にした教材やコラムが各学年に配置されており、選手の活躍や国際的な大会としての特色もふまえ、国際理解・親善にもつながるよう配慮されている。

〔例〕 4年P118～121「十六番目の代表選手」 P122～123「パラリンピックの競技」

6年P108～111「フーバーさん」 など

- 学校内における他学年との活動を題材とした教材を当該学年に配置し、双方の視点から連動した指導ができるよう工夫されている。



- 〔例〕 1年P16～17「がっこうたんけん」 2年P14～16「学校たんけん」 など
- コラム「みんなでやってみよう！」を全学年に設置し、よりよい人間関係の構築に必要なコミュニケーションスキルを高めるための体験的な活動が提示されている。
 

〔例〕 1年P32～33「おおきくそだてよう『ありがとうの き』」  
2年P42～43「『きらきら』 み一つけた」  
5年P44～45「ナイスリターン（思いを伝え合うには）」 など
  - 教材末尾には、考えたことをまとめ、授業後の生活に広げられるよう、「まとめる」「広げる」といった終末・発展の工夫が取り入れられており、挨拶や言葉遣いなどを具体的に実践し、そのよさや難しさを体験できるよう工夫されている。
 

〔例〕 1年P12～13「あいさつで げんきに」
  - 家庭での出来事や地域との交流を描いた教材を取り上げたり、各教材末尾の「広げる」において家庭や地域の人たちとの関わりをもたせた活動を提示したりすることで、学習したことが児童の日常へつながるよう工夫されている。
 

〔例〕 2年P106～107「かいらんばん」 5年P26～29「助け合い傘」 など
  - 本編教材では、言語活動との関連もふまえ、教材を読むことで読書活動を行い、また、学習内容を広げるために、題材と関連する本を読む読書活動や考えたことをノートなどに書いて言語化する活動を「広げる」で提案している。また、コラム「ことばのたからもの」では、人生の道標や支えとなるような名言を紹介し、教材とも関連させることで、言葉のもつ力を実感できるよう工夫されている。
 

〔例〕 3年P128～131「四人五きゃく」 6年P124～127「誠実な人 一吉田松陰一」  
5年P72～75「スイミー作戦」「ガンジー作戦」  
コラム「ことばのたからもの」 1年P131 2年P143 4年P159 など
  - 学級や学校生活など、児童が自分のこととして考えやすい教材や、長く読み継がれてきた教材などが取り上げられている。
 

〔例〕 2年P88～89「お月さまがみている」 3年P92～97「花さき山」 など

## 2 使用上の便宜

- 判型を大判化（A4変型版）にすることで、写真やイラストが引き立ち、児童の興味・関心や思考が深まるよう工夫されている。また、大判化による児童の負担軽減のために、紙の厚みを抑えて軽量化が図られている。
- 漢字は、前学年までに習った漢字の使用を基本とし、文節で改行を行うなど、読みやすさが配慮されている。
- 印刷には植物インキが使用されている。製本の際には、はがれにくい糊を使用するとともに、表紙に筋を入れることで、頻りに開閉しても破損しないよう工夫されている。
- 児童にとってなじみのない言葉やわかりづらいものについては、本文下の脚注で説明し、それらが思考の妨げにならないよう配慮されている。
 

〔例〕 4年P25「十さいのプレゼント」内の注釈「奥秩父」  
5年P111「生きる力を引き出す笑い」内の注釈「ホスピス」  
6年P104「これが日本」内の注釈「能楽」「和食」 など
- 学習時期と教材の内容の季節が一致するよう教材の順番を設定することで、児童が実生活に即して教材を捉えやすいよう配慮されている。
- 物語の登場人物の表示、総振り仮名（1～3年）など、教材の読み取りにかかる負担を減らし、授業で考える時間が増えるよう工夫されている。
- ユニバーサルデザインの観点から図版やグラフなどの配色について配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
道 徳	新・みんなの道徳	224 学研

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 多様な考え方が想定される課題を扱う場合には、一人一人価値観が異なることを前提に複数の意見を取り上げ、比べて考えさせたり、他者の意見を聞いた上で自分の考えとその理由を明らかにさせたり、児童が多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。
  - 〔例〕 1年P52～53「だれも 見ていない」 4年P60～61「友だちが泣いている」 など
- 児童が自分の気づきや考えを記入する欄が設けられ、自分の考えをもとに、話し合ったり書いたりする言語活動の充実が図られている。また、家庭と連携して学習を深めたい教材には、「お家の人からのメッセージ」の欄や「家の人に聞いてみましょう」という課題が設けられている。
  - 〔例〕 1年P20～21「ぼくは、きゅうしょくとうばん」 4年P26～29「たな田が変身」 など
- 「いのちの教育」を重点テーマとして位置づけ、全学年で「生命の尊さ」の教材が3つ配置されている。さらに、低学年では「しっかり生きる」、中学年では「仲良く生きる」、高学年では、「ともに生きる」とテーマを設け、生命の尊さを重んじ、自立した人間として、他者とともによりよく生きる力を育むことができるよう工夫されている。また、各学年「いのち」と「生き方」の学習については、内容項目の異なる複数の教材を組み合わせたユニットで設定されている。ユニットは、目次と扉ページでわかりやすく明示されている。
  - 〔例〕 4年P43～55「心の信号機」「泣いた赤おに」(生き方)  
P123～131「ウミガメの命」「えがおのクリニックラウン」(いのち) など
- いじめ防止に関する教材が多数取り上げられ、他者を理解し尊重することなど、幅広い視点から学習できるよう配慮されている。また、自分の心と対話し、自分の生き方を考えることを目的とした教材も取り入れられている。
  - 〔例〕 3年P126～129「言い出せなくて」 5年P36～39「いじめをなくすために」 など
- 全学年、情報モラルに関する教材がマークを付けて取り上げられている。学級新聞、インターネット、SNSなどを取り上げ、身近な社会的課題として、情報社会における問題点やマナーに児童自らが気づき、深く考えられるよう発問が工夫されている。
  - 〔例〕 2年P132～135「みんなのニュースがかり」 5年P136～138「アップするの？」 など
- 情報モラルを含め、キャリア教育、国際親善など、現代的・社会的な様々な課題について、幅広く取り上げられ、児童が自ら問題意識をもつことができるよう配慮されている。
  - 〔例〕 5年P140～143「この思いをフェルトペンにたくして」  
6年P154～156「米作りがアフリカを救う」 など
- 国際理解につながる様々な国の文化や伝統、偉人に触れる教材が各学年に配置されており、児童が興味や関心をもてるよう写真も多く用いられている。
  - 〔例〕 1年P108～111「サバンナの子ども」  
4年P74～77「つながっている日本と外国」 など
- 長い間読み継がれ活用されてきた教材で、歴史上の偉人や偉業から生き方を学ぶとともに、児童も知っているであろう今を生きる様々な分野の人々の生き方からも学ぶことができるよう、多種多様な教材が取り上げられている。
  - 〔例〕 4年P10～13「レスリングの女王 吉田沙保里」  
6年P62～64「どれい解放の父 リンカン」 など
- 4種類の学び方の特設ページが設けられ、児童が物事を多面的・多角的に考えられるよう

工夫されている。問題解決的な学習によって考えを深めるページ、体験的な学習活動で考えるページ、自分を見つめ、自分のよりよい生き方につなげるページ、教材に関連する追加情報により視野を広げるページがあり、多様な学びが進められるよう工夫されている。

〔例〕 1年P13やってみよう「あいさつリレーをしよう」

2年P93ふかめよう「マーくんの気持ちを考えよう」

3年P29広げよう「紙しばいになった『目の見えない犬』」

6年P143つなげよう「自分の進む道は自分で決める」 など

- 主題名を教材の冒頭に掲載しないことで、道徳的価値の概念的な理解ではなく、児童が自ら課題を見つけ、考え、議論する学習が進められるよう配慮されている。
- 全学年、自分を見つめる「自分のことを書いてみよう」のページと、学びを振り返る「心の宝物」のページがあり、1年間の自分の成長を感じられるよう工夫されている。
- 全学年、最初に「道徳の学習が始まるよ」のページがあり、道徳の学びとは何かを知り、児童が学習への見通しをもつことができるよう工夫されている。また、役割演技や話し合いの方法が簡単に紹介されており、学習の中で導入しやすくなっている。
- 体験的な学習として、「やってみよう」では教材内容をもとにした役割演技の方法が記載されている。また、演技をした児童と、演技を見た児童が感じたことをもとに話し合う活動への展開がしやすいようになっている。この役割演技の教材は、全学年に配置されており、6年間を通して繰り返し取り組めるよう配慮されている。

〔例〕 2年P17「やってみよう かめさんたちになって、考えてみよう」

3年P13「やってみよう 『ぼく』と中山君になって、考えてみよう」 など

- 他教科や様々な学校行事に関連させた教材を多く取り入れ、児童が自分の体験と重ねながら道徳的価値に気づくことができるよう工夫されている。

〔例〕 5年P160～163「アルソミトラの空」(理科)

6年P16～19「ひとみと厚」(算数、体育的行事) など

## 2 使用上の便宜

- すべての教材が、見開きで始まるようになっており、児童が集中して教材に向き合い学習が始められるよう配慮されている。
- 「わたしのこと」「あなたとわたし」「社会とわたし」「命や自然とわたし」の4つの視点ごとに色分けしたり、取り組み方がわかるマークなどを使用したりするなど、効果的に学べるよう工夫されている。

- 漫画や吹き出しなど、内容が理解しやすいよう配慮されている。特に、低学年の教科書では登場人物の言葉の上に、その人物の顔が描いてあったり、名前が書いてあったりするなど、読み取りが難しい児童にも、誰が言った言葉なのか、わかりやすいよう工夫されている。

〔例〕 1年P26～28「きんの おの ぎんの おの」 2年P52～55「森のみんなと」 など

- ユニバーサルデザインの観点から、振り仮名が付けられたり、第1学年の教材文には分かち書きが取り入れられたりするなど、読み取りやすいよう配慮されている。また、児童が理解しにくいと思われる言葉については、本文の下に脚注として言葉や写真等で説明されている。さし絵や写真、図版などの資料は、A4判の誌面に大きく豊富に掲載されている。

〔例〕 1年P36～38「みんなあかちゃんだったよ」 など

- 全学年を通して表紙には同じ登場人物が掲載され、教材の中にも繰り返し登場している。6年間を通して、登場人物とともに自分も成長していく構成になっている。
- 環境に配慮した紙、植物油インキを使用して製作されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
道 徳	みんなで考え、話し合う 小学生の道徳 自分を見つめ、考える 道徳ノート	232 廣あかつき

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童が見つけた道徳的価値に根差した問題を、多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合ったり、道徳的価値のよさを理解したり、発展させたりできる教材が取り上げられている。

〔例〕 1年 P34～35「みんなで つかう ばしょなのに」 3年 P60～63「森のげいじゅつてん」  
5年 P33～37「グラウンドにひびく声」  
6年 P32～35「さとの夏、みきおの夏」 など

- 生命の尊厳について考える題材により、自他の生命を尊ぶ心を育むことができるよう配慮されている。

〔例〕 1年 P32～33「じぶんで まもる あんぜんな まい日」  
5年 P150～151「命とは、生きるとは、どういうことなのだろう」  
6年 P158～159「命について考えよう」 など

- いじめの問題に関わる教材の取り上げ方については、発達の段階が考慮され、低学年、中学年では、仲間はずれ、友だち同士のトラブル等を題材としたものが扱われ、高学年では、いじめについて深く考えられるよう工夫されている。

〔例〕 2年 P84～87「カメタの なみだ」 P92～95「森の ともだち」  
3年 P18～21「貝がら」 P34～37「よわむし太郎」  
4年 P53～57「同じ仲間だから」 P80～81「正しいことは勇気をもって」 など

- 情報モラルについて考えることのできる教材を全学年に掲載しており、中・高学年においては特集ページを設けて、他の教育活動とも関連を図りながら学習を深めることができるよう配慮されている。

〔例〕 1年 P66～68「けいじばんの らくがき」  
5年 P154～155「守ろう インターネットの世界のルールやマナー」  
6年 P162～163「著作権とは何だろう」 など

- 国際親善や世界平和を希求する思いをもつことのできる教材を掲載し、低学年では、写真を中心とした教材、高学年では先人の伝記を掲載するなど、発達の段階に応じて配慮されている。

〔例〕 2年 P82～83「せかいは つながって いる」 3年 P104～106「青い目のお友だち」  
5年 P144～148「明日をひらく橋 ー西岡 京治ー」 など

- 一枚の写真や一篇の詩、漫画や新聞記事をもとに考える教材など、読み物以外からも教材として取り上げ、児童の学習意欲を高められるよう配慮されている。

〔例〕 4年 P65～67「一枚の写真から」 P97～101「ぼくの生まれた日」  
6年 P84～85「客には言わんのですか」 など

- 家族との関わりや家庭での出来事を描いた教材、地域の人との交流や行事などを題材とした教材が掲載され、家族や地域を自分との関わりにおいて考えることができるよう工夫されている。

〔例〕 1年 P40～43「目じるしの 木」 3年 P51～53「ぼくがいるよ」  
6年 P50～52「高らかにひびけ」 など

- 現代的課題に関わる教材を通して、社会参画への意識が高められるよう工夫されている。

〔例〕 4年 P128～129「だれもが住みよい社会に」  
5年 P152～153「わたしたちにできる ボランティア活動」 など

- 身近にある現代的な課題についての教材が多く掲載され、自分との関わりで考えられるよう配慮されている。  
〔例〕 2年 P54～55 「えんぴつは 何さい」 4年 P18～21 「ごめんね、オオキンケイギク」  
5年 P48～51 「一ふみ十年」 など
- 授業を通して感じたことや考えたことを記述する書き込み欄や、一定期間のまとまりで授業を振り返りながら書き込みができる「心に残っている授業の記録」、教材ごとの学びを自己評価することができる「心のしおり」が配置されている。
- 先人の伝記や様々な分野で活躍する著名人、スポーツ選手等が取り上げられ、栄光の裏にある人知れぬ努力や苦悩する姿、幼少期の体験などから、児童が人物を身近に感じ、生きることの素晴らしさを感じられるよう配慮されている。  
〔例〕 2年 P70～73 「自分で きめた ことだから ー福原 愛ー」  
3年 P66～69 「きっとできる ー高橋 尚子ー」  
4年 P110～113 「ふるさとにとどけ、希望の舞 ー羽生 結弦ー」  
6年 P116～121 「兵後さんのパラリンピック」 など
- 児童の心を揺さぶり、より深い道徳的な思考へと導くよう、道徳の時間に長年活用されてきた教材が取り扱われている。  
〔例〕 1年 P72～75 「はしの 上の おおかみ」 2年 P104～107 「きつねとぶどう」  
3年 P4～6 「ヒキガエルとロバ」 4年 P114～118 「花さき山」 など
- 守り継がれてきた伝統や文化について取り上げ、児童が自己との関わりにおいて考えることができるよう工夫されている。  
〔例〕 2年 P36～39 「ぎおんまつり」 3年 P38～41 「ふろしき」  
6年 P20～24 「ヤリガンナ ー西岡 常ー」 など
- 高学年の別冊「道徳ノート」では自分の夢や目標、就きたい職業について記述するページや書き込み欄を設け、さまざまな体験活動やキャリア教育との関連を図ることができるよう配慮されている。  
〔例〕 5年別冊 P7 「未来に夢や希望をもって」 6年別冊 P13 「将来の仕事を考えよう」
- 児童の体験を想起させたり、役割演技を促したりする問いや活動を「考えよう 話し合おう」や別冊「道徳ノート」に設け、道徳的な行為に関する体験的な学習が取り入れられている。  
〔例〕 1年 P10～11 「みんなの はなまる」 2年別冊 P9 「気もちの よい ふるまいを」  
3年 P90～91 「心と形が一つになって」  
4年 P36～37 「真心を伝えるコミュニケーション」  
5年 P7～9 「バスと赤ちゃん」 など

## 2 使用上の便宜

- 第1学年の教材では動物を登場人物とした物語教材を数多く取り上げ、視覚的に内容理解を促すよう工夫されている。
- 環境への配慮から印刷には植物油インキを使用し、用紙には再生紙を用いている。なお、別冊は本冊巻末に収納できる。
- ユニバーサルデザインの観点から、文字情報ははじめマークの形状やデザインの違いなどで、必要な情報が読み取れるよう配慮されている。
- 第4学年までは発達の段階に応じたわかりやすい表現を用い、第5学年以降は、児童が理解しにくいと思われる文言などに、必要に応じて説明を付けている。
- 当該学年の配当漢字を含む未習の漢字については、すべてに振り仮名が付けられており、読みの負担が軽減されている。

